

教 育 要 項

—— 履修の手引き ——

2012 年 4 月～2013 年 3 月

第 1 学年～第 6 学年



東京医科歯科大学医学部医学科

目 次

医学部医学科カリキュラム構成図（旧カリキュラム）	1
医学部医学科カリキュラム構成図（新カリキュラム）	2
授 業 計 画 表	3
授 業 時 間 割	4

【授業概要】

第1学年

医 学 導 入	15
---------------	----

第2学年

人 体 構 造 総 論	17
細 胞 生 物 学	20
神 經 生 理 導 入	23
生 理 学	25
組 織 学	29
人 体 解 剖 学	32
薬 理 学	37
生 化 学	41
分 子 遺 伝 学	45
神 經 解 剖 学	48
免 疫 I・II	53
神 經 科 学・基 礎	56
感 染・基 礎	60
東 洋 医 学	64
病 理 学（総論）	66
医 動 物 学	68

第3学年

腫 瘍 学	73
神 經 科 学	75
感 染	80
循 環 器 学	85
呼 吸 器	87
腎・体 液 制 御	89
生 殖・発 達・加 齢	91
小 児 科 学	94
内 分 泌 代 謝	97
社 会 医 学	100

人 体 解 剖 学	103
組 織 学	110
生 理 学	112
生 化 学	116
薬 理 学	120
病 理 学 総 論	123
衛 生 学	125
医 動 物 学	128
法 医 学	131
医 事 法 学	134
膠原病・リウマチ学	137
医 学 英 語 II	140
東 洋 医 学 (基 礎)	143

第4学年

医 学 英 語 II	147
病 理 学 実 習	150
神 經 科 学 (臨 床)	152
消 化 器	156
血 液	158
公 衆 衛 生 学	160
老 年 病 学	165
神 經 精 神 医 学	167
外 科 学	171
整 形 外 科 学	174
皮 膚 科 学	177
泌 尿 器 科 学	180
眼 科 学	184
耳 鼻 咽 喉 科 学	186
放 射 線 医 学	189
産 科 婦 人 科 学	192
麻 醉 ・ 蘇 生 学	195
口 腔 外 科 学	197
救 急 医 学	199
形 成 外 科 学	202
頭 頸 部 外 科 学	206
心 療 ・ ターミナル医学	209
臨 床 検 査 医 学	212
自 由 選 択 学 習	215

第5学年

東 洋 医 学	217
先 端 医 学	217
基礎臨床総合講義	217

選択科目

研究実践プログラム	219
地域医療学習プログラム	221

【別表】医学科コンピテンシー（第1学年・第2学年対象）	223
学 生 周 知 事 項	231
東京医科歯科大学学則	235
東京医科歯科大学学部医学部履修規則（旧カリキュラム（3年次以降））	247
東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（新カリキュラム（2年次まで））	253
東京医科歯科大学医学部試験規則（平成21年度以前入学者）	264
東京医科歯科大学医学部試験規則（平成22年度入学者）	266
東京医科歯科大学試験規則（平成23年度以降入学者）	269
湯島キャンパス案内	272

(平成22年度以前入学者)

共用試験
CBT・OSCE

医学部医学科カリキュラム構成図(新カリキュラム)

1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年									
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
全学共通科目（国府台キャンパス）		医学導入		医歯学基盤教育				臨床導入実習				臨床実習		卒業試験					
				医学英語Ⅰ															
		人体構造総論		神経解剖学		腫瘍学ブロック										血液・腫瘍ブロック		生殖・発達	
		細胞生物学		免疫学Ⅰ・Ⅱ		臨床医学導入ブロック										一般外科ブロック			
		人体解剖学		神経生理学導入		循環器ブロック										神経科学(臨床)ブロック			
		神経生理導入				呼吸器ブロック										骨・関節・脊椎ブロック			
		組織学		消化器ブロック		皮膚・アレルギー・膠原病ブロック													
		生理学		体液制御・泌尿器ブロック		感染・臨床ブロック													
		薬理学		内分泌代謝ブロック															
		生化学		東洋医学		眼耳鼻・臨床 (医歯学総合)ブロック										老年医学 (医歯学総合)ブロック			
				法医学															
		分子遺伝学		衛生学															
		頭頸部・基礎		社会医学															
				病理学ブロック															
						公衆衛生学													
		全学共通科目（湯島キャンパス）																	

共用試験
CBT・OSCE

平成24年度医学部医学科授業計画

第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年			第6学年		
区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間
前期授業	15W	平成24年 4.16(月)～7.27(金)	前期授業	16W	平成24年 4.9(月)～7.27(金)	前期授業	16W	平成24年 4.9(月)～7.27(金)	前期授業	17W	平成24年 4.2(月)～7.27(金)	POC	12W	平成24年4.2(月)～6.22(金)	OC	4W	平成24年 4.2(月)～4.27(金)
夏季休業		7.30(月)～8.31(金)	夏季休業		7.30(月)～8.31(金)	夏季休業		7.30(月)～8.31(金)	夏季休業		7.30(月)～8.31(金)	OSCE		6.30(土)	OC	12W	5.7(月)～7.27(金)
前期授業	4W	9.3(月)～9.28(金)	前期授業	4W	9.3(月)～9.28(金)	前期授業	4W	9.3(月)～9.28(金)	前期授業	4W	9.3(月)～9.28(金)	OC	4W	7.2(月)～7.27(金)	夏季休業		7.30(月)～8.24(金)
			後期授業	3W	10.1(月)～10.19(金)	後期授業	2W	10.1(月)～10.11(木)	後期授業	2W	10.1(月)～10.11(木)	夏季休業		7.30(月)～8.24(金)	OC	4W	8.27(月)～9.21(金)
後期授業	12W	10.1(月)～12.21(金)	臨時休業		10.22(月)	臨時休業		10.15(月)～10.16(火)	臨時休業		10.15(月)	OC	17W	8.27(月)～12.21(金)	臨時休業		9.24(月)～10.5(金)
			後期授業	9W	10.23(火)～12.21(金)	後期授業	10W	10.17(木)～12.21(金)	後期授業	10W	10.16(火)～12.21(金)				卒業試験	6W	10.9(火)～11.16(金)
冬季休業		12.25(火)～25.1.4(金)	冬季休業		12.25(火)～25.1.4(金)	冬季休業		12.25(火)～25.1.4(金)	冬季休業		12.25(火)～25.1.4(金)	冬季休業		12.25(火)～25.1.4(金)	卒試再試験	4W	11.19(月)～12.14(金)
後期授業	7W	平成25年 1.7(月)～2.19(火)	後期授業	10W	平成25年 1.7(月)～3.15(金)	後期授業	10W	平成25年 1.7(月)～3.15(金)	後期授業	10W	平成25年 1.7(月)～3.15(金)	OC	12W	平成25年 1.7(月)～3.29(金)	冬季休業		12.17(月)～25.1.4(金)
臨時休業		2.20(木)～	臨時休業		3.18(月)～	臨時休業		3.18(月)～	臨時休業		3.18(月)～				臨時休業		平成25年1.7(月)～3.22(金)
															卒業式		3.25(月)

主な行事予定

入学式	24. 4. 9(月)	創立記念日	24. 10. 1, 2(金)
M1医学科ガイダンス	24. 4. 17(火)	文化祭	24. 10. 1, 3(土)～14日(日)
M2カリキュラム説明	24. 4. 9(月)	解剖体道体式	24. 10. 1, 8(木)(予定)
M3カリキュラム説明	24. 4. 10(火)	ご遺骨返還式	25. 1. 1, 5(火)(予定)
体育祭	24. 5. 12(土)	プロジェクトセメスター懇話会	25. 3. 4(月)
健康診断	24. 5月中～下旬(予定)	医学科第4学年合宿研修	25. 3. 9(土)～3. 10(日)
実験動物観察祭	24. 9月下旬(予定)	卒業式	25. 3. 25(月)
プロジェクトセメスター開始	24. 10. 9(火)		

平成24年度第1学年授業時間割(医学導入)

日 付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40
10/2	火	コース概要説明	医学の歴史と展望① 佐藤達夫先生	多彩なキャリア① 鎌田寛先生	国際医療/Professionalismシリーズ オリエンテーション
10/9	火	医学の歴史と展望② 川島真人先生	議論の技法	国際医療①: グループ英語討論	国際医療①:講義 地域間の健康格差とその是正 中村桂子先生
10/16	火	国際医療① TBL	多彩なキャリア② 宮坂信之先生	国際医療②: グループ英語討論	国際医療②:講義 健康水準と医療システムの国際比較 中村桂子先生
10/23	火	国際医療② TBL	実習①オリエンテーション	国際医療③: グループ英語討論	国際医療③:講義 ワクチン 本郷偉元先生
10/30	火	国際医療③ TBL	多彩なキャリア③ 大友康裕先生	実習① ・湯島キャンパス教育診療研究機関ツアー ・シミュレータ実習／BLS ・CC学生shadowing	
11/6	火	医学の歴史と展望③ 浅原弘嗣先生	多彩なキャリア④ 河原和夫先生		
11/13	火	PBL①		卒前留学の意義	
11/20	火	PBL②		実習①	
11/27	火	PBL③		Professionalism①: グループ英語討論	医学の歴史と展望④ 田中正人先生
12/4	火	PBL④		Professionalism②: グループ英語討論	多彩なキャリア⑤ 中山啓子先生
12/11	火	PBL⑤		Professionalism③: グループ英語討論	メンタルヘルスケア 未定
12/18	火	PBL⑥		Professionalism④: グループ英語討論	実習②オリエンテーション

1/8	火	実習② ・臨床系教員Shadowing(内科) ・臨床系教員Shadowing(外科) ・看護師Shadowing ・患者エスコート	
1/15	火		
1/22	火		
1/29	火		
2/5	火	総括(卒業時の獲得資質について)	研究者養成コースの説明

平成24年度授業時間割 第2学年前期

前期(21週) 24.4.2(月)～24.9.28(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/2 月					
4/3 火					
4/4 水					
4/5 木					
4/6 金					

4/9 月	入学式		カリキュラム説明	医学部総合教育センター(佐賀大 小田先生)	
4/10 火	人体構造総論1	人体構造総論2	細胞生物学1	神経生理導入1	研究者実践1
4/11 水	人体構造総論3	人体構造総論4	人体解剖学1	人体解剖学2	研究者実践2
4/12 木	人体構造総論5	人体構造総論6	人体解剖学3	細胞生物学2	研究者実践3
4/13 金	人体構造総論7	人体構造総論8	人体解剖学4	神経生理導入2	研究者実践4

4/16 月	人体構造総論9	人体構造総論10	人体解剖学5＝頭頸部基礎1	神経生理導入3	研究者実践5
4/17 火	細胞生物学3	神経生理導入4	人体解剖学6＝頭頸部基礎2	神経生理導入5	研究者実践6
4/18 水	人体構造総論11	人体構造総論12	人体解剖学7	組織学1	組織学実習1
4/19 木	教養／医歯学基盤教育1		組織学2	組織学実習2	組織学実習3
4/20 金	人体構造総論13	人体構造総論14	人体解剖学8	神経生理導入6	研究者実践7

4/23 月	人体構造総論15	人体構造総論16	人体解剖学9	組織学3	人体構造総論17
4/24 火	人体構造総論18	生理学1	人体解剖学10	組織学実習4	組織学実習5
4/25 水	人体構造総論19	組織学4	人体解剖学11	組織学実習6	組織学実習7
4/26 木	教養／医歯学基盤教育2		組織学5	組織学実習8	組織学実習9
4/27 金	人体構造総論20	人体構造総論21	人体解剖学12	神経生理導入7	研究者実践8

4/30 月	(祝)昭和の日振替休日				
5/1 火	神経生理導入8	生理学2	人体解剖学13	組織学6	組織学7
5/2 水	教養／医歯学基盤教育3		人体解剖学14	組織学実習10	組織学実習11
5/3 木	(祝)憲法記念日				
5/4 金	(祝)みどりの日				

5/7 月	神経生理導入9	神経生理導入10	人体解剖学15	組織学実習12	組織学実習13
5/8 火	生理学3	神経生理導入11	人体解剖学16	生理学4	組織学8
5/9 水	人体構造総論22	人体構造総論23	人体解剖学17	組織学実習14	組織学実習15
5/10 木	教養／医歯学基盤教育4		組織学9	組織学実習16	組織学実習17
5/11 金	神経生理導入12	生理学5	人体解剖学18	細胞生物学4	研究者実践9

5/14 月	細胞生物学5	生理学6	組織学10	生理学7	
5/15 火	人体構造総論24	生理学8	人体解剖学19	組織学実習18	組織学実習19
5/16 水	細胞生物学6	生理学9	人体解剖学20		
5/17 木	教養／医歯学基盤教育5		組織学11	組織学実習20	組織学実習21
5/18 金	自習・補講	生理学10	人体解剖学21		

5/21 月	細胞生物学7	生理学11	組織学12		
5/22 火	自習・補講	生理学12	人体解剖学22	組織学実習22	組織学実習23
5/23 水	自習・補講	生理学13	人体解剖学23	人体解剖学実習1	
5/24 木	教養／医歯学基盤教育6		組織学13	人体解剖学実習2	
5/25 金	薬理学1	生理学14	人体解剖学24	組織学実習24	組織学実習25

5/28 月	薬理学2	細胞生物学8	組織学14	人体解剖学実習3	
5/29 火	薬理学3	生理学15	人体解剖学25＝頭頸部基礎3	組織学実習26	組織学実習27
5/30 水	自習・補講	生理学16	人体解剖学26＝頭頸部基礎4	人体解剖学実習4	
5/31 木	教養／医歯学基盤教育7		組織学15	組織学実習28	組織学実習29
6/1 金	薬理学4	生理学17	人体解剖学27＝頭頸部基礎5	人体解剖学実習5	

6/4 月	薬理学5	生理学18	組織学16		
6/5 火	薬理学6	生理学19	人体解剖学28＝頭頸部基礎6	組織学実習30	組織学実習31
6/6 水	神経生理導入13	生理学20	人体解剖学29＝頭頸部基礎7	細胞生物学9	
6/7 木	教養／医歯学基盤教育8		組織学17	組織学実習32	組織学実習33
6/8 金	神経生理導入14	生理学21	人体解剖学30	細胞生物学10	

6/11 月	薬理学7	生理学22	細胞生物学11	細胞生物学12	
6/12 火	神経生理導入15	人体解剖学31	組織学18	組織学実習34	組織学実習35
6/13 水	生理学23	人体解剖学32＝頭頸部基礎8	組織学19(頭基9)	組織学実習36(頭基実習1)	組織学実習37(頭基実習2)
6/14 木	教養／医歯学基盤教育9		人体解剖学実習6	人体解剖学実習7	
6/15 金	生理学24	人体解剖学33＝頭頸部基礎10	組織学20(頭基11)	組織学実習38(頭基実習3)	組織学実習39(頭基実習4)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/18 月	自習・補講	薬理学8	生理学実習1	生理学実習2	生理学実習3
6/19 火	薬理学9	人体解剖学34＝頭頸部基礎12	生理学実習4	生理学実習5	生理学実習6
6/20 水	自習・補講	人体解剖学35	生理学実習7	生理学実習8	生理学実習9
6/21 木	教養／医歯学基盤教育10		生理学実習10	生理学実習11	生理学実習12
6/22 金	薬理学10	人体解剖学36	生理学実習13	生理学実習14	生理学実習15

6/25 月	薬理学11	人体解剖学37	生理学実習16	生理学実習17	生理学実習18
6/26 火	薬理学12	人体解剖学38	生理学実習19	生理学実習20	生理学実習21
6/27 水	組織学実習40	組織学実習41	生理学実習22	生理学実習23	生理学実習24
6/28 木	教養／医歯学基盤教育11		生理学実習25	生理学実習26	生理学実習27
6/29 金	組織学実習42	組織学実習43	人体解剖学実習8	人体解剖学実習9	人体解剖学実習10

7/2 月	頭頸部・基礎13	頭頸部・基礎14	人体解剖学実習11	人体解剖学実習12	人体解剖学実習13
7/3 火	頭頸部・基礎15	人体解剖学実習14	人体解剖学実習15	人体解剖学実習16	人体解剖学実習17
7/4 水	頭頸部・基礎16	頭頸部・基礎17	人体解剖学実習18	人体解剖学実習19	人体解剖学実習20
7/5 木	教養／医歯学基盤教育12		人体解剖学実習21	人体解剖学実習22	人体解剖学実習23
7/6 金	頭頸部・基礎18	頭頸部・基礎19	人体解剖学実習24	人体解剖学実習25	人体解剖学実習26

7/9 月	頭頸部・基礎20	頭頸部・基礎21	人体解剖学実習27	人体解剖学実習28	人体解剖学実習29
7/10 火	人体解剖学実習30	人体解剖学実習31	人体解剖学実習32	人体解剖学実習33	人体解剖学実習34
7/11 水	頭頸部・基礎実習5	頭頸部・基礎実習6	頭頸部・基礎実習7	頭頸部・基礎実習8	人体解剖学実習35
7/12 木	教養／医歯学基盤教育13		頭頸部・基礎実習9	頭頸部・基礎実習10	人体解剖学実習36
7/13 金	頭頸部・基礎22	頭頸部・基礎23	頭頸部・基礎実習11	頭頸部・基礎実習12	人体解剖学実習37

7/16 月	(祝)海の日				
7/17 火	人体解剖学実習38	人体解剖学実習39	頭頸部・基礎実習13	頭頸部・基礎実習14	人体解剖学実習40
7/18 水	頭頸部・基礎24	頭頸部・基礎25	頭頸部・基礎実習15	頭頸部・基礎実習16	人体解剖学実習41
7/19 木	教養／医歯学基盤教育14		頭頸部・基礎実習17	頭頸部・基礎実習18	人体解剖学実習42
7/20 金	頭頸部・基礎26	頭頸部・基礎27	頭頸部・基礎実習19	頭頸部・基礎実習20	人体解剖学実習43

7/23 月	頭頸部・基礎28	頭頸部・基礎29	頭頸部・基礎実習21	頭頸部・基礎実習22	人体解剖学実習44
7/24 火	人体解剖学実習45	人体解剖学実習46	頭頸部・基礎実習23	頭頸部・基礎実習24	人体解剖学実習47
7/25 水	頭頸部・基礎30	頭頸部・基礎31	頭頸部・基礎実習25	頭頸部・基礎実習26	人体解剖学実習48
7/26 木	教養／医歯学基盤教育15		頭頸部・基礎実習27	頭頸部・基礎実習28	人体解剖学実習49
7/27 金	頭頸部・基礎32	頭頸部・基礎33	頭頸部・基礎実習29	頭頸部・基礎実習30	人体解剖学実習50

夏季休業：7月30日(月)～8月31日(金)

9/3 月	人体解剖学				
9/4 火	神経生理学導入				
9/5 水	人体構造総論				
9/6 木	細胞生物学				
9/7 金	組織学				

9/10 月	生理学				
9/11 火	薬理学13	生化学1	分子遺伝学1	自習・補講	
9/12 水	薬理学14	生化学2	分子遺伝学2	自習・補講	
9/13 木	薬理学15	生化学3	分子遺伝学3	自習・補講	
9/14 金	薬理学16	生化学4	分子遺伝学4	自習・補講	

9/17 月	(祝)敬老の日				
9/18 火	自習・補講	生化学5	薬理学実習1	薬理学実習2	薬理学実習3
9/19 水	分子遺伝学5	生化学6	薬理学実習4	薬理学実習5	薬理学実習6
9/20 木	教養試験		薬理学実習7	薬理学実習8	薬理学実習9
9/21 金	分子遺伝学6	生化学7	薬理学実習10	薬理学実習11	薬理学実習12

9/24 月	分子遺伝学7	生化学8	薬理学実習13	薬理学実習14	薬理学実習15
9/25 火	分子遺伝学8	生化学9	薬理学実習16	薬理学実習17	薬理学実習18
9/26 水	分子遺伝学9	生化学10	薬理学実習19	薬理学実習20	薬理学実習21
9/27 木	分子遺伝学10	生化学11	薬理学実習22	薬理学実習23	薬理学実習24
9/28 金	分子遺伝学11	生化学12	薬理学実習25	薬理学実習26	薬理学実習27

平成24年度授業時間割 第2学年後期

後期(22週) 24.10.1(月)～25.3.15(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
10/1 月	分子遺伝学 12	生化学 13	薬理学実習 28	薬理学実習 29	薬理学実習 30
10/2 火	分子遺伝学 13	生化学 14	生化学実習 1	生化学実習 2	生化学実習 3
10/3 水	分子遺伝学 14	生化学 15	生化学実習 4	生化学実習 5	生化学実習 6
10/4 木	教養／歯医学基盤教育1	生化学実習 7	生化学実習 8	生化学実習 9	
10/5 金	分子遺伝学 15	生化学 16	生化学実習 10	生化学実習 11	生化学実習 12

10/8 月	(祝)体育の日				
10/9 火	自習・補講	生化学 17	生化学実習 13	生化学実習 14	生化学実習 15
10/10 水	自習・補講	自習・補講	生化学実習 16	生化学実習 17	生化学実習 18
10/11 木	教養／歯医学基盤教育2	生化学実習 19	生化学実習 20	生化学実習 21	
10/12 金	創立記念日				

お茶の水祭 10月13日(土)～10月14日(日) 予定

10/15 月	自習・補講	自習・補講	生化学実習 22	生化学実習 23	生化学実習 24
10/16 火	自習・補講	自習・補講	生化学実習 25	生化学実習 26	生化学実習 27
10/17 水	自習・補講	自習・補講	生化学実習 28	生化学実習 29	生化学実習 30
10/18 木	自習・補講	解剖体追悼式(予定)			
10/19 金	自習・補講	自習・補講	神経解剖学 1	神経解剖学 2	神経解剖学実習 1

10/22 月	臨時休業				
10/23 火	分子遺伝学				
10/24 水	薬理学				
10/25 木	教養／歯医学基盤教育3				
10/26 金	自習・補講	自習・補講	神経解剖学 3	神経解剖学 4	神経解剖学実習 2

10/29 月	免疫学Ⅰ 1	免疫学Ⅰ 2	免疫学Ⅰ 3	免疫学Ⅰ 4	
10/30 火	神経科学 1	感染・基礎 1	免疫学Ⅰ 5	免疫学Ⅰ 6	
10/31 水	自習・補講	自習・補講	感染・基礎 2	感染・基礎 3	
11/1 木	教養／歯医学基盤教育4	免疫学Ⅰ 7	免疫学Ⅰ 8		
11/2 金	神経科学 2	神経科学 3	神経解剖学 5	神経解剖学実習 3	神経解剖学実習 4

11/5 月	免疫学Ⅰ 9	免疫学Ⅰ 10	感染・基礎 4	感染・基礎 5	
11/6 火	感染・基礎 6	神経科学 4	免疫学Ⅰ 11	免疫学Ⅰ 12	
11/7 水	自習・補講	自習・補講	神経科学 5	神経科学 6	
11/8 木	教養／歯医学基盤教育5	自習・補講	自習・補講		
11/9 金	感染・基礎 7	感染・基礎 8	神経解剖学 6	神経解剖学 7	神経解剖学実習 5

11/12 月	免疫学Ⅰ 13	免疫学Ⅱ 1	神経解剖学 8	神経解剖学 9	神経解剖学実習 6
11/13 火	感染・基礎 9	感染・基礎 10	神経科学 7	感染・基礎 11	
11/14 水	自習・補講	自習・補講	免疫学Ⅱ 2	免疫学Ⅱ 3	
11/15 木	教養／歯医学基盤教育6	神経科学 8	神経科学 9		
11/16 金	感染・基礎 12	感染・基礎 13	神経解剖学 10	神経解剖学実習 7	神経解剖学実習 8

11/19 月	自習・補講	感染・基礎 14	神経解剖学 11	神経解剖学 12	神経解剖学実習 9
11/20 火	免疫学Ⅱ 4	免疫学Ⅱ 5	感染・基礎 15	神経科学 10	
11/21 水	神経科学 11	感染・基礎 16	免疫学Ⅱ 6	免疫学Ⅱ 7	
11/22 木	教養／歯医学基盤教育7	神経解剖学 13	神経解剖学 14	神経解剖学実習 10	
11/23 金	(祝)勤労感謝の日				

11/26 月	神経科学 12	感染・基礎 17	神経解剖学 15	神経解剖学 16	神経解剖学実習 11
11/27 火	感染・基礎 18	神経科学 13	神経科学 14	感染・基礎 19	
11/28 水	免疫学Ⅱ 8	免疫学Ⅱ 9	神経科学 15	神経科学 16	
11/29 木	教養／歯医学基盤教育8	免疫学Ⅱ 10	免疫学Ⅱ 11		
11/30 金	神経科学 17	感染・基礎 20	神経解剖学 17	神経解剖学 18	神経解剖学 19

12/3 月	感染・基礎 21	神経科学 18	神経解剖学 20	神経解剖学 21	神経解剖学実習 12
12/4 火	神経科学 19	神経科学 20	東洋医学 1	東洋医学 2	
12/5 水	神経科学 21	神経科学 22	自習・補講	自習・補講	
12/6 木	教養／歯医学基盤教育9	東洋医学 3	東洋医学 4		
12/7 金	免疫学Ⅱ 12	神経科学 23	神経解剖学 22	神経解剖学 23	神経解剖学実習 13

12/10 月	神経科学 24	神経科学 25	神経解剖学 24	神経解剖学 25	神経解剖学実習 14
12/11 火	神経科学 26	神経科学 27	東洋医学 5	東洋医学 6	
12/12 水	神経解剖学 26	神経解剖学 27	自習・補講	自習・補講	
12/13 木	教養／歯医学基盤教育10	東洋医学 7	東洋医学 8		
12/14 金	神経科学 28	神経科学 29	神経解剖学 28	神経解剖学 29	神経解剖学実習 15

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/17 月	病理学総論ブロック				
12/18 火					
12/19 水					
12/20 木					
12/21 金	教養／歯医学基盤教育11				

冬季休業：12月25日(火)～1月4日(金)

1/7 月	生化学				
1/8 火	免疫学Ⅰ				
1/9 水	免疫学Ⅱ				
1/10 木	病理学				
1/11 金	東洋医学				

1/14 月	(祝)成人の日				
1/15 火	神経解剖学		ご遺骨返還式(予定)		
1/16 水	医動物学 1	医動物学 2	自習・補講	自習・補講	
1/17 木	教養／歯医学基盤教育12		自習・補講	自習・補講	
1/18 金	医動物学 3	神経科学 30	自習・補講	自習・補講	

1/21 月	医動物学 4	医動物学 5	感染・基礎実習 1	感染・基礎実習 2	感染・基礎実習 3
1/22 火	自習・補講	医動物学 6	感染・基礎実習 4	感染・基礎実習 5	感染・基礎実習 6
1/23 水	医動物学 7	神経科学 31	感染・基礎実習 7	感染・基礎実習 8	感染・基礎実習 9
1/24 木	教養／歯医学基盤教育13		感染・基礎実習 10	感染・基礎実習 11	感染・基礎実習 12
1/25 金	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 13	感染・基礎実習 14	感染・基礎実習 15

1/28 月	医動物学 8	医動物学 9	感染・基礎実習 16	感染・基礎実習 17	感染・基礎実習 18
1/29 火	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 19	感染・基礎実習 20	感染・基礎実習 21
1/30 水	医動物学 10	神経科学 32	感染・基礎実習 22	感染・基礎実習 23	感染・基礎実習 24
1/31 木	教養／歯医学基盤教育14		感染・基礎実習 25	感染・基礎実習 26	感染・基礎実習 27
2/1 金	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 28	感染・基礎実習 29	感染・基礎実習 30

2/4 月	神経科学 33	神経科学 34	自習・補講	自習・補講	
2/5 火	神経科学 35	神経科学 36	自習・補講	自習・補講	
2/6 水	神経科学 37	神経科学 38	自習・補講	自習・補講	
2/7 木	教養／歯医学基盤教育15		自習・補講	自習・補講	
2/8 金	神経科学 39	神経科学 40	自習・補講	自習・補講	

2/11 月	(祝)建国記念の日				
2/12 火	自習・補講	医動物学 11	医動物学実習 1	医動物学実習 2	医動物学実習 3
2/13 水	自習・補講	医動物学 12	医動物学実習 4	医動物学実習 5	医動物学実習 6
2/14 木	教養試験		医動物学実習 7	医動物学実習 8	医動物学実習 9
2/15 金	自習・補講	医動物学 13	医動物学実習 10	医動物学実習 11	医動物学実習 12

2/18 月	自習・補講	医動物学 14	医動物学実習 13	医動物学実習 14	医動物学実習 15
2/19 火	自習・補講	医動物学 15	医動物学実習 16	医動物学実習 17	医動物学実習 18
2/20 水	自習・補講	医動物学 16	医動物学実習 19	医動物学実習 20	医動物学実習 21
2/21 木	自習・補講	自習・補講	医動物学実習 試	医動物学実習 試	医動物学実習 試
2/22 金	自習・補講	医動物学 17	自習・補講	自習・補講	

2/25 月	感染・基礎				
2/26 火					
2/27 水	医動物学				
2/28 木	神経科学(生理)				
3/1 金	神経科学(薬理)				

3/4 月	再試験期間				
3/5 火					
3/6 水					
3/7 木					
3/8 金	教養再試験				

3/11 月	再試験期間				
3/12 火					
3/13 水					
3/14 木					
3/15 金					

平成24年度授業時間割 第3学年前期

前期(21週) 24.4.2(月)～24.9.28(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/2 月					
4/3 火					
4/4 水					
4/5 木					
4/6 金					

4/9 月	入学式		臨時休業		
4/10 火	医学英語Ⅱ1	感染1	カリキュラム説明, 解剖実習説明		
4/11 水	東洋医学(基礎)1	組織学1	人体解剖学1	人体解剖学実習2	
4/12 木	組織学実習1	組織学実習2	人体解剖学3	人体解剖学実習1	人体解剖学実習2
4/13 金	社会医学1	感染2	人体解剖学4	人体解剖学実習3	人体解剖学実習4

4/16 月	社会医学2	感染3	人体解剖学5	人体解剖学実習5	人体解剖学実習6
4/17 火	医学英語Ⅱ2	感染4	人体解剖学6	人体解剖学実習7	人体解剖学実習8
4/18 水	組織学2	社会医学3	人体解剖学7	人体解剖学実習9	人体解剖学実習10
4/19 木	組織学実習3	組織学実習4	自習・補講		
4/20 金	感染5	感染6	人体解剖学8	人体解剖学実習11	人体解剖学実習12

4/23 月	社会医学4	感染7	人体解剖学9	人体解剖学実習13	人体解剖学実習14
4/24 火	感染8	生理学1	人体解剖学10	人体解剖学実習15	人体解剖学実習16
4/25 水	組織学3	感染9	人体解剖学11	人体解剖学実習17	人体解剖学実習18
4/26 木	組織学実習5	組織学実習6	自習・補講		
4/27 金	東洋医学(基礎)2	感染10	人体解剖学12	人体解剖学実習19	人体解剖学実習20

4/30 月	(祝)昭和の日振替休日				
5/1 火	医学英語Ⅱ3	生理学2	人体解剖学13	人体解剖学実習21	人体解剖学実習22
5/2 水	組織学4	感染11	人体解剖学14	人体解剖学実習23	人体解剖学実習24
5/3 木	(祝)憲法記念日				
5/4 金	(祝)みどりの日				

5/7 月	組織学実習7	組織学実習8	人体解剖学15	人体解剖学実習25	人体解剖学実習26
5/8 火	医学英語Ⅱ4	感染12	人体解剖学16	人体解剖学実習27	人体解剖学実習28
5/9 水	組織学5	感染13	人体解剖学17	人体解剖学実習29	人体解剖学実習30
5/10 木	組織学実習9	組織学実習10	自習・補講		
5/11 金	感染14	生理学3 (=5)	人体解剖学18	人体解剖学実習31	人体解剖学実習32

5/14 月	東洋医学(基礎)3	生理学4 (=6)	自習・補講		
5/15 火	医学英語Ⅱ5	生理学5 (=8)	人体解剖学19	人体解剖学実習33	人体解剖学実習34
5/16 水	組織学6	生理学6(=9)	人体解剖学20	人体解剖学実習35	人体解剖学実習36
5/17 木	組織学実習11	組織学実習12	神・神経構造1	神・神経構造2	神経科学実習1
5/18 金	感染15	感染16	人体解剖学21	人体解剖学実習37	人体解剖学実習38

5/21 月	社会医学5	生理学7 (=11)	神・神経構造3	神・神経構造4	神経科学実習2
5/22 火	医学英語Ⅱ6	生理学8 (=12)	人体解剖学22	人体解剖学実習39	人体解剖学実習40
5/23 水	組織学7	生理学9 (=13)	人体解剖学23	人体解剖学実習41	人体解剖学実習42
5/24 木	組織学実習13	組織学実習14	感染17		
5/25 金	薬理学 1	生理学10 (=14)	人体解剖学24	人体解剖学実習43	人体解剖学実習44

5/28 月	薬理学 2	東洋医学(基礎)4	神・神経構造5	神経科学実習3	神経科学実習4
5/29 火	薬理学 3	生理学11 (=15)	人体解剖学25	人体解剖学実習45	人体解剖学実習46
5/30 水	組織学8	生理学12 (=16)	人体解剖学26	人体解剖学実習47	人体解剖学実習48
5/31 木	組織学実習15	組織学実習16	感染18	感染19	
6/1 金	薬理学 4	生理学13 (=17)	人体解剖学27	人体解剖学実習49	人体解剖学実習50

6/4 月	薬理学 5	生理学14 (=18)	神・神経構造6	神・神経構造7	神経科学実習5
6/5 火	薬理学 6	生理学15 (=19)	人体解剖学28	人体解剖学実習51	人体解剖学実習52
6/6 水	組織学9	生理学16 (=20)	人体解剖学29	人体解剖学実習53	人体解剖学実習54
6/7 木	組織学実習17	組織学実習18	感染20	感染21	
6/8 金	感染22	生理学17 (=21)	人体解剖学30	人体解剖学実習55	人体解剖学実習56

6/11 月	薬理学 7	生理学18 (=22)	神・神経構造8	神・神経構造9	神経科学実習6
6/12 火	医学英語Ⅱ7	人体解剖学31	人体解剖学実習57	人体解剖学実習58	
6/13 水	感染23	人体解剖学32	人体解剖学実習59	人体解剖学実習60	
6/14 木	感染24	生理学19 (=23: 単独)	神・神経構造10	神経科学実習7	神経科学実習8
6/15 金	生理学20 (=24)	人体解剖学33	人体解剖学実習61	人体解剖学実習62	

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/18 月	感染25	薬理学 8	神・神経構造11	神・神経構造12	神経科学実習9
6/19 火	薬理学 9	人体解剖学34	人体解剖学実習63	人体解剖学実習64	
6/20 水	組織学10	人体解剖学35	人体解剖学実習65	人体解剖学実習66	
6/21 木	組織学実習19	組織学実習20	神・神経構造13	神・神経構造14	神経科学実習10
6/22 金	薬理学 10	人体解剖学36	人体解剖学実習67	人体解剖学実習68	

6/25 月	薬理学 11	人体解剖学37	人体解剖学実習69	人体解剖学実習70	
6/26 火	薬理学 12	人体解剖学38	人体解剖学実習71	人体解剖学実習72	
6/27 水	東洋医学(基礎)5	組織学11	人体解剖学39	人体解剖学実習73	人体解剖学実習74
6/28 木	組織学実習21	組織学実習22	神・神経構造15	神・神経構造16	神経科学実習11
6/29 金	感染26	感染27	神・神経構造17	神・神経構造18	神・神経構造19

7/2 月	東洋医学(基礎)6	社会医学6	神・神経構造20	神・神経構造21	神経科学実習12
7/3 火	医学英語Ⅱ8	社会医学7	感染28	感染29	
7/4 水	神経科学・基礎1	神経科学・基礎2	感染30	感染31	
7/5 木	感染32	社会医学8	自習・補講		
7/6 金	感染33	感染34	神・神経構造22	神・神経構造23	神経科学実習13

7/9 月	組織学試験	社会医学9	神・神経構造24	神・神経構造25	神経科学実習14
7/10 火	医学英語Ⅱ9	感染35	自習・補講		
7/11 水	感染36	感染37	神経科学・基礎3	神経科学・基礎4	
7/12 木	感染38	社会医学10	生殖・発達・加齢1	感染39	
7/13 金	神経科学・基礎5	神経科学・基礎6	神・神経構造26	神・神経構造27	神経科学実習15

7/16 月	(祝)海の日				
7/17 火	神・神経構造試験	社会医学11	生理学実習1	生理学実習2	生理学実習3
7/18 水	神経科学・基礎7	神経科学・基礎8	生理学実習4	生理学実習5	生理学実習6
7/19 木	社会医学12	生殖・発達・加齢2	生理学実習7	生理学実習8	生理学実習9
7/20 金	神経科学・基礎9	神経科学・基礎10	生理学実習10	生理学実習11	生理学実習12

7/23 月	東洋医学(基礎)試験	神経科学・基礎11	生理学実習13	生理学実習14	生理学実習15
7/24 火	医学英語Ⅱ10	社会医学13	生理学実習16	生理学実習17	生理学実習18
7/25 水	生殖・発達・加齢3	社会医学14	生理学実習19	生理学実習20	生理学実習21
7/26 木	生殖・発達・加齢4	感染40	生理学実習22	生理学実習23	生理学実習24
7/27 金	神経科学・基礎12	生殖・発達・加齢5	生理学実習25	生理学実習26	生理学実習27

夏季休業: 7月30日(月)～8月31日(金)

9/3 月	人体解剖学試験	感染41	薬理学実習1	薬理学実習2	薬理学実習3
9/4 火	医学英語Ⅱ11	社会医学15	薬理学実習4	薬理学実習5	薬理学実習6
9/5 水	社会医学16	神経科学・基礎13	薬理学実習7	薬理学実習8	薬理学実習9
9/6 木	法医学1	生殖・発達・加齢6	薬理学実習10	薬理学実習11	薬理学実習12
9/7 金	生殖・発達・加齢7	神経科学・基礎14	薬理学実習13	薬理学実習14	薬理学実習15

9/10 月	生理学試験	自習・補講	薬理学実習16	薬理学実習17	薬理学実習18
9/11 火	薬理学 13	生化学 1	薬理学実習19	薬理学実習20	薬理学実習21
9/12 水	薬理学 14	生化学 2	薬理学実習22	薬理学実習23	薬理学実習24
9/13 木	薬理学 15	生化学 3	薬理学実習25	薬理学実習26	薬理学実習27
9/14 金	薬理学 16	生化学 4	薬理学実習28	薬理学実習29	薬理学実習30

9/17 月	(祝)敬老の日				
9/18 火	医学英語Ⅱ12	生化学5	感染系実習1	感染系実習2	感染系実習3
9/19 水	神経科学・基礎15	生化学6	感染系実習4	感染系実習5	感染系実習6
9/20 木	社会医学17	感染42	感染系実習7	感染系実習8	感染系実習9
9/21 金	神経科学・基礎16	生化学7	感染系実習10	感染系実習11	感染系実習12

9/24 月	薬理学試験	生化学8	感染系実習13	感染系実習14	感染系実習15
9/25 火	社会医学18	生化学9	感染系実習16	感染系実習17	感染系実習18
9/26 水	法医学2	生化学10	感染系実習19	感染系実習20	感染系実習21
9/27 木	法医学3	生化学11	感染系実習22	感染系実習23	感染系実習24
9/28 金	衛生学1	生化学12	感染系実習25	感染系実習26	感染系実習27

平成24年度授業時間割 第3学年後期

後期(22週) 24.10.1(月)～25.3.15(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
10/1 月	神経科学・基礎17	生化学13	感染系実習28	感染系実習29	感染系実習30
10/2 火	医学英語Ⅱ13	生化学14	衛生学2	衛生学3	
10/3 水	神経科学・基礎18	生化学15	衛生学4	衛生学5	
10/4 木	生殖・発達・加齢8	神経科学・基礎19	衛生学6	衛生学7	
10/5 金	生殖・発達・加齢9	生化学16	社会医学19	自習・補講	

10/8 月	(祝)体育の日				
10/9 火	感染試験	生化学17	小児科学1	社会医学20	
10/10 水	小児科学2	法医学4	衛生学8	自習・補講	
10/11 木	小児科学3	法医学5	衛生学9	循環器学1	
10/12 金	創立記念日				

お茶の水祭 10月13日(土)～10月14日(日) 予定

10/15 月	臨時休業				
10/16 火					
10/17 水	生殖・発達・加齢10	小児科学4	法医学6	法医学7	
10/18 木	生殖・発達・加齢11	解剖体追悼式(予定)			
10/19 金	生殖・発達・加齢12	循環器学2	神経科学・基礎20	ブロック説明会	

10/22 月	腫瘍学ブロック				
10/23 火					
10/24 水					
10/25 木					
10/26 金					

10/29 月	腫瘍学試験	循環器学3	神経科学・基礎21	衛生学10	
10/30 火	医学英語Ⅱ14	衛生学11	神経科学・基礎22	衛生学12	
10/31 水	内分泌代謝1	内分泌代謝2	法医学8	法医学9	
11/1 木	小児科学5	生殖・発達・加齢13	神経科学・基礎23	自習・補講	
11/2 金	生殖・発達・加齢14	生化学18	循環器学4	循環器学5	

11/5 月	病理学総論ブロック				
11/6 火					
11/7 水					
11/8 木					
11/9 金					

11/12 月	循環器学6	生殖・発達・加齢15	生化学実習1	生化学実習2	生化学実習3
11/13 火	医学英語Ⅱ15	循環器学7	生化学実習4	生化学実習5	生化学実習6
11/14 水	小児科学6	神経科学・基礎24	生化学実習7	生化学実習8	生化学実習9
11/15 木	神経科学・基礎25	生化学実習10	生化学実習11	生化学実習12	生化学実習13
11/16 金	循環器学8	生化学実習14	生化学実習15	生化学実習16	生化学実習17

11/19 月	病理学総論試験	法医学10	生化学実習18	生化学実習19	生化学実習20
11/20 火	医学英語Ⅱ16	生殖・発達・加齢16	生化学実習21	生化学実習22	生化学実習23
11/21 水	小児科学7	循環器学9	生化学実習24	生化学実習25	生化学実習26
11/22 木	法医学11	生化学実習27	生化学実習28	生化学実習29	生化学実習30
11/23 金	(祝)勤労感謝の日				

11/26 月	社会医学試験	循環器学10	衛生学実習1	衛生学実習2	衛生学実習3
11/27 火	法医学12	医学英語Ⅱ17	衛生学実習4	衛生学実習5	衛生学実習6
11/28 水	循環器学11	神経科学・基礎26	衛生学実習7	衛生学実習8	衛生学実習9
11/29 木	小児科学8	神経科学・基礎27	衛生学実習10	衛生学実習11	衛生学実習12
11/30 金	小児科学9	神経科学・基礎28	衛生学実習13	衛生学実習14	衛生学実習15

12/3 月	腎・体液制御ブロック(1週目)				
12/4 火					
12/5 水					
12/6 木					
12/7 金					

12/10 月	腎・体液制御ブロック(2週目)				
12/11 火					
12/12 水					
12/13 木					
12/14 金					

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/17 月	衛生学試験	小児科学10	医動物学1	内分泌代謝3	
12/18 火	医動物学2	医学英語Ⅱ18	循環器学12	循環器学13	
12/19 水	循環器学14	小児科学11	法医学実習1	法医学実習2	法医学実習3
12/20 木	循環器学15	小児科学12	医事法学1	医事法学2	医事法学3
12/21 金	膠原病・リウマチ学1	小児科学13	医動物学3	膠原病・リウマチ学2	

冬季休業：12月25日(火)～1月4日(金)

1/7 月	生化学	膠原病・リウマチ学3	法医学実習4	法医学実習5	法医学実習6
1/8 火	医学英語Ⅱ19	内分泌代謝4	医動物学4	医事法学4	
1/9 水	内分泌代謝5	小児科学14	医動物学5	医事法学5	医事法学6
1/10 木	循環器学16	小児科学15	医動物学6	医事法学7	
1/11 金	内分泌代謝6	小児科学16	循環器学17	循環器学18	

1/14 月	(祝)成人の日				
1/15 火	神・生理,薬理試験		ご遺骨返還式(予定)		
1/16 水	循環器学19	小児科学17	医動物学実習1	医動物学実習2	医動物学実習3
1/17 木	循環器学20	循環器学21	医動物学実習4	医動物学実習5	医動物学実習6
1/18 金	膠原病・リウマチ学4	膠原病・リウマチ学5	医動物学実習7	医動物学実習8	医動物学実習9

1/21 月	小児科学試験	内分泌代謝7	法医学実習7	法医学実習8	法医学実習9
1/22 火	医動物学7	生殖・発達・加齢17	膠原病・リウマチ学6	膠原病・リウマチ学7	
1/23 水	医動物学8	生殖・発達・加齢18	膠原病・リウマチ学8	循環器学22	
1/24 木	医動物学9	生殖・発達・加齢19	循環器学23	循環器学24	
1/25 金	医動物学10	生殖・発達・加齢20	循環器学25	循環器学26	

1/28 月	膠原病・リウマチ学試験	内分泌代謝8	内分泌代謝9	循環器学27	
1/29 火	生殖・発達・加齢21	医動物学11	内分泌代謝10	内分泌代謝11	
1/30 水	生殖・発達・加齢22	医動物学12	内分泌代謝12	内分泌代謝13	
1/31 木	自習・補講	医動物学13	内分泌代謝14	循環器学28	
2/1 金	自習・補講	医動物学14	内分泌代謝15	循環器学29	

2/4 月	生殖・加齢試験	医動物学15	内分泌代謝16	内分泌代謝17	
2/5 火	循環器学30	医動物学16	医動物学実習10	医動物学実習11	医動物学実習12
2/6 水	内分泌代謝18	循環器学31	医動物学実習13	医動物学実習14	医動物学実習15
2/7 木	循環器学32	循環器学33	医動物学実習16	医動物学実習17	医動物学実習18
2/8 金	循環器学34	循環器学35	医動物学実習 試	医動物学実習 試	医動物学実習 試

2/11 月	(祝)建国記念の日				
2/12 火	医動物学試験				
2/13 水	法医・医事試験				
2/14 木	内分泌代謝試験				
2/15 金	循環器学試験				

2/18 月	呼吸器ブロック(1週目)				
2/19 火					
2/20 水					
2/21 木					
2/22 金					

2/25 月	呼吸器ブロック(2週目)				
2/26 火					
2/27 水					
2/28 木					
3/1 金					

3/ 4	月	呼吸器試験	自由選択学習(プロジェクトセメスター)説明会・成果発表会
3/ 5	火	再試験期間	
3/ 6	水		
3/ 7	木		
3/ 8	金		

3/11 月	再試験期間				
3/12 火					
3/13 水					
3/14 木					
3/15 金					

進級判定教育委員会 25.3月中旬 【予定】
進級判定教授会 25.3月下旬 【予定】

平成24年度授業時間割 第4学年前期

前期(21週) 24.4.4(月)～24.9.28(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/2 月	消化器ブロック(上部消化管)				
4/3 火					
4/4 水					
4/5 木					
4/6 金					

4/9 月	消化器ブロック(下部消化管)				
4/10 火					
4/11 水					
4/12 木					
4/13 金					

4/16 月	消化器ブロック(肝胆脾)				
4/17 火					
4/18 水					
4/19 木					
4/20 金					

4/23 月	神経精神医学1	神経精神医学2	産科・婦人科学1	公衆衛生学1	
4/24 火	産科・婦人科学2	神・臨床神経1	眼科学1	公衆衛生学2	神・臨床神経2
4/25 水	外科学1	臨床検査医学1	皮膚科学1	眼科学2	
4/26 木	産科・婦人科学3	臨床検査医学2		神・臨床神経3	
4/27 金	外科学2	皮膚科学2	眼科学3	公衆衛生学3	血液1

4/30 月	(祝)昭和の日振替休日				
5/1 火	産科・婦人科学4	神・臨床神経4	病理学実習1	病理学実習2	病理学実習3
5/2 水	外科学3	臨床検査医学3	公衆衛生学4	皮膚科学3	
5/3 木	(祝)憲法記念日				
5/4 金	(祝)みどりの日				

5/7 月	外科学4	公衆衛生学5	眼科学4	神・臨床神経5	
5/8 火	神経精神医学3	臨床検査医学4	公衆衛生学6	産科・婦人科学5	
5/9 水	外科学5	臨床検査医学5	公衆衛生学7	神・臨床神経6	
5/10 木	産科・婦人科学6	血液2	神・臨床神経7	神・臨床神経8	
5/11 金	外科学6	眼科学5	産科・婦人科学7	医学英語Ⅱ20	血液3

5/14 月	消化器試験	皮膚科学4	病理学実習4	病理学実習5	病理学実習6
5/15 火	産科・婦人科学8	眼科学6	整形外科科学1	皮膚科学5	
5/16 水	外科学7	眼科学7	病理学実習7	病理学実習8	病理学実習9
5/17 木	産科・婦人科学9	血液4	神・臨床神経9	神・臨床神経10	
5/18 金	外科学8	整形外科科学2	神経精神医学4	神経精神医学5	血液5

5/21 月	臨床検査医学試験	皮膚科学6	神・臨床神経11	神・臨床神経12	
5/22 火	産科・婦人科学10	眼科学8	皮膚科学7	神・臨床神経13	
5/23 水	外科学9	眼科学9	病理学実習10	病理学実習11	病理学実習12
5/24 木	産科・婦人科学11	血液6	病理学実習13	病理学実習14	病理学実習15
5/25 金	外科学10	皮膚科学8	神・臨床神経14	医学英語Ⅱ21	血液7

5/28 月	外科学11	整形外科科学3	病理学実習16	病理学実習17	病理学実習18
5/29 火	産科・婦人科学12	眼科学10	整形外科科学4	整形外科科学5	
5/30 水	外科学12	眼科学11	病理学実習19	病理学実習20	病理学実習21
5/31 木	産科・婦人科学13	血液8	神経精神医学6	神経精神医学7	
6/1 金	外科学13	外科学14	眼科学12	医学英語Ⅱ22	血液9

6/4 月	公衆衛生学実習1	公衆衛生学実習2	公衆衛生学実習3	公衆衛生学実習4	公衆衛生学実習5
6/5 火	公衆衛生学実習6	公衆衛生学実習7	公衆衛生学実習8	公衆衛生学実習9	公衆衛生学実習10
6/6 水	公衆衛生学実習11	公衆衛生学実習12	公衆衛生学実習13	公衆衛生学実習14	公衆衛生学実習15
6/7 木	公衆衛生学実習16	公衆衛生学実習17	公衆衛生学実習18	公衆衛生学実習19	公衆衛生学実習20
6/8 金	公衆衛生学実習21	公衆衛生学実習22	公衆衛生学実習23	公衆衛生学実習24	公衆衛生学実習25

6/11 月	公衆衛生学試験	眼科学13	神経精神医学8	神経精神医学9	
6/12 火	産科・婦人科学14	眼科学14	皮膚科学9	整形外科科学6	
6/13 水	皮膚科学10	整形外科科学7	神経精神医学10	神経精神医学11	
6/14 木	産科・婦人科学15	血液10	神・臨床神経15	神・臨床神経16	
6/15 金	皮膚科学11	耳鼻咽喉科学1	神・臨床神経17	医学英語Ⅱ23	血液11

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/18 月	外科学試験	耳鼻咽喉科学2	放射線医学1	放射線医学2	
6/19 火	産科・婦人科学16	心療・ターミナル医学1	病理学実習22	病理学実習23	病理学実習24
6/20 水	泌尿器科学1	整形外科科学8	病理学実習25	病理学実習26	病理学実習27
6/21 木	整形外科科学9	血液12	心療・ターミナル医学2	皮膚科学12	
6/22 金	神・臨床神経18	神・臨床神経19	神経精神医学12	医学英語Ⅱ24	血液13

6/25 月	眼科学試験	泌尿器科学2	血液14	血液15	
6/26 火	整形外科科学10	皮膚科学13	病理学実習28	病理学実習29	病理学実習30
6/27 水	病理学実習31	病理学実習32	病理学実習33	病理学実習34	病理学実習35
6/28 木	放射線医学3	放射線医学4	神・臨床神経20	皮膚科学14	
6/29 金	整形外科科学11	泌尿器科学3	神・臨床神経21	OSCE打合せ	
6/30 土	OSCE				
7/2 月	耳鼻咽喉科学3	心療・ターミナル医学3	麻酔・蘇生学1	皮膚科学15	
7/3 火	整形外科科学12	血液16	病理学実習36	病理学実習37	病理学実習38
7/4 水	泌尿器科学4	皮膚科学16	血液17	神経精神医学13	
7/5 木	耳鼻咽喉科学4	整形外科科学13	放射線医学5	放射線医学6	
7/6 金	放射線医学7	放射線医学8	泌尿器科学5	医学英語Ⅱ25	

7/9 月	産科・婦人科学試験	心療・ターミナル医学4	神・臨床神経22	整形外科科学14	
7/10 火	形成外科学1	神経精神医学14	泌尿器科学6	耳鼻咽喉科学5	
7/11 水	形成外科学2	神経精神医学15	救急医学1	泌尿器科学7	
7/12 木	整形外科科学15	放射線医学9	耳鼻咽喉科学6	耳鼻咽喉科学7	
7/13 金	放射線医学10	形成外科学3	整形外科科学16	医学英語Ⅱ26	

7/16 月	(祝)海の日				
7/17 火	血液試験	神・臨床神経23	形成外科学4	救急医学2	
7/18 水	麻酔・蘇生学2	神・臨床神経24	心療・ターミナル医学5	泌尿器科学8	
7/19 木	皮膚科学試験	放射線医学11	耳鼻咽喉科学8	耳鼻咽喉科学9	
7/20 金	放射線医学12	耳鼻咽喉科学10	泌尿器科学9	医学英語Ⅱ27	

7/23 月	精神・心療試験	神・臨床神経25	麻酔・蘇生学3	救急医学3	
7/24 火	泌尿器科学10	麻酔・蘇生学4	神・臨床神経26	形成外科学5	
7/25 水	整形外科科学17	整形外科科学18	耳鼻咽喉科学11	神・臨床神経27	
7/26 木	形成外科学6	耳鼻咽喉科学12	泌尿器科学11	泌尿器科学12	
7/27 金	麻酔・蘇生学5	救急医学4	泌尿器科学13	医学英語試験	

夏季休業：7月30日(月)～8月31日(金)

9/3 月	放射線医学試験	頭頸部外科学1	神・臨床神経28	麻酔・蘇生学6	
9/4 火	救急医学5	救急医学6	麻酔・蘇生学7	神・臨床神経29	
9/5 水	整形外科科学19	口腔外科学1	頭頸部外科学2	神・臨床神経30	
9/6 木	口腔外科学2	形成外科学7	頭頸部外科学3	老年病学1	
9/7 金	口腔外科学3	麻酔・蘇生学8	救急医学7	老年病学2	

9/10 月	整形外科科学試験	麻酔・蘇生学9	救急医学8	形成外科学8	
9/11 火	神・臨床神経31	麻酔・蘇生学10	神・臨床神経32	老年病学3	
9/12 水	口腔外科学4	神・臨床神経33	頭頸部外科学4	神・臨床神経34	
9/13 木	口腔外科学5	神・臨床神経35	頭頸部外科学5	老年病学4	
9/14 金	泌尿器科学試験	口腔外科学6	頭頸部外科学6	頭頸部外科学7	

9/17 月	(祝)敬老の日				
9/18 火	麻酔・蘇生学試験	老年病学5	神・臨床神経36		
9/19 水	救急医学9	救急医学10	口腔外科学7		
9/20 木	頭頸部外科学8	救急医学11	老年病学6		
9/21 金	形成外科学試験				

9/24 月	耳鼻・頭頸部外科学試験				
9/25 火					
9/26 水	口腔外科学試験				
9/27 木					
9/28 金	救急医学試験	プロジェクトゼミスター特別講義(予定)			

平成24年度授業時間割 第4学年後期

後期(22週) 24. 10. 1(月)～25. 3. 15(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
10/1 月	神・神経内科試験				
10/2 火					
10/3 水	神・脳外科試験				
10/4 木					
10/5 金	老年病学試験				

10/8 月	(祝)体育の日				
10/9 火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
10/10 水					
10/11 木					
10/12 金	創立記念日				

お茶の水祭 10月13日(土)～10月14日(日) 予定

10/15 月	臨時休業				
10/16 火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
10/17 水					
10/18 木					
10/19 金					

10/22 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
10/23 火					
10/24 水					
10/25 木					
10/26 金					

10/29 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
10/30 火					
10/31 水					
11/1 木					
11/2 金					

11/5 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
11/6 火					
11/7 水					
11/8 木					
11/9 金					

11/12 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
11/13 火					
11/14 水					
11/15 木					
11/16 金					

11/19 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
11/20 火					
11/21 水					
11/22 木					
11/23 金					

(祝)勤労感謝の日

11/26 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
11/27 火					
11/28 水					
11/29 木					
11/30 金					

12/3 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
12/4 火					
12/5 水					
12/6 木					
12/7 金					

12/10 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
12/11 火					
12/12 水					
12/13 木					
12/14 金					

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/17 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
12/18 火					
12/19 水					
12/20 木					
12/21 金					

冬季休業：12月25日(火)～1月4日(金)

1/7 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
1/8 火					
1/9 水					
1/10 木					
1/11 金					

1/14 月	(祝)成人の日				
1/15 火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
1/16 水					
1/17 木					
1/18 金					

1/21 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
1/22 火					
1/23 水					
1/24 木					
1/25 金					

1/28 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
1/29 火					
1/30 水					
1/31 木					
2/1 金					

2/4 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
2/5 火					
2/6 水					
2/7 木					
2/8 金					

2/11 月	(祝)建国記念の日				
2/12 火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
2/13 水					
2/14 木					
2/15 金					

2/18 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
2/19 火					
2/20 水					
2/21 木					
2/22 金					

2/25 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
2/26 火					
2/27 水					
2/28 木					
3/1 金					

3/4 月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)成果発表会				
3/5 火	再試験期間				
3/6 水					
3/7 木					
3/8 金					

3/9(土)～10(日)合宿研修

3/11 月	再試験期間				
3/12 火					
3/13 水					
3/14 木					
3/15 金					

平成24年度授業時間割 第5学年前期

前期(22週) 24. 4. 2(月)～24. 9. 28(金)

日 付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/ 2 月	Pre Clinical Clerkship (総論) 1 W				
4/ 3 火					
4/ 4 水					
4/ 5 木					
4/ 6 金					

4/ 9 月	Pre Clinical Clerkship 2 W				
4/10 火					
4/11 水					
4/12 木					
4/13 金					

4/16 月	Pre Clinical Clerkship 3 W				
4/17 火					
4/18 水					
4/19 木					
4/20 金					

4/23 月	Pre Clinical Clerkship 4 W				
4/24 火					
4/25 水					
4/26 木					
4/27 金					

4/30 月	振替休日				
5/ 1 火	臨時休業				
5/ 2 水	包括医療統合教育セッション				
5/ 3 木	(祝) 憲法記念日				
5/ 4 金	(祝) みどりの日				

5/ 7 月	Pre Clinical Clerkship 6 W				
5/ 8 火					
5/ 9 水					
5/10 木					
5/11 金					

5/14 月	Pre Clinical Clerkship 7 W				
5/15 火					
5/16 水					
5/17 木					
5/18 金					

5/21 月	Pre Clinical Clerkship 8 W				
5/22 火					
5/23 水					
5/24 木					
5/25 金					

5/28 月	Pre Clinical Clerkship 9 W				
5/29 火					
5/30 水					
5/31 木					
6/ 1 金					

6/ 4 月	Pre Clinical Clerkship 10 W				
6/ 5 火					
6/ 6 水					
6/ 7 木					
6/ 8 金					

6/11 月	Pre Clinical Clerkship 11 W				
6/12 火					
6/13 水					
6/14 木					
6/15 金					

日 付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/18 月	Pre Clinical Clerkship 12 W				
6/19 火					
6/20 水					
6/21 木					
6/22 金					

6/25 月	共用試験 C B T				
6/26 火	Pre Clinical Clerkship (総論) 13 W				
6/27 水					
6/28 木					
6/29 金					

6/30 (土) 共用試験 O S C E

7/ 2 月	Clinical Clerkship 第1クール 1 W				
7/ 3 火					
7/ 4 水					
7/ 5 木					
7/ 6 金					

7/ 9 月	Clinical Clerkship 第1クール 2 W				
7/10 火					
7/11 水					
7/12 木					
7/13 金					

7/16 月	(祝) 海の日				
7/17 火	Clinical Clerkship 第1クール 3 W				
7/18 水					
7/19 木					
7/20 金					

7/23 月	Clinical Clerkship 第1クール 4 W				
7/24 火					
7/25 水					
7/26 木					
7/27 金					

夏季休業 7.30(月)～8.24(金)

8/27 月	Clinical Clerkship 第2クール 1 W				
8/28 火					
8/29 水					
8/30 木					
8/31 金					

9/ 3 月	Clinical Clerkship 第2クール 2 W				
9/ 4 火					
9/ 5 水					
9/ 6 木					
9/ 7 金					

9/10 月	Clinical Clerkship 第2クール 3 W				
9/11 火					
9/12 水					
9/13 木					
9/14 金					

9/17 月	(祝) 敬老の日				
9/18 火	Clinical Clerkship 第2クール 4 W				
9/19 水					
9/20 木					
9/21 金					

9/24 月	Clinical Clerkship 第3クール 1 W				
9/25 火					
9/26 水					
9/27 木					
9/28 金					

Clinical Clerkshipの日程は変更する可能性あり

平成24年度授業時間割 第5学年後期

後期(26週) 24. 10. 1(月)～25. 3. 29(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
10/ 1 月	Clinical Clerkship 第3クール 2W				
10/ 2 火					
10/ 3 水					
10/ 4 木					
10/ 5 金					

10/ 8 月	(祝) 体 育 の 日				
10/ 9 火	Clinical Clerkship 第3クール 3W				
10/10 水					
10/11 木					
10/12 金	創 立 記 念 日				

10/15 月	Clinical Clerkship 第3クール 4W				
10/16 火					
10/17 水					
10/18 木					
10/19 金					

10/22 月	Clinical Clerkship 第4クール 1W				
10/23 火					
10/24 水					
10/25 木					
10/26 金					

10/29 月	Clinical Clerkship 第4クール 2W				
10/30 火					
10/31 水					
11/ 1 木					
11/ 2 金					

11/ 5 月	Clinical Clerkship 第4クール 3W				
11/ 6 火					
11/ 7 水					
11/ 8 木					
11/ 9 金					

11/12 月	Clinical Clerkship 第4クール 4W				
11/13 火					
11/14 水					
11/15 木					
11/16 金					

11/19 月	Clinical Clerkship 第5クール 1W				
11/20 火					
11/21 水					
11/22 木					
11/23 金	(祝) 勤 労 感 謝 の 日				

11/26 月	Clinical Clerkship 第5クール 2W				
11/27 火					
11/28 水					
11/29 木					
11/30 金					

12/ 3 月	Clinical Clerkship 第5クール 3W				
12/ 4 火					
12/ 5 水					
12/ 6 木					
12/ 7 金					

12/10 月	Clinical Clerkship 第5クール 4W				
12/11 火					
12/12 水					
12/13 木					
12/14 金					

12/17 月	Clinical Clerkship 総 論				
12/18 火					
12/19 水					
12/20 木					
12/21 金					

冬季休業 12.25(火)～1. 4 (金)

12/24 月	振 替 休 日				
12/25 火	冬 季 休 業				
12/26 水					
12/27 木					
12/28 金					

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/31 月	冬 季 休 業				
1/ 1 火					
1/ 2 水					
1/ 3 木					
1/ 4 金					

1/ 7 月	Clinical Clerkship 第6クール 1W				
1/ 8 火					
1/ 9 水					
1/10 木					
1/11 金					

1/14 月	(祝) 成 人 の 日				
1/15 火	Clinical Clerkship 第6クール 2W				
1/16 水					
1/17 木					
1/18 金					

1/21 月	Clinical Clerkship 第6クール 3W				
1/22 火					
1/23 水					
1/24 木					
1/25 金					

1/28 月	Clinical Clerkship 第6クール 4W				
1/29 火					
1/30 水					
1/31 木					
2/ 1 金					

2/ 4 月	Clinical Clerkship 第7クール 1W				
2/ 5 火					
2/ 6 水					
2/ 7 木					
2/ 8 金					

2/11 月	(祝) 建 国 記 念 の 日				
2/12 火	Clinical Clerkship 第7クール 2W				
2/13 水					
2/14 木					
2/15 金					

2/18 月	Clinical Clerkship 第7クール 3W				
2/19 火					
2/20 水					
2/21 木					
2/22 金					

2/25 月	Clinical Clerkship 第7クール 4W				
2/26 火					
2/27 水					
2/28 木					
3/ 1 金					

3/ 4 月	Clinical Clerkship 第8クール 1W				
3/ 5 火					
3/ 6 水					
3/ 7 木					
3/ 8 金					

3/11 月	Clinical Clerkship 第8クール 2W				
3/12 火					
3/13 水					
3/14 木					
3/15 金					

3/18 月	Clinical Clerkship 第8クール 3W				
3/19 火					
3/20 水					
3/21 木					
3/22 金	(祝) 春 分 の 日				

3/25 月	Clinical Clerkship 第8クール 4W				
3/26 火					
3/27 水					
3/28 木					
3/29 金					

平成24年度授業時間割 第6学年前期

前期(22週) 24. 4. 2(月)～24. 9. 28(金)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/ 2 月	Clinical Clerkship 第9クール 1W				
4/ 3 火					
4/ 4 水					
4/ 5 木					
4/ 6 金					

4/ 9 月	Clinical Clerkship 第9クール 2W				
4/10 火					
4/11 水					
4/12 木					
4/13 金					

4/16 月	Clinical Clerkship 第9クール 3W				
4/17 火					
4/18 水					
4/19 木					
4/20 金					

4/23 月	Clinical Clerkship 第9クール 4W				
4/24 火					
4/25 水					
4/26 木					
4/27 金					

4/30 月	振替休日				
5/ 1 火	臨時休業				
5/ 2 水					
5/ 3 木	(祝) 憲法記念日				
5/ 4 金	(祝) みどりの日				

5/ 7 月	Clinical Clerkship 第10クール 1W				
5/ 8 火					
5/ 9 水					
5/10 木					
5/11 金					

5/14 月	Clinical Clerkship 第10クール 2W				
5/15 火					
5/16 水					
5/17 木					
5/18 金					

5/21 月	Clinical Clerkship 第10クール 3W				
5/22 火					
5/23 水					
5/24 木					
5/25 金					

5/28 月	Clinical Clerkship 第10クール 4W				
5/29 火					
5/30 水					
5/31 木					
6/ 1 金					

6/ 4 月	Clinical Clerkship 第11クール 1W				
6/ 5 火					
6/ 6 水					
6/ 7 木					
6/ 8 金					

6/11 月	Clinical Clerkship 第11クール 2W				
6/12 火					
6/13 水					
6/14 木					
6/15 金					

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/18 月	Clinical Clerkship 第11クール 3W				
6/19 火					
6/20 水					
6/21 木					
6/22 金					

6/25 月	Clinical Clerkship 第11クール 4W				
6/26 火					
6/27 水					
6/28 木					
6/29 金					

7/ 2 月	Clinical Clerkship 第12クール 1W				
7/ 3 火					
7/ 4 水					
7/ 5 木					
7/ 6 金					

7/ 9 月	Clinical Clerkship 第12クール 2W				
7/10 火					
7/11 水					
7/12 木					
7/13 金					

7/16 月	(祝) 海の日				
7/17 火					
7/18 水	Clinical Clerkship 第12クール 3W				
7/19 木					
7/20 金					

7/23 月	Clinical Clerkship 第12クール 4W				
7/24 火					
7/25 水					
7/26 木					
7/27 金					

夏季休業 7.30(月)～8.24(金)

8/27 月	Clinical Clerkship 第13クール 1W				
8/28 火					
8/29 水					
8/30 木					
8/31 金					

9/ 3 月	Clinical Clerkship 第13クール 2W				
9/ 4 火					
9/ 5 水					
9/ 6 木					
9/ 7 金					

9/10 月	Clinical Clerkship 第13クール 3W				
9/11 火					
9/12 水					
9/13 木					
9/14 金					

9/17 月	(祝) 敬老の日				
9/18 火					
9/19 水	Clinical Clerkship 第13クール 4W				
9/20 木					
9/21 金					

9/24 月	臨時休業				
9/25 火					
9/26 水					
9/27 木					
9/28 金					

Clinical Clerkshipの日程は変更する可能性あり

平成24年度授業時間割 第6学年後期

後期(26週) 24. 10. 1(月)～25. 3. 25(月)

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
10/ 1 月	臨時休業				
10/ 2 火					
10/ 3 水					
10/ 4 木					
10/ 5 金					

10/ 8 月	(祝) 体育の日				
10/ 9 火	卒業試験 1W				
10/10 水					
10/11 木					
10/12 金	創立記念日				

10/15 月	卒業試験 2W				
10/16 火					
10/17 水					
10/18 木					
10/19 金					

10/22 月	卒業試験 3W				
10/23 火					
10/24 水					
10/25 木					
10/26 金					

10/29 月	卒業試験 4W				
10/30 火					
10/31 水					
11/ 1 木					
11/ 2 金					

11/ 5 月	卒業試験 5W				
11/ 6 火					
11/ 7 水					
11/ 8 木					
11/ 9 金					

11/12 月	卒業試験 6W				
11/13 火					
11/14 水					
11/15 木					
11/16 金					

11/17 土 Advanced OSCE

11/19 月	卒業再試験 1W				
11/20 火					
11/21 水					
11/22 木					
11/23 金	(祝) 勤労感謝の日				

11/26 月	卒業再試験 2W				
11/27 火					
11/28 水					
11/29 木					
11/30 金					

12/ 3 月	卒業再試験 3W				
12/ 4 火					
12/ 5 水					
12/ 6 木					
12/ 7 金					

12/10 月	卒業再試験 4W				
12/11 火					
12/12 水					
12/13 木					
12/14 金					

冬季休業 12.17(月)～1. 4 (金)

12/17 月	冬季休業				
12/18 火					
12/19 水					
12/20 木					
12/21 金					

12/24 月	振替休日				
12/25 火	冬季休業				
12/26 水					
12/27 木					
12/28 金					

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/31 月	冬季休業				
1/ 1 火					
1/ 2 水					
1/ 3 木					
1/ 4 金					

1/ 7 月	臨時休業				
1/ 8 火					
1/ 9 水					
1/10 木					
1/11 金					

1/14 月	(祝) 成人の日				
1/15 火	臨時休業				
1/16 水					
1/17 木					
1/18 金					

1/21 月	臨時休業				
1/22 火					
1/23 水					
1/24 木					
1/25 金					

1/28 月	臨時休業				
1/29 火					
1/30 水					
1/31 木					
2/ 1 金					

2/ 4 月	臨時休業				
2/ 5 火					
2/ 6 水					
2/ 7 木					
2/ 8 金					

2/11 月	(祝) 建国記念の日				
2/12 火	臨時休業				
2/13 水					
2/14 木					
2/15 金					

2/18 月	臨時休業				
2/19 火					
2/20 水					
2/21 木					
2/22 金					

2/25 月	臨時休業				
2/26 火					
2/27 水					
2/28 木					
3/ 1 金					

3/ 4 月	臨時休業				
3/ 5 火					
3/ 6 水					
3/ 7 木					
3/ 8 金					

3/11 月	臨時休業				
3/12 火					
3/13 水					
3/14 木					
3/15 金					

3/18 月	臨時休業				
3/19 火	(祝) 春分の日				
3/20 水					
3/21 木	臨時休業				
3/22 金					

3/25 月	卒業式				
3/26 火					
3/27 水					
3/28 木					
3/29 金					

授 業 概 要

(第 1 学年)

(英訳) Medical Introductory Course (MIC)

枠	医学科第1学年後期毎週火曜日終日(合計 18 日分、補講日含)、3号館2階		
単位	6.5 単位(全体として評価し付与する)		
授業の目的	専門教育の礎をつくる(教育理念、課程への理解、個々の学習目標と学習方法の探索、および自律性の涵養)		
到達目標と学習 方略・評価方法	具体的到達目標	学習方略	評価方法
	A) 社会における医師の 役割／多彩なキャリア 社会における医師の役 割(現在および今後の 様々な形)、様々な社会 貢献の形を説明でき、将 来のキャリアビジョンを描 き始める	- 中核病院医療、へき地医療、研究、医療行政、国際医療 など、様々な社会貢献の形を、講演や shadowing を通して 知る - 講演 ✓ 地域中核病院勤務医 ✓ アカデミックドクター(基礎、臨床) ✓ 医療行政従事者 ✓ 国際医療従事者 ✓ 救急医療従事者 - シャドウイング ✓ 基礎系教員 ✓ 臨床系教員(内科系、外科系) - 医師としての社会責任と医学に対する学習姿勢、今後予 想される社会環境の変化・医学の発展と医師の役割につ いて、グループにて自己問題提起型学習を行い、発表/ 議論を行う	レポート
	B) 医学の歴史と展望 医学の発展の歴史を学 び、医学の様々な分野で フロンティアを切り開く創 造能力を養う	- 医学の発展の歴史を認識する - 医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養 う	レポート
	C) 国際医療 国際人としての意識、そ して広い視野を持つ	- 国際人としての視野を高める／認識しておくべきトピック につき、英語記事を基に小グループで英語議論を行い、 その後当該領域を専門とする教員による日本語講義を行 う。学習内容につき翌週復習・応用を行う(チーム基盤型 学習形式にて) - 卒前留学経験者による講演により、同留学の意義を知る	チーム基盤型学習
	D) 自ら問題を提起し、解 決に向けて、チームメン バーと協力し、効果的に 取り組むことができる	- A), C), E), F)において、小グループにて自己問題提起/議 論を行う - 問題基盤型学習(Problem-based learning: PBL)を、6 回 に渡り行う	グループ提出物他
	E) 6年間の医学学習を 効果的なものとするため の基盤を築き、内的学習 動機づけを行う	- 卒業時の到達目標を認識させ、6年間の学習に対する内 的動機づけを促す。 - 第5学年学生の臨床実習のシャドウイング - シミュレーション／救急蘇生実習 - 湯島キャンパス教育診療研究機関ツアー - 患者エスコート実習 6年間の医学学習に際しての自身のメンタルヘルスおよ びセルフケアについて学ぶ。	レポート
	F) Professionalism 医師というプロフェッショ ンに必要な態度を習得す るための基盤を形成する	英語事例提示後、小グループで英語議論を行い、問題提 起および考察を行う	グループ提出物他
単位／進級	- すべて通して一つの単位認定とする - 単位未取得者は第2学年への進級不可、未取得者はコース全体が再履修となるので注意すること		
学士編入生対応	補修+レポート提出		

- 科目を履修して得られる能力
別表参照

○ 教科書、参考書

- 川越正平、川畑雅照、松岡角英、和田忠志 著「君はどんな医師になりたいのか」（医学書院
2002年）
- 渡辺昇一 著「知的生活の方法」（講談社現代新書 1976年）
- 酒井邦嘉 著「科学者という仕事」（中公新書 2006年）
- 日野原重明 著「生きかた上手」（ユーリーグ 2001年）
- エリザベス・キューブラー・ロス 著「死ぬ瞬間」ー死とその課程について（中公文庫 2001年）
- 松谷明彦、藤正 巖 著「人口減少社会の設計 幸福な未来への経済学」（中公新書 2002年）

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

田中雄二郎 ytanaka.merd@tmd.ac.jp

授 業 概 要

(第 2 学年)

(英訳) Introduction to Human Anatomy

○ 科目を履修して得られる能力

医学全般を学ぶにあたって、人体の構造を知ることが重要であることは言うまでもない。「人体解剖学および同実習」では、器官やそれらをつなぐ脈管・神経のネットワークなどの空間的な配置を学ぶことになる。しかし、教科書などを網羅的に眺めて用語の記憶に努めたとしても、具体的な形を正確に観察し把握できなくては使える生きた知識とはならない。そのために、まず系統発生的、個体発生的にどのような過程を経て形がつくられてきたかを理解し、人体の複雑な構造が、偶然ではなく必然的に配置されているということを理解することが、形をより正確に把握するために必要となる。

この理解によって『形に名前がつけられている』のであって、『名前にあわせて形ができていない』のではないという基本的な事実をあらためて確認することができるはずである。

「人体構造総論」では、まず、解剖学ならびに多くの他の科目を学ぶにあたって必要となる人体のマクロ的な構造の概要を学ぶことにする。次いで、人体発生学総論で生殖子の発生から出生までを総論的に学ぶ。このなかで、先天異常や妊娠を維持する機構などにも触れる。最後に人体発生学各論を学ぶとともに、完成した解剖学的構造との対比を学ぶことにする。これらの講義によって、人体解剖学の講義・実習の中で取り扱われる個々の器官・構造がどのように形成されたか、どのようにして周囲構造との関係が作られてきたのかを理解することを目的としている。人体発生学は人体を構成する組織、臓器、器官の構造ならびに臨床的な発生異常やそれに伴う病態を理解するために、非常に重要である。

人体の構造の成り立ちや概観を学ぶわけであるから、まず簡単な解剖学の本を通読することを薦める。それらの知識は、新たに深い知識が加わるごとに更新されていく必要があることはいうまでもない。解剖学は非常に基本的な学問であるから、最初にきっかけとなる知識がなければ他の学習も進まない。そして、人体構造総論と並行して人体解剖学にて学習レベルが上った解剖学的な知識を学ぶことになる。

○ 学習方法

講義

また、講義のストリーミングを Blackboard にて視聴できるので利用されたい

○ 教科書

特に指定しないので、参考書にあげられたもののなかから自分に合ったものを購入すること。

○ 参考書

ラングマン 人体発生学 メディカル・サイエンス・インターナショナル
ラーセン 最新人体発生学 西村書店
ムーア 人体発生学 医歯薬出版株式会社
遠山・大槻・中島編著 人体発生学 南山堂

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

筆記試験によって学習成果を問う。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

秋田恵一 akita.fana@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		人体構造総論			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/10	火	9:00～10:20	人体発生学総論:脊椎動物の基本体制	秋田 恵一	講義室 3号館2階
4/10	火	10:30～11:50	人体発生学総論:発生学の考え方	〃	〃
4/11	水	9:00～10:20	人体発生学総論:細胞分裂・生殖細胞発生・卵巣周期と排卵	〃	〃
4/11	水	10:30～11:50	人体発生学総論:受精・着床・原腸形成・脊索	〃	〃
4/12	木	9:00～10:20	人体発生学総論:三胚葉の運命・外胚葉由来の構造	〃	〃
4/12	木	10:30～11:50	人体発生学総論:中胚葉由来の構造・内胚葉由来の構造	〃	〃
4/13	金	9:00～10:20	人体発生学各論:骨格・関節系	〃	〃
4/13	金	10:30～11:50	人体発生学各論:筋系	〃	〃
4/16	月	9:00～10:20	人体発生学総論:栄養膜の発達・胎盤	〃	〃
4/16	月	10:30～11:50	人体発生学総論:羊膜と臍帯・胎児期・子宮外妊娠・双胎	〃	〃
4/18	水	9:00～10:20	人体発生学各論:体腔・膜系, 呼吸器系	〃	〃
4/18	水	10:30～11:50	人体発生学各論:消化器系①	〃	〃
4/20	金	9:00～10:20	人体発生学各論:消化器系②	〃	〃
4/20	金	10:30～11:50	人体発生学各論:循環器系①	〃	〃
4/23	月	9:00～10:20	人体構造総論試験 (1)	〃	〃
4/23	月	10:30～11:50	人体発生学各論:循環器系②	〃	〃
4/23	月	15:50～17:10	人体発生学各論:循環器系③	〃	〃
4/24	火	9:00～10:20	人体発生学各論:泌尿生殖器系①	〃	〃
4/25	水	9:00～10:20	人体発生学各論:泌尿生殖器系②	〃	〃
4/27	金	9:00～10:20	人体発生学各論:神経系	〃	〃
4/27	金	10:30～11:50	人体発生学各論:頭頸部①(頭蓋骨・咽頭弓)	〃	〃
5/9	水	9:00～10:20	人体発生学各論:頭頸部②(顔面・頸部の形成)	〃	〃
5/9	水	10:30～11:50	人体発生学各論:頭頸部③(感覚器)	〃	〃
5/15	火	9:00～10:20	人体発生学総論:先天異常	〃	〃
9/5	水	9:00～10:20	人体構造総論試験(2)		〃

(英訳) Cell Biology

○ 科目を履修して得られる能力

基礎医学、臨床医学を学ぶ上で必須となる、生命の最小単位としての細胞を理解する。

生体内では個々の細胞が独立した機能を持ちながら、他の細胞や細胞外環境と連携していることを理解する。

生命科学・医学研究における最新の成果や研究手法などに触れながら、基礎研究の意義について理解する。

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。

自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

○ 学習方法

細胞内のしくみ（細胞内小器官、細胞骨格などの構造と機能、それらの連携や小胞輸送のしくみ）、細胞の機能（個々の独立した細胞としての振る舞い、細胞周期（細胞増殖）、細胞死、ストレス応答、形質発現）、細胞外の環境（細胞外基質、細胞接着）を中心とした講義を行う。

○ 教科書

Molecular Biology of the Cell 第5版（B. Alberts ら著、Garland Science 2008 年）

（同翻訳）細胞の分子生物学 第5版（中村桂子ら翻訳、ニュートンプレス 2010 年）

Molecular Cell Biology 第6版（H. Lodish ら著、W H Freeman & Co、2007 年）

細胞生物学 第1版（永田和宏ら編、東京化学同人、2006 年）

Essential 細胞生物学 原著第3版（B. Alberts ら著、中村桂子ら訳、南江堂、2011 年）

医学のための細胞生物学 第1版（永田、塩田編、南山堂、2009 年）

○ 参考書

各講義で適宜紹介する。

○ 成績評価の評価法

筆記試験によって評価する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

水島昇 (nmizu.phy2@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		細胞生物学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/10	火	12:50～14:10	分泌経路(1)	水島 昇	講義室 3号館2階
4/12	木	14:20～15:40	分泌経路(2)	水島 昇	〃
4/17	火	9:00～10:20	エンドサイトーシス	水島 昇	〃
5/11	金	14:20～15:40	細胞骨格	井上明宏	〃
5/14	月	9:00～10:20	ミトコンドリア・ペルオキシソーム	田中敦	〃
5/16	水	9:00～10:20	核一細胞質間輸送	田中敦	〃
5/21	月	9:00～10:20	細胞周期と細胞老化	田中敦	〃
5/28	月	10:30～11:50	細胞死	清水重臣	〃
6/6	水	14:20～15:40	ストレス応答	(一條秀憲) 東大薬	〃
6/8	金	14:20～15:40	幹細胞と細胞分化	西村栄美	〃
6/11	月	12:50～14:10	細胞接着	畑 裕	〃
6/11	月	14:20～15:40	蛍光タンパク質と蛍光顕微鏡技術	水島 昇 (本田郁子)	〃
9/6	木	9:00～10:20	細胞生物学試験		〃

(英訳) Introductory Neurophysiology

○ 科目を履修して得られる能力

別表のとおり

○ 学習方法

この科目は、モジュール形式のカリキュラム導入に合わせて、2年生最初のモジュールの授業科目として新たに編成された。従って、独立した授業科目ではあるが、科目の内容は、「神経科学」及び「生理学実習」と密接に関連している。具体的には膜輸送、細胞膜電位、イオンチャンネルと受容体、興奮伝導、シナプス伝達など、神経生理学の基礎となる範囲を扱うので、上記のように名付けた。この科目で扱う範囲だけに合致した内容を記述するような書籍はないが、生理学・神経科学の教科書が参考書となる(下記)。授業では扱う内容の全体像を示すことを心がけるが、時間からしても制約がある。授業をきっかけとして、それ以上は学生が自ら学ぶことを身につけて欲しい。

○ 教科書

授業において関連資料を配付する

○ 参考書

小澤 滯司 他編、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

J. G. Nicholls et al., From Neuron to Brain, 5th ed. Sinauer, 2012.

ダニエルトリッチ ニューロンの生理学 御子柴監訳 京大出版会 2009

ボロン・ブルーパー 生理学 泉井監訳 西村書店 2011

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

試験(記述式)と出席状況(毎回出欠を確認する)。

○ 担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)

杉原 泉 isugihara.phy1@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		神経生理導入			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/10	火	14:20～15:40	序論	杉原 泉	講義室 3号館2階
4/13	金	14:20～15:40	細胞膜電位の基礎 I	〃	〃
4/16	月	14:20～15:40	細胞膜電位の基礎 II	〃	〃
4/17	火	10:30～11:50	能動輸送	〃	〃
4/17	火	14:20～15:40	イオンチャンネルと受容体 I	古川哲史	〃
4/20	金	14:20～15:40	イオンチャンネルと受容体 II	〃	〃
4/27	金	14:20～15:40	神経細胞 構造と機能	中田隆夫	〃
5/1	火	9:00～10:20	神経の興奮と伝導 I	伊澤 佳子	〃
5/7	月	9:00～10:20	神経の興奮と伝導 II	〃	〃
5/7	月	10:30～11:50	シナプス I (シナプスの生理学 - 1)	杉原 泉	〃
5/8	火	10:30～11:50	シナプス II (シナプスの生理学 - 2)	〃	〃
5/11	金	9:00～10:20	シナプス III (シナプスの生理学 - 3)	〃	〃
6/6	水	9:00～10:20	神経の興奮と伝導 III	伊澤 佳子	〃
6/8	金	9:00～10:20	反射と神経回路	杉内友理子	〃
6/12	火	9:00～10:20	生体の神経生理学	高橋真有	〃
9/4	火	9:00～10:20	神経生理導入試験		

(英訳) Physiology

○ 科目を履修して得られる能力

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

○ 学習方法

講義と実習からなる。講義の一部はディスカッション形式とする。講義では、筋、消化器、代謝、心臓・循環器、呼吸器、内分泌、動物モデルを中心に扱う。神経生理学、血液生理学、尿生成と体液の構成についてはそれぞれ神経科学、血液学、腎体液制御学で扱う。一部に順番が前後したり、重複したりする項目がある。したがって、教育カリキュラムに従うのみではなく、繰り返し自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。

○ 教科書

標準生理学 第7版 (医学書院、2009年)

Ganong's Review of Medical Physiology 第23版 (McGraw-Hill Medical、2009年)

(同翻訳) ギャノン生理学 第23版 (丸善、2011年)

Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第12版 (Saunders、2010年)

(同翻訳) ガイトン生理学 (原著11版、エルゼビアジャパン、2010年)

○ 参考書

各講義で適宜紹介する。

○ 成績評価の評価法

講義については筆記試験によって評価する。実習は、出席、実習態度、レポートによって評価する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

水島昇 （nmizu.phy2@tmd.ac.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		生理学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	火	10:30～11:50	体温調節	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
5/1	火	10:30～11:50	代謝生理	水島 昇	〃
5/8	火	9:00～10:20	筋の収縮機構(1)	古川哲史	講義室 3号館 2F
5/8	火	14:20～15:40	筋の収縮機構(2)	古川哲史	〃
5/11	金	10:30～11:50	呼吸(1)	三宅修司	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
5/14	月	10:30～11:50	呼吸(2)	三宅修司	〃
5/14	月	14:20～15:40	消化と吸収(1)	水島 昇	講義室 3号館 2F
5/15	火	10:30～11:50	消化と吸収(2)	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
5/16	水	10:30～11:50	消化管運動	古川哲史	〃
5/18	金	10:30～11:50	予備		講義室 3号館 2F
5/21	月	10:30～11:50	心臓(1)心臓の電氣的活動	古川哲史	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
5/22	火	10:30～11:50	心臓(2)心筋の興奮と収縮	古川哲史	〃
5/23	水	10:30～11:50	心臓(3)心電図	古川哲史	〃
5/25	金	10:30～11:50	心臓(4)ポンプとしての心臓1	磯部光章	〃
5/29	火	10:30～11:50	心臓(5)ポンプとしての心臓2	磯部光章	講堂 5号館 4 階
5/30	水	10:30～11:50	循環(1)ヘモレオロジー・血行力学	吉田雅幸	〃
6/1	金	10:30～11:50	循環(2)循環の神経性調節	吉田雅幸	〃
6/4	月	10:30～11:50	内分泌(1)視床下部・下垂体	水島 昇	〃
6/5	火	10:30～11:50	内分泌(2)甲状腺・副甲状腺	水島 昇	〃
6/6	水	10:30～11:50	内分泌(3)膵臓	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
6/8	金	10:30～11:50	内分泌(4)副腎	水島 昇	講堂 5号館 4 階
6/11	月	10:30～11:50	遺伝子組み換えマウス	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
6/13	水	9:00～10:20	内分泌(5)総論	水島 昇	講義室 3号館 2F
6/15	金	9:00～10:20	代謝生理学特論	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2 階
9/10	月	9:00～10:20	生理学試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		生理学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講義室
6/18	月	12:50～17:10	実習講義	システム神経生理学 細胞生理学	実習室 3号館6階
6/19	火	12:50～17:10	実習（1）	〃	〃
6/20	水	12:50～17:10	実習（2）	〃	〃
6/21	木	12:50～17:10	実習（3）	〃	〃
6/22	金	12:50～17:10	実習（4）	〃	〃
6/25	月	12:50～17:10	実習（5）	〃	〃
6/26	火	12:50～17:10	実習（6）	〃	〃
6/27	水	12:50～17:10	実習（7）	〃	〃
6/28	木	12:50～17:10	実習のまとめ・小テスト	〃	〃

(英訳) Histology

○ 科目を履修して得られる能力

組織学では、人体の顕微鏡レベルの構造を学ぶ。医学のプロフェッショナルとして、さらには国際人の基盤として人体の組織の名称を英語も含め正しく習得する。講義では、折に触れて、組織学に関わる科学の発展の歴史や最新の細胞生物学的知見についても紹介する。

組織学実習では、全身の組織の標本を観察しスケッチする。先輩から後輩へと連綿と受け継がれてきた組織標本を大切に扱うことで他者への感謝とつながりを学ぶ。実習をやりぬくことで、忍耐とともに、人体の主な構造については全て見たという達成感と自信を得る。実習では、教員が質問に答えるが、学生がお互いに教えあい議論することも歓迎される。実習の最後には実習試験があり、組織学全体を振り返る機会となっている。

講義、実習、試験を通じての目標は、科学者として、形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ（見たとおりに述べるだけだが、案外難しい）こと、そして、医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員（あるいは医療チームのだれか）に尋ねられたとき、それについて2－3分、満足のいくコミュニケーションができることが目標である。

○ 学習方法

講義とそれに続く実習からなる。講義では、実習する組織について概説し、実習のポイントを解説する。実習では、顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチする。

○ 教科書

組織学の教科書とできれば図譜を揃えるとよい。藤田藤田 標準組織学 総論各論（第4版）医学書院 2010；ROSS 組織学 南江堂 2010

○ 参考書

Molecular Biology of the Cell（細胞生物学的事項について）

○ 参照 URL

www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

○ 成績評価の評価法

講義については筆記試験で評価する。

実習は実習試験とスケッチの提出により評価する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

中田隆夫 nakata.cbio@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		組織学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/18	水	14:20～15:40	組織学総論	中田隆夫	講義室 3号館2階
4/19	木	12:50～14:10	上皮組織	〃	〃
4/23	月	14:20～15:40	結合組織	〃	〃
4/25	水	10:30～11:50	軟骨・骨	井上明宏	〃
4/26	木	12:50～14:10	血液	〃	〃
5/1	火	14:20～15:40	筋組織	〃	〃
5/1	火	15:50～17:10	神経組織	中田隆夫	〃
5/8	火	15:50～17:10	リンパ器官	井上明宏	〃
5/10	木	12:50～14:10	呼吸器	中田隆夫	〃
5/14	月	12:50～14:10	消化器Ⅰ	井上明宏	〃
5/17	木	12:50～14:10	消化器Ⅱ	〃	〃
5/21	月	12:50～14:10	肝胆膵	〃	〃
5/24	木	12:50～14:10	血管	〃	〃
5/28	月	12:50～14:10	泌尿器	〃	〃
5/31	木	12:50～14:10	内分泌器官	中田隆夫	〃
6/4	月	12:50～14:10	皮膚・口腔	井上明宏	〃
6/7	木	12:50～14:10	男性生殖器	〃	〃
6/12	火	12:50～14:10	女性生殖器	〃	〃
6/13	水	12:50～14:10	眼	井上明宏	〃
6/15	金	12:50～14:10	耳	中田隆夫	〃
9/7	金	9:00～10:20	組織学試験		〃

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		組織学実習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/18	水	15:50～17:10	顕微鏡の使い方	井上明宏	実習室 3号館4階
4/19	木	14:20～17:10	上皮組織	中田隆夫	〃
4/24	火	14:20～17:10	結合組織	〃	〃
4/25	水	14:20～17:10	軟骨・骨	井上明宏	〃
4/26	木	14:20～17:10	血液	〃	〃
5/2	水	14:20～17:10	筋組織	〃	〃
5/7	月	14:20～17:10	神経組織	中田隆夫	〃
5/9	水	14:20～17:10	リンパ器官	井上明宏	〃
5/10	木	14:20～17:10	呼吸器	中田隆夫	〃
5/15	火	14:20～17:10	消化器Ⅰ	井上明宏	〃
5/17	木	14:20～17:10	消化器Ⅱ	〃	〃
5/22	火	14:20～17:10	肝胆膵	〃	〃
5/25	金	14:20～17:10	血管	〃	〃
5/29	火	14:20～17:10	泌尿器	〃	〃
5/31	木	14:20～17:10	内分泌器官	中田隆夫	〃
6/5	火	14:20～17:10	皮膚・口腔	井上明宏	〃
6/7	木	14:20～17:10	男性生殖器	〃	〃
6/12	火	14:20～17:10	女性生殖器	〃	〃
6/13	水	14:20～17:10	眼	〃	〃
6/15	金	14:20～17:10	耳	中田隆夫	〃
6/27	水	9:00～11:50	実習補講		
6/29	金	9:00～11:50	実習試験		

(英訳) Anatomy・Dissection Practice of Human Body

○ 科目を履修して得られる能力

人体解剖学は、医学を学ぶうえで最も基本的な知識の一つといえる。そして、正常人体の各構造の正確な名称を理解し、位置を知り、それを表現できることが必要である。しかし、人体は、複雑であり、その構造の緻密さをすべて網羅するためには、学習項目は膨大なものとなることは否めない。

解剖学は記憶に迫られるというイメージがあるが、その一方で名称を覚えてだけでは、使える有機的な知識とはならず、徒労感のみが積みまとうことになる。多くの場合、断片的な情報量は増えているのに、それらが統合され、3次元的な配置を把握するという段階までいかないために、知識となっていないことが多い。そのため、講義や教科書・アトラスを用いた座学のみならず、人体解剖学実習を通じて、自ら剖出し、観察していくことによって、空間的な認識を行なうことが必要となる。

『人体解剖学』というと、多くの場合、『系統解剖学』と同義と理解されることが多い。しかし、系統解剖とは器官系ごとに横断的に学ぶというものである。それに対し、本講義・実習においては、個々の部位の関わる様々な器官系をその配置や個体発生的な意味を中心に学んでいくという意味で、『局所解剖学』と分類される。

講義は、個々の実習内容の事項の解説というよりも、観察や学習のポイント、系統発生ならびに個体発生との関係、臨床的な関連事項などを概説するものとなる。それによって、器官の配置を理解するのみではなく、神経・血管といった体内の配線図を把握し、諸構造物の相互位置関係を神経・血管とのつながりを通じて理解することができる。個体発生の理解によって、形態がそこにあることが偶然ではなく、必然であるということを理解することを目的としている。

予習によって基本的な用語を把握し、講義によって概略を知り、自ら剖出し、さらにそれをどのように考えるかをグループで討議しながら理解を進めるという繰り返しは、学習の反復性、定着性などから必要なことである。しかし、カリキュラムの編成上、十分な時間をとることができないため、いかに効率よく学習するか、さらには予・復習を含めた自習が求められることになる。

当教室で編集した観察手順や項目などをまとめた、実習用マニュアルにしたがって予習をおこなってから実習に臨んでほしい。実習用マニュアルには、各回に、その日の学習項目の確認用課題が添付されている。課題については、グループ討論をおこない、まとめたうえで提出をすることとする。これらにより、確実な理解を目指す。

○ 学習方法

講義・実習

○ 教科書

特に指定しないので、参考書にあげられたもののなかから自分に合った解剖学書とアトラスを購入すること。

○ 参考書

系統解剖学書

Williams et al. ed. Gray's Anatomy (38th ed.) Churchill Livingstone
Gray's Anatomy : The Anatomical Basis Of Clinical Practice (Gray's Anatomy:
the Anatomical Basis of Clinical Practice) (39th ed.) Churchill Livingstone
Clemente ed. Gray's Anatomy (30th ed.) Lea & Febiger

分担 解剖学 (第 11 版) 金原出版

- 1 総説・骨学・靱帯学・筋学
- 2 脈管学・神経系
- 3 感覚器学・内臓学

金子丑之助 日本人体解剖学 (第 19 版) 南山堂

- ① 骨格系、筋系、神経系
- ② 循環器系、内臓学、感覚器

局所・臨床解剖学書

Gray's Anatomy for Students (Paperback) by Richard Drake, Wayne Vogl,
Adam Mitchell Paperback, 1150pages Churchill Livingstone

(訳本) グレイ解剖学 原著第 1 版 出版社 エルゼビア・ジャパン

人体解剖学ハンドブック カラー版 1・2 西村書店

ムーア 臨床解剖学 メディカル・サイエンス・インターナショナル 坂井達雄訳

Snell 臨床解剖学 メディカル・サイエンス・インターナショナル 山内昭雄訳

アトラス

プロメテウス解剖学アトラス 医学書院

(解剖学総論・運動器系、頸部/胸部/腹部・骨盤部頭部/神経解剖)

プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院

グレイ解剖学アトラス エルゼビアジャパン

○ 成績評価の評価法

筆記試験および Blackboard 上の試験によって学習成果を問う。また、実習ごとの課題のレポートおよび、実習中に提出する課題などについても評価の対象になる。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

秋田恵一 akita.fana@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		人体解剖学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/11	水	12:50～14:10	解剖学総論（1）	秋田恵一	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2F
4/11	水	14:20～15:40	解剖学総論（2）	〃	〃
4/12	木	12:50～14:10	体幹の骨	〃	〃
4/13	金	12:50～14:10	上肢の骨	〃	〃
4/16	月	12:50～14:10	下肢の骨	〃	〃
4/17	火	12:50～14:10	頭の骨	〃	〃
4/18	水	12:50～14:10	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	〃	〃
4/20	金	12:50～14:10	頸部(皮下)・下腹部(皮下)	〃	〃
4/23	月	12:50～14:10	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	〃	〃
4/24	火	12:50～14:10	体表観察(腹臥位)：後頭部・後頸部・背部(皮下)：腰部・殿部(皮下)・大腿屈側(皮下)	〃	〃
4/25	水	12:50～14:10	後頭の筋・浅背筋・上肢帯近位部・殿部(浅層)	〃	〃
4/27	金	12:50～14:10	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	〃	〃
5/1	火	12:50～14:10	頸部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	〃	〃
5/2	水	12:50～14:10	腋窩・腕神経叢・上肢の切離：大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)・下肢の切離	〃	〃
5/7	月	12:50～14:10	胸郭・上縦隔・甲状腺	〃	〃
5/8	火	12:50～14:10	心臓の神経・後縦隔	〃	〃
5/9	水	12:50～14:10	心臓・肺	〃	〃
5/11	金	12:50～14:10	腹膜・腸間膜の脈管・神経(1)	〃	〃
5/15	火	12:50～14:10	腹膜・腸間膜の脈管・神経(2)	〃	〃
5/16	水	12:50～14:10	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	〃	〃
5/18	金	12:50～14:10	消化管・肝臓	〃	講堂 5号館4階
5/22	火	12:50～14:10	腹膜後器官	〃	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー 2F
5/23	水	12:50～14:10	横隔膜・後体壁・[脳神経総論]	〃	〃
5/25	金	12:50～14:10	脊柱管・脊髓・内頭蓋底・頭部離断・咽頭後壁・椎前筋・椎側筋・腰部離断	〃	〃
5/29	火	12:50～14:10	顔面(皮下・浅層)・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	〃	講堂 5号館4階
5/30	水	12:50～14:10	咀嚼筋(浅層)・顔面(中層)・側頭下窩・会陰部(皮下)・寛骨の除去	〃	〃
6/1	金	12:50～14:10	顔面(深層)・舌・会陰部(浅層)	〃	〃
6/5	火	12:50～14:10	咽頭(外側)・仙骨神経叢	〃	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/6	水	12:50～14:10	咽頭・喉頭・骨盤出口筋	秋田恵一	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
6/8	金	12:50～14:10	肩甲帯・上肢（皮下）・内腸骨動脈・骨盤神経叢	〃	講堂 5号館4階
6/12	火	10:30～11:50	上腕屈側・上腕伸側 : 骨盤内臓	〃	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
6/13	水	10:30～11:50	眼窩・眼球 : 下腿屈側（皮下）	〃	〃
6/15	金	10:30～11:50	外耳・中耳・内耳 : 下腿伸側（皮下）・足背（皮下）	〃	〃
6/19	火	10:30～11:50	鼻腔・副鼻腔・口蓋 : 下腿伸側（浅層）・足背（浅層）	〃	〃
6/20	水	10:30～11:50	前腕屈側（浅層）・手掌（皮下・浅層） : 下腿屈側（浅層）	〃	〃
6/22	金	10:30～11:50	前腕屈側（深層）・手背 : 足底（浅層）	〃	〃
6/25	月	10:30～11:50	手掌（深層）・前腕伸側（浅層・深層） : 下腿屈側（深層）・足底（深層）	〃	〃
6/26	火	10:30～11:50	関節（上肢） : 関節（下肢）	〃	〃
9/3	月	9:00～10:20	人体解剖学試験		

2 学 年 前		人体解剖学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/23	水	14:20～15:40	骨学実習（1）	秋田恵一 山口久美子 二村昭元 原田理代 (坂本裕次郎)	講義室 3号館2階
5/24	木	14:20～15:40	骨学実習（2）		〃
5/28	月	14:20～15:40	骨学実習（3）		〃
5/30	水	14:20～15:40	骨学実習（4）	〃	〃
6/1	金	14:20～15:40	骨学実習（5）	〃	〃
6/14	木	12:50～15:40	骨学実習（6）	〃	〃
6/29	金	12:50～17:10	人体解剖学実習（1）	〃	解剖実習室
7/2	月	12:50～17:10	人体解剖学実習（2）	〃	〃
7/3	火	10:30～17:10	人体解剖学実習（3）	〃	〃
7/4	水	12:50～17:10	人体解剖学実習（4）	〃	〃
7/5	木	12:50～17:10	人体解剖学実習（5）	〃	〃
7/6	金	12:50～17:10	人体解剖学実習（6）	〃	〃
7/9	月	12:50～17:10	人体解剖学実習（7）	〃	〃
7/10	火	9:00～17:10	人体解剖学実習（8）	〃	〃
7/11	水	9:00～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（1）	〃	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/12	木	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（2）	秋田恵一 山口久美子 二村昭元 原田理代 (坂本裕次郎)	解剖実習室
7/13	金	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（3）		〃
7/17	火	9:00～11:50	人体解剖学実習（9）		〃
7/17	火	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（4）	〃	〃
7/18	水	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（5）	〃	〃
7/19	木	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（6）	〃	〃
7/20	金	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（7）	〃	〃
7/23	月	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（8）	〃	〃
7/24	火	9:00～11:50	人体解剖学実習（10）	〃	〃
7/24	火	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（9）	〃	〃
7/25	水	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（10）	〃	〃
7/26	木	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（11）	〃	〃
7/27	金	12:50～17:10	頭頸部基礎・解剖学実習（12）	〃	〃

(英訳) Pharmacology

○科目を履修して得られる能力

【別表】のとおり

○学習方法

基本的、代表的な薬物を取り上げて、その薬理作用、作用機序、代謝、臨床応用などについて系統的に解説し、その後の臨床講義や臨床の現場で多数の薬物に遭遇しても応用できるような薬理学的基礎を与えることを目的としています。また生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行います。また実習を通じた教育を重視しており、動物実験代替法としてコンピュータシミュレーションプログラムを用い、様々な組織標本、動物個体に対する多くの薬物の薬理効果を自分の目で直接確認してもらいます。また、薬物動態に関しても、実際に人を対象として実習を行ったならば膨大な時間や労力を要し、実質的には実施不可能な項目についても、シミュレーション実習により、短時間で行うことが可能になりました。

(1) 講義

題目及び内容	担当	題目及び内容	担当
総論 序論、薬力学	田邊	内分泌薬理	野田、三枝
薬物動態	安原	抗菌薬	安原
血管系薬理	三枝	免疫薬理	田邊
循環薬理	田邊	臨床薬理	安原
呼吸器薬理	田邊	イオンチャンネルとレセプター(*)	田邊
消化器薬理	田邊	神経筋接合部(*)	田邊
利尿薬	三枝	シナプスの分子生物学(*)	田邊
泌尿器・生殖器薬理	三枝	Ca と細胞内情報伝達(*)	田邊
鎮痛薬	田邊	自律神経薬理(*)	三枝
抗炎症薬	田邊	中枢神経薬理(*)	三枝
抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊	神経精神薬理(*)	三枝

(*)は神経科学系統講義

(2) 実習

題目	題目
実習講義	4. カエル腹直筋標本
シミュレーション実習	5. モルモット回腸標本
1. ラット横隔神経-横隔膜標本	6. 輸精管標本
2. 前頸骨筋-座骨神経標本	7. 動脈および静脈リング
3. 心拍数血圧標本	8. 薬物動態シミュレーション

受講前に必ず教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。
授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

○ 教科書

- ・ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 2006
- ・The Pharmacological Basis of Therapeutics 12 版 2011
- ・グッドマンギルマン薬理書（上・下巻）11 版 2007
- ・医系薬理学 2005
- ・図解薬理学 2008
- ・イラスト薬理学 2006
- ・イオンチャネルの分子生物学 1998
- ・カラー図解 これならわかる薬理学 2006
- ・ローレンス臨床薬理学 2006
- ・NEW 薬理学 2007
- ・標準薬理学 2001
- ・Color Atlas of Pharmacology 2005

○ 参考書

- ・Principles of Neural Science 5th 2013
- ・Molecular Biology of the Cell 5th 2008

○ 成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。神経系の薬理に関しては神経科学として別に試験を行う。また実習に関しては、出席し実験レポートを提出することが必須で、実習態度も重視する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

田邊 勉 t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前・後期		薬理学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/25	金	9:00～10:20	薬理学総論	田邊 勉	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
5/28	月	9:00～10:20	薬物動態学(1)	安原真人	〃
5/29	火	9:00～10:20	薬物動態学(2)	〃	講堂 5号館4階
6/1	金	9:00～10:20	循環器系(1):心不全治療薬、抗不整脈薬	田邊 勉	〃
6/4	月	9:00～10:20	循環器系(2):虚血性心疾患治療薬、高血圧治療薬	〃	〃
6/5	火	9:00～10:20	血管系薬理:抗血栓薬、高脂血症治療薬循環器系	三枝弘尚	〃
6/11	月	9:00～10:20	呼吸器・消化器作用薬	田邊 勉	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
6/18	月	10:30～11:50	利尿薬、泌尿器・生殖器作用薬	三枝弘尚	〃
6/19	火	9:00～10:20	鎮痛薬(麻薬性、非麻薬性)	田邊 勉	〃
6/22	金	9:00～10:20	内分泌系(1):糖尿病治療薬	三枝弘尚	〃
6/25	月	9:00～10:20	内分泌系(2):骨粗鬆症治療薬	野田政樹	〃
6/26	火	9:00～10:20	免疫抑制薬、糖質コルチコイド	田邊 勉	〃
9/11	火	9:00～10:20	非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊 勉	〃
9/12	水	9:00～10:20	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)(1)	安原真人	〃
9/13	木	9:00～10:20	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)(2)	〃	〃
9/14	金	9:00～10:20	臨床薬理	〃	〃
10/24	水	9:00～10:20	薬理学試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 ・ 後 期		薬理学実習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/18	火	12:50～17:10	実習説明会	田邊 勉 三枝弘尚 Zong Shuqin	講義室 3号館2階
9/19	水	12:50～17:10	実習（1-1）		実習室 3号館6階
9/20	木	12:50～17:10	実習（1-2）		
9/21	金	12:50～17:10	実習（1-3）、実習1まとめ		
9/24	月	12:50～17:10	実習（2-1）		
9/25	火	12:50～17:10	実習（2-2）		
9/26	水	12:50～17:10	実習（2-3）、実習2まとめ		
9/27	木	12:50～17:10	実習（3-1）		
9/28	金	12:50～17:10	実習（3-2）		
10/1	月	12:50～17:10	実習（3-3）、実習3まとめ		

(英訳) Medical biochemistry

○ 科目を履修して得られる能力

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
倫理的事項に配慮して研究できる。
未解決の問題を見出し、仮説を立て、指導者のもとで解決の資源と方法を見出せる。
臨床や科学の興味ある領域の研究を、指導者のもとで行える。
自由研究で明らかになった成果を発表できる。
他者を尊重し敬意をもって接することが出来る。
個人生活と医学科での学習、社会的責務のバランスをとれる。
自立と監督・指導の必要性のバランスをとれる。
時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示せる。
文書課題を判読可能な形で期限内に提出できる。
機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。
誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる。
他者への良識を逸脱する振る舞いを認識し、改めることができる。
エラーを指導者、監督に報告できる。
記述、プレゼンテーション、論文において著作権を尊重して行動できる。
自己の知識・能力・振る舞いを批判的に省察し、改善の目標を設定し、学習活動に取り組める。
他人に建設的なフィードバックができる。
ポートフォリオを活用できる。
疾患の病因・病態・臨床徴候の理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

○ 学習方法

系統講義：下記、参考書のいずれかを通読する。
実習：実習に参加する。

○ 教科書

教科書として特定の本を指定しません。

○ 参考書

シンプル生化学 南江堂; 改訂第 5 版

Lippincott's Illustrated Reviews: Biochemistry, International Edition (Lippincott's Illustrated Reviews Series) Lippincott Williams & Wilkins; 5th revised international student ed 版

Harper's Illustrated Biochemistry, 28th Edition (LANGE Basic Science) McGraw-Hill Medical; 28 版

生化学の優れた参考書は多々ありますが、上記は比較的、医学の立場から書かれています。
どの本でもよいのですが、どれか 1 冊、通読してください。

○ 参照 URL

特になし。

○ 成績評価の評価法

系統講義：筆記試験

実習：実習レポート、指導教官による全般的評価

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

畑 裕 yuhammch@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 ・ 後 期		生化学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
9/11	火	10:30～11:50	糖代謝 I	畑 裕	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
9/12	水	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
9/13	木	10:30～11:50	〃 III	〃	〃
9/14	金	10:30～11:50	脂質代謝 I	〃	〃
9/18	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
9/19	水	10:30～11:50	〃 III	〃	〃
9/21	金	10:30～11:50	脂質代謝と疾患	吉田 雅幸	〃
9/24	月	10:30～11:50	アミノ酸代謝 I	畑 裕	〃
9/25	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
9/26	水	10:30～11:50	〃 III	〃	〃
9/27	木	10:30～11:50	エネルギー代謝 I	〃	〃
9/28	金	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
10/1	月	10:30～11:50	プリン・ピリミジン I	〃	〃
10/2	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
10/3	水	10:30～11:50	ポルフィリン・ビリルビン・金属	〃	〃
10/5	金	10:30～11:50	ビタミン I	〃	〃
10/9	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
1/7	月	9:00～10:20	生化学試験		

※ 9月21日～26日のいずれか1日、動物慰霊祭のため5号館4階講堂に変更予定。詳細は追って教務課より連絡します。

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 ・ 後 期		生化学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/2	火	12:50～17:10	実 習	畑 裕 烏山 一	実習室 3号館5階
10/3	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/4	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/5	金	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/9	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/10	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/11	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/15	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/16	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/17	水	12:50～17:10	〃	〃	〃

(英訳) Molecular Genetics

○ 科目を履修して得られる能力

- ・世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
- ・科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
- ・医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
- ・臨床的あるいは科学的問題提起ができる
- ・他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
- ・個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
- ・自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
- ・時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
- ・文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
- ・本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
- ・常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
- ・他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
- ・情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
- ・記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
- ・自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
- ・自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
- ・他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
- ・ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
- ・疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

○ 学習方法

下記の教科書・参考書を用いて予習・復習をする。

○ 教科書

Molecular Biology of the Cell 5 版 (Garland Science) (2008)

Essential 細胞生物学 原書第 3 版 (南江堂) (2011)

ヒトの分子遺伝学 第 3 版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) (2007)

○ 参考書

同上

○ 参照 URL

<http://www.tmd.ac.jp/grad/syst/asahsyst/index.html>

(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野)

○ 成績評価の評価法

試験および講義への出席状況で評価を行う。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

浅原 弘嗣（システム発生・再生医学分野・教授）

メールアドレス：asahara.syst@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		分子遺伝学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/11	火	12:50～14:10	遺伝学・分子生物学オーバービュー 歴史的観点から	浅原弘嗣	講義室 3号館2階
9/12	水	12:50～14:10	染色体の構造	浅原弘嗣	〃
9/13	木	12:50～14:10	DNAの複製機構	伊藤義晃	〃
9/14	金	12:50～14:10	DNAの修復と組み換え	荒巻敏寛	〃
9/19	水	9:00～10:20	転写とシグナル(1) シグナルからみた遺伝子発現	篠原正浩	〃
9/21	金	9:00～10:20	転写とシグナル(2) クロマチンを介した制御機構	浅原弘嗣	〃
9/24	月	9:00～10:20	RNAの制御機構と疾患	浅原弘嗣	〃
9/25	火	9:00～10:20	ゲノムからみた発生医学・再生医学	浅原弘嗣	〃
9/26	水	9:00～10:20	エピジェネティクスと医学	石野史敏	〃
9/27	木	9:00～10:20	モデル動物と医学 マウス遺伝学を中心に	(高田修治) (独)国立成育医療研究センター	〃
9/28	金	9:00～10:20	臨床遺伝学と疾患	浅原弘嗣	〃
10/1	月	9:00～10:20	タンパクの翻訳後調節とプロオミクス技術の革新	乾雅史	〃
10/2	火	9:00～10:20	ゲノム医科学の基礎: 遺伝子多型と疾患の遺伝学	(池川志郎) (独)理化学研究所	〃
10/3	水	9:00～10:20	遺伝子診断・遺伝子治療	浅原弘嗣	〃
10/5	金	9:00～10:20	ポストゲノム研究における新しい医学戦略・次世代の医学研究手法(イメージング、シーケンサー)	浅原弘嗣	〃
10/23	火	9:00～10:20	分子遺伝学試験		

(英訳) Neuroanatomy

○ 科目を履修して得られる能力

【別表】のとおり

○ 学習方法

神経解剖学は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。実習前に、事前に配布したマニュアルの該当箇所（実習の手順を記載したもの）と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所（特にマニュアル中、太字で記載されているもの）について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習に先立って1時間から1時間30分程度の実習講義を行います。マニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション（周辺部との位置関係）の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に購入したものを持参し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4版無地ノートを持参して下さい。最終回の実習終了後に提出願います。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、特別講義を行います。

○ 教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。

（リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は今を逃すと期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。）

○ 参考書

1. 分冊 解剖学アトラス 3 神経系と感覚器、第6版、文光堂、2011
2. CORE TEXT 神経解剖学、第4版、廣川書店、1996
3. 脳解剖学、南江堂、1994
4. 神経解剖学、金芳堂、1998
5. 図説中枢神経系、第2版、医学書院、1991
6. ヒトの脳：神経解剖学・組織学アトラス、文光堂、2006
7. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995
8. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy With STUDENT CONSULT Online Access, 6th ed., John Nolte, Mosby, 2008
9. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2010

10. 脳の分子生物学、MEDSi、1996
11. Neuroscience: Exploring the Brain, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2012
12. Neuroscience, 4th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2008
13. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 5th ed., McGraw Hill, 2012
14. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1996
15. Neuroscience Textbook Set: Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 3rd ed., Academic Press, 2008
16. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994
17. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991
18. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

○ 参照 URL

最近は解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄のところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時により 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) The Washington University School of Medicine, Neuroscience Tutorial

<http://thalamus.wustl.edu/course/>

(2) 解剖学電子教科書

<http://web.sc.itc.keio.ac.jp/anatomy/academic/>

(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy

<http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml>

(4) Digital Anatomist Interactive Atlases

<http://www9.biostr.washington.edu/da.html>

(5) Homo sapiens dissecatus

<http://www.uni-mainz.de/FB/Medizin/Anatomie/workshop/vishuman/Eready.html>

(6) The Whole Brain Atlas

<http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html>

(7) The Human Brain

<http://www.thehumanbrain.info/>

(ドイツ語だが関連サイトの <http://teaching.thehumanbrain.info/> も参考になる。)

(8) Allen Brain Atlas

<http://www.brain-map.org/>

(9) Anatomy and Histology, Karolinska Institute

<http://www.mic.stacken.kth.se//Anatomy.html>

(10) Neuroanatomy & Neuropathology on the Internet

<http://www.neuropat.dote.hu/>

○ 成績評価の評価法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

寺田 純雄 terada.nana@tmd.ac.jp

（面会希望の際はメールにより事前に相談願います。）

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		神経解剖学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/19	金	12:50～14:10	イントロダクション、神経系の発生総論	寺田純雄	講義室 3号館2階
10/19	金	14:20～15:40	脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経の観察	〃	〃
10/26	金	12:50～14:10	脊髄の組織学(1)	〃	〃
10/26	金	14:20～15:40	脊髄の組織学(2)	〃	〃
11/2	金	12:50～14:10	脳幹・小脳の分離, 菱形窩〔第四脳室〕, 脳幹スライス標本の観察	〃	〃
11/9	金	12:50～14:10	延髄, 橋の組織学	〃	〃
11/9	金	14:20～15:40	中脳の組織学	〃	〃
11/12	月	12:50～14:10	特別講義1／脳幹網様体・自律神経系	(大竹一嘉)	〃
11/12	月	14:20～15:40	特別講義2／神経系の血流支配	(大竹一嘉)	〃
11/16	金	12:50～14:10	小脳の皮質区分と小脳核, 線維結合の観察	寺田純雄	〃
11/19	月	12:50～14:10	小脳の組織学(1)	〃	〃
11/19	月	14:20～15:40	小脳の組織学(2)	〃	〃
11/22	木	12:50～14:10	大脳の半切, 大脳皮質(区分), 第三脳室, 視床下部の観察	〃	〃
11/22	木	14:20～15:40	特別講義3／間脳の構造と機能(1)	(大竹一嘉)	〃
11/26	月	12:50～14:10	島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等の観察(1)	寺田純雄	〃
11/26	月	14:20～15:40	島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等の観察(2)	〃	〃
11/30	金	12:50～14:10	特別講義4／間脳の構造と機能(2)	(大竹一嘉)	〃
11/30	金	14:20～15:40	特別講義5／味覚と嗅覚	(大竹一嘉)	〃
11/30	金	15:50～17:10	特別講義6／脳幹の解剖学のまとめ, 前庭覚と聴覚	(八木沼洋行)	〃
12/3	月	12:50～14:10	大脳皮質の組織学, 代表的な神経伝導路のまとめ(1)	寺田純雄	〃
12/3	月	14:20～15:40	大脳皮質の組織学, 代表的な神経伝導路のまとめ(2)	〃	〃
12/7	金	12:50～14:10	特別講義7／神経系の発生各論	(武井陽介)	〃
12/7	金	14:20～15:40	側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃核, 視床, 基底核等の観察	寺田純雄	〃
12/10	月	12:50～14:10	辺縁系と海馬の組織学	〃	〃
12/10	月	14:20～15:40	視覚伝導路	〃	〃
12/12	水	9:00～10:20	特別講義8／生命現象をみる・はかる技術(1)	〃	〃
12/12	水	10:30～11:50	特別講義9／生命現象をみる・はかる技術(2)	〃	〃
12/14	金	12:50～14:10	大脳基底核	〃	〃
12/14	金	14:20～15:40	大脳のスライス標本の観察、まとめ	〃	〃
1/15	火	9:00～10:20	神経解剖学試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		神経解剖学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/19	金	15:50～17:10	マクロ実習 1 脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経	寺田純雄	3号館B 1F
10/26	金	15:50～17:10	ミクロ実習 1 脊髄	〃	3号館 4F
11/2	金	14:20～15:40	マクロ実習 2 脳幹・小脳の分離, 菱形窩(第四脳室), 脳幹スライス標本	〃	3号館B 1F
11/2	金	15:50～17:10	〃	〃	〃
11/9	金	15:50～17:10	ミクロ実習 2 脳幹(1)	〃	3号館 4F
11/12	月	15:50～17:10	ミクロ実習 3 脳幹(2)	〃	〃
11/16	金	14:20～15:40	マクロ実習 3 小脳	〃	3号館B 1F
11/16	金	15:50～17:10	〃	〃	〃
11/19	月	15:50～17:10	ミクロ実習 4 小脳	〃	3号館 4F
11/22	木	15:50～17:10	マクロ実習 4 大脳の半切, 大脳皮質(区分)	〃	3号館B 1F
11/26	月	15:50～17:10	マクロ実習 5 島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等	〃	〃
12/3	月	15:50～17:10	ミクロ実習 5 中心前回と後回	〃	3号館 4F
12/7	金	15:50～17:10	マクロ実習 6 側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃体, 視床, 基底核等	〃	3号館B 1F
12/10	月	15:50～17:10	ミクロ実習 6 海馬, 視覚領	〃	3号館 4F
12/14	金	15:50～17:10	マクロ実習 7 大脳のスライス標本	〃	3号館B 1F

(英訳) Immunology I (Basic)・II (Clinical)

○ 科目を履修して得られる能力

日常生活の中で、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。しかし実際には、私たちの体は外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においては癌細胞の出現と、絶えず自己の存続を脅かすような危険にさらされている。事実、生まれつき免疫システムに障害がある原発性免疫不全症患者や後天的に免疫不全状態となるエイズ患者では重篤な感染症を繰り返し、また白血病や肉腫などの悪性腫瘍が多発する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器移植や再生医療など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な状況が出現し、拒絶反応など免疫反応の制御がクローズアップされてきている。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの免疫病も大きな社会問題となっている。

本科目を履修することにより、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されて、私たちの身体を守ってくれているのかを理解することができる。さらにその理解にもとづき、臨床の現場で遭遇する感染症、悪性腫瘍、アレルギー疾患、自己免疫疾患、移植臓器の拒絶反応など免疫関連疾患がどのようにして引き起こされるのかを理解できるようになる。

○ 学習方法

一方向的授業ではなくインターラクティブな双方向授業をめざしているので、ただじっと聞いているだけではなく、疑問に感じたことを積極的に質問し、討議の輪をひろげる努力をすること。授業では免疫システムのおもしろさ・巧妙さをまず理解できるように的を絞って討議するため、網羅的な講義はしない。したがって、いずれかの教科書（英語のものが望ましい）を通読し、免疫システムの基本的理解を深めること。

「免疫Ⅰ」では、まず免疫システムの特徴を把握し、リンパ球をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引き起こすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。ひきつづいておこなわれる「免疫Ⅱ」では、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの医療の現場で問題となる免疫病を理解するという観点から授業がおこなわれるので、「免疫Ⅰ」で免疫システムの基本をしっかりと理解しておく必要がある。

○ 教科書

1. Immunobiology 8th Edition 2011 年発刊、Garland Science 社（日本語訳が南江堂から「免疫生物学」として出ているが原著第 7 版に基づくもの）：免疫教科書の定番
2. Cellular and Molecular Immunology 7th Edition (with Student Consult Online Access) 2011 年発刊、Saunders 社（日本語訳がエルゼビア・ジャパン社から「分子細胞免疫学」として出ているが原著第 5 版に基づくもの）：免疫教科書の定番

3. The Immune System 3rd Edition 2009 年発刊、Garland Science 社（日本語訳がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から「エッセンシャル免疫学」として出ている）
4. 医系免疫学 改訂 12 版 2011 年発刊、中外医学社

○ 参考書

1. もっとよくわかる！免疫学（実験医学別冊、著者：河本宏）羊土社
2. 新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異（ブルーバックス、著者：岸本忠三、中嶋彰）講談社

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

免疫Ⅰ、免疫Ⅱに関して、それぞれ筆記試験をおこない評価する。また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストをおこなうことがある。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

烏山 一 (karasuyama.mbch@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期	免疫Ⅰ				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/29	月	9:00～10:20	1. 序論「免疫系の機能と特徴」	烏山 一	講義室 3号館2階
10/29	月	10:30～11:50	2. 免疫系を構築する細胞・器官と役割	〃	〃
10/29	月	12:50～14:10	3. 抗体の働き・構造と補体の役割	〃	〃
10/29	月	14:20～15:40	4. 抗体遺伝子の特徴と再構成	〃	〃
10/30	火	12:50～14:10	5. B細胞の機能と分化	〃	〃
10/30	火	14:20～15:40	6. T細胞の種類と機能	神奈木 真理	〃
11/1	木	12:50～14:10	7. T細胞の抗原認識	〃	〃
11/1	木	14:20～15:40	8. T細胞の発生と自己寛容の成立	〃	〃
11/5	月	9:00～10:20	9. NK細胞の機能と自己非自己識別機構	(反町 典子)	〃
11/5	月	10:30～11:50	10. 共受容体による免疫調節、免疫寛容	東 みゆき	〃
11/6	火	12:50～14:10	11. サイトカインによる免疫制御	中村 正孝	〃
11/6	火	14:20～15:40	12. 自然免疫と獲得免疫の相互作用	鐺田 武志	〃
11/12	月	9:00～10:20	13. 粘膜免疫	檜木 俊聡	〃

2 学 年 後 期	免疫Ⅱ				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/12	月	10:30～11:50	1. 感染症と免疫	神奈木 真理	講義室 3号館2階
11/14	水	12:50～14:10	2. HLAと疾患	木村 彰方	〃
11/14	水	14:20～15:40	3. 臓器移植と免疫	磯部 光章	〃
11/20	火	9:00～10:20	4. 腫瘍と免疫	神奈木 真理	〃
11/20	火	10:30～11:50	5. 加齢と免疫異常	(廣川 勝昱)	〃
11/21	水	12:50～14:10	6. 先天性免疫不全症	峯岸 克行	〃
11/21	水	14:20～15:40	7. 後天性免疫不全症 (AIDSを中心に)	神奈木 真理	〃
11/28	水	9:00～10:20	8. 腸管の免疫と炎症	渡辺 守	〃
11/28	水	10:30～11:50	9. 自己免疫疾患	上阪 等	〃
11/29	木	12:50～14:10	10. アレルギー	横関 博雄	〃
11/29	木	14:20～15:40	11. 妊娠と免疫 (生殖免疫) : 不育症	(己斐 秀樹)	〃
12/7	金	9:00～10:20	12. 骨と免疫	高柳 広	〃

()カッコ教員:学外講師の方

2 学 年 後 期	免疫学試験			
1/8	火	9:00～10:20	免疫Ⅰ試験	
1/9	水	9:00～10:20	免疫Ⅱ試験	

(英訳) Basic Neuroscience

○科目を履修して得られる能力

【別表】のとおり

○学習方法

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうすると固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学 (Neuroscience) と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が 30 年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要な不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

神経生理学については「神経生理学導入」で扱う神経細胞の機能の理解を基礎として、感覚・運動・高次機能等のシステム別に神経系の機能を論じる。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのレセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

○ 教科書

神経科学

E.R.Kandel, J.H.Schwartz and T.M.Jessell, Principles of Neural Science
(5th ed.) McGraw Hill, 2013.

脳神経科学 伊藤正男 他、三輪書店 2003.

神経生理学

小澤瀬司 他、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

D. Purves, Neuroscience 5th ed., Sinauer, 2012

岡野他監訳 オックスフォード生理学原書 3 版、丸善 2009

神経薬理学

ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 MEDSi 2006

Siegel et al., Basic Neurochemistry, (8th ed.) Lippincott Williams of Wilkins 2012.

The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw Hill 12 版 2011

○ 成績評価の方法

講義担当者が所属する分野毎（システム神経生理学、細胞薬理学）に試験を行い、それぞれに合格しなければならない。詳細については、必要に応じて掲示する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

杉原 泉 （生理） isugihara.phy1@tmd.ac.jp

田邊 勉 （薬理） t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		神経科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/30	火	9:00～10:20	運動系の中樞神経制御機構 脊髄Ⅰ（運動ニューロンと筋）	杉内友理子	講義室 3号館2階
11/2	金	9:00～10:20	運動系の中樞神経制御機構 脊髄Ⅱ（脊髄反射）	〃	〃
11/2	金	10:30～11:50	運動系の中樞神経制御機構 大脳運動野の機能	（篠田義一）	〃
11/6	火	10:30～11:50	運動系の中樞神経制御機構 錐体路とその障害の病態生理	〃	〃
11/7	水	12:50～14:10	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅰ. 末梢受容器の性質	杉内友理子	〃
11/7	水	14:20～15:40	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅱ. 中枢機構	〃	〃
11/13	火	12:50～14:10	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅲ. 痛覚	〃	〃
11/15	木	12:50～14:10	感覚系の生理学 ②視覚系 Ⅰ. 網膜	伊澤佳子	〃
11/15	木	14:20～15:40	感覚系の生理学 ②視覚系 Ⅱ. 色覚	〃	〃
11/20	火	14:20～15:40	感覚系の生理学 ②視覚系 Ⅲ. 中枢機構	〃	〃
11/21	水	9:00～10:20	感覚系の生理学 ③前庭系 Ⅰ. 前庭脊髄系と筋トーンス	杉内友理子	〃
11/26	月	9:00～10:20	感覚系の生理学 ③前庭系 Ⅱ. 前庭眼反射	〃	〃
11/27	火	10:30～11:50	感覚系の生理学 ④聴覚系 Ⅰ. 末梢機構	杉原 泉	〃
11/27	火	12:50～14:10	感覚系の生理学 ④聴覚系 Ⅱ. 中枢機構	（佐藤悠）	〃
11/28	水	12:50～14:10	感覚系の生理学 ⑤嗅覚と味覚	杉原 泉	〃
11/28	水	14:20～15:40	感覚系の生理学 ⑥内臓感覚	〃	〃
11/30	金	9:00～10:20	イオンチャンネルとレセプターⅠ	田邊 勉	〃
12/3	月	10:30～11:50	自律神経系Ⅰ（自律神経系の生理学－1）	杉原 泉	〃
12/4	火	9:00～10:20	イオンチャンネルとレセプターⅡ	田邊 勉	〃
12/4	火	10:30～11:50	自律神経系Ⅱ（自律神経系の生理学－2）	杉原 泉	〃
12/5	水	9:00～10:20	自律神経系Ⅲ（交感神経作動薬）	三枝弘尚	〃
12/5	水	10:30～11:50	自律神経系Ⅳ（副交感神経作動薬）	〃	〃
12/7	金	10:30～11:50	シナプスⅣ（神経筋接合部）	田邊 勉	〃
12/10	月	9:00～10:20	シナプスⅤ（分子生物学）	〃	〃
12/10	月	10:30～11:50	カルシウムと細胞内情報伝達系	〃	〃
12/11	火	9:00～10:20	運動系の中樞神経制御機構 小脳の機能Ⅰ	杉原 泉	〃
12/11	火	10:30～11:50	〃 小脳の機能Ⅱ	〃	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/14	金	9:00～10:20	運動系の中樞神経制御機構 視床と基底核	杉内友理子	講義室 3号館2階
12/14	金	10:30～11:50	" 基底核と不随意運動の病態生理	"	"
1/18	金	10:30～11:50	" 眼球運動	高橋真有	"
1/23	水	10:30～11:50	本能行動・脳高次機能と中枢神経薬理 睡眠の脳波Ⅰ（睡眠の現象学）	（篠田義一）	"
1/30	水	10:30～11:50	" 睡眠の脳波Ⅱ（脳波と睡眠の誘発機構）	"	"
2/4	月	9:00～10:20	" 脳高次機能（空間識、失認、前頭葉機能）	伊澤佳子	"
2/4	月	10:30～11:50	" 睡眠障害	西川 徹	"
2/5	火	9:00～10:20	" 感覚－運動変換と失語・失行	高橋真有	"
2/5	火	10:30～11:50	" 随意運動の発現	（篠田義一）	"
2/6	水	9:00～10:20	" 中枢神経薬理	三枝弘尚	"
2/6	水	10:30～11:50	" 精神神経薬理	"	"
2/8	金	9:00～10:20	" 辺縁系と視床下部（本能行動）	杉原 泉	"
2/8	金	10:30～11:50	" 記憶と学習	"	"
2/28	木	9:00～10:20	神経科学(生理)試験		
3/1	金	9:00～10:20	神経科学(薬理)試験		

(英訳) Infection

○ 科目を履修して得られる能力

微生物とは肉眼で認めることのできない小さな生物の総称である。微生物は分類的に多種にわたり、その中にはウイルス、細菌および真菌などが含まれるが、このような生物を研究する科学が微生物学であり、それらによって引き起こされる病態が感染症である。医学の進歩により、多くの病原体による疾病の治療は可能になった。しかし、近年、エイズ、C型肝炎、SARS、インフルエンザ、ヘリコバクターピロリあるいはメチシリン耐性ブドウ球菌感染症などの新興、再興感染症が新たな問題を提起している。感染の系統別総合講義では、微生物に関する基礎的知識と臨床面からの感染症の知識を同時に身につけることを目標とする。学生は講義を通して微生物の構造、増殖、機能、遺伝に関する原理を理解する。

【別表】参照

○ 学習方法

病原体総論では微生物の概念と歴史、細菌の分類、構造、染色、代謝、培養について学ぶ。さらに微生物がなぜ宿主に感染をきたすのかについて学ぶ。

1. 細菌学

- 1) 総論的に細菌感染、遺伝学、薬物治療について学び、グラム陽性菌とグラム陰性菌に分けて基礎的事項を学ぶ。
- 2) 比較的稀な微生物（ノカルジア、放線菌、嫌気性菌、梅毒、リケッチア）についても学ぶ。
- 3) 抗酸菌の基礎的事項についての講義を通して結核、非定型抗酸菌の全体像を把握する。
- 4) 真菌に関しても同様に講義で理解する。

2. ウイルス学

- 1) ウイルス学総論ではウイルスの一般的性状、ウイルス粒子の構造、増殖、組織培養法および定量法について学ぶ。
- 2) ウイルスの核酸と遺伝、干渉とインターフェロン、ウイルス感染症の治療、防疫、疫学および予防について学ぶ。
- 3) ウイルス感染症の実験室診断法、検体の採取、ウイルスの同定、抗体価の測定、皮膚反応等について学ぶ。
- 4) 感染の概念、微生物学の病原因子、宿主の感染防御機構などについて学ぶ。
- 5) 各論はピコルナウイルス、コロナウイルス、トガウイルス、ラブドウイルス、オルソミクソウイルス、およびレトロウイルス、ヘルペスウイルスなどのヒトの病原ウイルスについて学ぶ。

講義及び実習には必ず出席すること。特に実習ではウイルスが発育した細胞、組織あるいは細菌の集落等を実際に観察するなど、ほとんどの学生では二度とない大切な機会となるので欠席はしないこと。また病原微生物を実際に取り扱うので、教官の注意をよく守り感染しないように努める。

感染は医学の多くの科目と深い関係をもっている。特に免疫学、公衆衛生学、病理学、衛生学、医動物学、臨床面では内科学、外科学、小児科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学等と密接な関係がある。

○ 教科書・参考書

書 名	著 者 名	発 行 所 名
エッセンシャル微生物	高木 篤	医歯薬出版
戸田新細菌学	天児和暢	南山堂
標準微生物学	横田 健	医学書院
微生物学実習提要	東京大学医科学研究所	丸善
医学ウイルス学	White, Fenner	近代出版
一目でわかる微生物学と感染症	Stephen H. Gillespie & Kathleen B. Bamford	メディカル・サイエンス・ インターナショナル
Medical Microbiology (Eighteenth Ed.)	E.Jawetz	Maruzen Asia Ed.
Zinsser Microbiology (Nineteenth Ed.)	Joklil, Willett, Amos, Wilfert	Appleton Lange
Microbiology (Fourth Ed.)	Davis, Dulbecco, Eisen, Ginsberg	Lippincott
Fields Virology	Kriple, Howley	Lippincott

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

講義に関しては筆答試験で学習成果を問う。実習に関してはレポートを提出させ、筆答試験で学習成果を問う。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

山岡昇司 shojmmb@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		感染・基礎			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/30	火	10:30～11:50	病原体総論	山岡昇司	講義室 3号館2階
10/31	水	12:50～14:10	細菌学総論	(堀内三吉)	〃
10/31	水	14:20～15:40	細菌感染の治療と予防	(岡村 登)	〃
11/5	月	12:50～14:10	細菌遺伝学	中村正孝	〃
11/5	月	14:20～15:40	グラム陽性菌の基礎知識	(堀内三吉)	〃
11/6	火	9:00～10:20	グラム陰性菌の基礎知識	(岡村 登)	〃
11/9	金	9:00～10:20	その他の病原体(嫌気性菌、リケッチア)	(堀内三吉)	〃
11/9	金	10:30～11:50	ウイルス学総論	山岡昇司	〃
11/13	火	9:00～10:20	ウイルスの複製と遺伝学	山岡昇司	〃
11/13	火	10:30～11:50	RNAウイルス各論(1)	佐久間龍太	〃
11/13	火	14:20～15:40	RNAウイルス各論(2)	山岡昇司	〃
11/16	金	9:00～10:20	ヒトレトロウイルス感染症	佐久間龍太	〃
11/16	金	10:30～11:50	ウイルス感染症の化学療法	佐久間龍太	〃
11/19	月	10:30～11:50	DNAウイルス各論(1)	斉藤愛記	〃
11/20	火	12:50～14:10	DNAウイルス各論(2)	斉藤愛記	〃
11/21	水	10:30～11:50	腫瘍ウイルス	山岡昇司	〃
11/26	月	10:30～11:50	感染免疫とワクチン	武内寛明	〃
11/27	火	9:00～10:20	人畜共通感染症と新興・再興ウイルス感染症	武内寛明	〃
11/27	火	14:20～15:40	輸入感染症	太田伸生	〃
11/30	金	10:30～11:50	ウイルスベクターと研究応用	野阪哲哉	〃
12/3	月	9:00～10:20	プリオン病	山岡昇司	〃
2/25	月	9:00～10:20	感染・基礎試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		感染・基礎実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
1/21	月	12:50～17:10	感染・基礎実習	山岡昇司 他	実習室 3号館5階
1/22	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/23	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/24	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/25	金	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/28	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/29	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/30	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
1/31	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
2/1	金	12:50～17:10	〃	〃	〃

(英訳) Oriental Medicine

○ 科目を履修して得られる能力

東洋医学の基礎的な概念（陰陽論、五行論、気血津液、八綱弁証、臓腑概念、病態観、証）を理解し、説明できる。

東洋医学の診断、治療の概念、薬学・方剤学の基礎について理解し、説明できる。

○ 学習方法

講義

○ 教科書

「標準東洋医学」 金原出版 仙頭正四郎

○ 参考書

●基礎理論の理解に

「中医学入門」神戸中医学研究会編著 医歯薬出版

「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社

●一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する

「読体術:体質判別・養生論」仙頭正四郎 農文協

●臨床的な治療内容を含む

「入門漢方医学」 日本東洋医学会学術教育委員会 編集 南江堂

「症例から学ぶ和漢診療学 2 版」 寺澤 捷年著 医学書院

「改訂・中医学基礎」上海中医学院編 神戸中医学研究会訳 燎原

「簡明 漢方医学」三重大学 東洋医学研究会

○ 参照 URL

<http://www.jtcma.org/>

<http://www.jsom.or.jp/>

○ 成績評価の評価法

筆記試験

多肢選択問題（連問形式）

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

別府正志 tmdustudent@masashi.beppu.ac

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		東洋医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/4	火	12:50～14:10	葛根湯でなぜ風邪が治るのかー煎じ薬の体験ー	仙頭 正四郎	講義室 3号館2階
12/4	火	14:20～15:40	陰陽論と気血津液・八綱弁証	〃	〃
12/6	木	12:50～14:10	五行説と臓腑概念	別府 正志	〃
12/6	木	14:20～15:40	病態観(病因病機・素因誘因・内因外因)と証の概念	〃	〃
12/11	火	12:50～14:10	東洋医学的診断の概念と技術(四診と弁証)	仙頭 正四郎	〃
12/11	火	14:20～15:40	症候の分析と治療	〃	〃
12/13	木	12:50～14:10	治療概念(予防と治療の原則・標治本治)	別府 正志	〃
12/13	木	14:20～15:40	中薬学・方剤学総論(四気五味・君臣佐使)	〃	〃
1/11	金	9:00～10:20	東洋医学試験		

(英訳) Pathology

○科目を履修して得られる能力

病理学とは、ヒトの疾病の理論を扱う学問であり、主に細胞・組織・臓器の形態像に基づき、各種疾患の原因・進行・転帰を追究していく。「病理学総論」では、全ての疾患を理解するための縦糸として、系統的な疾患概念（奇形、代謝異常、炎症、循環障害、腫瘍）を学ぶ。そして、これに続く「病理学各論」で得られる個々の疾患に関する知識を横糸として組み合わせることで、ヒトの“病気”の姿が明確に織り成されるのである。

【別表】参照

○学習方法

本科目は、1週間に講義と実習の全てを集中させた「病理総論ブロック」として授業が行われる。学生は数人ごとの小グループに分かれ、各グループには、病理学総論の4つの大テーマに関連して幾つかの課題が与えられる。ブロック週の前半はその課題に対する調査・探究をするための自習時間が多く取られる。授業は各班による課題の発表を主体として、学生同士で知識の共有とより深い理解を求められる。教官は網羅的授業は行わず、発表に対する補足の説明にとどまる。その後、テーマに関連する標本の顕微鏡実習を行う。講義と実習は必要最小限度にとどめてあり、自習時間を利用した、学生自身の十分な自己学習が求められる。

○授業のキーワード

遺伝子異常、細胞傷害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理、腫瘍

○教科書・参考書

(1) Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease 7th ed. W B Saunders Co.

連携ウェブサイトあり。教科書付属のシリアルナンバー登録により、本文・図表の全てをウェブ上で閲覧可能。なお、2009年6月に新版(8th ed)出版予定。

(2) ロビンス基礎病理学 廣川書店

(1)の簡約版(Robbins Basic Pathology)の旧版の翻訳。

(3) 標準病理学 第3版 医学書院

編集協力：北川昌伸。

(4) 組織病理学アトラス 第5版 文光堂

(5) 外科病理学 文光堂

(6) 現代の病理学(総論、各論) 金原出版

(7) 病理学(総論、各論) 文光堂

○他科目との関連

病理学はヒトの正常形態・機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学・臨床医学と強く関連している。すなわち病理学は、基礎と臨床を結ぶ学際的分野である。

○成績評価の方法

ブロック週の翌々週に筆記試験を予定している。試験範囲は、講義・実習およびブロック週の全課題、のすべての内容である。

○受講上の注意

病理学はこれから臨床医学を学ぶ道程の一里塚であり、病理学講義では病気に関する数多くの医学用語に初めて接するところでもある。以後に続く臨床医学の講義に際しては、病理学総論に登場する医学用語の概念や各種病態を正しく把握しているか否かが、その理解度を大きく左右する。

一方、病理学はヒトの病的なことの理論であるから、その基盤は当然、正常状態にある。従って病理学を学習する際には、常に正常状態との対比を忘れてはならない。

☆具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

○担当窓口

人体病理学 小林大輔

E メール : d-koba.pth1@tmd.ac.jp

(英訳) Medical Zoology

○ 科目を履修して得られる能力

病原体としての寄生虫の生物学的側面に関する理解と研究能力が備わる。

寄生虫病の診断、治療、予防についての臨床能力が向上する。

診断法、治療法、ワクチンを含む予防法開発など今日の医療イノベーションに関する知識が備わる。

寄生虫病のワクチン開発が出来ていないことから、感染症予防の基本である病気の知識とそれに基づく行動変容の重要性を理解した医師になる。

国際感染症としての寄生虫病を理解する事を通じて国際的視野が備わり、検疫行政や渡航医学等の専門性が獲得できる。

熱帯感染症としての寄生虫病を理解し、国際医療協力に必要とされる知識が備わる。

途上国医療に関係する国際機関や各種 NGO の業務に必要な基礎知識が修得できる。

○ 学習方法

講義で対象疾患に関するアウトライン（病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など）を教授し、知識を修得した上で実習により実際の病原体を観察する。講義では資料を当日配布するので、それにより講義内容を理解し、実習で寄生虫および寄生虫感染症の知識を確認すると共に、そこから様々な問題、疑問などについて教員と協議を行う。実習は永久標本だけではなく、生標本の供覧に努め、生きた知識を涵養する方法を摂る。

○ 教科書

特に指定しない。講義内容を解説した講義プリントを毎回配付するので、学習はこれに沿って進めること。

○ 参考書

図説人体寄生虫学 吉田幸雄、有菌直樹 著、南山堂 (2011)

標準医動物学 石井 明、鎮西康雄、太田伸生 編、医学書院 (1998)

寄生虫学テキスト 上村清 ほか編集、文光堂 (2003)

Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (1997)

Diagnostic Medical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

Manson's Tropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

○ 成績評価の評価法

医動物学講義に関する筆答試験、および医動物学実習に関する標本識別能力の試験による

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

太田伸生（matata.vip@tmd.ac.jp）

赤尾信明（ocha.vip@tmd.ac.jp）

熊谷 貴（tkuma.vip@tmd.ac.jp）

狩野繁之（国立国際医療研究センター）（kano@ri.ncgm.go.jp）

北 潔（東京大学大学院医学研究科）（kitak@m.u-tokyo.ac.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		医動物学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
1/16	水	9:00～10:20	総論	太田伸生	講義室 3号館2階
1/16	水	10:30～11:50	線虫病(1) 腸管寄生線虫病	赤尾信明	〃
1/18	金	9:00～10:20	線虫病(2) フィラリア症	熊谷 貴	〃
1/21	月	9:00～10:20	線虫病(3) 幼線虫移行症	赤尾信明	〃
1/21	月	10:30～11:50	吸虫病(1) 肺吸虫症、肝吸虫症、横川吸虫症ほか	〃	〃
1/22	火	10:30～11:50	吸虫病(2) 住血吸虫症	熊谷 貴	〃
1/23	水	9:00～10:20	条虫病(1) 腸管寄生条虫症	太田伸生	〃
1/28	月	9:00～10:20	条虫病(2) エキノコックス症、囊虫症	赤尾信明	〃
1/28	月	10:30～11:50	原虫病(1) 腸管寄生原虫症	〃	〃
1/30	水	9:00～10:20	原虫病(2) トキソプラズマ症	熊谷 貴	〃
2/12	火	10:30～11:50	原虫病(3) マラリア	太田伸生	〃
2/13	水	10:30～11:50	原虫病(4) 鞭毛虫症	〃	〃
2/15	金	10:30～11:50	節足動物	篠永 哲	〃
2/18	月	10:30～11:50	有害動物	〃	〃
2/19	火	10:30～11:50	寄生虫疾患の診断学	赤尾信明	〃
2/20	水	10:30～11:50	寄生虫疾患の治療対応	太田伸生	〃
2/22	金	10:30～11:50	特別講義:寄生虫の呼吸代謝の謎	(北 潔)	〃
2/27	水	9:00～10:20	医動物学試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		医動物学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
2/12	火	12:50～17:10	線虫類（1）	太田伸生 他	実習室 3号館5階
2/13	水	12:50～17:10	線虫類（2）・節足動物	〃	〃
2/14	木	12:50～17:10	吸虫類	〃	〃
2/15	金	12:50～17:10	条虫類	〃	〃
2/18	月	12:50～17:10	原虫類（1）	〃	〃
2/19	火	12:50～17:10	原虫類（2）	〃	〃
2/20	水	12:50～17:10	原虫類（3）	〃	〃
2/21	木	12:50～17:10	医動物学実習試験	〃	〃

授 業 概 要

(第 3 学年)

(英訳) Oncology

○教育目標

医学の中で数多くある“・・・学”は、一般的には対象あるいは主たる方法をもって分類されている。

例えば、病気の成り立ちとその転機を対象とする分野として、細胞・組織変化を主として形態的な面から追求する病理学、そして化学的な面からの病態生化学などである。それらは謂わば広い対象の中を主たる方法をもって“・・・学”と類別している。

翻って、あることを解明しようとする場合には、まずはじめに知ろうとするものの目的あるいは対象があつて、次にそれを効率よく証明するための方法は？ ということであるから、方法は知ろうとする目的に従属している。現在、科学の進歩はめざましく、主たる方法によって類別されている“・・・学”といった分野では、そのような枠組みを越えた学際的な研究がなされるようになってきている。

このようなことから、腫瘍学授業の目的は、病気の概念（奇形、物質代謝異常、炎症、循環障害、腫瘍）を学ぶ病理学総論から腫瘍の部分を取り出してあらゆる面から腫瘍を眺めて、腫瘍の全貌を把握することにある。つまり、“・・・学”の中で腫瘍について学ぶ部分があるが、それらを系統的に一括して腫瘍学と呼ぶ。

○授業の概要

この科目は1週間の間に講義と実習全てを集中して、「腫瘍学ブロック」として授業が行われる。この科目は、腫瘍とは何かという問題に始まり、腫瘍の特徴を病理学、分子生物学、疫学など様々な視点から概観することを目的とする。診断や治療などの臨床的側面についてはこの授業科目では扱わず、後に臨床各科やクリニカルクラークシップなどにおいて扱われる。

授業の方法としては、ブロック期間中3回のPBLを軸とし、講義によって腫瘍全般に関わる基礎知識を、また顕微鏡自習によって代表的な腫瘍の観察を補完する。そして最終日には主としてPBLの内容を総括するための時間を設けてある。

ブロック期間中は自習時間を多く取ってあるので、PBLの内容を深めるために、講義や実習で直接触れられなかった点についても自己学習が求められる。

○授業のキーワード

良性腫瘍、悪性腫瘍、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、癌腫、肉腫、浸潤、転移、遺伝子変化、癌組織発生

○教科書・参考書

腫瘍に関する全体を腫瘍学としてまとめた教科書はない。腫瘍学は病理学総論と臨床各科の教科書の腫瘍部分を参考にされたい。

○他科目との関連

授業の概要で述べてあるように、腫瘍学は分子水準での細胞生物学から実際における診断・治療に至るまでを包括している。既存の“・・・学”の枠組みを外した学際的な科目であるが故に、ウイルス、遺伝子などを対象とする細胞生物学的分野と、広い分野にわたって関連している。

○成績評価の方法

筆記試験を行い、PBL や実習の出席状況などを加味して、総合的に判定する。

具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

(英訳) Basic Neuroscience

○教育目標

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうなる固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学 (Neuroscience) と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が 30 年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

○学習方法

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

神経解剖学としては中枢神経系の基本型を保っている脊髄から始め、高度に分化した大脳皮質に上るような順に中枢神経系を見ていく。すなわち延髄、橋、中脳、間脳、運動機能に関与する小脳、基底核、情動や本能と関係の深い辺縁系がこの間に入るが、その間に脳の実物を観察する脳実習を週一度から二度の割合で行う。これらに加えて数回、感覚系や運動系をシステムとして形態学的観点から見なおす授業を加える。

神経生理学については神経活動の基本となる興奮と伝導、シナプス伝達など神経細胞の機能の理解を基礎として、感覚・運動・高次機能等のシステム別に神経系の機能を論じる。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのレセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

○ 教科書

神経科学

E.R.Kandel, J.H.Schwartz and T.M.Jessell, Principles of Neural Science (5th ed.) McGraw Hill, 2013.

脳神経科学 伊藤正男 他、三輪書店 2003.

神経解剖学

M.B.Carpenter, Core Text of Neuroanatomy, (4th ed.) Williams & Wilkins, 1991.

L. Heimer, The Human Brain and Spinal Cord (2nd ed.) Springer, 1995.

J. Nolte, The Human Brain (5th ed.) Mosby, 2002.

神経生理学

小澤瀨司 他、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

Standen and Koeppen, Berne and Levy Physiology 6th ed. Mosby, 2005

D. Purves, Neuroscience 5th ed., Sinauer, 2012

神経薬理学

ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 MEDSi 2006

Siegel et al., Basic Neurochemistry, (8th ed.) Lippincott Williams of Wilkins 2012.

The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw Hill 12版 2011

○ 成績評価の方法

講義担当者が所属する分野毎（神経機能形態学、システム神経生理学、細胞薬理学）に試験を行い、それぞれに合格しなければならない。詳細については、必要に応じて掲示する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

寺田純雄（解剖） terada.nana@tmd.ac.jp

杉原 泉（生理） isugihara.phy1@tmd.ac.jp

田邊 勉（薬理） t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		神 経 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/17	木	12:50～14:10	イントロダクション、神経系の発生総論	寺田純雄	共用講義室 1 M&Dタワー 2F
5/17	木	14:20～15:40	脳の概観、髄膜と血管、脳神経の観察	〃	〃
5/21	月	12:50～14:10	脊髄の組織学(1)	〃	〃
5/21	月	14:20～15:40	脊髄の組織学(2)	〃	〃
5/28	月	12:50～14:10	脳幹・小脳の分離、菱形窩[第四脳室]、脳幹スライス標本の観察	〃	〃
6/4	月	12:50～14:10	延髄、橋の組織学	〃	〃
6/4	月	14:20～15:40	中脳の組織学	〃	〃
6/11	月	12:50～14:10	特別講義1／脳幹網様体・自律神経系	(大竹一嘉)	臨床講堂 医学部附属病院地下1階
6/11	月	14:20～15:40	特別講義2／神経系の血流支配	(大竹一嘉)	〃
6/14	木	12:50～14:10	小脳の皮質区分と小脳核、線維結合の観察	寺田純雄	〃
6/18	月	12:50～14:10	小脳の組織学(1)	〃	共用講義室 1 M&Dタワー 2F
6/18	月	14:20～15:40	小脳の組織学(2)	〃	〃
6/21	木	12:50～14:10	大脳の半切、大脳皮質(区分)、第三脳室、視床下部の観察	〃	〃
6/21	木	14:20～15:40	特別講義3／間脳の構造と機能(1)	(大竹一嘉)	〃
6/28	木	12:50～14:10	島皮質、皮質における連合・交連・投射線維、視放線、内包、視床、基底核等の観察(1)	寺田純雄	〃
6/28	木	14:20～15:40	島皮質、皮質における連合・交連・投射線維、視放線、内包、視床、基底核等の観察(2)	〃	〃
6/29	金	12:50～14:10	特別講義4／間脳の構造と機能(2)	(大竹一嘉)	〃
6/29	金	14:20～15:40	特別講義5／味覚と嗅覚	(大竹一嘉)	〃
6/29	金	15:50～17:10	特別講義6／脳幹の解剖学のまとめ、前庭覚と聴覚	(八木沼洋行)	〃
7/2	月	12:50～14:10	大脳皮質の組織学、代表的な神経伝導路のまとめ(1)	寺田純雄	〃
7/2	月	14:20～15:40	大脳皮質の組織学、代表的な神経伝導路のまとめ(2)	〃	〃
7/4	水	9:00～10:20	感覚系の生理学 ⑤前庭系 Ⅰ. 前庭脊髄系と筋トーンス	杉内友理子	〃
7/4	水	10:30～11:50	感覚系の生理学 ⑤前庭系 Ⅱ. 前庭眼反射	〃	〃
7/6	金	12:50～14:10	特別講義7／神経系の発生各論	(武井陽介)	〃
7/6	金	14:20～15:40	側脳室、海馬と脳弓、扁桃核、視床、基底核等の観察	寺田純雄	〃
7/9	月	12:50～14:10	辺縁系と海馬の組織学	〃	〃
7/9	月	14:20～15:40	視覚伝導路	〃	〃
7/11	水	12:50～14:10	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅲ. 痛覚と視床	杉内友理子	〃
7/11	水	14:20～15:40	感覚系の生理学 ④ 聴覚系 Ⅱ. 中枢機構	(佐藤悠)	〃
7/13	金	9:00～10:20	感覚系の生理学 ② 視覚系 Ⅲ. 中枢機構	伊澤佳子	〃
7/13	金	10:30～11:50	イオンチャンネルとレセプター I	田邊 勉	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/13	金	12:50～14:10	大脳基底核	寺田純雄	共用講義室 1 M&Dタワー 2F
7/13	金	14:20～15:40	大脳のスライス標本の観察、まとめ	〃	〃
7/17	火	9:00～10:20	神・神経構造試験		
7/18	水	9:00～10:20	自律神経系Ⅰ（自律神経系の生理学－1）	杉原 泉	共用講義室 1 M&Dタワー 2F
7/18	水	10:30～11:50	イオンチャンネルとレセプターⅡ	田邊 勉	〃
7/20	金	9:00～10:20	自律神経系Ⅱ（自律神経系の生理学－2）	杉原 泉	臨床講堂 医学部附属病院地下1階
7/20	金	10:30～11:50	自律神経系Ⅲ（交感神経作動薬）	三枝弘尚	〃
7/23	月	10:30～11:50	自律神経系Ⅳ（副交感神経作動薬）	〃	共用講義室 1 M&Dタワー 2F
7/27	金	9:00～10:20	シナプスⅣ（神経筋接合部）	田邊 勉	臨床講堂 医学部附属病院地下1階
9/5	水	10:30～11:50	シナプスⅤ（分子生物学）	〃	共用講義室 1 M&Dタワー 2F
9/7	金	10:30～11:50	カルシウムと細胞内情報伝達系	〃	〃
9/19	水	9:00～10:20	運動系の中枢神経制御機構 小脳の機能Ⅰ	杉原 泉	〃
9/21	金	9:00～10:20	〃 小脳の機能Ⅱ	〃	〃
10/1	月	9:00～10:20	〃 基底核と不随意運動の病態生理	杉内友理子	〃
10/3	水	9:00～10:20	〃 眼球運動	高橋真有	〃
10/4	木	10:30～11:50	本能行動・脳高次機能と中枢神経薬理 睡眠の脳波Ⅰ（睡眠の現象学）	（篠田義一）	〃
10/19	金	12:50～14:10	〃 睡眠の脳波Ⅱ（脳波と睡眠の誘発機構）	〃	〃
10/29	月	12:50～14:10	〃 脳高次機能（空間識、失認、前頭葉機能）	伊澤佳子	〃
10/30	火	12:50～14:10	〃 睡眠障害	西川 徹	〃
11/1	木	12:50～14:10	〃 感覚－運動変換と失語・失行	高橋真有	〃
11/14	水	10:30～11:50	〃 随意運動の発現	（篠田義一）	〃
11/15	木	9:00～10:20	〃 中枢神経薬理	三枝弘尚	〃
11/28	水	10:30～11:50	〃 精神神経薬理	〃	〃
11/29	木	10:30～11:50	〃 辺縁系と視床下部（本能行動）	杉原 泉	〃
11/30	金	10:30～11:50	〃 記憶と学習	〃	〃
1/15	火	9:00～10:20	神・生理、薬理試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前	期	神 経 科 学 実 習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/17	木	15:50～17:10	マクロ実習1 脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経	寺田純雄	解剖学実習室 3号館地下1階
5/21	月	15:50～17:10	ミクロ実習1 脊髄	〃	組織実習室 3号館4階
5/28	月	14:20～15:40	マクロ実習2 脳幹・小脳の分離, 菱形窩(第四脳室), 脳幹スライス標本	〃	解剖学実習室 3号館地下1階
5/28	月	15:50～17:10	〃	〃	〃
6/4	月	15:50～17:10	ミクロ実習2 脳幹(1)	〃	組織実習室 3号館4階
6/11	月	15:50～17:10	ミクロ実習3 脳幹(2)	〃	〃
6/14	木	14:20～15:40	マクロ実習3 小脳	〃	解剖学実習室 3号館地下1階
6/14	木	15:50～17:10	〃	〃	〃
6/18	月	15:50～17:10	ミクロ実習4 小脳	〃	組織実習室 3号館4階
6/21	木	15:50～17:10	マクロ実習4 大脳の半切, 大脳皮質(区分)	〃	解剖学実習室 3号館地下1階
6/28	木	15:50～17:10	マクロ実習5 島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等	〃	〃
7/2	月	15:50～17:10	ミクロ実習5 中心前回と後回	〃	組織実習室 3号館4階
7/6	金	15:50～17:10	マクロ実習6 側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃核, 視床, 基底核等	〃	解剖学実習室 3号館地下1階
7/9	月	15:50～17:10	ミクロ実習6 海馬, 視覚領	〃	組織実習室 3号館4階
7/13	金	15:50～17:10	マクロ実習7 大脳のスライス標本	〃	解剖学実習室 3号館地下1階

(英訳) Infectious Diseases

○教育目標

微生物とは肉眼で認めることのできない小さな生物の総称である。微生物は分類的に多種にわたり、その中のウイルス、細菌および真菌などが含まれるが、このような生物を研究する科学が微生物学であり、それらによって引き起こされる病態が感染症である。医学の進歩により、多くの病原体による疾病の治療は可能になった。しかし、近年、エイズ、C型肝炎、SARS、インフルエンザ、ヘリコバクターピロリあるいはメチシリン耐性ブドウ球菌などの新興、再興感染症が新たな問題を提起している。感染の系統別総合講義では、微生物に関する基礎的知識と臨床面からの感染症の知識を同時に身につけることを目標とする。学生は講義を通して微生物の構造、増殖、機能、遺伝に関する原理を理解するとともに、臨床面からみた各種微生物が生体に及ぼす症状や発症機序、その治療法を理解することになる。

○授業の概要

病原体総論では微生物の概念と歴史、細菌の分類、構造、染色、代謝、培養について学ぶ。さらに微生物がなぜ宿主に感染をきたすのかについて学ぶ。

1. 細菌学

- 1) 総論的に細菌感染、遺伝学、薬物治療について学び、グラム陽性菌とグラム陰性菌に分けて基礎面の講義の後、臨床面からの感染症を学ぶ。2) 感染症は各種臓器に及び、様々な感染症状をきたすこと、感染症の特徴についても学ぶ。3) 検査による感染症の診断方法を学んだ後、比較的稀な微生物（ノカルジア、放線菌、嫌気性菌、梅毒、リケッチア）についても基礎面、臨床面から学ぶ。4) 抗酸菌の基礎面と臨床面の講義を通して結核、非定型抗酸菌の全体像を把握する。5) 真菌に関しても同様に基礎面と臨床面からの講義で理解する。6) 菌種別の知識を身につけた後に、臨床面からの具体的な臓器別の感染症について学ぶ。

2. ウイルス学

- 1) ウイルス学総論ではウイルスの一般的性状、ウイルス粒子の構造、増殖、組織培養法および定量法について学ぶ。2) ウイルスの核酸と遺伝、干渉とインターフェロン、ウイルス感染症の治療、防疫、疫学および予防について学ぶ。3) ウイルス感染症の実験室診断法、検体の採取、ウイルスの同定、抗体価の測定、皮膚反応等について学ぶ。4) 感染の概念、微生物学の病原因子、宿主の感染防御機構などについて学ぶ。5) 各論はピコルナウイルス、コロナウイルス、トガウイルス、ラウドウイルス、オルソミクソウイルス、およびレトロウイルス、ヘルペスウイルスなどのヒトの病原ウイルスについて学ぶ。

○授業のキーワード

細菌、真菌、クラミジア、リケッチア、マイコプラズマ、ウイルス、ビリオン、エイズ、SARS、感染症、病原性、滅菌、消毒、化学療法剤、ビルレンス、宿主寄生体関係、免疫

○教科書・参考書

書 名	著 者 名	発 行 所 名
エッセンシャル微生物	高木 篤	医歯薬出版
戸田新細菌学	天児和暢	南山堂
標準微生物学	横田 健	医学書院
微生物学実習提要	東京大学医科学研究所	丸善
医学ウイルス学	White, Fenner	近代出版
一目でわかる微生物学と感染症	Stephen H. Gillespie & Kathleen B. Bamford	メディカル・サイエンス・インターナショナル
Medical Microbiology (Eighteenth Ed.)	E.Jawetz	Maruzen Asia Ed.
Zinsser Microbiology (Nineteenth Ed.)	Joklil, Willett, Amos, Wilfert	Appleton Lange
Manual of Clinical Microbiology (Fourth Ed.)	E.H.Lennette	American Society for Microbiology
Principle and Practice of Infectious Diseases (Second Ed.)	Mandell and Douglas	Willy Medical
Microbiology (Fourth Ed.)	Davis, Dulbecco, Eisen, Ginsberg	Lippincott
Fields Virology	Kriple, Howley	Lippincott

○他科目との関連

講義及び実習には必ず出席すること。特に実習ではウイルスが発育した細胞、組織あるいは細菌の集落等を実際に観察するなど、ほとんどの学生では二度とない大切な機会となるので欠席はしないこと。また病原微生物を実際に取り扱うので、教官の注意をよく守り感染しないように努める。感染は医学の多くの科目と深い関係をもっている。特に免疫学、公衆衛生学、病理学、衛生学、医動物学、臨床面では内科学、外科学、小児科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学等と密接な関係がある。

○成績評価の方法

講義に関しては筆答試験で学習成果を問う。実習に関してはレポートを提出させ、筆答試験で学習結果を問う。

○受講上の注意

講義及び実習には必ず出席すること。特に実習ではウイルスが発育した細胞、組織あるいは細菌の集落等を実際に観察するなど、ほとんどの学生では二度とない大切な機会となるので欠席はしないこと。また病原微生物を実際に取り扱うので、教官の注意をよく守り感染しないように努める。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

山岡昇司、shojmmb@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後 期		感 染			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/10	火	10:30～11:50	病原体総論	山岡昇司	共用講義室1 M&Dタワー2階
4/13	金	10:30～11:50	細菌学総論	(堀内三吉)	〃
4/16	月	10:30～11:50	細菌感染の治療と予防	岡村 登	〃
4/17	火	10:30～11:50	細菌遺伝学	中村正孝	〃
4/20	金	9:00～10:20	グラム陽性菌の基礎知識	(堀内三吉)	〃
4/20	金	10:30～11:50	グラム陰性菌の基礎知識	岡村 登	〃
4/23	月	10:30～11:50	その他の病原体（嫌気性菌、リケッチア）	(堀内三吉)	〃
4/24	火	9:00～10:20	ウイルス学総論	山岡昇司	〃
4/25	水	10:30～11:50	ウイルスの複製と遺伝学	山岡昇司	〃
4/27	金	10:30～11:50	R N Aウイルス各論（1）	佐久間龍太	〃
5/2	水	10:30～11:50	R N Aウイルス各論（2）	山岡昇司	〃
5/8	火	10:30～11:50	ヒトレトロウイルス感染症	佐久間龍太	〃
5/9	水	10:30～11:50	ウイルス感染症の化学療法	佐久間龍太	〃
5/11	金	9:00～10:20	D N Aウイルス各論（1）	斉藤愛記	〃
5/18	金	9:00～10:20	D N Aウイルス各論（2）	斉藤愛記	〃
5/18	金	10:30～11:50	肝炎ウイルス感染症	朝比奈靖浩	〃
5/24	木	12:50～14:10	腫瘍ウイルス	山岡昇司	〃
5/31	木	12:50～14:10	感染免疫とワクチン	武内寛明	〃
5/31	木	14:20～15:40	感染症の検査法	東田修二	〃
6/7	木	12:50～14:10	皮膚科領域感染症	吉田正己	臨床講堂 病院地下1階
6/7	木	14:20～15:40	呼吸器感染症（1）	三宅修司	〃
6/8	金	9:00～10:20	呼吸器感染症・抗酸菌感染症（2）	三宅修司	〃
6/13	水	9:00～10:20	臨床総論	小池竜司	〃
6/14	木	9:00～10:20	耳鼻咽喉科感染症	角田篤信	〃
6/18	月	9:00～10:20	外科感染症（一般外科領域）	豊福崇浩	共用講義室1 M&Dタワー2階
6/29	金	9:00～10:20	外科感染症（皮膚／軟部組織領域）	森 弘樹	〃
6/29	金	10:30～11:50	真菌感染症と皮膚科領域感染症	加藤卓朗	〃
7/3	火	12:50～14:10	腸管感染症	小池竜司	〃
7/3	火	14:20～15:40	泌尿器科領域感染症（含性感染症）	吉田宗一郎	〃
7/4	水	12:50～14:10	産婦人科領域感染症（含性感染症）	鳥羽三佳代	〃
7/4	水	14:20～15:40	人畜共通感染症と新興・再興ウイルス感染症	武内寛明	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後 期		感 染			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/5	木	9:00～10:20	小児感染症（1）	長澤正之	3号館3階 講義室
7/6	金	9:00～10:20	小児感染症（2）	長澤正之	〃
7/6	金	10:30～11:50	高齢者の感染症	下門顕太郎	〃
7/10	火	10:30～11:50	輸入感染症	太田伸生	〃
7/11	水	9:00～10:20	院内感染症とその対策	長澤正之	〃
7/11	水	10:30～11:50	日和見感染症と不明熱	小池竜司	〃
7/12	木	9:00～10:20	後半のまとめ（主に横断的感染症）	長澤正之	〃
7/12	木	14:20～15:40	前半のまとめ（主に臓器別感染症）	小池竜司	〃
7/26	木	10:30～11:50	ウイルスベクターと臨床応用	増田貴夫	〃
9/3	月	10:30～11:50	ウイルスベクターと研究応用	野阪哲哉	〃
9/20	木	10:30～11:50	プリオン病	山岡昇司	
10/9	火	9:00～10:20	感染試験		

3 学 年 前・後 期		感 染 系 実 習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/18	火	12:50～17:10	感染実習	全員	学生実習室
9/19	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/20	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/21	金	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/24	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/25	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/26	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/27	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
9/28	金	12:50～17:10	〃	〃	〃
10/1	月	12:50～17:10	〃	〃	〃

(英訳) Cardiovascular System

○教育目標

このコースは広く循環器疾患の基礎的事項、検査法、疾患について学び、さらに代表的な症候を呈した循環器疾患の臨床例から、その臨床症状の成り立ち、背景、病態、診断への道筋、治療法の考え方など様々な側面を学習するために企画されている。症例を通じて、情報収集、検査・治療計画立案法などの臨床的考え方を学び、もって問題探求、問題解決力を養うことを目的としている。

○授業の概要

臨床的な観点から循環器疾患の成り立ち、病態、診断法、治療法を講義する。後半は臨床講義として症例を通じて臨床的な考え方も含めて学ぶ。

○授業のキーワード

基礎（解剖、生理、生化、薬理、病理）から臨床へ診断学から治療学へ治療医学から予防医学へ侵襲から非侵襲へ

○教科書・参考書

1. Harrison: Principles of Internal medicine (McGraw-Hill)
2. Braunwald: Heart Disease (W. B. Saunders) 7th edition 2006 年
3. 循環器病学 基礎と臨床（西村書店） 2010 年

○他科目との関連

循環器疾患の病態を考える上で、解剖学、生理学、生化学、分子生化学、薬理学、病理学、免疫学の基礎的な知識は必須である。また社会における生活習慣病など循環器疾患の位置付けを考える上で、公衆衛生学的な知識と発想が必要である。医療経済、高齢者医学などとの関連において循環器疾患をとらえる視点も必要である。

○成績評価の方法

コース修了後に筆記試験を行う。

○受講上の注意

循環器疾患に関連した解剖学、病理学、生理学、生化学、薬理学等に関する基礎的知識を再確認しておくこと。学生の積極的な参加が求められるコースである。臨床講義は、学生が参加する授業形態である。各講義の担当者 3・4 名を決め、講義予定日の 1 ヶ月前に担当教員に連絡をして指示を受けること。

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後		循 環 器 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/11	木	14:20～15:40	循環器疾患総論／医療面接、症候論、身体所見	磯部光章	臨床講堂 病院地下1階
10/19	金	10:30～11:50	循環器疾患の病理	(田中道雄)	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/29	月	10:30～11:50	循環生理学／循環薬理学	足利貴志	〃
11/2	金	12:50～14:10	画像診断／心電図	川端美穂子	〃
11/2	金	14:20～15:40	心臓カテーテル検査／電気生理学的検査	(安達 進)	〃
11/12	月	9:00～10:20	循環器外科総論／病態生理と外科治療理論	荒井裕国	〃
11/13	火	10:30～11:50	画像診断／心エコー、シンチグラフィー	篠岡太郎	〃
11/16	金	9:00～10:20	体外循環、補助循環、人工心臓、心臓移植	荒井裕国	〃
11/21	水	10:30～11:50	心不全	(伊藤 宏)	〃
11/26	月	10:30～11:50	虚血性心疾患Ⅰ	栗原顕	〃
11/28	水	9:00～10:20	心臓弁膜症	吉川俊治	〃
12/18	火	12:50～14:10	先天性心疾患Ⅰ(総論1)	土井庄三郎	〃
12/18	火	14:20～15:40	先天性心疾患Ⅱ(総論2)	土井庄三郎	〃
12/19	水	9:00～10:20	不整脈Ⅰ(基礎)	古川哲史	〃
12/20	木	9:00～10:20	先天性心疾患Ⅲ(心エコー・カテーテル治療)	西山光則	〃
1/10	木	9:00～10:20	不整脈Ⅲ(頻脈)	平尾見三	〃
1/11	金	12:50～14:10	不整脈Ⅱ(徐脈)	横山泰廣	〃
1/11	金	14:20～15:40	大動脈疾患	磯部光章	〃
1/16	水	9:00～10:20	虚血性心疾患Ⅱ	荒井裕国	〃
1/17	木	9:00～10:20	心筋症Ⅰ	(鈴木淳一)	〃
1/17	木	10:30～11:50	小児循環器外科治療	(広岡一信)	
1/23	水	14:20～15:40	心筋症Ⅱ	(鈴木淳一)	〃
1/24	木	12:50～14:10	動脈疾患Ⅰ	地引政利	〃
1/24	木	14:20～15:40	動脈疾患Ⅱ	井上芳徳	〃
1/25	金	12:50～14:10	静脈疾患・リンパ疾患	工藤敏文	〃
1/25	金	14:20～15:40	背部痛 (臨床講義)	(田淵典之)	〃
1/28	月	14:20～15:40	発熱 (臨床講義)	磯部光章	臨床講堂 病院地下1階
1/31	木	14:20～15:40	息切れ (臨床講義)	〃	〃
2/1	金	14:20～15:40	めまい・動悸 (臨床講義)	平尾見三	〃
2/5	火	9:00～10:20	胸痛 (臨床講義)	足利貴志	〃
2/6	水	10:30～11:50	失神 (臨床講義)	磯部光章	〃
2/7	木	9:00～10:20	チアノーゼ (臨床講義)	(泉田直己)	〃
2/7	木	10:30～11:50	呼吸困難 (臨床講義)	(丹羽明博)	〃
2/8	金	9:00～10:20	間歇性跛行 (臨床講義)	地引政利	〃
2/8	金	10:30～11:50	腹痛 (臨床講義)	井上芳徳	〃
2/15	金	9:00～10:20	循環器学試験		

(英訳) Respiratory Medicine

○教育目標

呼吸器疾患は腫瘍、感染症、アレルギー疾患、その他の炎症、先天異常まで多岐にわたるが、病態生理を理解した上で疾患の全体像を把握する。また、臨床的な観点から呼吸器疾患の診断法や治療法を理解する。

○授業の概要

1. PBL：1週につき1シナリオ、計2シナリオ。金曜に各グループの発表と総括を行う。
2. 講義：
臨床解剖、呼吸生理、画像診断について概説し、病態理解の一助とする。各論として主要な呼吸器疾患（間質性肺炎、肉芽腫性肺疾患、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、胸膜・縦隔疾患）を取りあげ、一部はミニケース形式で講義する。また、病理学的理解を深めるために、腫瘍と非腫瘍について実習を行う。

○教科書・参考書

1. 杉本恒明、矢崎義雄編：内科学第9版 朝倉書店 2007年
2. 小川聡相編集：内科学書改訂第7版 中山書店 2009年
3. 別冊医学のあゆみ 呼吸器疾患・state of the art 医歯薬出版 2007年

○他科目との関連

病態の理解において生理学や病理学が重要である。呼吸器疾患はCPCで取り上げられることが多く（日常の臨床で重症例が多いことを反映している）、また外科病理カンファレンスなどを通じて病理学を勉強する機会が多い。また呼吸器は種々の微生物の主要なターゲットであるため、感染症の診断および治療において微生物学の理解が重要である。

○成績評価の方法

PBLと講義の出席を前提に、試験（Web CT）で評価する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

稲瀬直彦（ninase.pulm@tmd.ac.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容(呼吸器ブロック)

3 学 年 後 期					
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
2/18	月	8:50～10:10	PBL(シナリオ1-1)	チューター	
2/18	月	10:20～12:00	呼吸器の臨床解剖	秋田恵一	
2/18	月	13:20～14:40	換気力学とガス交換	稲瀬直彦	
2/18	月	15:00～16:20	気管支喘息	土屋公威	
2/19	火	10:20～12:00	肺機能検査	東條尚子	
2/19	火	13:20～14:40	呼吸不全	稲瀬直彦	
2/19	火	15:00～16:20	COPD	稲瀬直彦	
2/20	水	8:50～10:50	PBL(シナリオ1-2)	チューター	
2/20	水	13:00～17:00	病理実習1	明石 巧	
2/21	木	10:20～12:00	胸部画像診断	角 勇樹	
2/21	木	13:20～14:40	肺腫瘍	坂下 博之	
2/21	木	15:00～16:20	呼吸器外科総論	大久保憲一	
2/22	金	8:50～10:50	PBL(シナリオ1-3)	チューター	
2/22	金	13:00～15:20	PBL発表・総括1	角 勇樹	
2/25	月	8:50～10:10	PBL(シナリオ2-1)	チューター	
2/25	月	10:40～12:00	間質性肺炎・全身疾患に伴う肺病変	宮崎泰成	
2/25	月	13:20～14:40	外科治療(肺腫瘍)	藤原直之	
2/25	月	15:00～16:20	肺感染症	藤江俊秀	

(英訳) Regulation of Body Fluid and Nephrology

○ 教育目標

腎臓は体液の恒常性維持にとって重要な臓器であり、外界の変化に応じ非常に繊細かつ巧妙な制御を働かせている。その機能低下や破綻は、本来尿に排出されるべき尿毒素の貯留、水・電解質バランスの異常、血圧の異常などをもたらす。腎臓が機能低下をきたす原因には、腎臓自体に原因のある1次性腎疾患、他の病気により腎臓が障害される2次性腎疾患と種々ある。この授業では、これら疾患の症候・症状を単に丸暗記するのではなく、腎臓機能の本質と各疾患の病態生理を理解することを目指す。そのための基礎知識は講義にて、実際の臨床での腎臓病とはいかなるものかはPBL・ミニケースで学ぶ。

○ 授業の内容

腎臓・体液制御ブロックとして、講義、PBL、ミニケースを中心に、代表的な腎疾患について学習する。

PBL：1週につき1シナリオ。計2シナリオ。金曜に各グループのプレゼンテーションとそれに引き続き総括。

ミニケース：代表的腎疾患について、実際の症例に則して講義形式で授業を行う。

講義：

ネフロンの構造と機能：腎臓生理学の復習。腎疾患の症候・検査：PBLを進めるにあたり必要な腎臓病学臨床の基礎知識。腎炎・ネフローゼ1，2：1次性腎疾患についての講義。講義の内容を把握した上で、病理実習を行う。2次性腎疾患、薬剤と腎障害：糖尿病性腎症などの2次性腎疾患について。腎不全：急性腎不全、慢性腎不全の病態生理、ならびに合併症、治療法など。小児の輸液：輸液一般と小児の輸液の特殊性について。

血液浄化療法・腎移植：腎機能が不可逆的に低下した場合、血液透析や腹膜透析などの血液浄化療法が必要となる。その実際と問題点について。腎移植についてもふれる。

患者様講演会：血液透析ないし移植を経験した患者様の講演会。積極的に質問を。

○ 教科書

医学スーパーラーニングシリーズ 腎臓内科学（シュプリンガー・ジャパン，2010）

○ 参考書

体液異常と腎臓の病態生理（メディカル・サイエンス・インターナショナル，2007）

酸塩基平衡、水電解質が好きになる（羊土社，2010）

○ 参照 URL

<http://www.tmd.ac.jp/grad/kid/kid-J.htm>

○他科目との関連

呼吸は酸・塩基平衡に影響を与え、内分泌疾患は体液制御系に大きく関わっている。また、心不全、肝不全時の体液貯留の病態の理解を深める。2次性腎疾患の原因には、代謝疾患、膠原病、血液疾患、肝疾患などがあり、腎臓病との関連であわせて理解する。

○ 成績評価の評価法

試験を行う。試験範囲は2週間の学習内容に基づいて出題する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

内田信一 suchida.kid@tmd.ac.jp

(英訳) Reproduction ・ Development

○Abstract

この系別総合講義は、ヒトの生殖・発達・加齢に関連する事象を系統的、総合的に学習し理解することを目的に、解剖学、産科・婦人科学、泌尿器科学、小児科学、老年病内科学の分野を担当する教官により行われる。まず、嚕聖・女性生殖系の発生と組織・臓器の形態と聖理機能を統一的に理解する。次いで、受精、初期発生の段階を経て胚、胎児へと発育して分娩に至り、出生後の状態から新生児期、小児期、思春期を経て成熟期に発達するまでの、身体的・精神的特徴と変化、そしてそれを取り巻く諸問題について系統的に学習し、新たな視点からこの領域での総理解を目指す。さらに最終的には、加齢・老化に伴う生殖機能の変化にまで発展させて、身体的変化に留まらず精神心理的な問題点をも含めた生殖・発達・加齢の過程を総合的に理解できるように学習する。

○Goals

- 1) 男性および女性生殖器の発生と組織・解剖を説明できる。
- 2) 女性の性周期とその調節機構を説明できる。
- 3) 男性生殖機能、精子形成の機序を説明できる。
- 4) 妊娠の成立、妊娠の生理、妊娠に伴う母体の変化を概説できる。
- 5) 胎児・胎盤系の発育過程、その機能と形態的变化を説明できる。
- 6) 新生児の生理と発達を概説できる。
- 7) 小児の成長と発達を説明できる。
- 8) 思春期発来の機序と性徴、この時期における身体・精神機能の発達の特徴を説明できる。
- 9) 新生児・小児の発達過程における病態およびそれに起因する疾患群について理解する。
- 10) 小児における社会予防医学について理解し、その重要性や問題点について説明できる。
- 11) 小児の発達と両親・家族および社会とのかかわりについてその重要性・問題点を説明できる。
- 12) 加齢による身体・心理・社会的変化を説明できる。

○Method & Planning

生殖・発達・加齢」に関連する事象を総合的・系統的に理解できるように、各担当教官が事前に協議し授業内容の統一性・連続性を図る。授業形態としては、全体講義だけでなく小グループによる実習形式も随時に取り入れ、学生の積極的自主的な学習を重視する。

各セッション毎に学習成果を評価すると共に、コース終了時には総合的な理解度についても評価し、また教官に対する学生の評価も合わせて行う。

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		生殖・発達・加齢			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/12	木	12:50～14:10	イントロダクション	久保田俊郎	共用講義室1 M&Dタワー2階
7/19	木	10:30～11:50	男性・女性生殖機能の生理/生殖腺、性器の発生と分化①	井上明宏	〃
7/25	水	9:00～10:20	男性・女性生殖機能の生理/生殖腺、性器の発生と分化②(実習形式)	〃	臨床講堂 病院地下1階
7/26	木	9:00～10:20	男性生殖の生理学/精子形成	吉田 宗一郎	〃
7/27	金	10:30～11:50	男性生殖の生理学/勃起と射精	横山 みなと	〃
9/6	木	10:30～11:50	女性の生殖機能/①性周期とその調節機構	久保田俊郎	〃
9/7	金	9:00～10:20	女性の生殖機能/②妊娠の成立	(清水康史)	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/4	木	9:00～10:20	妊娠の生理/①初期発生(胚芽から胎児へ)	原田竜也	〃
10/5	金	9:00～10:20	妊娠の生理/②子宮内胎児発育	鳥羽三佳代	〃
10/17	水	9:00～10:20	妊娠の生理/③分娩前後の胎児・新生児	大井理江	〃
10/18	木	9:00～10:20	妊娠の生理/④妊娠・分娩・産褥による母胎の変化	(坂本秀一)	〃
10/19	金	9:00～10:20	小児の栄養	(清水俊明)	〃
11/1	木	10:30～11:50	神経Ⅱ	(荒木 聡)	〃
11/2	金	9:00～10:20	消化器	(清水俊明)	〃
11/12	月	10:30～11:50	小児保健Ⅰ	土井庄三郎	〃
11/20	火	10:30～11:50	内分泌Ⅰ	鹿島田健一	〃
1/22	火	10:30～11:50	老化に伴う変化Ⅰ	下門顕太郎	〃
1/23	水	10:30～11:50	老化に伴う変化Ⅱ	〃	〃
1/24	木	10:30～11:50	老年病実習	〃	〃
1/25	金	10:30～11:50	老年の分子生物学	〃	〃
1/29	火	9:00～10:20	小児の成長・発達／思春期発現の機序と性徴(女兒を主に)	(増田美香子)	臨床講堂 病院地下1階
1/30	水	9:00～10:20	女性の加齢	尾林 聡	〃
2/4	月	9:00～10:20	生殖・加齢試験		

(英訳) pediatrics

○教育目標

小児は単に「成人が小さくなった」ものと考えては理解できない。新生児、乳児、幼児、学童期、青年・思春期と各発達過程でその時期に応じた全身的な医学・医療・社会的問題があり、また成人同様に疾患は各臓器に特殊化・専門化もしている。更に、近年の医学・医療の進歩により、原因遺伝子が明らかにされる疾患が多くなるとともに、難病を抱えながら小児期を乗り越え成人になってゆく患者が増え、そのような人たちの健康管理についてはこれから明らかになってゆくことが多い。この講義では、小児を成長発達するという視点からその一般的原則と特殊性について総合的に学ぶと共に、疾患においては特に原因や病態生理につき理解することを目標とする。

○授業の概要

本講義は「小児科」の講義 17 コマと「生殖・発達・加齢」の講義の内、5 コマ、計 22 コマで構成され、試験もその 22 コマが対象となる。「生殖・発達・加齢」枠の中では「発達」「栄養」「保健」「虐待」の講義を行う。「小児科」枠では「新生児」「消化器」「神経」「アレルギー」「腎臓」「代謝」「内分泌」「膠原病」「悪性腫瘍」「遺伝性疾患」などの各臓器疾患とともに、「小児救急」「小児在宅医療」「遺伝カウンセリング」といった総合的社会的医療問題に関する内容を学ぶ。平成 24 年度から「歯の発達と小児疾患（仮題）」の講義を新規に開始する。（全体講義コマ数は不変で、「小児保健 2」と「小児救急」をひとつにまとめて対応する。）

○教科書・参考書

- 「ネルソン小児科学」 監修：後藤善勝 原著第 17 版 エルセビア・ジャパン（2005）
「小児科学」 編集：五十嵐隆 第 10 版 文光堂（2011）
「標準小児科学」 編集：内山 聖 第 7 版 医学書院（2009）
「小児疾患のとらえかた・眼でみるベットサイドの病態生理」
編集：水谷修紀他 文光堂（2003）
「小児科学・新生児学テキスト」 診断と治療社（2007）
「講義録 小児科学」 メジカルビュー社（2008）
「新生児学入門」 仁志田博司(著) 医学書院；第 3 版（2003）
「NICU マニュアル」：新生児医療連絡会（編）金原出版；第 4 版（2007）
「新生児医療（小児科臨床ピクシス）」五十嵐 隆(著, 編集), 渡辺 とよ子(編集) 中山書店（2010）
「睡眠関連病態（小児科臨床ピクシス）」五十嵐 隆(編集), 神山 潤(編集) 中山書店（2010）
「臨床アレルギー学 アレルギー専門医・認定医研修のために」 改訂 第 3 版
監修 宮本昭正 南光堂（2007）

- 「アレルギー疾患 診断・治療ガイドライン 2010」 日本アレルギー学会
協和企画 (2010)
- 「小児気管支喘息 診断・治療ガイドライン 2012」 日本小児アレルギー学会
協和企画
- 「改定 2 版 医療従事者と家族のための小児在宅医療支援マニュアル」 メディカ出版 (2010)
- 「小児内分泌学」 日本小児内分泌学会編 診断と治療社 (2009)
- 「症例から学ぶ先天代謝異常症」 日本先天代謝異常学会編 診断と治療社 (2009)
- 「小児代謝疾患マニュアル」 チョック&ホフマン, 松原 洋一 (翻訳),
診断と治療社 (2006)
- 「トンプソン&トンプソン 遺伝医学」 監訳: 福嶋義光 原著第 7 版
メディカル・サイエンス・インターナショナル (2009)
- 「症例でわかる 新しい臨床遺伝学」 監訳: 水谷修紀
メディカル・サイエンス・インターナショナル (2008)
- 「遺伝カウンセリングマニュアル」 監修: 新川詔夫 編集: 福嶋義光 改訂第 2 版
南江堂 (2003)

○他科目との関連

社会医学の講義で「小児の精神医学的問題 1 コマ」、また各臓器別講義の中で「小児血液 3 コマ」「小児循環器 4 コマ」「小児感染症 4 コマ」「小児体液管理 1 コマ」「小児呼吸器 1 コマ」が小児科関連の講義として組み込まれているので、その講義内容を小児科講義と関連付けて理解して欲しい。また、「免疫」「感染症」「公衆衛生」は小児科と密接に関係し、また成人「内科学」については小児との比較という点から対比して聴講してゆくことで理解を更に深めることにつながる。

「生殖・発達・加齢」の講義はヒトを誕生・成長・生殖・育児・加齢・老化といった一連の流れで捉えてゆく講義であり、小児科の講義もその流れの中で理解してゆくと更に理解が深まると考える。

○成績評価の方法

講義については筆記試験で学習成果を問う。

○受講上の注意

教科書などの成書に書かれていることは自学自習可能である。従って講義では小児の発達や、小児期における疾患を理解するうえでの見方・考え方を修得するよう心がけ、教科書では把握できないことがらに対しても問題意識をもって学習に当たってほしい。

○担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

長澤 正之 mnagasawa.ped@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後		小児科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/9	火	12:50～14:10	小児科学1(小児科概論)	水谷修紀	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/10	水	9:00～10:20	小児科学2(新生児Ⅰ)	(山南貞夫)川口市 立医療センター	〃
10/11	木	9:00～10:20	小児科学3(新生児Ⅱ)	(山南貞夫)	臨床講堂 医学部附属病院B1F
10/17	水	10:30～11:50	小児科学4(成長発達)	(神山 潤)東京ベ イ・浦安市川医療セン ター	共用講義室1 M&Dタワー2階
11/1	木	9:00～10:20	小児科学5(神経Ⅰ)	(荒木 聡)がん・感 染症センター都立駒 込病院	〃
11/14	水	9:00～10:20	小児科6(小児保健Ⅱ)/小児救急	長澤正之/ 西山光則	〃
11/21	水	9:00～10:20	小児科学7(内分泌Ⅱ)	鹿島田健一	〃
11/29	木	9:00～10:20	小児科学8(腎臓)	(水沢慵一)五の橋 キッズクリニック	〃
11/30	金	9:00～10:20	小児科学9(代謝)	鹿島田健一	〃
12/17	月	10:30～11:50	小児科学10(膠原病)	森尾友宏	〃
12/19	水	10:30～11:50	小児科学11(遺伝性疾患)	森尾友宏	〃
12/20	木	10:30～11:50	小児科学12(悪性腫瘍)	長澤正之	〃
12/21	金	10:30～11:50	小児科学13(アレルギー)	(大柴晃洋) 厚生年金病院部 長	〃
1/9	水	10:30～11:50	小児科学14(遺伝カウンセリング)	吉田・小笹	〃
1/10	木	10:30～11:50	小児科学15(虐待)	(渡部誠一) 土 浦協同病院部長	〃
1/11	金	10:30～11:50	小児科学16(在宅医療)	(前田浩利) あおぞら診療所	〃
1/16	水	10:30～11:50	小児科学17(歯の発達と小児疾患)	(高木裕三) 歯学部小児歯科	〃
1/21	月	9:00～10:20	小児科学試験		

(英訳) Endocrinology and Metabolism

○教育目標

「内分泌器官」が産生する「ホルモン」の分泌・代謝・作用と糖脂質代謝の生理学とその破綻により発症する主要な内分泌疾患と糖尿病を中心とする代謝疾患（生活習慣病）の病態生理（成因・症候）と診断・治療の概要を理解する。更に、各疾患に焦点を当てた症例基盤型学習により論理的思考力、自己問題提起力、自己問題解決力を身に付ける。以上より、「ホルモン」による複雑かつ巧妙な生体の恒常性維持機構と臨床現場において役に立つ内分泌・代謝疾患に関する基礎知識を習得する。

○授業の概要

「内分泌器官」と「ホルモン」に関する総論を踏まえて、視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などに関連する内分泌疾患と糖尿病を中心とする代謝疾患（生活習慣病）に関する各論を学習する。「内分泌器官」の形態学（解剖学、病理学）や画像診断学（放射線科）あるいは「ホルモン」の生化学、生理学、薬理学、分子生物学の基礎を踏まえて、各臓器別疾患としては脳神経外科（視床下部・下垂体）、頭頸部外科（甲状腺・副甲状腺）、泌尿器科（副腎・睾丸）、産婦人科（卵巣）、小児科（先天性代謝異常）、消化器外科（膵・消化管）と関連して統合的に学習する。「ホルモン受容体の異常」や「ホルモンと腫瘍」などの最先端の知識を習得する。

○授業のキーワード

ホルモン、オートクリン・パラクリン、レセプター、情報伝達系、ネガティブフィードバック

○教科書・参考書

Williams Textbook of Endocrinology: Larssen 他 編集（第 11 版）Saunders, 2008

ジェームソン&デグルート内分泌学：De Groot 他 編集（第 6 版）Saunders, 2010

Joslin Diabetes Mellitus: Kahn 他 編集（第 14 版）Lippincott Williams & Wilkins

NIM Lecture 内分泌・代謝学：井村裕夫 他 編集（第 4 版）医学書院, 1997

内科学：杉本恒明 他 編集（第 9 版）朝倉書店, 2007

新臨床内科学：高久文麿 他 編集（第 9 版）医学書院, 2009

○成績評価の方法

最終の筆記試験（コアカリキュラムの内容に準じ、医師国家試験に準拠した出題形式）の結果により合否判定する。

○受講上の注意

内分泌・代謝学は基礎知識を十分把握しておけばおのずと病態生理が理解できる。したがって、必ず予め基礎知識を復習した上で病態生理を理解し、症候、診断、治療へと進み総合的に理解を深めてもらいたい。質問は講義終了後に個別にするのではなく、講義中に積極的にして下さい。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

吉本貴宣 （tyoshimoto.mem@tmd.ac.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		内 分 泌 代 謝			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/31	水	9:00～10:20	内分泌代謝総論1	小川	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/31	水	10:30～11:50	内分泌代謝総論2	小川	〃
12/17	月	14:20～15:40	脂質異常症	川村	〃
1/8	火	10:30～11:50	副腎疾患	吉本	〃
1/9	水	9:00～10:20	肥満とやせ	菅波	〃
1/11	金	9:00～10:20	糖代謝異常1	小川	〃
1/21	月	10:30～11:50	糖代謝異常2	三原	〃
1/28	月	10:30～11:50	臨床栄養学	南	臨床講堂 病院地下1階
1/28	月	12:50～14:10	副腎疾患/PBL	吉本	〃
1/29	火	12:50～14:10	甲状腺疾患	南	〃
1/29	火	14:20～15:40	糖代謝異常3	三原	〃
1/30	水	12:50～14:10	多発内分泌疾患とホルモン産生腫瘍	泉山	〃
1/30	水	14:20～15:40	高血圧(含二次性高血圧)	吉本	〃
1/31	木	12:50～14:10	糖代謝異常4	三原	〃
2/1	金	12:50～14:10	副甲状腺疾患	堀内	〃
2/4	月	12:50～14:10	視床下部下垂体疾患	土井	〃
2/4	月	14:20～15:40	視床下部下垂体疾患/PBL	土井	〃
2/6	水	9:00～10:20	ホルモン受容体異常症	杉山	〃
2/14	木	9:00～10:20	内分泌代謝試験		

(英訳) Social Medicine

○ 教育目標

医学教育は一般に臨床系科目、基礎系科目と社会医学系科目に区分される。社会医学は直接社会に働きかけるだけでなく、臨床医学や基礎医学は社会に適応してこそ人々の健康に貢献できるものであることから、社会医学はこれらの学問の社会への橋渡しの役割を果たしている。

現在社会は、超高齢化社会の到来に伴う諸問題、グローバル化に伴う新興・再興感染症のアウトブレイクと蔓延、地球環境問題等の深刻化する環境の健康影響、児童虐待や都市犯罪等の新しい健康問題など、医学領域では社会医学をめぐる多数の深刻な問題を抱えている。さらに、完治を期待することのできない悪性腫瘍や循環器・代謝疾患などの慢性疾患が医療の対応すべき疾患の大部分を占める時代となっている。こうした時代にあっては、医師は、全人的な医療、チーム医療、プライマリケアと予防医学の重視、地域保健医療福祉システムの一員としての医師の役割、国際的視野、医療関連法規の理解、社会環境に深く関連している健康問題への対応を習得する必要がある。

社会医学の内容の多くは時代背景を直接反映し、常に変化するものが多い。また一方、時代を経ても変わらぬ基本的で普遍的な学術事項や、集団を扱うアプローチ手法や、公共の健康を確保するという考え方の啓発もある。

近年、患者とのコミュニケーションや、医師のあるべき姿として、患者中心の医療の実践、安全性の配慮、信頼される人間関係の構築などの能力の養成が求められている。人間は社会的な存在である。患者とは、社会の中で生活し、人生を営む人々である。患者を社会から切り離して考えることはできない。今後の求められる医療における社会医学の必要性は大きく、また、山積する保健医療福祉制度的課題の解決は目下の急務である。患者を取り巻く社会的要因まで広い視野を持った全人的医療を実施できる医師、および直接的に社会に働きかけることのできる医師を養成することが社会医学の役割である。

系別総合講義「社会医学」では、「患者中心の医療」を実践し、社会医学的視点を持った医師となるための、基礎的な知識、技能および態度の習得を目的とする。

○授業の概要

授業内容は「医学教育モデルコアカリキュラム」および「医師国家試験出題基準」に準じる。その他、社会医学に関連する重要な課題や新しい課題についても教示する。本学大学院医歯学総合研究科環境社会医歯学系の教員の他、社会医学に関連する臨床系分野が担当する。知識の習得とともに、医療を取り巻く社会的状況を踏まえて実際の課題を把握し、その解決方法を学ぶことが要求される。自主性と問題意識を持ち、積極的な授業の参加を期待する。

○教科書・参考書

必要があれば、各担当教員が指示する。

社会医学事典、朝倉書店、2002

○他科目との関連

社会医学は、基礎医学、臨床医学の各科目との深く関係する。MIC「国際社会と医療」では、国際社会から社会医学的視点から講義を行ったが、系別講義「社会医学」では、さらに個別な課題に踏み込み、社会医学の基礎を学ぶ。また、社会医学の応用分野である衛生学、医動物学、法医学、公衆衛生学とは密接に関係し、これらの系統講義を十分に理解する上で、社会医学の修得は必須である。

○成績評価の方法

出席状況、授業態度、および最終筆記試験の結果から総合的に判定する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

法医学分野 上村公一 kuemura.legm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		社 会 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/13	金	9:00～10:20	社会・環境と健康:健康の社会的決定要因	高野健人	共用講義室1 M&Dタワー2階
4/16	月	9:00～10:20	国際寄生虫症	赤尾信明	〃
4/18	水	10:30～11:50	寄生虫対策からヘルスプロモーションへ	太田伸生	〃
4/23	月	9:00～10:20	NTD、顧みられない感染症	太田伸生	〃
5/21	月	9:00～10:20	地球環境変化と感染症	赤尾信明	〃
7/2	月	10:30～11:50	生活習慣と健康	泉山 肇	〃
7/3	火	10:30～11:50	医療安全と健康危機管理政策	河原和夫	〃
7/5	木	10:30～11:50	人の死の概念	上村公一	臨床講堂 医学部附属病院B1F
7/9	月	10:30～11:50	小児の精神保健医療	(上智大学 横山恭子)	共用講義室1 M&Dタワー2階
7/12	木	10:30～11:50	死亡診断書(死体検案書)の意義・書き方	上村公一	〃
7/17	火	10:30～11:50	犯罪と医学研究	(科学警察研究所 櫻田宏一)	〃
7/19	木	9:00～10:20	地球環境問題	湯浅保仁	〃
7/24	火	10:30～11:50	環境発がん	湯浅保仁	臨床講堂 医学部附属病院B1F
7/25	水	10:30～11:50	医療関連法規	河原和夫	〃
9/4	火	10:30～11:50	地域における高齢者医療福祉	高野健人	共用講義室1 M&Dタワー2階
9/5	水	9:00～10:20	病院機能における医療福祉	泉山 肇	〃
9/20	木	9:00～10:20	児童虐待と乳幼児突然死症候群	(帝京平成大学 澤口聡子)	〃
9/25	火	9:00～10:20	環境保健と環境アセスメント	中村桂子	臨床講堂 医学部附属病院B1F
10/5	金	12:50～14:10	疾病分類と衛生統計	中村桂子	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/9	火	14:20～15:40	健康格差	高野健人	〃
11/26	月	9:00～10:20	社会医学試験		

(英訳) Anatomy・Dissection Practice of Human Body

○教育目標

人体解剖学は、医学を学ぶうえで最も基本的な知識の一つといえる。そして、正常人体の各構造の正確な名称を理解し、位置を知り、それを表現できることが必要である。しかし、人体は、複雑であり、その構造の緻密さをすべて網羅するためには、学習項目は膨大なものとなることは否めない。

解剖学は記憶に追われるというイメージがあるが、その一方で名称を覚えてだけでは、使える有機的な知識とはならず、徒労感のみが積みまとうことになる。多くの場合、断片的な情報量は増えているのに、それらが統合され、3次元的な配置を把握するという段階までいかないために、知識となっていないことが多い。そのため、講義や教科書・アトラスを用いた座学のみならず、人体解剖学実習を通じて、自ら剖出し、観察していくことによって、空間的な認識を行なうことが必要となる。

『人体解剖学』というと、多くの場合、『系統解剖学』と同義と理解されることが多い。しかし、系統解剖とは器官系ごとに横断的に学ぶというものである。それに対し、本講義・実習においては、個々の部位の関わる様々な器官系をその配置や個体発生的な意味を中心に学んでいくという意味で、『局所解剖学』と分類される。

講義は、個々の実習内容の事項の解説というよりも、観察や学習のポイント、系統発生ならびに個体発生との関係、臨床的な関連事項などを概説するものとなる。それによって、器官の配置を理解するのみではなく、神経・血管といった体内の配線図を把握し、諸構造物の相互位置関係を神経・血管とのつながりを通じて理解することができる。個体発生の理解によって、形態がそこにあることが偶然ではなく、必然であるということを理解することを目的としている。

予習によって基本的な用語を把握し、講義によって概略を知り、自ら剖出し、さらにそれをどのように考えるかをグループで討議しながら理解を進めるという繰り返しは、学習の反復性、定着性などから必要なことである。しかし、カリキュラムの編成上、十分な時間をとることができないため、いかに効率よく学習するか、さらには予・復習を含めた自習が求められることになる。

当教室で編集した観察手順や項目などをまとめた、実習用マニュアルにしたがって予習をおこなってから実習に臨んでほしい。実習用マニュアルには、各回ごとに、その日の学習項目の確認用課題が添付されている。課題については、グループ討論をおこない、まとめたうえで提出をすることとする。これらにより、確実な理解を目指す。

○授業の概要

- 1) 講義と実習とは一体となって進められる。講義の中で概説されたり、例示される問題などは、観察のための指針となるものを含んでいるから、参考にされたい。
- 2) 解剖学用語については、日本語はもちろんのことであるが、英語の教科書などを理解するために必要となるので、英語・ラテン語の用語についても、学習が必要である。用語集については、製作中であるので、自習に活用されたい。
- 3) 講義においては、解剖学の名称の説明にととまらず、その言葉の定義、個体発生・系統発生学的意味についても触れる。人体が複雑な個体発生の結果であり、証拠であるということを理解することを目標とする。
- 4) 解剖学実習は、学生3～4名に1体ずつ解剖実習体が与えられる。解剖学実習に提供されたご遺体は、すべて生前の自発的な意志にもとづいて献体された方ばかりである。できるだけ多くのことを積極的に学んでいただきたい。そのためには予習、復習が重要であることはいまでもない。スケジュールの都合上、実習の予定は非常にタイトであるため、遅れが生じないように努力されたい。実習は、時間の都合上、上半身・下半身に分かれて分担する部分があるが、とくに胸部・腹部内臓といった重要なについては、できるだけグループ全員で行うよう配列した。グループごとに討議しながら理解に努められたい。

○授業のキーワード

系統解剖、臨床解剖、局所解剖、比較解剖、形態形成、位置関係、骨格、関節、筋、動脈、静脈、リンパ系、脊髄神経、脳神経、四肢の形成と神経叢、自律神経系、心臓、肺、縦隔、消化管、肝・胆・膵、泌尿・生殖器、腹膜後器官、鰓弓器官、筋膜、腹膜

○教科書・参考書

系統解剖学書

Williams et al. ed. Gray's Anatomy (38th ed.) Churchill Livingstone

Gray's Anatomy : The Anatomical Basis Of Clinical Practice (Gray's Anatomy: the Anatomical Basis of Clinical Practice) (39th ed.) Churchill Livingstone

Clemente ed. Gray's Anatomy (30th ed.) Lea & Febiger

分担 解剖学 (第11版) 金原出版

- 1 総説・骨学・靱帯学・筋学
- 2 脈管学・神経系
- 3 感覚器学・内臓学

金子丑之助 日本人体解剖学 (第19版) 南山堂

- ① 骨格系、筋系、神経系
- ② 循環器系、内臓学、感覚器

局所・臨床解剖学書

Gray's Anatomy for Students (Paperback) by Richard Drake, Wayne Vogl, Adam Mitchell Paperback, 1150pages Churchill Livingstone

(訳本) グレイ解剖学 原著第1版 出版社 エルゼビア・ジャパン

人体解剖学ハンドブック カラー版1・2 西村書店

ムーア 臨床解剖学 メディカル・サイエンス・インターナショナル 坂井達雄訳
Snell 臨床解剖学 メディカル・サイエンス・インターナショナル 山内昭雄訳

アトラス

プロメテウス解剖学アトラス 医学書院

(解剖学総論・運動器系、頸部/胸部/腹部・骨盤部頭部/神経解剖)

プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院

グレイ解剖学アトラス エルゼビアジャパン

○他科目との関連

解剖学は人体の立体構造や複雑な配線の絡み合いを理解する学問である。したがって、ほとんどの科目の基礎となるものであり、きわめて密接な関連がある。また実習で養われた観察眼、所見採取能力ならびに、それらの統合的理解をはかる力は、必ず診断、治療などに役立つものとする。

4月から、多くの他授業科目もはじまる。解剖での基本的な用語を習得する前にはじまってしまうことが考えられる。しかし、人体解剖学は解剖実習という作業とともに進めるため、他科目の進度と合わなくなる部分が出てくることは残念ながら仕方がない。

○成績評価の方法

口頭試験および筆記試験によって学習成果を問う。また、実習ごとの課題のレポートおよび、実習中に提出する課題などについても評価の対象になる。

○受講上の注意

実習は、貴重な遺体を用いての実物観察の重要な機会であり、もっとも効率的な学習法であるからかならず出席することが必要である。効率的な実習をおこないかつ十分な効果をあげるためには、十分な予習が必要である。

講義・実習については、時間厳守を旨とする。また、とくに実習における遅刻・欠席は、その後の実習に影響が出るため、遅れが出た場合には、時間外に自主的に追いつくようにすること。

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前		人 体 解 剖 学			
年月日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/11	水	12:50～14:10	解剖学総論（1）	秋田恵一	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
4/11	水	14:20～15:40	解剖学総論（2）	〃	〃
4/12	木	12:50～14:10	体幹の骨	〃	〃
4/13	金	12:50～14:10	上肢の骨	〃	〃
4/16	月	12:50～14:10	下肢の骨	〃	〃
4/17	火	12:50～14:10	頭の骨	〃	〃
4/18	水	12:50～14:10	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	〃	〃
4/20	金	12:50～14:10	頸部(皮下)・下腹部(皮下)	〃	〃
4/23	月	12:50～14:10	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	〃	〃
4/24	火	12:50～14:10	体表観察(腹臥位)：後頭部・後頸部・背部(皮下)：腰部・殿部(皮下)・大腿屈側(皮下)	〃	〃
4/25	水	12:50～14:10	後頭の筋・浅背筋・上肢帯近位部・殿部(浅層)	〃	〃
4/27	金	12:50～14:10	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	〃	〃
5/1	火	12:50～14:10	頸部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	〃	〃
5/2	水	12:50～14:10	腋窩・腕神経叢・上肢の切離：大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)・下肢の切離	〃	〃
5/7	月	12:50～14:10	胸郭・上縦隔・甲状腺	〃	〃
5/8	火	12:50～14:10	心臓の神経・後縦隔	〃	〃
5/9	水	12:50～14:10	心臓・肺	〃	〃
5/11	金	12:50～14:10	腹膜・腸間膜の脈管・神経(1)	〃	〃
5/15	火	12:50～14:10	腹膜・腸間膜の脈管・神経(2)	〃	〃
5/16	水	12:50～14:10	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	〃	〃
5/18	金	12:50～14:10	消化管・肝臓	〃	講堂 5号館4階
5/22	火	12:50～14:10	腹膜後器官	〃	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
5/23	水	12:50～14:10	横隔膜・後体壁・[脳神経総論]	〃	〃
5/25	金	12:50～14:10	脊柱管・脊髓・内頭蓋底・頭部離断・咽頭後壁・椎前筋・椎側筋・腰部離断	〃	〃
5/29	火	12:50～14:10	顔面(皮下・浅層)・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	〃	講堂 5号館4階
5/30	水	12:50～14:10	咀嚼筋(浅層)・顔面(中層)・側頭下窩・会陰部(皮下)・寛骨の除去	〃	〃
6/1	金	12:50～14:10	顔面(深層)・舌・会陰部(浅層)	〃	〃
6/5	火	12:50～14:10	咽頭(外側)・仙骨神経叢	〃	〃
6/6	水	12:50～14:10	咽頭・喉頭・骨盤出口筋	〃	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
6/8	金	12:50～14:10	肩甲帯・上肢(皮下)・内腸骨動脈・骨盤神経叢	〃	講堂 5号館4階
6/12	火	10:30～11:50	上腕屈側・上腕伸側：骨盤内臓	〃	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F

平成24年度医学部医学科授業内容

3 前	学 期	年 期	人 体 解 剖 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室	
6/13	水	10:30～11:50	眼窩・眼球 ： 下腿屈側（皮下）	〃	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F	
6/15	金	10:30～11:50	外耳・中耳・内耳 ： 下腿伸側（皮下）・足背（皮下）	〃	〃	
6/19	火	10:30～11:50	鼻腔・副鼻腔・口蓋 ： 下腿伸側（浅層）・足背（浅層）	〃	〃	
6/20	水	10:30～11:50	前腕屈側（浅層）・手掌（皮下・浅層） ： 下腿屈側（浅層）	〃	〃	
6/22	金	10:30～11:50	前腕屈側（深層）・手背 ： 足底（浅層）	〃	〃	
6/25	月	10:30～11:50	手掌（深層）・前腕伸側（浅層・深層） ： 下腿屈側（深層）・足底（深層）	〃	〃	
6/26	火	10:30～11:50	関節（上肢） ： 関節（下肢）	〃	〃	
6/27	水	12:50～14:10	総括・まとめ(M3のみ)	〃	〃	
9/3	月	9:00～10:20	人体解剖学試験			

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前	年 期	人体解剖学実習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/12	木	14:20～17:10	骨学実習(1)	秋田恵一 山口久美子 二村昭元 原田理代 (坂本裕次郎)	組織実習室
4/13	金	14:20～17:10	骨学実習(2)		〃
4/16	月	14:20～17:10	骨学実習(3)		〃
4/17	火	14:20～17:10	骨学実習(4)	〃	〃
4/18	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(1)	〃	解剖実習室
4/20	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(2)	〃	〃
4/23	月	14:20～17:10	人体解剖学実習(3)	〃	〃
4/24	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(4)	〃	〃
4/25	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(5)	〃	〃
4/27	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(6)	〃	〃
5/1	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(7)	〃	〃
5/2	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(8)	〃	〃
5/7	月	14:20～17:10	人体解剖学実習(9)	〃	〃
5/8	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(10)	〃	〃
5/9	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(11)	〃	〃
5/11	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(12)	〃	〃
5/15	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(13)	〃	〃
5/16	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(14)	〃	〃
5/18	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(15)	〃	〃
5/22	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(16)	〃	〃
5/23	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(17)	〃	〃
5/25	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(18)	〃	〃
5/29	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(19)	〃	〃
5/30	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(20)	〃	〃
6/1	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(21)	〃	〃
6/5	火	14:20～17:10	人体解剖学実習(22)	〃	〃
6/6	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(23)	〃	〃
6/8	金	14:20～17:10	人体解剖学実習(24)	〃	〃
6/12	火	12:50～15:40	人体解剖学実習(25)	〃	〃
6/13	水	12:50～15:40	人体解剖学実習(26)	〃	〃
6/15	金	12:50～15:40	人体解剖学実習(27)	〃	〃
6/19	火	12:50～15:40	人体解剖学実習(28)	〃	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前	期	人体解剖学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/20	水	12:50～15:40	人体解剖学実習(29)	秋田恵一 山口久美子 二村昭元 原田理代 (坂本裕次郎)	解剖実習室
6/22	金	12:50～15:40	人体解剖学実習(30)		〃
6/25	月	12:50～15:40	人体解剖学実習(31)		〃
6/26	火	12:50～15:40	人体解剖学実習(32)	〃	〃
6/27	水	14:20～17:10	人体解剖学実習(33)	〃	〃

(英訳) Histology

○教育目標

細胞は多細胞生物の生命現象の基本単位であり、その構造と機能の研究は生命科学・医学の基盤となるものである。「組織学」では「細胞生物学Ⅰ、Ⅱ」「細胞・組織の構造」で学んだ細胞内および細胞間での生命現象に関する基礎知識を基盤として、組織レベルでの機能発現のメカニズムおよび構造と機能の相関を理解する事を目指す。人体の組織構造は複雑であるが、ほとんどの組織は基本組織構造の組み合わせとして考えることが可能である。各臓器に特有の組織構造をこのような観点で理解し、構造と機能を結びつける事を最終的な目的とする。

○授業の概要

組織の基本構築に関する講義の後、実際の組織標本について顕微鏡を用いた観察を行う。上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織という基本組織構造については、すでに「細胞・組織の構造」で学んだ。これらの知識を基に、以下の組織についてその構造を理解し、実際の標本を観察する。細胞、組織の構造がどのように組み合わせられて個々の組織が形成され、さらに臓器としての機能を発揮するのかを理解する。

○ 学習方法

講義と実習からなる。講義では、実習する組織について概説し、実習のポイントを解説する。実習では、顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチする。

○ 教科書

組織学の教科書とできれば図譜を揃えるとよい。藤田藤田 標準組織学 総論各論 (第4版) 医学書院 2010 ; ROSS 組織学 南江堂 2010

○ 参考書

Molecular Biology of the Cell (細胞生物学的事項について)

○ 参照 URL

www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

○ 成績評価の評価法

講義については筆記試験で評価する。

実習は実習試験とスケッチの提出により評価する。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

中田隆夫 nakata.cbio@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前		組 織 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/11	水	10:30～11:50	血管および軟骨	井上明宏	共用講義室1 M&Dタワー2階
4/18	水	9:00～10:20	皮膚・歯	中田隆夫	〃
4/25	水	9:00～10:20	骨	井上明宏	〃
5/2	水	9:00～10:20	上部消化管	〃	〃
5/9	水	9:00～10:20	下部消化管	〃	〃
5/16	水	9:00～10:20	肝臓・膵臓	〃	〃
5/23	水	9:00～10:20	呼吸器	中田隆夫	〃
5/30	水	9:00～10:20	泌尿器	井上明宏	〃
6/6	水	9:00～10:20	内分泌器官	中田隆夫	〃
6/20	水	9:00～10:20	眼	井上明宏	〃
6/27	水	10:30～11:50	耳	中田隆夫	〃
7/9	月	9:00～10:20	組織学試験		

3 学 年 前		組 織 学 実 習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/12	木	9:00～11:50	血管および軟骨	井上明宏	組織実習室 3号館4階
4/19	木	9:00～11:50	皮膚・歯	中田隆夫	〃
4/26	木	9:00～11:50	骨	井上明宏	〃
5/7	月	9:00～11:50	上部消化管	〃	〃
5/10	木	9:00～11:50	下部消化管	〃	〃
5/17	木	9:00～11:50	肝臓・膵臓	〃	〃
5/24	木	9:00～11:50	呼吸器	中田隆夫	〃
5/31	木	9:00～11:50	泌尿器	井上明宏	〃
6/7	木	9:00～11:50	内分泌器官	中田隆夫	〃
6/21	木	9:00～11:50	眼	井上明宏	〃
6/28	木	9:00～11:50	耳	中田隆夫	〃

(英訳) Physiology

○ 教育目標

生命の仕組み、特に人体機能の特性とメカニズムを理解する。

臨床医学を学ぶための基盤を形成する。

生理学は、臨床医学からもたらされた多くの知見によっても成り立っていることを理解する。

生理学を単に理解、暗記するという姿勢にとどまらず、将来この分野に還元できるような科学的な考え方を身につける。

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

○ 学習方法

講義と実習からなる。講義の一部はディスカッション形式とする。講義では、筋、消化器、代謝、心臓・循環器、呼吸器、内分泌、動物モデルを中心に扱う。神経生理学、血液生理学、尿生成と体液の構成についてはそれぞれ神経科学、血液学、腎体液制御学で扱う。一部に順番が前後したり、重複したりする項目がある。したがって、教育カリキュラムに従うのみではなく、繰り返し自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。

○ 教科書

標準生理学 第7版 (医学書院、2009年)

Ganong's Review of Medical Physiology 第23版 (McGraw-Hill Medical、2009年)

(同翻訳) ギャノン生理学 第23版 (丸善、2011年)

Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第12版 (Saunders、2010年)

(同翻訳) ガイトン生理学 (原著11版、エルゼビアジャパン、2010年)

○ 参考書

各講義で適宜紹介する。

○ 成績評価の評価法

講義については筆記試験によって評価する。実習は、出席、実習態度、レポートによって評価する。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

水島昇 (nmizu.phy2@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		生 理 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	火	10:30～11:50	体温調節	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
5/1	火	10:30～11:50	代謝生理	水島 昇	〃
5/11	金	10:30～11:50	呼吸(1)	三宅修司	〃
5/14	月	10:30～11:50	呼吸(2)	三宅修司	〃
5/15	火	10:30～11:50	消化と吸収(2)	水島 昇	〃
5/16	水	10:30～11:50	消化管運動	古川哲史	〃
5/21	月	10:30～11:50	心臓(1)心臓の電氣的活動	古川哲史	〃
5/22	火	10:30～11:50	心臓(2)心筋の興奮と収縮	古川哲史	〃
5/23	水	10:30～11:50	心臓(3)心電図	古川哲史	〃
5/25	金	10:30～11:50	心臓(4)ポンプとしての心臓1	磯部光章	〃
5/29	火	10:30～11:50	心臓(5)ポンプとしての心臓2	磯部光章	講堂 5号館4階
5/30	水	10:30～11:50	循環(1)ヘモレオロジー・血行力学	吉田雅幸	〃
6/1	金	10:30～11:50	循環(2)循環の神経性調節	吉田雅幸	〃
6/4	月	10:30～11:50	内分泌(1)視床下部・下垂体	水島 昇	〃
6/5	火	10:30～11:50	内分泌(2)甲状腺・副甲状腺	水島 昇	〃
6/6	水	10:30～11:50	内分泌(3)膵臓	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
6/8	金	10:30～11:50	内分泌(4)副腎	水島 昇	講堂 5号館4階
6/11	月	10:30～11:50	遺伝子組み換えマウス	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
6/14	木	10:30～11:50	内分泌(5)総論	水島 昇	臨床講堂 病院地下1F
6/15	金	9:00～10:20	代謝生理学特論	水島 昇	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2F
9/10		9:00～10:20	生理学試験		

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		生 理 学 実 習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/17	火	12:50～17:10	実習講義	システム神経生理学 細胞生理学	実習室 3号館6階
7/18	水	12:50～17:10	実習(1)	〃	〃
7/19	木	12:50～17:10	実習(2)	〃	〃
7/20	金	12:50～17:10	実習(3)	〃	〃
7/23	月	12:50～17:10	実習(4)	〃	〃
7/24	火	12:50～17:10	実習(5)	〃	〃
7/25	水	12:50～17:10	実習(6)	〃	〃
7/26	木	12:50～17:10	実習(7)	〃	〃
7/27	金	12:50～17:10	実習のまとめ・小テスト	〃	〃

(英訳) Medical biochemistry

○ 教育目標

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
倫理的事項に配慮して研究できる。
未解決の問題を見出し、仮説を立て、指導者のもとで解決の資源と方法を見出せる。
臨床や科学の興味ある領域の研究を、指導者のもとで行える。
自由研究で明らかになった成果を発表できる。
他者を尊重し敬意をもって接することが出来る。
個人生活と医学科での学習、社会的責務のバランスをとれる。
自立と監督・指導の必要性のバランスをとれる。
時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示せる。
文書課題を判読可能な形で期限内に提出できる。
機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。
誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる。
他者への良識を逸脱する振る舞いを認識し、改めることができる。
エラーを指導者、監督に報告できる。
記述、プレゼンテーション、論文において著作権を尊重して行動できる。
自己の知識・能力・振る舞いを批判的に省察し、改善の目標を設定し、学習活動に取り組める。
他人に建設的なフィードバックができる。
ポートフォリオを活用できる。
疾患の病因・病態・臨床徴候の理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

○ 学習方法

系統講義：下記、参考書のいずれかを通読する。
実習：実習に参加する。

○ 教科書

教科書として特定の本を指定しません。

○ 参考書

シンプル生化学 南江堂; 改訂第5版

Lippincott's Illustrated Reviews: Biochemistry, International Edition (Lippincott's Illustrated Reviews Series) Lippincott Williams & Wilkins; 5th revised international student ed 版

Harper's Illustrated Biochemistry, 28th Edition (LANGE Basic Science) McGraw-Hill Medical; 28 版

生化学の優れた参考書は多々ありますが、上記は比較的、医学の立場から書かれています。
どの本でもよいのですが、どれか1冊、通読してください。

○ 参照 URL

特になし。

○ 成績評価の評価法

系統講義：筆記試験

実習：実習レポート、指導教官による全般的評価

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

畑 裕 yuhammch@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 ・ 後 期		生化学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/11	火	10:30～11:50	糖代謝 I	畑 裕	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2階
9/12	水	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
9/13	木	10:30～11:50	〃 III	〃	〃
9/14	金	10:30～11:50	脂質代謝 I	〃	〃
9/18	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
9/19	水	10:30～11:50	〃 III	〃	〃
9/21	金	10:30～11:50	脂質代謝と疾患	吉田 雅幸	〃
9/24	月	10:30～11:50	アミノ酸代謝 I	畑 裕	〃
9/25	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
9/26	水	10:30～11:50	〃 III	〃	〃
9/27	木	10:30～11:50	エネルギー代謝 I	〃	〃
9/28	金	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
10/1	月	10:30～11:50	プリン・ピリミジン I	〃	〃
10/2	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
10/3	水	10:30～11:50	ポルフィリン・ビリルビン・金属	〃	〃
10/5	金	10:30～11:50	ビタミン I	〃	〃
10/9	火	10:30～11:50	〃 II	〃	〃
1/7	月	9:00～10:20	生化学試験		

※ 9月21日～26日のいずれか1日、動物慰霊祭のため5号館4階講堂に変更予定。詳細は追って教務課より連絡します。

平成24年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 ・ 後 期		生化学実習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/12	月	12:50～17:10	実 習	畑 裕 鳥山 一	実習室 3号館5階
11/13	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
11/14	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
11/15	木	10:30～17:10	〃	〃	〃
11/16	金	10:30～17:10	〃	〃	〃
11/19	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
11/20	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
11/21	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
11/22	木	10:30～17:10	〃	〃	〃

(英訳) Pharmacology

○教育目標

基本的、代表的な薬物を取り上げて、その薬理作用、作用機序、代謝、臨床応用などについて系統的に解説し、その後の臨床講義や臨床の現場で多数の薬物に遭遇しても応用できるような薬理学的基礎を与えることを目的としています。また生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行います。また実習を通じた教育を重視しており、動物実験代替法としてコンピュータシミュレーションプログラムを用い、様々な組織標本、動物個体に対する多くの薬物の薬理効果を自分の目で直接確認してもらいます。また、薬物動態に関しても、実際に人を対象として実習を行ったならば膨大な時間や労力を要し、実質的には実施不可能な項目についても、シミュレーション実習により、短時間で行うことが可能になりました。

(1) 講義

題目及び内容	担当	題目及び内容	担当
総論 序論、薬力学	田邊	内分泌薬理	野田、三枝
薬物動態	安原	抗菌薬	安原
血管系薬理	三枝	免疫薬理	田邊
循環薬理	田邊	臨床薬理	安原
呼吸器薬理	田邊	イオンチャンネルとレセプター(*)	田邊
消化器薬理	田邊	神経筋接合部(*)	田邊
利尿薬	三枝	シナプスの分子生物学(*)	田邊
泌尿器・生殖器薬理	三枝	Ca と細胞内情報伝達(*)	田邊
鎮痛薬	田邊	自律神経薬理(*)	三枝
抗炎症薬	田邊	中枢神経薬理(*)	三枝
抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊	神経精神薬理(*)	三枝

(*)は神経科学系統講義

(2) 実習

題目	題目
実習講義	4. カエル腹直筋標本
シミュレーション実習	5. モルモット回腸標本
1. ラット横隔神経-横隔膜標本	6. 輸精管標本
2. 前頸骨筋-座骨神経標本	7. 動脈および静脈リング
3. 心拍数血圧標本	8. 薬物動態シミュレーション

○学習方法

受講前に必ず教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

○ 教科書

- ・ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 2006
- ・The Pharmacological Basis of Therapeutics 12 版 2011
- ・グッドマンギルマン薬理書（上・下巻）11 版 2007
- ・医系薬理学 2005
- ・図解薬理学 2008
- ・イラスト薬理学 2006
- ・イオンチャネルの分子生物学 1998
- ・カラー図解 これならわかる薬理学 2006
- ・ローレンス臨床薬理学 2006
- ・NEW 薬理学 2007
- ・標準薬理学 2001
- ・Color Atlas of Pharmacology 2005

○ 参考書

- ・Principles of Neural Science 5th 2013
- ・Molecular Biology of the Cell 5th 2008

○ 成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。神経系の薬理に関しては神経科学として別に試験を行う。また実習に関しては、出席し実験レポートを提出することが必須で、実習態度も重視する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

田邊 勉 t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後 期		薬 理 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/25	金	9:00～10:20	薬理学総論	田邊 勉	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2階
5/28	月	9:00～10:20	薬物動態学(1)	安原真人	〃
5/29	火	9:00～10:20	薬物動態学(2)	〃	〃
6/1	金	9:00～10:20	循環器系(1):心不全治療薬、抗不整脈薬	田邊 勉	講堂 5号館4階
6/4	月	9:00～10:20	循環器系(2):虚血性心疾患治療薬、高血圧治療薬	〃	〃
6/5	火	9:00～10:20	血管系薬理:抗血栓薬、高脂血症治療薬循環器系	三枝弘尚	〃
6/11	月	9:00～10:20	呼吸器・消化器作用薬	田邊 勉	鈴木章夫記念講堂 M&Dタワー2階
6/18	月	10:30～11:50	利尿薬、泌尿器・生殖器作用薬	三枝弘尚	〃
6/19	火	9:00～10:20	鎮痛薬(麻薬性、非麻薬性)	田邊 勉	〃
6/22	金	9:00～10:20	内分泌系(1):糖尿病治療薬	三枝弘尚	〃
6/25	月	9:00～10:20	内分泌系(2):骨粗鬆症治療薬	野田政樹	〃
6/26	火	9:00～10:20	免疫抑制薬、糖質コルチコイド	田邊 勉	〃
9/11	月	9:00～10:20	非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊 勉	〃
9/12	火	9:00～10:20	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)(1)	安原真人	〃
9/13	水	9:00～10:20	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)(2)	〃	〃
9/14	木	9:00～10:20	臨床薬理	〃	〃
9/24	月	9:00～10:20	薬理学試験		

3 学 年 前 期		薬 理 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/3	月	12:50～17:10	実習説明会	田邊 勉 三枝弘尚 Zong Shuqin	共用講義室 1 M&Dタワー2階
9/4	火	12:50～17:10	実習(1-1)		実習室 3号館6階
9/5	水	12:50～17:10	実習(1-2)		
9/6	木	12:50～17:10	実習(1-3)、実習1まとめ		
9/7	金	12:50～17:10	実習(2-1)		
9/10	月	12:50～17:10	実習(2-2)		
9/11	火	12:50～17:10	実習(2-3)、実習2まとめ		
9/12	水	12:50～17:10	実習(3-1)		
9/13	木	12:50～17:10	実習(3-2)		
9/14	金	12:50～17:10	実習(3-3)、実習3まとめ		

(英訳) Pathology

○教育目標

病理学とは、ヒトの疾病の理論を扱う学問であり、主に細胞・組織・臓器の形態像に基づき、各種疾患の原因・進行・転帰を追究していく。「病理学総論」では、全ての疾患を理解するための縦糸として、系統的な疾患概念（奇形、代謝異常、炎症、循環障害、腫瘍）を学ぶ。そして、これに続く「病理学各論」で得られる個々の疾患に関する知識を横糸として組み合わせることで、ヒトの“病気”の姿が明確に織り成されるのである。

○学習方法

本科目は、1週間に講義と実習の全てを集中させた「病理総論ブロック」として授業が行われる。学生は数人ごとの小グループに分かれ、各グループには、病理学総論の4つの大テーマに関連して幾つかの課題が与えられる。ブロック週の前半はその課題に対する調査・探究をするための自習時間が多く取られる。授業は各班による課題の発表を主体として、学生同士で知識の共有とより深い理解を求められる。教官は網羅的授業は行わず、発表に対する補足の説明にとどまる。その後、テーマに関連する標本の顕微鏡実習を行う。講義と実習は必要最小限度にとどめてあり、自習時間を利用した、学生自身の十分な自己学習が求められる。

○授業のキーワード

遺伝子異常、細胞傷害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理、腫瘍

○教科書・参考書

- (1) Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease 7th ed. W B Saunders Co.

連携ウェブサイトあり。教科書付属のシリアルナンバー登録により、本文・図表の全てをウェブ上で閲覧可能。なお、2009年6月に新版(8th ed)出版予定。

- (2) ロビンス基礎病理学 廣川書店

(1)の簡約版(Robbins Basic Pathology)の旧版の翻訳。

- (3) 標準病理学 第3版 医学書院

編集協力：北川昌伸。

- (4) 組織病理学アトラス 第5版 文光堂

- (5) 外科病理学 文光堂

- (6) 現代の病理学(総論、各論) 金原出版

- (7) 病理学(総論、各論) 文光堂

○他科目との関連

病理学はヒトの正常形態・機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学・臨床医学と強く関連している。すなわち病理学は、基礎と臨床を結ぶ学際的分野である。

○成績評価の方法

ブロック週の翌々週に筆記試験を予定している。試験範囲は、講義・実習およびブロック週の全課題、のすべての内容である。

○受講上の注意

病理学はこれから臨床医学を学ぶ道程の一里塚であり、病理学講義では病気に関する数多くの医学用語に初めて接するところでもある。以後に続く臨床医学の講義に際しては、病理学総論に登場する医学用語の概念や各種病態を正しく把握しているか否かが、その理解度を大きく左右する。

一方、病理学はヒトの病的なことの理論であるから、その基盤は当然、正常状態にある。従って病理学を学習する際には、常に正常状態との対比を忘れてはならない。

☆具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

○担当窓口

人体病理学 小林大輔

E メール : d-koba.pth1@tmd.ac.jp

(英訳) Hygiene

○教育目標

衛生学は、医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると社会医学に入り、臨床医学を治療医学と考えれば、衛生学は予防医学と考えることができる。すなわち、衛生学は人間をとりまく自然的、社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防、早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。従って衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる医師・医学研究者を養成することを目標とする。本科の履修により、環境、感染症および予防医学に関する最新の知識を得ることができる。また、環境測定や遺伝子診断などの実習を選択し、それらの具体的な測定法を習得することができる。

○授業の概要

1. 衛生学の講義は環境と感染症を中心とした内容である。
2. 衛生学実習では、環境測定・変異原性試験・体力測定・遺伝子診断などを行う。レポート提出・口頭発表をしてもらう。
3. 担当者（専門領域）

教授：湯浅保仁（衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断）

非常勤講師：吉田喜久雄（環境リスク）、福林 徹（スポーツ医学）、工藤泰雄（食中毒）、水野哲也（体育学）、平野靖史郎（ヒ素）、森 千里（化学物質の健康影響）、那須民江（有機溶剤中毒）、小久保喜弘（循環器病の疫学）

○授業のキーワード

地球環境、酸性雨、オゾンホール、大気汚染、水質汚染、水俣病、環境リスク、ヒ素、上水道、下水道、温熱条件、感染症、エイズ、日和見感染、食中毒、金属アレルギー、有機溶剤、喫煙、変異原性試験、職業癌、遺伝子診断、スポーツ医学

○教科書・参考書

「国民衛生の動向 2011/2012 年」(財)厚生統計協会 2011

「シンプル衛生公衆衛生学 2011」鈴木庄亮・久道茂編集 南江堂 2011

「標準公衆衛生・社会医学」第 1 版 岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅編集 医学書院 2006（分子腫瘍医学分野蔵書）

「改訂版 分子予防環境医学」分子予防環境医学研究会編 本の泉社

2010（分子腫瘍医学分野蔵書）

「奪われし未来」オズボーン他著 翔泳社 1997（分子腫瘍医学分野蔵書）

「Public Health and Preventive Medicine」15th ed., Maxcy-Rosenau-Last ed., McGraw-Hill

Medical Publishing, 2007

○他科目との関連

「公衆衛生学」および「社会医学」と最も強く関連するが、その他の基礎・社会医学科目とも関連する。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験で学習成果を問う。実習については、レポート・口頭発表で判定する。

○受講上の注意

受講上の注意として、衛生学では常に新たな内容が付加され、また最新のデータを常に把握する必要があるので必ず講義に出席すること。実習も各種実験の機会が用意されるので必ず受けること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

湯浅保仁 （yuasa.monc@tmd.ac.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後 期		衛 生 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/28	金	9:00～10:20	序論	湯浅保仁	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/2	火	12:50～14:10	水質汚染	秋山好光	〃
10/2	火	14:20～15:40	大気汚染	深町博史	〃
10/3	水	12:50～14:10	有機溶剤中毒	(那須民江)	〃
10/3	水	14:20～15:40	ヒ素の環境汚染と毒性	(平野靖史郎)	〃
10/4	木	12:50～14:10	化学物質のヒトへの健康影響	(森 千里)	〃
10/4	木	14:20～15:40	化学物質の環境リスク解析	(吉田喜久雄)	〃
10/10	水	12:50～14:10	循環器病の疫学	(小久保喜弘)	〃
10/11	木	12:50～14:10	感染症(1)	湯浅保仁	臨床講堂 病院地下1F
10/29	月	14:20～15:40	感染症(2)	湯浅保仁	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/30	火	10:30～11:50	食品・水媒介性疾病と食品衛生	(工藤泰雄)	〃
10/30	火	14:20～15:40	スポーツ医学	(福林 徹)	〃
12/17	月	9:00～10:20	衛生学試験		

3 学 年 後 期		衛 生 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/26	月	12:50～17:10	環境測定	湯浅保仁	実習室 3号館5階
11/27	火	12:50～17:10	〃	秋山好光	〃
11/28	水	12:50～17:10	変異原性試験	深町博史	〃
11/29	木	12:50～17:10	感染症・腫瘍	湯浅保仁	〃
11/30	金	12:50～17:10	体力測定	水野哲也	〃

(英訳) Medical Zoology

○教育目標

医動物学とは、人類の衛生上有害なすべての動物を対象とし、それらの形態、分類、生態、臨床、疫学及び防除の研究を行う学問である。特に、真核生物の寄生動物を扱うという意味で、ウイルスや細菌とは異なる寄生生物学を教授する分野である。対象動物はきわめて広く、原生動物から脊椎動物の哺乳類にまで亘っており、原虫学、蠕虫学、衛生昆虫学、感染症媒介動物学及び有毒動物学として学習する。

このように、その対象も広く、また基礎から応用面までその扱い方も広い。当教室は社会医学の一部門として、熱帯医学、国際保健、予防医学、公衆衛生学の立場に立って教育し、臨床との関連も重要視しているが、寄生生物学としての基礎医学の視点も重視する。医動物学では実物を体験する教育が重要なので、できるだけカラースライドや標本を示すようにし、視聴覚教材も活用する。さらに、熱帯病としての寄生虫病の防圧やフィールド活動を通して医療の国際化に対応できる医師の育成をめざす。

○授業の概要

授業の概要

- 1) 医動物学総論と医動物学各論は教科書や参考書に沿って、世界及び日本での重要と思われる疾患・項目を主体に解説する。
- 2) 医動物学の各分野の講師により、研究やフィールドワークなど、この分野の研究最前線からの話題を提供する。疑問点や自分の意見を討論して欲しい。
- 3) 医動物学実習：医動物学で扱う動物を標本や生きている寄生虫を実際に観察し、スケッチする。系統講義で学習した事項を実習で確認し、疑問のある場合は、遠慮なく教員に質問して欲しい。貴重なものを含めて、貴重な標本を準備している。
- 4) 担当者：太田伸生教授、赤尾信明准教授、熊谷 貴助教（総論、線虫学、原虫学、寄生虫免疫学、熱帯医学、吸虫学、条虫学、実習）、非常勤講師：篠永 哲（衛生動物学）、小林 潤（国際保健学）

○授業のキーワード

蠕虫学、原虫学、人畜共通感染症、輸入寄生虫症、国際保健、熱帯医学

○教科書・参考書

図説 人体寄生虫学、吉田幸雄・有菌直樹 著、南山堂

寄生虫学テキスト 上村清ら編、文光堂（2000）

標準医動物学 石井明、鎮西康雄、太田伸生編、医学書院

熱帯医学 中山書店

Medical Parasitology, E. K. Markell & M. voge, W. B. Saunders

Clinical Parasitology, P. C. Beaver et al., Lea & Febiger

Manson's Tropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Bailliere Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

Diagnostic Medical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

○他科目との関連

医動物学は医学と動物学の両分野にまたがった学問であるから、医学のすべての科目及び動物学と深い関係を持っている。特に、基礎では細菌学、ウイルス学、薬理学、病理学、免疫学、生化学、公衆衛生学、臨床では内科学、感染症学、小児科学、皮膚科学、眼科、熱帯病学などと密接な関係がある。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。また、講義の際に、随時小テストを行い理解度の把握を行う。実習では、毎回スケッチの提出を求めて理解をはかる。実習の最終回に標本を用いて筆答試験を行う。それらを総合して医動物学としての成績評価を行う。

○受講上の注意

医動物学は扱う病原体をスライドや標本で実際にみて体験することが大切なので、実習には毎回出席することを原則とし、無断欠席は実習試験の受験資格に影響するので注意すること。生の病原体を供覧することもあるので、実習では白衣着用を徹底すること。

また、医動物学が担当する範囲の疾患は、近年のグルメブーム、自然食ブーム、ペットブーム、環境保全運動の高まり、地球の温暖化による媒介昆虫の生息域拡大などによって増加の傾向を示し始めている。さらに、途上国に目を向けると重要な疾患はマラリア、住血吸血症などのように原虫・蠕虫感染症が大半を占めている。医動物学の講義では今日の国際化をにらんで、熱帯病としての寄生虫病の診断・治療学や、フィールド活動を通じて国際交流に役立つ人材の育成に向けた講義も併せて行う。また、寄生虫感染の最新の基礎的研究成果についても解説するので講義にも毎回出席して問題点に積極的に関心を抱いてもらうことを強く希望している。

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		医 動 物 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/17	月	12:50～14:10	総論	太田伸生	共用講義室1 M&Dタワー2階
12/18	火	10:30～11:50	線虫病(1) 腸管寄生線虫病	赤尾信明	〃
12/21	金	12:50～14:10	線虫病(2) フィラリア症	〃	〃
1/8	火	12:50～14:10	線虫病(3) 幼線虫移行症	〃	〃
1/9	水	12:50～14:10	吸虫病(1) 肺吸虫症、肝吸虫症、横川吸虫症ほか	熊谷 貴	〃
1/10	木	12:50～14:10	吸虫病(2) 住血吸虫病	〃	〃
1/22	火	9:00～10:20	条虫病(1) 腸管寄生条虫病	太田伸生	〃
1/23	水	9:00～10:20	条虫病(2) エキノコックス症、囊虫症	赤尾信明	〃
1/24	木	9:00～10:20	原虫病(1) 消化管寄生原虫病	〃	〃
1/25	金	9:00～10:20	原虫病(2) トキソプラズマ症	熊谷 貴	〃
1/29	火	10:30～11:50	原虫病(3) マラリア	太田伸生	臨床実習 医学部附属病院 1
1/30	水	10:30～11:50	原虫病(4) 鞭毛虫症	〃	〃
1/31	木	10:30～11:50	節足動物	篠永 哲	〃
2/1	金	10:30～11:50	有害動物	〃	〃
2/4	月	10:30～11:50	寄生虫疾患の診断学	赤尾信明	〃
2/5	火	10:30～11:50	特別講義: マラリアの薬物治療	(狩野繁之)	〃
2/12	火	9:00～10:20	医動物学試験		

3 学 年 後 期		医動物学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
1/16	水	12:50～17:10	線虫類(1)	全員	実習室 3号館5階
1/17	木	12:50～17:10	線虫類(2)・節足動物	〃	〃
1/18	金	12:50～17:10	吸虫類	〃	〃
2/5	火	12:50～17:10	条虫類	〃	〃
2/6	水	12:50～17:10	原虫類(1)	〃	〃
2/7	木	12:50～17:10	原虫類(2)	〃	〃
2/8	金	12:50～17:10	医動物学実習試験		

(英訳) Forensic Medicine

○教育目標

法医学 (legal medicine) は、法律上問題となる医学的事項を解明して、法的解決に寄与することを目的としている。法医学の授業には狭義の法医学 (forensic medicine) と医事法学 (medical laws) が含まれる。

法律上問題となる医学的事項は多岐で、司法、行政、立法の各分野に及ぶが、司法的分野の問題が最も多い。法医学は法治国家には不可欠な学問であり、制定法の整った民主主義国家においては臨床医学のあらゆる領域に跨がって法医学的な問題が存在する。例えば死亡診断書の作成、医事紛争防止などは各科の臨床医に身近な問題であるが、これらの問題の解決には法医学的な基本知識が必要である。特に医学を倫理、法律、行政、社会、訴訟などと関連づけて見る目を養う必要がある。「臨床医に必要な法医学的常識と心構えを身につける」を一般的学习目標とし、次の3つを個別的行動目標とする。

- (1) 死因、および、死因の種類を判断し、死体検案書 (死亡診断書) を正しく作成できる。
- (2) 外因死について、一般の人に分かりやすく説明できる。
- (3) 異状死届けの必要な場合を全部説明できる。

○授業の概要

講義 (系統的講義および応用的講義) と実習を行う。系統的講義は次の項目を含み、死体検案に必要な知識を中心に講義する。

内容は、死体現象、鋭器損傷、鈍器損傷、交通外傷・頭部損傷、窒息、環境異常 (凍死・焼死・感電死など)、小児法医学、個人識別、中毒、内因性急死、など。

応用的講義は、主として実務問題の解決に必要な知識を中心に講義する。

実習では法医学特有の事項を体験することを目標として、次の項目を予定している。

症例検討実習、アルコール代謝酵素の多型。

○授業のキーワード

司法解剖、死体検案書、死亡診断書、変死、死因、損傷の種類、損傷の部位、損傷の程度、生活反応、皮下出血、皮内出血、自為、他為、胃内容、死体現象、死体硬直、体温降下、死斑、自家融解、腐敗、白骨、死蝟、死後経過時間、眼角膜、窒息、縊死、絞殺、扼殺、気道閉塞、溺死、縊血点、流動性血液、鬱血、内因性急死、病死、鋭器損傷、凶器、有刃器、切創、割創、刺創、鈍器損傷、打撲傷、擦過傷、挫傷、挫滅、挫裂創、架橋状組織、射創、交通事故、轢過傷、伸展傷、硬膜外出血、脳硬膜下出血、クモ膜下出血、脳挫傷、アルコール、焼死、煤煙、火傷、紅斑、水疱、感電、嬰兒殺、生産児、死産児、未熟児、肺浮揚試験、強姦、精液、労働災害、墜落、転落、中毒、睡眠薬、覚醒剤、麻薬、有機機磷剤、アルカロイド、無機毒物、神経毒、血液毒、腐蝕毒、賠償医学、親子鑑定、血液型、血清型、酵素型、白血球型、DNA 多型、父権肯定確率、父権否定確率、認知

○教科書（推薦）

- ①現代の法医学（第3版増補）永野耐造・若杉長英（編）金原出版 1998
- ②標準法医学・医事法（第6版）石津日出雄・高津光洋（編）医学書院 2006
- ③事例に学ぶ法医学・医事法（第3版）吉田謙一著 有斐閣ブック 2010
- ④NEW 法医学・医事法 勝又義直・鈴木修著 南江堂 2008

○参考書

- ①臨床のための法医学（第5版）澤口彰子ら著 朝倉書店 2007
- ②裁判化学 ー 薬毒物の毒性と試験法 濱田昭・黒岩幸雄ら著 1996

○他科目との関連

法医学を専門としない医師にとっても、死亡診断書作成、医事紛争の防止、死体検案などは必ず遭遇する身近な法医学的事項である。上記の「授業のキーワード」に挙げた項目が極めて多彩なことからも判るように、法医学は臨床医学の全ての領域に関連がある。

○参照 URL

<http://www.tmd.ac.jp/med/legm/education.html>

○成績評価の方法

筆答試験で行う。出席状況も考慮する。

○担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

法医学分野 上村公一 kuemura.legm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後		法 医 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/6	木	9:00～10:20	死体現象	上村公一	共用講義室1 M&Dタワー2階
9/26	水	9:00～10:20	損傷(1) 損傷総論、生活反応	〃	臨床講堂 医学部附属病院B1F
9/27	木	9:00～10:20	損傷(2) 鋭器、鈍器	〃	〃
10/10	水	10:30～11:50	損傷(3) 銃器、頭部外傷	〃	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/11	木	10:30～11:50	交通外傷、窒息(1) 総論	〃	臨床講堂 医学部附属病院B1F
10/17	水	12:50～14:10	中毒学(1) 総論	秋 利彦	共用講義室1 M&Dタワー2階
10/17	水	14:20～15:40	中毒学(2) 各論(覚せい剤、アルコール、他)	〃	〃
10/31	水	12:50～14:10	窒息(2) 各論(縊頸、絞頸、扼頸、溺死、他)	上村公一	〃
10/31	水	14:20～15:40	個人識別(1) 法歯学	(日本大学歯学部 小室歳信)	〃
11/19	月	10:30～11:50	個人識別(2) 血液型、親子鑑定、物体検査	船越丈司	〃
11/22	木	9:00～10:20	環境異常 (焼死、凍死、他)	鵜沼香奈	〃
11/27	火	9:00～10:20	内因性急死	上村公一	〃
2/13	水	9:00～10:20	法医・医事試験		

3 学 年 後		法 医 学 実 習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/19	水	12:50～17:10	死体検案書作成・症例検討	上村公一、秋 利彦、船 越丈司、鵜沼香奈	3号館 5F 実習室
1/7	月	12:50～17:10	アルコール(1)	上村公一、秋 利彦、船 越丈司、鵜沼香奈	〃
1/21	月	12:50～17:10	アルコール(2)	上村公一、秋 利彦、船 越丈司、鵜沼香奈	〃

(英訳) Medical Law

○教育目標

人間の生命・健康に直接関わるものであるから、何らかのルールを定めておく必要がある。特に現在のように医療技術・機器・薬剤が高度化してくると、適正な医療の確保のために人や物、あるいは行為に対する規制が強化されてくる。医療が平等に行き互るように種々の制度が生まれ、また、万一事故が発生した場合の適切な処理のための法制度の整備が必要である。医療のように専門性が高く、且つ患者・医師の人的信頼関係を基盤とする領域においては、第一次的には倫理的、社会的なコントロールが働き、その後に法的規制が問題となるべきものである。これらの法制度の本質を理解し、法に対していかに対処すべきかを理解した医師を育てたい。

○授業の概要

「医療行為」の法的意味について、概説する。

「医療事故」では、分類と現状、社会的制裁、法的制裁、周辺問題、などを解説し、予防対策を検討する。法律家（刑事・民事）、および、臨床家の立場から、「医療事故」を論じる。現在、死因究明制度について、議論されているところである。これからの「死因究明制度」の展望について説明する。

○授業のキーワード

医師法、医療法、医倫理、医療行為、診療契約、医療事故、限界的医療、日本国憲法、刑法、軽犯罪法、刑事訴訟法、民法、戸籍法、民事訴訟法、弁護士法、死体解剖保存法、食品衛生法、検疫法、死産の届出に関する規程、精神保健法、母体保護法、予防接種法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、感染症法、臓器の移植に関する法律

○参考書

- ①標準法医学・医事法（第6版）石津日出雄・高津光洋（編）医学書院 2006
- ②事例に学ぶ法医学・医事法（第3版）吉田謙一著 有斐閣ブック 2010
- ③NEW 法医学・医事法 勝又義直・鈴木修著 南江堂 2008
- ④現代の法医学（第3版増補）永野耐造・若杉長英（編）金原出版 1998

医事法学は医療のみではなく、広く人の生命と健康に関わる法的問題を扱うので、臨床、基礎、社会医学のすべての科目と関連がある。最も関連の深い科目は法医学で、法医学の授業の一部としている。

○成績評価の方法

出席状況、授業態度、および最終筆記試験の結果から、総合的に判定する。

○受講上の注意

医事に関わる法令は抽象的規定であったり、ごく限定された状況についてのものであり、個々の現場での医師の具体的な指針となることは極めて稀である。大切なことは、医師が視野を広く持ち法全体の意図する方法を見定め、その中における医師としての立場と役割を客観的に認識することであろう。そのためには、全ての講義に出席して、問題解決の素養の涵養に務めることを望む。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

法医学分野 上村公一 kuemura.legm@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		医 事 法 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/20	木	12:50～14:10	医師法、医療行為、医療事故	上村公一	共用講義室1 M&Dタワー2階
12/20	木	14:20-15:40	刑事事件としての医療事故	(東京女子医科大学医学部 奥津康祐)	〃
12/20	木	15:50-17:10	医療事故の予防	(東京女子医科大学医学部 奥津康祐)	〃
1/8	火	14:20-15:40	民事事件としての医療事故	(東京女子医科大学医学部 奥津康祐)	〃
1/9	水	14:20-15:40	死因究明制度、解剖制度、死体解剖保存法	上村公一	〃
1/9	水	15:50-17:10	臨床家の立場からみた医療事故	(東京海上日動メディカルサービス 長野展久)	〃
1/10	木	14:20-15:40	死因究明に係る法律的諸問題	(東京大学大学院医学系研究科 辻村貴子)	〃
2/13	水	9:00～10:20	法医・医事試験		

(英訳) Rheumatology

○教育目的・到達目標

系統的講義で、膠原病・リウマチ性疾患の発症機構、疫学、病態生理、診断、治療に関する基本的知識を習得できる。

診療参加型臨床実習では、頻度の高い内科的問題および膠原病・リウマチ内科領域の基本的な問題に面した際の問題解決技能の習得できる。具体的には、病歴聴取、身体診察、プロブレムリスト作成、鑑別診断リスト構築、評価計画立案、初期治療方針立案の能力、そして自己学習姿勢を習得できる。

○授業の概要

系統的講義：临床上、特に重要な膠原病・リウマチ性疾患を中心に上げ、概念、病因、病態、症候、治療について概説し、学生が自主的に考察することを目指す。

診療参加型臨床実習：病棟実習が主であり、指導医の監視およびサポートのもとで診療チームの一員として実際に患者を受け持ち、診療への参加を通して上述した問題解決技能の習得に努める。学生は、担当患者に関して常に最新の更新された臨床情報を完全網羅していることを期待され、担当患者に関する他医療スタッフや患者および家族との議論には必ず同席し、日々の回診でのプレゼンテーションおよび議論を含め、全ての臨床判断・診療活動に参加する。外来や院内コンサルテーションを通しての学習も、適宜取り入れる。

○授業のキーワード

臨床推論、EBM (Evidence-based medicine)、知的探究心

○教科書・参考書

- ・ハリソン内科学第3版 (原著第17版)、
メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年 2009 年
- ・リウマチ病学テキスト、診断と治療社 発行年 2010 年
- ・ワシントンマニュアル (WM) リウマチ科コンサルト
メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年 2006 年

○他科目との関連

膠原病・リウマチ学は、疾患の発症機構を理解する上において免疫学のみならず、分子生物学、遺伝学、生化学、薬理学、病理学などの基礎医学に関する基本的知識を具備していることが必要である。またその診療においては、各専門内科、皮膚科、整形外科など多くの分野と協力し、全人的なケアを実現するためのチーム医療が必要である。

○成績評価の方法

系統的講義は、選択肢問題ないし筆答試験にて到達度の評価を行う。臨床実習についての成績評価方法は医学科教育委員会の規定による。

○受講上の注意

系統的講義および臨床実習では出席の有無を確認し、これを総合合否判定に加える。3分の2以上出席していないものは試験の受験資格を欠き、また臨床実習は不合格とする。したがって欠席の場合には必ず届け出ること。

臨床実習においては、態度・振る舞いのみでなく外見上も、患者および診療スタッフの信頼を得るために十分配慮しなければならない。服装に関しては、男子学生はネクタイ着用ないしケーシースタイルとする。またジーンズやサンダルの使用は禁止する。宝飾品は相手に不快感を与えない程度に控えること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

上坂 等 (kohsaka.rheu@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		膠原病・リウマチ学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/21	金	9:00～10:20	強皮症・混合性結合組織病	針谷正祥	共用講義室1 M&Dタワー2階
12/21	金	14:20～15:40	総論・関節リウマチ	上 阪 等	〃
1/7	月	10:30～11:50	全身性エリテマトーデス	窪田哲朗	〃
1/18	金	9:00～10:20	アナフィラキシー・薬物アレルギー	溝口史高	〃
1/18	金	10:30～11:50	血管炎症候群	高田和生	〃
1/22	火	12:50～14:10	多発性筋炎・皮膚筋炎	南木敏宏	〃
1/22	火	14:20～15:40	シェーグレン症候群・ベーチェット病	高村聡人	〃
1/23	水	12:50～14:10	結晶誘発性関節炎	小池竜司	〃
1/28	月	9:00～10:20	膠原病・リウマチ学試験		

(英訳) English for Medicine Ⅱ

○目的・到達目標

本学が掲げる教育理念・目的（「幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観を持ち、自ら問題を提起し解決する姿勢に富み、医学のフロンティアを切り開く創造能力があり、地球的規模で働く国際人としての意識を持つ医師・医学研究者の育成」）の実現には、以下に挙げる資質が不可欠である。

- ・ グローバルスタンダードに沿った医療を提供する
- ・ 基礎・臨床研究を行い、情報を世界に向けて発信する
- ・ 国際舞台で意見交換を行い、生命科学の発展に貢献する

これら資質の獲得のためには、医学知識の習得に加え、以下の能力の習得が必要である。

- 1) 英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力
- 2) 英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力
- 3) 臨床問題解決における、臨床情報収集およびその批判的検証を行う能力
(Evidence-based medicine (EBM)の理解と実践)

したがって医学英語Ⅱにおいては、これら3つの能力の習得を到達目標に掲げ、それらに対する学生による必要性の認識、および自己主導的学習をサポートするための学習機会を提供する。

○学習方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医学知識習得ステージに合わせた学習スケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医学知識・臨床技能習得ステージに合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回 Native speaker(s)を講師兼 Moderator/facilitator として配備する。トピック・論点の選定や議論内容は、以下の通りである。

第3学年：

- ・ 「健康・医学」関連トピック（新聞・雑誌記事）の議論
- ・ 倫理的問題を中心とした症例検討

第 4 学年：

- 臨床問題解決における臨床情報収集およびその批判的検証のための技能修得を目的とした症例検討

○教科書・参考書

- ・ 岡田 聚、名木田恵理子 著「最新医学用語演習」(南雲堂 1993 年)
- ・ 相原守夫、池田正行、三原華子、村山隆之 監訳「医学文献ユーザーズガイド」(凸版メディア 2010 年)
- ・ 能登 洋 著「EBM の正しい理解と実践 Q&A」(羊土社 2003 年)

○成績評価の方法

第 4 学年に最終試験を行う。最終成績は以下にもとづき判定される。

- Class participation (discussion/presentation/comment) and write-ups (35%)
- Vocabulary quiz score (30%)
- Final exam score (35%)

○受講上の注意

3 分の 2 以上出席していないものは最終試験受験資格を欠く。遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

Small group discussion に際しては、あらかじめ配布された資料に記される指示に従い、十分準備しておくこと。

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後 期		医学英語Ⅱ			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/10	火	9:00～10:20	TBA	高田和生 他	臨床講堂 医学部附属病院B1F
4/17	火	9:00～10:20	TBA	〃	共用講義室1 M&Dタワー2階
5/1	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
5/8	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
5/15	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
5/22	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
6/12	火	9:00～10:20	TBA	〃	臨床講堂 医学部附属病院B1F
7/3	火	9:00～10:20	TBA	〃	共用講義室1 M&Dタワー2階
7/10	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
7/24	火	9:00～10:20	TBA	〃	臨床講堂 医学部附属病院B1F
9/4	火	9:00～10:20	TBA	〃	共用講義室1 M&Dタワー2階
9/18	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
10/2	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
10/30	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
11/13	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
11/20	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃
11/27	火	10:30～11:50	TBA	〃	〃
12/18	火	10:30～11:50	TBA	〃	〃
1/8	火	9:00～10:20	TBA	〃	〃

（英訳） Oriental Medicine

○教育目的

一般目標

- 1) 東洋医学の根底となる理論的背景を理解する。
- 2) 東洋医学理論を通して現代医学に応用できる広い分析視野と思考形態を習得する。

到達目標

1. 東洋医学の基礎理論を説明できる。（整体観、弁証論治、陰陽論、五行説）
2. 東洋医学の生理観と現象把握手段を説明できる。（気血津液、蔵象、経絡、八綱、四診）
3. 東洋医学の病態観、治療概念、生薬作用、処方概念の総論が説明できる。
（病因病機〔特に内因外因、邪正闘争〕、治療原則、処方の構成と薬性理論、製剤の実際）
5. 東洋医学と西洋医学の基本的相違点および両者の統合を説明できる

○授業の概要

本学学生が我が国の東洋医学を学ぶことによって、臨床面で役立つばかりでなく、各々の専門の枠だけにとらわれない広い視野を養い、国際人として活躍していく素地を形成していく上において大きく寄与する。また、東洋医学的視野を持つことは西洋医学の理解をも深いものとするであろう。

○授業のキーワード

東洋医学、漢方、和漢、中医学、中医基礎理論、整体観、弁証論治、陰陽、五行、気血津液、蔵象(五臓)、八綱、四診、標・本、病因病機、治則、方剤学、君臣佐使、生薬、四気五味、方剤と治法、方剤の組成

○教科書・参考書

教科書 「標準東洋医学」金原出版 仙頭正四郎著

参考書 ●基礎理論の理解に

「中医学入門」神戸中医学研究会編著 医歯薬出版

「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社

●一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する

「東洋医学－『人を診る』中国医学のしくみ」仙頭正四郎著 新星出版社

「読体術：体質判別・養生編」仙頭正四郎著 農文協

●臨床的な治療内容を含む内容

「入門漢方医学」日本東洋医学会学術教育委員会 編集 南江堂

「症例から学ぶ和漢診療学2版」寺澤捷年著 医学書院

●基礎理論理解の助けになるが入手しにくい

「改訂・中医学基礎」上海中医学院編 神戸中医学研究会訳 燎原

「簡明 漢方医学」三重大学 東洋医学研究会

○他科目との関連

東洋医学は西洋医学に匹敵する独立した一つの医学体系である。本講義の目的は、漢方治療の専門家育成や反西洋医学としての東洋医学を学ぶことではなく、東西両医学の役目をきちんと理解し、将来の臨床の場において疾患に応じた適切な対応ができる視点を育てることにある。東洋医学理論を理解することにより一辺倒の見方ではない視野の広い医学視点を育てる契機とすることは、他科の学習においても大いに役立つものと期待される。

○成績評価の方法

出席及び筆答試験の結果で判定（レポートに替えることもある）

○受講上の注意

今まで学んできた概念を根底から見直す意気込みで臨んで下さい。短時間で詳細な新概念を詳述することには限界があるので、講義内容の理解のためには上記教科書もしくは参考書による事前および事後の独習が不可欠です。

平成24年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		東 洋 医 学 (基 礎)			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/11	水	9:00～10:20	総論：感冒が葛根湯でなぜ治る（煎液実演・病態、治療の考え方）	仙頭正四郎	共用講義室1 M&Dタワー2階
4/27	金	9:00～10:20	基礎概念（陰陽論、五行説、八綱弁証）	別府正志	〃
5/14	月	9:00～10:20	生理概念（気血津液と臓腑概念）	仙頭正四郎	〃
5/28	月	10:30～11:50	四診・弁証－診断の考え方－	〃	〃
6/27	水	9:00～10:20	方剤・生薬（方剤構成・君臣佐使・四気五味）	〃	〃
7/2	月	9:00～10:20	病態観と治療原則（素因誘因・外因内因・標治本治）	別府正志	〃
7/23	月	9:00～10:20	東洋医学(基礎)試験		

授 業 概 要

(第 4 学年)

(英訳) English for Medicine II

○目的・到達目標

本学が掲げる教育理念・目的（「幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観を持ち、自ら問題を提起し解決する姿勢に富み、医学のフロンティアを切り開く創造能力があり、地球的規模で働く国際人としての意識を持つ医師・医学研究者の育成」）の実現には、以下に挙げる資質が不可欠である。

- ・ グローバルスタンダードに沿った医療を提供する
- ・ 基礎・臨床研究を行い、情報を世界に向けて発信する
- ・ 国際舞台で意見交換を行い、生命科学の発展に貢献する

これら資質の獲得のためには、医学知識の習得に加え、以下の能力の習得が必要である。

- 1) 英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力
- 2) 英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力
- 3) 臨床問題解決における、臨床情報収集およびその批判的検証を行う能力
(Evidence-based medicine (EBM)の理解と実践)

したがって医学英語Ⅱにおいては、これら3つの能力の習得を到達目標に掲げ、それらに対する学生による必要性の認識、および自己主導的学習をサポートするための学習機会を提供する。

○学習方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医学知識習得ステージに合わせた学習スケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医学知識・臨床技能習得ステージに合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回 Native speaker(s)を講師兼 Moderator/facilitator として配備する。トピック・論点の選定や議論内容は、以下の通りである。

第3学年：

- ・ 「健康・医学」関連トピック（新聞・雑誌記事）の議論
- ・ 倫理的問題を中心とした症例検討

第4学年：

- 臨床問題解決における臨床情報収集およびその批判的検証のための技能修得を目的とした症例検討

○教科書・参考書

- ・ 岡田 聚、名木田恵理子 著「最新医学用語演習」（南雲堂 1993 年）
- ・ 相原守夫、池田正行、三原華子、村山隆之 監訳「医学文献ユーザーズガイド」（凸版メディア 2010 年）
- ・ 能登 洋 著「EBM の正しい理解と実践 Q&A」（羊土社 2003 年）

○成績評価の方法

第4学年に最終試験を行う。最終成績は以下にもとづき判定される。

- Class participation (discussion/presentation/comment) and write-ups (35%)
- Vocabulary quiz score (30%)
- Final exam score (35%)

○受講上の注意

3 分の 2 以上出席していないものは最終試験受験資格を欠く。遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

Small group discussion に際しては、あらかじめ配布された資料に記される指示に従い、十分準備しておくこと。

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		医学英語Ⅱ			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/11	金	14:20～15:40	TBA	高田和生 他	講義室 3号館3階
5/25	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
6/1	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
6/15	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
6/22	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
7/6	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
7/13	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
7/20	金	14:20～15:40	TBA	〃	〃
7/27	金	14:20～15:40	医学英語試験		

授業科目 病理学実習

江石 義信
授業責任者
北川 昌伸

(英訳) Pathology Lab Work

○教育目的

病理学とは広義にはヒトの病気の理論のことであり、病気の原因、進行、転帰について、主として細胞・組織・臓器の形態的な面から追求する分野である。病理学実習では、個々の臓器における代表的疾患の組織像を観察し、その病気の実態を学ぶ。

○授業の概要

準備された実習書に従い、各症例の標本を顕微鏡にて観察する。

○授業のキーワード

内分泌腫瘍、循環障害、血液病理、神経病理、婦人科病理、免疫病理、C P C

○教科書・参考書

- (1) 標準病理学 医学書院
- (2) ロビンス基礎病理学 廣川書店
- (3) 組織病理学アトラス 文光堂
- (4) 病理学(総論、各論) 文光堂
- (5) 現代の病理学(総論、各論) 金原出版
- (6) 外科病理学 文光堂

○他科目との関連

病理学はヒトの正常形態、機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学と臨床医学と強く関連している。病理学はいわばそれらの間の学際的分野である。

○成績評価の方法

筆記試験を実施する。

○受講上の注意

病理学はヒトの病的なことの理論であるから、当然のことながら正常状態を基盤としている。そうであるが故に顕微鏡で観察する際には、組織学の知識は必要不可欠である。十分な復習をするか、実習に組織学の教材も持参することをお勧めする。

○担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)

鈴木 志保 ssuzpht2@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期	病理学実習				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/1	火	12:50～17:10	症例を用いた実習	病理教員	3号館4階 組織実習室
5/14	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/16	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/23	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/24	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/28	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/30	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/19	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/20	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/26	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/27	水	9:00～17:10	〃	〃	〃
7/3	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
			※ 実習内容の詳細は実習初日に説明します。		

（英訳） Clinical Neuroscience

○教育目的

臨床神経科学は基礎神経科学に引き続き、脳、脊髄、末梢神経、筋を含む広義の神経系の疾患あるいは病態を扱う学問である。ただし、現在のプログラムでは精神医学は別のコースになっており主に神経内科学と脳神経外科学からなる。

神経系の広がり、広汎さとその機能の多様さから、出現する神経症状・徴候は非常に多彩であり扱う疾患も多い。また、ADLやQOLの障害も甚大であり、迅速で正しい診断と適切な予防・治療・ケアが重要であることを学ぶ。そのため、基本となる症状・徴候、疾患とその成り立ちをよく理解する。

○ 科目を履修して得られる能力

- 1) 神経系・神経疾患の特徴を理解する。
- 2) 主な神経症状・徴候とその発現機序を理解する。
- 3) 神経学的診察の基本を理解する。
- 4) 主な神経疾患の発症機序・診断・治療・予防などの基本を理解する。

○ 学習方法

授業は教員による講義の他、学生が数名でグループを作り実際の症例を担当し自ら授業を行う臨床講義の形式もある。いずれにしても、学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。本授業は単独で存在しているわけではなく、すでに学習した基礎神経科学からこれから学ぶクリニカルクラークシップにいたる一連の授業の一つであり、卒業時には主な神経疾患に対する基本的臨床能力を修得できていることを目指している。

○ 教科書

書名	著者名	発行所
神経内科学書 2版	豊倉康夫編	名朝倉書店、2006
神経内科ハンドブック 4版	水野美邦編	医学書院、2010
臨床神経内科、5版	平山恵三編	南山堂、2006
医学生・研修医のための神経内科学	神田 隆	中外医学社、2008
ベッドサイドの神経の診方、17版	田崎義昭他編	南山堂、2010
Merritt's Neurology, 12th ed.	Rowland	Lippincott、2009
標準脳神経外科学 12版	山浦 晶編	医学書院、2010
脳神経外科学 10版	太田富雄・松谷雅生編	金芳堂、2004
		(2012.5 11版 予定)
医学生のための脳神経外科学必修講義 2版	松谷雅生	メジカルビュー社、2006

ニュースタンダード脳神経外科学 2 版 生塩之敬編 三輪書店、2007
(2012.6 改訂予定)

○ 参考書

脳神経外科周術期管理の全て 3 版	松谷雅生・田村 晃編	メジカルビュー社、2009
脳神経外科疾患の手術と適応 I、II 2 版	阿部 弘ほか編	朝倉書店、2003
脳腫瘍、その病理と臨床 絶版	佐野圭司	医学書院、1981
Youmans Neurological Surgery, Vol.1-4	Winn H.R. 編	Saunders、2011
Neurosurgery, Vol. 1-3	Wilkins R.H. & Regachary S.S	McGraw-Hill、1996
Cranial Neuroimaging and Clinical Neuroanatomy	Kretschmann H.J. & Weinrich W.	Thieme、2004
The Ciba Collection of Medical Illustrations	Netter F.H.	CIBA、1983

○ 参照 URL

神経内科 <http://www.tmd.ac.jp/med/nuro/index.html>

脳神経外科 <http://www.tmd.ac.jp/med/nsrg/index.html>

血管内治療科 <http://www.tmd.ac.jp/med/evs/index.html>

○成績評価の方法

定期試験による。ただし、講義に際しては、随時、出席、小試験等による評価も行う。

○授業のキーワード

神経学、(脳) 神経内科、脳神経外科、機能脳神経外科、手術、画像診断、単純 X 線写真、血管造影、脊髄造影、CT、MRI、MRA、機能 MRI、SPECT、PET、脳磁図、脳波、誘発電位、筋電図、神経伝導速度、脳脊髄液、頭蓋内圧、脳浮腫、脳ヘルニア、脳循環代謝、高次脳機能、意識障害、グラスゴー昏睡尺度 (GCS)、日本昏睡尺度 (JCS)、昏睡、脳死、頭部外傷、頭蓋骨折、頭蓋内血腫、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、血栓、塞栓、ラクナ、もやもや病、水頭症、先天奇形、脳腫瘍、脊髄腫瘍、脊椎・脊髄外科、てんかん、頭痛、神経痛、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症、Alzheimer 病、Parkinson 病、筋萎縮側索硬化症、脊髄小脳変性症、痙性対麻痺、Charcot-Marie-Tooth 病、Guillain-Barre 症候群、重症筋無力症、多発筋炎、筋ジストロフィー症、起立性低血圧、神経因性膀胱、傍腫瘍性症候群

○ 担当窓口

神経内科：石橋 哲 (t-ishibashi@tmd.ac.jp)

脳神経外科：稲次 基希 (inaji.nsrg@tmd.ac.jp)

吉野 義一 (yoshino.evs@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		神・臨床神経			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	火	10:30～11:50	神経症状の診察と症候学	横田 隆徳	講義室 3号館3階
4/24	火	15:40～17:00	神経疾患の画像検査	成相 直	〃
4/26	木	14:20～15:40	意識障害	青柳 傑	〃
5/1	火	10:30～11:50	脳血管障害:脳梗塞Ⅰ	白石 淳	〃
5/7	月	14:20～15:40	神経疾患とその特徴	水澤英洋	〃
5/9	水	14:20～15:40	脳血管障害:脳出血Ⅰ	田中洋次	〃
5/10	木	12:50～14:10	脳血管障害:脳梗塞Ⅱ	白石 淳	〃
5/10	木	14:20～15:40	脳血管障害:脳出血Ⅱ くも膜下出血	吉野 義一	〃
5/17	木	12:50～14:10	髄膜炎・脳炎	水澤英洋	〃
5/17	木	14:20～15:40	血管内治療総論	根本 繁	〃
5/21	月	12:50～14:10	脳血管障害:外科的アプローチ	青柳 傑	〃
5/21	月	14:20～15:40	神経疾患の検査法 (電気生理)	横田隆徳	〃
5/22	火	14:20～15:40	不随意運動の病態生理とその治療	横田／稲次	〃
5/25	金	12:50～14:10	脱髄性疾患・多発性硬化症とADEM	横田隆徳	〃
6/14	木	12:50～14:10	筋萎縮性側索硬化症と運動ニューロン疾患	水澤英洋	〃
6/14	木	14:20～15:40	パーキンソン病とパーキンソン症候群	水澤英洋	〃
6/15	金	12:50～14:10	脳・神経系の腫瘍Ⅰ	田村 郁	〃
6/22	金	9:00～10:20	脳・神経系の腫瘍Ⅱ	青柳 傑	〃
6/22	金	10:30～11:50	重症筋無力症と周期性四肢麻痺	石川欽也	〃
6/28	木	12:50～14:10	Alzheimer病	(道川誠)	〃
6/29	金	12:50～14:10	発作性・機能性疾患(てんかん)	前原健寿	〃
7/9	月	12:50～14:10	Charcot-Marie-Tooth病と遺伝性末梢神経障害	(神田隆)	〃
7/17	火	10:30～11:50	炎症性筋疾患、傍腫瘍性症候群	大久保卓哉	〃
7/18	水	10:30～11:50	脊髄小脳変性症	水澤英洋	〃
7/23	月	10:30～11:50	神経変性疾患の病理	(内原俊記)	〃
7/24	火	12:50～14:10	筋疾患	石川欽也	〃
7/25	水	14:20～15:40	Creutzfeldt-Jacob病	(山田正仁)	〃
9/3	月	12:50～14:10	内科疾患に伴う神経障害	三苦先生	〃

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前	年 期	神・臨床神経			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/4	火	14:20～15:40	失語・失行・失認（神経心理学）	（福井俊哉）	3号館3階 講義室
9/5	水	14:20～15:40	Guillain-Barre症候群とCIDP	山脇正永	〃
9/11	火	9:00～10:20	発作性・機能的疾患（頭痛）	叶内 匡	〃
9/11	火	12:50～14:10	A D以外の認知症	三條伸夫	〃
9/12	水	10:30～11:50	代謝・中毒疾患	石橋 哲	〃
9/12	水	14:20～15:40	神経疾患のリハビリテーション	（新井雅信）	〃
9/13	木	10:30～11:50	先天性疾患・奇形	菅原貴志	〃
9/18	火	12:50～14:10	頭部外傷の全て	（富田博樹）	〃
10/1	月	9:00～10:20	神・神経内科試験		
10/3	水	9:00～10:20	神・脳外科試験		

(英訳) Gastroenterology and Hepatology

○ 教育目標

本講義「消化器病学」では、従来の内科学・外科学に含まれていた消化器系疾患すべてを対象として、日常遭遇する疾患のみならず、希ではあっても臨床的に重要な疾患をも含み、その病因、病態生理、診断や治療に向けた考え方を正しく理解することを目指す。従って、内科学・外科学の他の分野と密接な関係を持ち、また病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学などの他の基礎医学とも関連した包括的な知識・考え方を習得する。

消化器疾患を中心とした、医学的問題解決の実際を学ぶことを通じて、次年度以降の **clinical clerkship** (臨床実習) に対応しうる総合的な能力を磨き、信頼される医師となるための基礎を形成することを目標とする。

○ 授業の概要

本講義は消化器系疾患に関連した上記の基礎医学・臨床医学の講義の他に、医学生自らが積極的に問題を発見し、それに取り組み、その問題を科学的・論理的に解決してゆく過程を習得するために、集中型カリキュラムを作成した。

カリキュラムは以下の内容から構成される。

1. PBL (Problem Based Learning)
2. Lecture
3. Pathology Laboratory
4. その他の discussion 型講義

PBL は3週間に3セットの PBL が行われる。詳細は、授業開始前に別途説明する予定であるが、ここでは、一つのシナリオから、学生自ら問題点を抽出し、それをお互いに議論しあい、科学的・理論的にその問題点を理解することによって、消化器系疾患の病因・病態生理を学習することを目的とする。また、理解した病因・病態生理を、シナリオの患者のケア・治療にいかに応用するかを学ぶこととなる。小グループ討論を中心に進行するため、各人の積極的な参加によって、学習効率はより高くなるものと期待する。さらに、PBL の効率をより高めるために、上記2－4に示す各論の講義や討論型講義を組み合わせ、内容を補完しあうように工夫した。同級生とのグループ学習および成果発表は、コミュニケーションスキルやリーダーシップを学ぶ機会ともなる。また、実際の患者のシナリオを用いるため、そのなかで、倫理的側面や社会医学的な問題点についても学ぶ機会が与えられる。

扱う疾患としては消化器系疾患の全てを網羅する。その上で、関連した病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、画像診断学などに関しても含まれている。また、このカリキュラムの構成に当たって、消化器病学に関連する内科学・外科学・病理学の従来型系

統講義はないため、この3週間で消化器疾患について効率よく自主学習できるよう、努力されたい。

尚、疾患の診断・治療の実際については、後年の clinical clerkship でさらに詳しく学習し習得することになる。消化器病学に関連する他の臨床講義（BSL など）に関しては、内科学及び外科学の項を参照して欲しい。

○ 教科書・参考書

Harrison's Principles of Internal Medicine (McGraw - Hill) 18th (2011/7)

内科学（朝倉書店）第9版（2007/09）

内科学書（中山書店）改訂第7版（2009/10）

ハリソン内科学 第3版 メディカル・サイエンス・インターナショナル（2009/12）

Textbook of Gastroenterology (Blackwell Publishers) 5th(2008/12)

Schiff's Diseases of the Liver (Wiley) 11th(2011/12)

標準外科学（医学書院、【第12版】2010年）

新臨床外科学（医学書院、【第4版】2006年）

NEW 外科学（南江堂、【第3版】2012年2月）

臨床外科学3 消化器外科学（朝倉書店、2006年）

Schwartz's Principles of Surgery. 9th ed. (McGraw-Hill, U.S.A. 【第9版】2009年)

Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice. (Saunders, U.S.A. 【第19版】2012年2月（予定））

その他、関連した解剖学(Gray's Anatomy for Students (Paperback)など)、生理学、生化学、病理学、薬理学で用いられている教科書

○ 成績評価の評価法

出席の有無を確認し、これを総合評価に加える。

3分の2以上の出席がないものは試験の受験資格を欠く。

試験は筆答試験でその成果を問う。

○受講上の注意

前記のように、PBLがこの講義の中心となるので、学生各々が積極的に参加し、討論で決まった課題の自己学習をすること。各々の自己学習の程度によってグループ全体の達成度が左右されるので、各グループで積極的・効率的な学習が達成できるよう期待します。学習の方法については、PBL チューターに確認すること。

欠席の場合は、グループの他の学生にも影響があるので、PBL チューターか講義担当者に予め届け出て許可を得ること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

長堀 正和 nagahori.gast@tmd.ac.jp

(英訳) Hematology

○ 教育目標

血球細胞の形態と機能および産生（造血）機構と、止血線溶の調節機構につき理解し、成人および小児の血液疾患の病態、病理、診断、治療等を統合的に学習することによりより深い理解力を得ることができる。

造血臓器や血球細胞の形態や機能を主とした基礎編と、赤血球系・白血球系・止血系の3系統の血液疾患の病態、病理、診断、治療等を統合的に学習する臨床編とからなり、臨床編では、成人と小児の臨床血液病学とを統合的に学習するとともに、小児期の病態の特徴に基づいた診断法や治療法を理解し、代表的な疾患に関しては症例基盤型学習によりより深い理解と問題解決能力が得られる。

○教科書・参考書

小児疾患のとりえ方（文光堂、2003年）

Essential Haematology, 6th ed. (Wiley-Blackwell, 2011)

Wintrobe's Clinical Hematology, 12th ed. (Lippincott, Williams & Wilkins, 2009)

Robbins Pathologic Basis of Disease, 7th ed. Section 12: The hematopoietic and lymphoid systems. (W. B. Saunders, 2003).

○参照 URL

特になし。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。また、一部の講義の際には、小テストを行い理解度を把握する。

○担当窓口 （教員の氏名とメールアドレス）

三浦 修 miura.hema@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		血液			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/27	金	15:50～17:10	造血臓器の発生と構造	井上明宏	講義室 3号館3階
5/10	木	10:30～11:50	血球細胞の形態と機能	水島 昇	〃
5/11	金	15:50～17:10	血球細胞の形態と発生分化(実習形式)	井上明宏	組織・病理実習 室 3号館4階
5/17	木	10:30～11:50	臨床血液病学総論	三浦 修	講義室 3号館3階
5/18	金	15:50～17:10	赤血球系疾患(Ⅰ)	〃	〃
5/24	木	10:30～11:50	赤血球系疾患(Ⅱ)	〃	〃
5/25	金	15:50～17:10	赤血球系疾患(Ⅲ)	〃	〃
5/31	木	10:30～11:50	白血球系疾患(Ⅰ)急性白血病	〃	〃
6/1	金	15:50～17:10	白血球系疾患(Ⅱ)骨髓異形成症候群と骨髓増殖 性疾患	〃	〃
6/14	木	10:30～11:50	白血病臨床講義	新井文子	〃
6/15	金	15:50～17:10	白血球系疾患(Ⅲ)小児期の白血球異常とその特 徴	水谷修紀	〃
6/21	木	10:30～11:50	血液・悪性リンパ腫の病理	北川昌伸	〃
6/22	金	15:50～17:10	悪性リンパ腫と多発性骨髄腫の臨床	福田哲也	〃
6/25	月	12:50～14:10	赤血球系疾患(Ⅳ)小児期に問題となる貧血とその 特徴	水谷修紀	〃
6/25	月	14:20～15:40	止血異常(Ⅱ):小児期の止血異常とその特徴	〃	〃
7/3	火	10:30～11:50	悪性リンパ腫臨床講義	福田哲也	〃
7/4	水	12:50～14:10	止血異常(Ⅰ)	小山高敏	〃
7/17	火	9:00～10:20	血液試験		

(英訳) Public Health

○教育目的

医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると、公衆衛生学は典型的な社会医学である。つまり、医学にあって特にその社会性に注目して、健康の仕組み、疾病の成立、予防の方法、医療のあり方などを扱う学問である。そこでは、決して単一の視座からのみ事象を解析することなく、多数の視点から様々な方法論を応用して解析し、社会における問題の所在とその構造を明らかにし、組織的な努力によって問題の解決をはかろうとするものである。卒前教育においては、知識・技能・態度 (attitude) という三種類のバランスのとれた基礎能力を養うことが一般目標である。なかでも、学生が今後自らの行う医学・医療を人間社会のなかにおいて位置づけ、問題の所在の把握とその解決能力を備えた **public health mind** を獲得することを教育の目的としている。その達成のために、生涯にわたって医師としての専門職に必要な公衆衛生学の基礎能力を養い、能動的な学習態度、知識、方法、制度、人材などさまざまな資源を広く適切に活用することによって、人間の健康に関する問題を現実解決に導くための問題解決能力を開発する教育プログラムが用意されている。

○授業の概要

公衆衛生学の教育プログラムは、公衆衛生学講義、公衆衛生学課題研究、公衆衛生学実習、ならびに特別セミナーからなっている。

一般に公衆衛生学で扱う内容は、以下の項目である。

(Ⅰ.保健医療論) 1.公衆衛生学の歴史、2.健康の概念と認識、3.健康と環境の相互影響、4.健康決定因子、5.人間居住環境、6.国際保健、7.地域保健・地域医療、8.都市保健、9.保健・医療・福祉の連携、10.保健・医療・福祉の制度・行政と資源、11.社会保障制度と医療経済、12.保健・医療・福祉関係法規、(Ⅱ.予防と健康増進) 13.衛生統計・多変量解析、14.疫学、15.ヘルスプロモーション、16.健康教育、17.健康管理、18.生活習慣と健康、19.母子保健、20.成人・老人保健、21.学校保健、22.精神保健、23.産業医学・産業保健、24.環境中毒学、25.環境汚染と健康影響、26.環境保健・地球環境問題、27.食品保健・食生活と健康影響、28.感染症対策

公衆衛生学講義では、これらすべてを扱う時間がないが、医学系 CBT・OSCE および医師国家試験における要求や、卒後の研修、また医師としての業務の社会性をふまえるならば、各自の自己学習におうところが大きい。

公衆衛生学課題研究 (公衆衛生学実習) では、学生が個別に選択した課題に取り組み、資料・文献収集、取材、調査、データ解析を行い、レポートを作成する。特別セミナーや学外見学・演習では、共通の課題に少人数のグループで取り組む。これらのプログラムにより、公衆衛生学に関わる具体的な諸問題を多角的に考察し認識する能力、「自ら学びとる」能動的な学習能力、科学的に論理を展開する能力を開発し、自らの見解を聴衆にわかりやすく伝達する技能を養成する。

公衆衛生学の教育プログラムにあつては、講義の内容をふまえて、課題研究、実習、小グループセミナーに、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。特に、課題研究には各自の主体的な取り組みの姿勢があつて初めて、公衆衛生学の技能・態度が養われる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につけてほしい。

○授業のキーワード

健康の概念；環境と健康；社会環境の変動と国民の生活；疾病・障害の概念と社会；日本の保健・医療・福祉・介護制度の特徴；保健・医療・福祉・介護の組織と連携；国と地方公共団体；保健所；地方衛生研究所；市町村保健センター；高齢化・少子化社会・障害児（者）への対応；健やか親子 21；在宅ケア；地域保健・地域医療と医師の役割；医療計画（地域保健医療計画）；プライマリーヘルスケア；Alma Ata 宣言；健康増進；ヘルスプロモーション；健康日本 21；救急・災害医療；へき地医療；保健・医療・福祉・介護従事者；社会保障の概念；医療保険と公費医療；医療経済；世界の保健・医療問題；国際保健・国際協力；世界保健機関（WHO）；地域保健法；健康増進法；母子保健法；老人保健法；精神保健福祉法；感染症法；検疫法；予防接種法；食品衛生法；学校保健法；労働基準法；労働安全衛生法；じん肺法；環境基本法；健康保険法；国民年金法；老年福祉法；高齢者の医療の確保に関する法律；コミュニティヘルス；予防医学；一次予防；二次予防；三次予防；健康教育・学習；健康診断・診査；特定健康診査・特定保健指導；健康管理；母性保護；家族計画；母子健康手帳；療育・育成医療；生活習慣病；ゴールドプラン 21；地域精神保健活動；精神保健福祉センター；精神障害者の社会復帰施設；新興再興感染症；国民の栄養の現状と対策；食品の安全性と機能性；学校医；学校伝染病；学校精神保健；学校安全教育・安全管理；業務上疾病；産業医；健康管理；作業環境管理；作業管理；許容濃度と管理濃度；生物学的モニタリング；労働災害；トータルヘルスプロモーションプラン（THP）；労働安全衛生マネージメントシステム；環境汚染；公害

○教科書・参考書

1. Wallace R. Maxey-Rosenau-Last public health and preventive medicine. 15th ed. New York: McGraw-Hill Medical; 2008. (図書館蔵書)
2. Detels R, et al., editors. Oxford textbook of public health, 5th ed. New York: Oxford University Press; 2009. (電子書籍(OV I D)/健康推進医学分野蔵書)
3. 鈴木庄亮, 他, 編. シンプル衛生公衆衛生学. 東京都: 南江堂, 2011. (図書館蔵書)
4. Roemer MI. National health systems of the world. volume I & II. New York: Oxford University Press; 1993. (図書館蔵書)
5. Takano T, editor. Healthy cities and urban policy research. London: Spon Press; 2003. (図書館蔵書)
6. 高野健人, 河原和夫, 他, 編. 社会医学事典. 東京: 朝倉書店, 2002. (図書館蔵書)

蔵書)

7. Marmot MG, Wilkinson RG. Social determinants of health. 2nd ed. New York: Oxford University Press; 2006. (健康推進医学分野蔵書)
8. 厚生統計協会, 編. 国民衛生の動向. 厚生指標臨時増刊, 各年発行.
(図書館蔵書)
9. 厚生労働省. 厚生労働白書. 東京: ぎょうせい, 各年発行.
(http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/)
10. 日本疫学会, 編. 疫学-基礎から学ぶために.
東京: 南江堂, 1996. (図書館蔵書)
11. Porta M. A dictionary of epidemiology. 5th ed. New York: Oxford University Press; 2008. (図書館蔵書)
12. WHO西太平洋地域事務局. SARS—いかに世界的流行を止められたか.
東京都: 結核予防会, 2007. (健康推進医学分野蔵書)
13. ルネデュボス. 健康という幻想 新装版—医学の生物学的変化.
東京: 紀伊國屋書店, 1977. (図書館蔵書)

○他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「社会医学」の他、系統講義「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

○ 参照 URL

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進医学分野

<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>

政府統計の総合窓口 (e-Stat) <http://www.e-stat.go.jp/>

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

東京都福祉保健局 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>

世界保健機関 (WHO) <http://www.who.int/>

○成績評価の方法

公衆衛生学の基礎的な知識を獲得しているかどうかの評価だけではなく、問題の所在の把握ならびに問題解決に必要な基礎的な技能を身につけているか、公衆衛生学に取り組む態度 (attitude)、自ら積極的に **public health mind** をもって課題に取り組んだかどうかについて評価を行い、これらを総合して最終評価とする。具体的には、基礎的な知識の獲得の評価は最終筆記試験の結果により行う。技能の獲得の評価は、公衆衛生学課題研究のレポート、発表ならびに最終筆記試験の結果により行う。態度の評価は、講義・小グループセミナー・公衆衛生学学外実習への参加態度ならびに公衆衛生学課題研究への取り組みの姿勢をもって行う。最終筆記試験は、共用試験 (CBT) および医師国家試験に準じた多肢選択式問題と、問題の把握から解決までの理論的思考を問う論述問題とする。

○受講上の注意

公衆衛生学の教育プログラムにあつては、講義の内容をふまえて、課題研究、小グループセミナー、学外実習に、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。特に、課題研究には各自の主体的な取り組みの姿勢があつて初めて、公衆衛生学の技能・態度が養われる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につけてほしい。

○その他

- (1)本科目は四大学連合・複合領域コース（海外協力コース、生活空間研究コース、医療・介護・経済コース）の授業科目である。
- (2)講義等についての詳細は、大学院医歯学総合研究科健康推進医学／国際保健医療協力学ホームページ（<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>）を参照すること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

高野健人 secretary1.hlth@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期	公衆衛生学				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/23	月	14:20～15:40	公衆衛生学総論	高野健人	講義室 3号館3階
4/24	火	14:20～15:40	健康増進政策の立案と評価	河原和夫	〃
4/27	金	14:20～15:40	疫学・臨床疫学	高野健人	〃
5/2	水	10:30～11:50	地域保健	中村桂子	講堂 5号館4階
5/7	月	10:30～11:50	母子保健・学校保健	高野健人	講義室 3号館3階
5/8	火	12:50～14:10	衛生行政の実際	〃	〃
5/9	水	12:50～14:10	産業保健・産業医学と産業医	〃	〃
6/11	月	9:00～10:20	公衆衛生学試験		

4 学 年 前 期	公衆衛生学実習				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/4	月	9:00～17:10	公衆衛生学実習（予防と健康管理・増進）	高野健人 他	最初の授業で 発表
6/5	火	9:00～17:10	公衆衛生学実習（社会保障制度と医療経済）	〃	
6/6	水	9:00～17:10	公衆衛生学実習（保健・医療・福祉・介護の 仕組み・法規・資源）	〃	
6/7	木	9:00～17:10	公衆衛生学実習（地域保健・地域医療）	〃	
6/8	金	9:00～17:10	公衆衛生学実習（国際保健・環境保健）	〃	

(英訳) Geriatrics

○教育目的

社会全体の高齢化を反映して、一部の科を除けば、高齢者が患者のかかなりの部分を占めている。将来どのような専門を専攻するにしても、加齢にともなう身体・精神諸機能の変化や、高齢者の疾病の特徴を理解しておくことは重要である。本コースの到達目標は、高齢者の診療にあたって留意すべき事項の概要を理解することである。

○授業の概要

総論で高齢者の疾病の特徴、老年症候群などを学習したのち、実際の症例の分析を行いながら高齢者の診療上問題となる事項を学習する。

○授業のキーワード

総合医療、チーム医療、加齢に伴う身体・精神の変化、高齢者の疾病の特徴、老年症候群、CGA、生活習慣病、動脈硬化

○教科書・参考書

- (1) 日本老年医学会編 改訂版 老年医学テキスト メジカルビュー社 (2008年改訂版)
- (2) Kane RL, Ouslander JC, Abrass IB “Essential of Clinical Geriatrics 4th ed” McGraw Hill (1994)
- (3) Ham RJ, Sloane PD et.al. “Primary Care Geriatrics” 5th ed (2007)

○他科目との関連

老年病は内科の一分野であり、内科各科のすべての知識を基礎に成り立っている。また整形外科、精神科、歯科、看護、社会福祉、リハビリテーションなど幅広い医療専門職とチームを組んで診療にあたることが多いので、これまで学んだ各分野の知識や常識を動員して総合する作業が必要である。

○成績評価の方法

出席、レポート提出、試験

○受講上の注意

老化に伴う生理的变化、老化の生物学等を学習する。系別総合講義とあわせて、老年病学の枠組みを理解できるように計画されている。知識伝達型の講義ではないので、教科書を読んで知識を習得することが前提となっている。

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		老年病学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/6	木	14:20～15:40	高齢者疾患の特徴(1)	下門頭太郎	講義室 3号館3階
9/7	金	14:20～15:40	〃 (2)	〃	〃
9/11	火	14:20～15:40	高齢者の心疾患	金子英司	〃
9/13	木	14:20～15:40	高齢者の精神、心理	阿部庸子	〃
9/18	火	10:30～11:50	ケーススタディ(1)	金子英司	〃
9/20	木	12:50～14:10	〃 (2)	下門頭太郎	〃
10/5	金	9:00～10:20	老年病学試験		

(英訳) Neuropsychiatry

○ 教育目標

人間は身体的、心理的、そして社会的な存在であり、それらが健全な平衡状態にある時が健康であるといえる。精神医学は心理的な部分に重点をおきながら身体的、社会的存在としての人間の病態を対象とする学問である。そのため、精神医学は臨床医学全般の基礎をなすと同時に社会精神医学、司法精神医学、精神保健学までも含む幅広い学問であるといえる。医学における神経精神医学に関しての教育目標として、精神の病的状態の原因、症状、経過、予後についての学習を通して、病める人間としての患者を全体的にとらえ、かつ理解する能力を習得することを目標とする。さらに、治療の場においては心理学的、社会学的、生物学的な手法が駆使されることを実習および体験し、今後の臨床研修において、医療人あるいは研究者としての自己発展の基盤形成に寄与する。

○ 学習方法

- 1) 系統講義では、精神疾患の分類などの症候論について、その総論的にふれてから、心因性、内因性、外因性の各疾患に関する各論へと展開していく。精神症状ないし精神疾患がもつ独自性を認識し、同時にそれを医学的および科学的に把握するための基本を学ぶ。
- 2) 臨床講義では、毎回、教官の指導のもとにプラクチカントが症例を提示し、具体的な症状・経過に基づいて、診断および治療に関する討論をおこなう。なお、司法精神医学や児童精神医学など、各種関連領域についての特別講義がこの時期に繰り込まれ、幅広い知識を身につけるよう促す。
- 3) 臨床実習の Combination Block (1 週間) では、入院患者 1 名についてのレポートをまとめながら、実際の診療を見学するだけでなく、外来新患の予診取り、入院患者のためのレクリエーションやデーケアへの参加、病棟カンファランスでの症例のプレゼンテーションを行い、クルズスによって薬物療法、精神療法および心理社会療法の知識と理解を豊かなものにする。Clinical Clerkship (4 週間) では、新規に入院した患者の入院初日から、受け持ち医師グループの一員として、その診断および治療などの診療に参加し、入院カンファランスでは、自ら症例提示を行い、診断や治療の問題点についての議論に主体的に参加する。この他、外来新患の予診取りを多数例行い、病棟レクリエーションとデーケアへの参加を内容面と回数において充実させて、いわゆる「関与しながらの観察」を行うことによって、精神障害患者の言動を指標とした精神症状の理解や治療効果の評価の実際を経験する。また、各精神障害についての各論的クルズスによって、幅広い知識と理解につなげる。Combination Block および Clinical Clerkship のいずれにおいても、総括討論においては、実習の評価だけでなく、実習によって得られた知識と経験の確認と統合を行う。

○ 教科書

書 名	著 者 名	発行所名	発行年
Kaplan & Sadock's Comprehensive Textbook of Psychiatry(図書館電子図書)	Benjamin J. Sadock, Birginia A. Sadock 編	Lippincott Williams & Wilkins	2005 年
カプラン、臨床精神医学ハンドブック、第3版	融 道男、岩脇 淳 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2007 年 9 月
標準精神医学 (第4版)	野村総一郎、樋口輝彦、尾崎紀夫 編	医学書院	2009 年 3 月

○ 参考書

書 名	著 者 名	発行所名	発行年
ICD-10、精神および行動の障害、臨床記述と診断ガイドライン (新訂版)	融 道男、中根 允文、小見山実 訳	医学書院	2005 年 11 月
DSM-IV-TR、精神疾患の診断・統計マニュアル—新訂版—	高橋三郎、大野 裕、染矢俊幸 訳	医学書院	2004 年 1 月
DSM-IV-TR、精神疾患の分類と診断の手引き—新訂版—	高橋三郎、大野 裕、染矢俊幸 訳	医学書院	2003 年 8 月
精神薬理学エッセンシャルズ (第3版)	仙波純一、松浦雅人、中山和彦、宮田久嗣 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2010 年 5 月
Principles & Practice of Psychopharmacotherapy(図書館電子図書)	Frank J. Ayd Jr. ほ か 編	Lippincott Williams & Wilkins	2006 年
Lewis's Child and Adolescent Psychiatry: A Comprehensive Textbook(図書館電子図書)	André Martin, Fred R. Volkmar 編	Lippincott Williams & Wilkins	2007 年
ポケット臨床脳波	福沢 等 著	日本医事新報社	2005 年 2 月
現代精神医学事典	加藤敏ほか 編	弘文堂	2011 年 10 月

○ 参照 URL

日本精神神経学会 : <http://www.jspn.or.jp/index.shtml> (統合失調症について)

日本うつ病学会 : <http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/index.html> (治療ガイドライン)

日本臨床精神薬理学会 : <http://www.jscnp.org/index.html> (臨床評価尺度、重篤副作用マニュアル)

日本睡眠学会：<http://www.jssr.jp/index.html> （睡眠障害の基礎知識）

○ 成績評価の評価法

系統講義および臨床講義については、講義終了後に行われる試験で評価する。Combination Block および Clinical Clerkship の成績は卒業試験に加え採点する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

授業責任者：西川 徹 （tnis.psyc@tmd.ac.jp）

クラークシップディレクター：車地暁生（0724.psyc@tmd.ac.jp）

クラークシップチューター：武田充弘（takeda0615@rapid.ocn.ne.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		神経精神医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/23	月	9:00～10:20	精神医学総論・精神医学的診断学	西川 徹	講義室 3号館3階
4/23	月	10:30～11:50	アルコール関連問題・薬物依存	山本 直樹	〃
5/8	火	9:00～10:20	児童・青年期精神障害	(山田 佐登留)	〃
5/18	金	12:50～14:10	統合失調症	西川 徹	〃
5/18	金	14:20～15:40	気分障害	車地 暁生	〃
5/31	木	12:50～14:10	器質性精神障害・リエゾン精神医学	竹内 崇	〃
5/31	木	14:20～15:40	てんかん	(加藤 昌明)	〃
6/11	月	12:50～14:10	司法精神医学	(中谷 陽二)	〃
6/11	月	14:20～15:40	神経症障害	(大島 一成)	〃
6/13	水	12:50～14:10	パーソナリティ障害	(仲谷 誠)	〃
6/13	水	14:20～15:40	老年期精神障害	(小山 恵子)	〃
6/22	金	12:50～14:10	精神症状論	(花村 誠一)	〃
7/4	水	14:20～15:40	臨床講義・気分障害	上里 彰仁	〃
7/10	火	10:30～11:50	臨床講義・統合失調症	治徳 大介	〃
7/11	水	10:30～11:50	臨床講義・不安障害	武田 充弘	〃
7/23	月	9:00～10:20	精神・心療試験		

【注意事項】

臨床講義にあたっているグループ（初回の講義後に決める）は、前の週の月曜日の昼休み（12：30）に、白衣、名札持参の上、病棟（B棟2階）前に集合。担当は講義係の成島（教員室：5242、病棟（B－2）：5689または7533、外来：5673または7485、PHS：61134）。その時に、患者と主治医を紹介するので、診察日の予定を決める。そして、主治医が診察するところを観察し、カルテなどを参考にレジメを作成、講義のある前週の木曜日に、精神科秘書室（医歯学総合研究棟13階・教員室1：5242）まで提出し、チェックを受ける。なお、上記講義予定は教育要項－履修の手引き－の講義内容および日程とは異なる点があるので注意。

(英訳) Surgery

○教育目標

外科的諸疾患についての考え方、診断と外科的治療の基本原則の理解をはかる。そのために外科学の歴史、病因論、病態論、診断法、手術適応、手術術式、周術期患者の管理法、救急処置法などが授業内容の主なものである。

病態論、診断学、手術適応、手術術式、周術期管理、救急処置を中心に学習する。

また、医の倫理、インフォームド・コンセント、QOLについても外科の立場から触れる。

○授業の概要

項目	主な内容
● インフォームド・コンセント 外科診断学・症候学	病歴聴取、診察、各種画像診断、患者接遇
● 栄養・代謝	周術期の輸液・栄養管理を中心に
● 炎症・侵襲、熱傷	炎症・侵襲に対する生体反応とその管理、熱傷
● 血管外科	動脈瘤、閉塞、静脈瘤等の診断と治療
● 食道・横隔膜疾患	各領域の悪性疾患・良性疾患の 病態、診断、治療方針の決定、治療（手術）
● 胃・十二指腸疾患	
● 小腸・大腸疾患	
● 肝胆膵疾患	
● 乳腺疾患	
● ヘルニア・腹壁・腹膜	
● 小児外科	抗がん剤治療の基本的な考え方と実際 トランスレーショナルリサーチ
● 化学療法	
● 遺伝子・分子生物学	外科治療が中心となる遺伝性腫瘍 診断・治療への分子生物学的アプローチ

○授業のキーワード

食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌、良性腫瘍、アカラシア、逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、消化管憩室症、胆石症、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、乳癌、甲状腺癌、上皮小体腫瘍、虫垂炎、ヘルニア、痔疾、臓器移植

○教科書・参考書

- ・標準外科学（医学書院、【第12版】2010年）
- ・新臨床外科学（医学書院、【第4版】2006年）
- ・NEW 外科学（南江堂、【第3版】2012年2月）
- ・臨床外科学3 消化器外科学（朝倉書店、2006年）
- ・Schwartz's Principles of Surgery. 9th ed. (McGraw-Hill, U.S.A. 【第9版】2009年)
- ・Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice. (Saunders, U.S.A. 【第19版】2012年2月（予定）)

○ 参照 URL

- Minds 医療情報サービス <http://minds.jcqh.c.or.jp>
・・・各種診療ガイドライン、一般向けガイドラインの解説などが閲覧できます。
- がん情報サービス <http://ganjoho.jp/public/index.html>
・・・国立がん研究センターがん対策情報センターが配信
各種がんの解説、最新統計などが医療者向け／一般向けに掲載されています。

消化器疾患は病態、治療など内科学との深い関係を持つ。直腸疾患では泌尿器科、婦人科との関連が深い。血管の疾患では循環器内科および泌尿器科との関連が深い。

○成績評価の方法

定時的な試験による（第4学年前期）

○受講上の注意

受講後には教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通し、一応その日の受講項目はその日のうちにある程度のところまで理解しておくことが望ましい。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

腫瘍外科学講座： 石黒めぐみ (ishiguro.srg2@tmd.ac.jp)

肝胆膵・総合外科学講座：田中真二 (shinji.msrg@tmd.ac.jp)

食道・一般外科学講座：中島康晃 (yasu.nakajima.srg1@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		外科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/25	水	9:00～10:20	インフォームド・コンセント、外科診断学・症候学	杉原健一	講義室 3号館3階
4/27	金	9:00～10:20	ヘルニア・腹壁・腹膜	(中嶋昭)日産厚生 会玉川病院外科	〃
5/2	水	9:00～10:20	血管外科	井上芳徳	講堂 5号館4階
5/7	月	9:00～10:20	食道	河野辰幸	講義室 3号館3階
5/9	水	9:00～10:20	小腸・大腸	石黒めぐみ	〃
5/11	金	9:00～10:20	炎症・侵襲・熱傷	(遠藤健)日本赤十字 社医療センター外科	〃
5/16	水	9:00～10:20	乳腺	佐藤隆宣	〃
5/18	金	9:00～10:20	栄養・代謝	永井鑑	〃
5/23	水	9:00～10:20	肝胆膵(1)	中村典明	〃
5/25	金	9:00～10:20	肝胆膵(2)	田中真二	〃
5/28	月	9:00～10:20	胃・十二指腸	小嶋一幸	〃
5/30	水	9:00～10:20	化学療法	植竹宏之	〃
6/1	金	9:00～10:20	遺伝子・分子生物学	飯田聡	〃
6/1	金	10:30～11:50	小児外科	(岡本健太郎)獨協 医科大学小児外科	〃
6/18	月	9:00～10:20	外科学試験		

(英訳) Orthopaedic Surgery

○ 教育目標

整形外科は身体の運動機能障害を治療する診療科である。その治療対象は骨関節および脊椎と脊髄・末梢神経であり、外傷と疾病に起因する身体運動機能の不全状態をできるだけ健康状態に戻すことを目標にしている。加えて骨肉腫をはじめとする骨軟部腫瘍や骨粗鬆症も含まれるので、扱う疾患はかなりバラエティに富んでいる。また、患者の年齢層も小児から高齢者まで多彩であり、最近ではスポーツ障害や高齢者の健康寿命の維持が注目されている。

治療方法としては、手術治療を中心に行われるものの、装具療法やギブス、投薬や運動療法（コンディショニング、リハビリテーションを含む）などによる保存治療も非常に大切である。

学部講義により、整形外科の疾患概念と診断・治療法の基本を知ることができる。とくに、どの診療科に進むにあたって臨床を行う限り求められる、身体機能維持に関する知識を身につけることが目標となる。また、近年の再生医療の進歩は整形外科領域から発信されたものも多く、それらに関する最新知見にも触れることができる。

○ 学習方法

- 1) 整形外科で扱う疾患を部位別に分け、脊椎・上肢・股関節・膝関節に大別してそれぞれの専門医が外傷学とスポーツ障害・加齢性疾患を分けて講義を行う。骨軟部腫瘍・骨代謝疾患、リハビリテーションなどは横断的に扱う。
- 2) 骨関節・脊椎領域の画像診断（X線・MRI・CT・エコーなど）は診断および治療法決定に重要であり、講義では教科書で得られないポイントを明示する。
- 4) クリニカルクラークシップでは手術参加を基本とするが、その前段階として講義中に手術動画を供覧し、整形外科手術の方法論を学ぶ。
- 5) 単に傷病や手術の知識のみならず、医療者や医師患者間のコミュニケーション能力やカンファランスでのプレゼンテーションなど、医師としての基本的能力を講義・クリニカルクラークシップを通じて習得する。

○ 教科書

内田淳正監修：標準整形外科学 第11版 医学書院 2011

○ 参考書

越智隆弘総編集：最新整形外科学体系 1～25巻 中山書店 2006～2008
(整形外科 蔵書)

○ 参照 URL

<http://www.tmd.ac.jp/med/orth/orth-J.html>

○ 成績評価の評価法

出席および試験、レポート

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

若林良明 wakorth@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		整 形 外 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/15	火	12:50～14:10	整形外科の現状と未来	大川 淳	講義室 3号館3階
5/18	金	10:30～11:50	外傷学(総論+下肢)	柳下和慶	〃
5/28	月	10:30～11:50	外傷学(上肢)+末梢神経疾患	若林良明	〃
5/29	火	12:50～14:10	脊椎疾患(腰椎、脊柱変形)	大川 淳	〃
6/12	火	14:20～15:40	脊椎疾患(頸椎、脊髄腫瘍)	川端茂徳	〃
6/13	水	10:30～11:50	外傷学(脊椎・脊髄)	加藤 剛	〃
6/20	水	10:30～11:50	骨軟部腫瘍	(阿江啓介)	〃
6/21	木	9:00～10:20	代謝性骨疾患	野田政樹 (竹田 秀)	〃
6/26	火	9:00～10:20	肩・肘関節疾患とスポーツ整形	(中川照彦)	〃
6/29	金	9:00～10:20	膝関節疾患とスポーツ整形	宗田 大	〃
7/3	火	9:00～10:20	股関節疾患と小児整形外科	神野哲也 (瀬川裕子)	〃
7/5	木	10:30～11:50	人工骨と生体材料	早乙女進一 (植村寿公)	〃
7/9	月	14:20～15:40	iPSと軟骨再生	関矢一郎	〃
7/12	木	9:00～10:20	リハビリテーション	森田定雄	〃
7/13	金	12:50～14:10	リハビリテーション	〃	〃
7/25	水	9:00～10:20	臨床講義(人工関節)	古賀英之	〃
7/25	水	10:30～11:50	臨床講義(骨軟部腫瘍)	澤村千草	〃
9/5	水	8:50～10:10	臨床講義(脊椎)	吉井俊貴	〃
9/10	月	9:00～10:20	整形外科学試験		

(英訳) Dermatology

○教育目標

皮膚科学は、皮膚に表現される症状の観察結果を基盤にして、生体の活動を読み取る学問である。そのため、形態学を中心として発展し、ほとんど全ての疾患概念が組み立てられているが、近年の免疫学、生化学、生理学、分子生物学の長足の進歩に伴い、皮膚疾患の病態生理、病因が明かにされ、疾患概念についての修正が加えられ、また、皮膚疾患治療へのアプローチも容易になってきている。

皮膚科学は、疾患の検索において、種々の内科学的手法を駆使する学問であるが、治療においては、外科学的手技をも駆使する学問である。皮膚疾患は、全身状態と深い関わりをもって皮膚に表現されてくるので、皮膚疾患を診る場合には、常に全身的な視野にたって観察することが要求される。

皮膚病変は、病因の如何にかかわらず、皮膚を「発現の場」としているのので、病変を理解するためには、皮膚の解剖学、病理組織学、生理学、生化学、免疫・アレルギー学、分子生物学などの基礎医学の知識を応用したとらえ方が要求される。

4年次では、皮膚科学の基本的事項について学習する。理解を容易にするために、臨床例を中心にして、学生主体の討論を行い、皮膚疾患についての基本的知識を習得することを目的とする。加えて、それらの疾患についての最近の知見について解説を行う。皮膚疾患は非常に多数あるので、できるだけ重要な疾患にしぼり、皮膚疾患患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。授業の範囲からはずれた疾患については、自己学習を行うことが義務づけられていることを忘れないで欲しい。

5年次より開始される臨床実習では、実際の皮膚病変に直接接して考えることを目的としている。外来患者全てが実習の対象となる。初診外来患者の病歴を聴取し、同時に皮膚病変の観察を行う。患者の持つ皮膚疾患の診断、検査の組み立て、病因の追求について学習する。外来では、できるだけ多くの症例を経験し、経験した症例については、そのつど簡単な解説は行われるが、診療後にその症例についての自己学習を行うことが義務付けられている。

病棟入院患者については、患者の副主治医として診療に参加し、診断、検査、治療の実践について学習する。皮膚検査、軟膏処置などを体験する。その際、単に教官から教わるというのではなく、一人の医師として「自ら診、自ら考える」という心構えのもとに、積極的に診療活動に参画することを期待している。また、皮膚疾患を持つ患者は、心の面でも複雑な状況にあることをも考慮し、「如何に患者さんに接するべきか」についても十分に学んで欲しい。

学外病院での実習では、日頃の診療でよく見かけるポピュラーな皮膚疾患について経験を積む。

○授業の概要

- 1 皮膚疾患診断のための基本的知識と技術皮膚の構造と機能、皮疹の種類とその見分け方・考え方、皮膚科検査法（パッチテスト、皮内テスト、皮膚機能検査など）について自己学習する
- 2 蕁麻疹・痒疹・紅皮症蕁麻疹の分類・発症機序・原因検索法、痒疹の種類と原因検索法、紅皮症の種類と紅皮症をきたす基礎疾患について臨床例をもとに学習する
- 3 角化異常による皮膚疾患先天性角化異常症の種類と遺伝子異常、乾癬、類乾癬、扁平苔癬の病態・診断・治療法について臨床例をもとに学習する
- 4 湿疹・皮膚炎群の疾患アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、ビダール苔癬などの湿疹皮膚炎群の疾患とその類症の病態・原因・診断・鑑別診断・検査法・治療について臨床例をもとに学習する
- 5 血流障害・血管炎による皮膚疾患紫斑・潰瘍の形成機序、アナフィラクトイド紫斑、アレルギー性血管炎、結節性多発性動脈炎、全身疾患に伴う血管炎・血流障害の臨床例を中心に学習する
- 6 膠原病の皮膚症状各種膠原病に出現する皮膚症状の種類とその発現機序、診断における皮膚症状の位置付けなどを臨床例を中心に学習する
- 7 薬物障害による皮膚症状薬疹・中毒疹の原因薬剤・因子、病型、皮膚症状の発症機序、原因薬物・因子の検索法、治療法について臨床例を中心に学習する
- 8 水疱症先天性表皮水疱症の診断と鑑別診断、遺伝子異常、自己免疫性水疱症の病態、診断と診断法、治療について臨床例をもとに学習する
- 9 母斑・皮膚腫瘍母斑及び母斑症、良性腫瘍、悪性腫瘍の種類、良性と悪性の鑑別法について学習する
- 10 感染症一般細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の種類とその起炎菌、診断のポイントと治療の基本について学習する
- 11 皮膚疾患の見方・考え方皮膚疾患全体を通してどのように観察し、観察結果を診断、治療につなげるかを解説する

○参考図書

- 1 上野賢一著 「皮膚科学」 金芳堂出版
- 2 池田重雄他監修「標準皮膚科学」 医学書院
- 3 西山茂夫著 「皮膚病アトラス」 文光堂
- 4 清水宏著 「あたらしい皮膚科学」 中山書店

○さらに詳しく勉強したい時

- 1 現代皮膚科学大系 中山書店
- 2 皮膚科 Mook（疾患毎に分冊となっている）金原出版
- 3 Rook/Wilkinson/Ebling: Textbook of Dermatology. Blackwell Scientific Publication.
- 4 Fitzpatrick et al: Dermatology in General Medicine. McGraw-Hill Book Co.
- 5 Lever/Schaunburg-Lever: Histopathology of the Skin. JB Lippincott Co.

いずれも皮膚科図書室にあり。その他最近の文献が知りたい場合には、皮膚科講義係に相談のこと。

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		皮膚科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/25	水	12:50～14:10	皮膚科総論Ⅰ	横関 博雄	講義室 3号館3階
4/27	金	10:30～11:50	皮膚科総論Ⅱ	〃	〃
5/2	水	14:20～15:40	湿疹・皮膚炎群Ⅰ	〃	講堂 5号館4階
5/14	月	10:30～11:50	湿疹・皮膚炎群Ⅱ ※	〃	講義室 3号館3階
5/15	火	14:20～15:40	蕁麻疹・痒疹・紅皮症Ⅰ	佐藤 貴浩	〃
5/21	月	10:30～11:50	蕁麻疹・痒疹・紅皮症Ⅱ ※	〃	〃
5/22	火	12:50～14:10	薬物障害・光線過敏	西澤 綾	〃
5/25	金	10:30～11:50	循環障害・血管炎	(山口 裕史)	〃
6/12	火	12:50～14:10	角化症・炎症性角化症	高山 かおる	〃
6/13	水	9:00～10:20	水疱症	佐藤 貴浩	〃
6/15	金	9:00～10:20	母斑・良性腫瘍	(勝俣 道夫)	〃
6/21	木	14:20～15:40	感染症Ⅰ	(加藤 卓朗)	〃
6/26	火	10:30～11:50	感染症Ⅱ	(古井 良彦)	〃
6/28	木	14:20～15:40	膠原病	(高河 慎介)	〃
7/2	月	14:20～15:40	附属器疾患・美容	高山 かおる	〃
7/4	水	10:30～11:50	皮膚悪性腫瘍	並木 剛	〃
7/19	木	9:00～10:20	皮膚科学試験		

※ 症例発表(プラカン)

(英訳) Urology

○教育目標

1 緒言

泌尿器科学は、腎・尿路系、精巣・精路系および内分泌系（副腎・上皮小体など）の疾患を扱う。泌尿器科学はもともと外科学の専門分野のひとつとして発展したものであるが、現在は、世界的な高齢化の潮流の中で、腫瘍性疾患および前立腺肥大症を中心とした排尿障害の治療は世界的な背景を持つ大きなニーズとなっている。また、増加を続ける尿路結石および性機能障害への対応も求められており、腎不全・腎移植、多様な先天異常も対応すべき疾患となっている。つまり、泌尿器科学は、腫瘍学、神経泌尿器科学、尿路結石学、腎臓病学、移植学、内視鏡学に加え、前立腺肥大症、性機能障害など男子生殖系に関する生殖生理学、先天異常を含む発生学、さらに副腎、上皮小体、生殖腺にかかわる臨床内分泌学を領域としている。症例毎の病態生理を多面的に解明して適切に外科療法あるいは内科的治療を加えるという立場で腎・尿路系、精巣・精路系および内分泌系の疾患をとり扱う領域と言える。

診断のための検査法は多岐にわたり、各種画像診断、内視鏡的検査、生検などの他に細菌学的検査、内分泌学的検査も必要であり、さらに腎機能検査、循環器系や神経系の検査を行い、これらと腎・尿路、精巣・精路、内分泌系疾患との関連および高齢化の中で増加する合併疾患との関連を究明していかなくてはならない。

当科では、上記の社会の要請に応える様々な革新的な取り組みを行っている（当科ホームページ参照）、基本的な泌尿器科領域の知識の上にたち、この取り組みの理由、進行過程などを理解し、泌尿器科の臨床および臨床研究への洞察を深めてもらいたい。

II 授業の目的と過程

1. 講義

腎・尿路系、精巣・精路系、内分泌系におこる疾患の種類、その発生病理、頻度、症候、診断、検査、治療などについて医師として必要な一般的な基礎知識を習得する。また、泌尿器科において経験した臨床例を通じて、症状、検査所見の持つ意味を考察し、診断を確定するための検査の進め方、その疾患に対する治療法を学ぶ。到達目標について学生自身が考え、討論して臨床の場における思考法を身につける。

2、 プレクラークシップ

泌尿器科の講義で習得した知識が、クラークシップで十分に多面的に活用されることを目的とした後腹膜・骨盤部を対象とした実習中心のコースである。腎臓内科、病理学、解剖学、産婦人科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、消化器内科、放射線科などと合同協力して、近隣臓器との関連も含めた総合的な診断実習を目指している。

3、クリニカルクラークシップ

臨床実習で、学生自身が患者さんと直接接することにより、これまで習得した知識がどのように活用されるかを自らの経験を通じて体得してもらう。具体的な診断法、治療法を見て、その実態に触れ、持つ意義をより深く洞察してもらう。単に疾患のみを考えるのではなく、疾患を持ち、これに悩む患者さんに対して医師がどのような責任と役割を果たしうるかという患者指向の医療を体得することもクリニカルクラークシップの大きな目的である。さらに当科で開発を進めている様々な新しい診断法、治療法を体験し、臨床における問題点の抽出、その改善のための研究開発過程に触れる。

○授業の概要

4 年生前期 次の項目で授業を行う。

尿路の閉塞性疾患	1
尿路結石症、尿路感染症、先天異常	1
前立腺肥大症	1
腎癌	1
尿路上皮癌	2
前立腺癌	2
精巣癌	1
蓄排尿障害	1
内分泌疾患（副腎）	1
性機能障害	1
男性不妊症、性分化異常	1

授業はまず、尿路閉塞による尿流のうっ滞、感染、結石形成のサイクルを中心に、尿路機能および病態生理を解説し、前立腺肥大症を含む尿流障害を生ずる疾患への理解を深める。次に腫瘍学で学んだ基礎的な知識をもとに腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣癌について実際の臨床に即して講義を行う。また、生理学で学んだ自律神経機能の知識を応用して蓄排尿機能を学び、それが障害された疾患を理解する。さらに内分泌学および発生学で学んだ知識を基礎に、副腎腫瘍や性分化異常を含む泌尿器科的内分泌疾患について臨床に即した講義を行う。

5 年生前期 プレクラーシップ

後腹膜・骨盤部を対象とした実習中心のコースとして腎臓内科、病理学、解剖学、産婦人科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、消化器内科、放射線科などと合同協力して総合的な診断実習を行う。

5 年生後期～6 年生前期 クリニカルクラークシップ

病棟では、病棟担当医の各グループに配属され、泌尿器科的診断、治療法の実践を学ぶ。手術室では、手術、特に当科で開発している低侵襲手術を実体験する。

○教科書・参考書

Campbell-Walsh Urology: Expert Consult Premium Edition (Saunders) 2011

標準泌尿器科学 第8版 (医学書院) 2010

ミニマム創内視鏡下泌尿器手術 (医学書院) 2002

イラストレイテッド ミニマム創内視鏡下泌尿器手術 (医学書院) 2007

新しい診断と治療のABC 45 腎癌・膀胱癌 (最新医学社) 2007 同改訂版 2011

新しい診断と治療のABC 49 前立腺癌 (最新医学社) 2007

泌尿器科のホームページ (疾患の最新の概説が記載されている)

○成績評価の方法

- 1) 講義中に逐次小試験を行う。成績は講座試験の評点に際し、参考資料とする。
- 2) クリニカルクラークシップでは、最終日にカンファランスを行い、評点する。成績は講座試験の評点に際し、参考資料とする。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

木原 和徳 k-kihara.uro@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		泌尿器科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/20	水	9:00～10:20	蓄排尿機能	増田 均	講義室 3号館3階
6/25	月	10:30～11:50	尿路上皮腫瘍	古賀文隆	〃
6/29	金	10:30～11:50	性機能	増田 均	〃
7/4	水	9:00～10:20	尿路上皮腫瘍	古賀文隆	〃
7/6	金	12:50～14:10	腎癌	齋藤一隆	〃
7/10	火	12:50～14:10	前立腺癌	木原和徳	〃
7/11	水	14:20～15:40	前立腺癌	木原和徳	〃
7/18	水	14:20～15:40	精巣癌	石岡淳一郎	〃
7/20	金	12:50～14:10	内分泌疾患(副腎)	沼尾 昇	〃
7/24	火	9:00～10:20	前立腺肥大症	吉田宗一郎	〃
7/26	木	12:50～14:10	尿路の閉塞性疾患	松岡 陽	〃
7/26	木	14:20～15:40	男性不妊症、性分化異常	石坂和博	〃
7/27	金	12:50～14:10	尿路結石症、尿路感染症、先天異常	横山みなと	〃
9/14	金	9:00～10:20	泌尿器科学試験		

(英訳) Ophthalmology

○教育目標

臨床各科の教育要領を検討するにあたり、眼科学においては、基礎医学において特に感覚器の一つとしての眼の生理学に関して十分な知識が習得せられていることが必要となる。

疾患知識については、具体的に主たる症状、臨床所見、原因及び病態生理、さらに治療法の概要の把握が必要である。

診断手技と治療手技は基本的な事項の習得を目標とする。

○授業の概要

1. 眼科疾患序論

眼科検査法概論目の構造と仕組み、及び眼科検査に関するオリエンテーション

2. 屈折異常、斜視、弱視

屈折調節の異常と小児眼科（斜視、斜弱）

3. 眼瞼、結膜、涙器、強膜の疾患

外眼部疾患総説

4. 角膜疾患

角膜の生理と病態の解釈、角膜移植

5. 水晶体の疾患

水晶体の疾患、白内障の手術療法を含む

6. ぶどう膜の疾患

ぶどう膜炎を中心にぶどう膜の疾患を述べる

7. 黄斑部疾患、網膜変性疾患

黄斑部疾患、網膜変性疾患の総説と治療法の解説

8. 網膜・硝子体疾患、未熟児網膜症

網膜剥離の診断と治療、未熟児網膜症

9. 高血圧、眼底出血、糖尿病網膜症

高血圧性網膜症、眼底出血、糖尿病網膜症の診断と治療

10. 緑内障

緑内障の病態と治療、緑内障眼底所見

11. 眼外傷、救急疾患

眼科救急診療の実際を解説

12. 視神経疾患、視路疾患

視神経疾患、視路疾患、視野の測り方とその解釈

13. 眼窩疾患

眼窩疾患の解説

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		眼科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	火	12:50～14:10	眼科序論	望月 學	講義室 3号館3階
4/25	水	14:20～15:40	眼症候学	鴨居 功樹	〃
4/27	金	12:50～14:10	斜視・弱視	田中 明子	〃
5/7	月	12:50～14:10	眼科検査法概論	宮永 将	〃
5/11	金	10:30～11:50	角結膜疾患	(佐々木秀次)	〃
5/15	火	10:30～11:50	小児眼科・未熟児眼	(東 範行)	〃
5/16	水	10:30～11:50	神経眼科	(清澤 源弘)	〃
5/22	火	10:30～11:50	屈折異常・調節障害	大野 京子	〃
5/23	水	10:30～11:50	白内障	高瀬 博	〃
5/29	火	10:30～11:50	ぶどう膜炎	(渡邊 俊樹)	〃
5/30	水	10:30～11:50	網膜血管病変・色覚	大野 京子	〃
6/1	金	12:50～14:10	緑内障	(白土 城照)	〃
6/11	月	10:30～11:50	網膜剥離・糖尿病網膜症	菅本 良治	〃
6/12	火	10:30～11:50	救急疾患・外傷	鴨居 功樹	〃
6/25	月	9:00～10:20	眼科学試験		

(英訳) Otorhinolaryngology

○ 教育目標

耳鼻咽喉科学は、重要な器官を多く内臓する頭頸部にあつて、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭とその関連領域を扱う。この領域の特徴とされるものをあげてみると、およそ次のごとく要約することができる。

1. この領域は呼吸道と消化管の入口部であり外界との接点となっているので、病原性微生物その他の有害物質の侵入門戸となる機会が多く、感染性炎症が主体となった疾患がきわめて多い。また、それらは全身性疾患に発展したり関連したりすることも多い。
2. 脳神経の末梢部分と直接あるいは間接的につよい関連があり、神経障害症状の観察、解明とともに治療に関して関与することになる。
3. 自律神経とも、この領域に分布する知覚枝を介して深い関連を有する。
4. 聴覚、嗅覚、味覚を司る感覚器と、身体平衡を司る前庭平衡器を含み、また人間の社会生活に欠くことのできないコミュニケーション機構の **input** としての聴覚機構と、**output** としての音声と言語の生成機構を有する。
5. 扱う多くの器官は粘膜上皮でおおわれており、またそれらは硬い骨組織に囲まれているので、それらの病態の特殊性を理解して疾患を考えねばならない。
6. この領域の悪性腫瘍は全身のその約5%とされている。頻度としては特に高いとは言えないが、治癒の成否を左右する早期の時点では患者の多くは専門医を訪れないで、一般医あるいは内科、外科医を受診する。したがって早期診断の必ずしも容易でないこの疾患を早期に診断あるいは疑いをもち専門医に送ることが、予後の鍵をにぎることになる場合が多い。
7. 上気道の閉塞あるいは出血は瞬時にして生命をおびやかすことになるので、これらに対する救急処置の知識は医師全般にわたって不可欠である。
8. 発生学的にこの領域に奇形が生じ易い。
9. この領域の疾患の所見は直接あるいは器具を用いて比較的容易に肉眼で観察確認できることが多く、診断の重要な助けとなるので、その技術の習得は医師全般にわたって必要である。講義割当時間数（医学部4年）1時間20分×12回

○ 授業の概要

耳鼻咽喉科学は、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭とその関連領域を扱い、感覚器ならびに上部消化管ならびに上気道を対象としている。授業ではその一部が示されるのみであるが、学習し身に付けておくと、どの分野を卒後専攻しても、良き臨床医になるが為の基本となる。さらに、授業では自己学習に必要な指針が示される。学生は、この授業を聴講し、呈示された問題点を、教科書にて確認し、記載内容を学習・習得するよう求められる。

○ 教科書

1. 喜多村健、森山寛 編「NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学」改訂第2版南江堂 2007
(図書館蔵書)
2. 切替一郎 原著、野村恭也 編著「新耳鼻咽喉科学」第10版南山堂 2004
(図書館蔵書)

○ 参考書

1. 小林武夫 編「新図解 耳鼻咽喉科検査法」第1版金原出版 2000
2. 日本聴覚医学会 編、立木 孝 監修「聴覚検査の実際」改訂3版南山堂 2009
3. 日本耳科学会、日本小児耳鼻咽喉科学会、日本耳鼻咽喉科感染症研究会 編
「小児急性中耳炎診療ガイドライン 2009年版」金原出版 2009
4. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業前庭機能異常に関する調査研究班(2008～2010年度)
編「メニエール病診療ガイドライン 2011年版」金原出版 2011
5. 鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会 作成「鼻アレルギー診療ガイドライン
2009年版」ライフサイエンス 2008
6. 日本めまい平衡医学会 編「イラストめまいの検査 改訂第2版」診断と治療社 2009
7. Michael J Gleeson (Editor), Nicholas S Jones (Editor), Ray Clarke (Editor), Linda
Luxon (Editor), John Hibbert (Editor), John Watkinson (Editor) 「Scott-Brown's
Otorhinolaryngology: Head and Neck Surgery」7th edition Hodder Arnold 2008

○ 参照 URL

1. 東京医科歯科大学耳鼻咽喉科学分野 頭頸部外科学分野 <http://www.tmd.ac.jp/oto/>
2. 社団法人 日本耳鼻咽喉科学会 www.jibika.or.jp/

○ 成績評価の評価法

授業中に適宜行う小テストならびに耳鼻咽喉科学試験をもとに評価する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

喜多村 健 kitamura.oto@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前	年 期 曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/15	金	10:30～11:50	総論・耳科学1	喜多村 健	講義室 3号館3階
6/18	月	10:30～11:50	耳科学2	野口 佳裕	〃
7/2	月	9:00～10:20	耳科学3	高橋 正時	〃
7/5	木	9:00～10:20	耳科学4	角田 篤信	〃
7/10	火	14:20～15:40	鼻科学1	鈴木 康弘	〃
7/12	木	12:50～14:10	鼻科学2	野口 佳裕	〃
7/12	木	14:20～15:40	鼻科学3	戸叶 尚史	〃
7/19	木	12:50～14:10	咽頭1	岩崎 朱美	〃
7/19	木	14:20～15:40	咽頭2	喜多村 健	〃
7/20	金	10:30～11:50	口腔・唾液腺	角 卓郎	〃
7/25	水	12:50～14:10	咽頭・全身疾患	鈴木 康弘	〃
7/26	木	10:30～11:50	救急疾患	角田 篤信	〃
9/24	月	9:00～10:20	耳鼻・頭頸部外科学試験		

(英訳) Radiology

○教育目標

1. 放射線医学は他の臨床各科の診療にも深く関連しており、教育内容の上では各科と重複する分野もある。放射線科では、放射線医学を単に装置の性能や便利さ、技術のみにとらわれずに、画像診断情報の総合的な利用法や治療における患者への対応の修得を目標としている。
2. 放射線医学は、放射線基礎医学（物理学、生物学、障害）、画像診断学、治療学に大別される。講義並びに臨床実習の細目は後述するが、診断学では CT を含めた X 線診断、インターベンション、超音波断層像、MRI ならびに核医学の評価などの系統的な読影法、鑑別診断の進め方などを主として教育する。治療学（放射線腫瘍学）では放射線療法の意義、適応、方法などを教育し、放射線取り扱いに伴う障害とその防護については放射線基礎医学の中で教育する。

○授業の概要

講義時間は放射線基礎医学 10%、診断学（超音波、インターベンション、CT、MRI、核医学を含む）70%、治療学 20%の時間に配分され、また臨床実習の時間帯は診断学、治療学に配分されている。

なお、放射線科は他の臨床各科との密なる連携が不可欠であるので他科との合同講義（画像診断や腫瘍学）には積極的に参加するように努めている。

1) 放射線基礎医学

放射線を正しく利用するには放射線に関する基礎的事項の理解が必要である。これらの事項は一括して講義すると同時に、臨床系講義及び実習時間に織り込むようにする。

- ・診断及び治療に必要な放射線物理
- ・細胞及び組織の放射線生物学
- ・放射線障害とその防護

2) 診 断 学

イ) X線像（X線CT像を含む）の読影法の基礎、診断過程と鑑別診断に重点をおく。

- ・神経放射線
- ・頭頸部疾患
- ・心、肺、大血管など胸部疾患
- ・胆嚢、肝、脾を含む消化器疾患
- ・泌尿器系を含む腹部疾患
- ・骨、関節疾患

ロ) 超音波検査の実際と読影の基礎

ハ) MRI（Magnetic Resonance Imaging）と読影の基礎

ニ) Interventional Radiology

ホ) 核 医 学

R I 診療に関する基礎知識及び臨床的応用について一通りの知識を与える。

- ・ SPECT 検査の基礎と臨床
- ・ PET・CT 検査の基礎と臨床

3) 放射線治療学

放射線治療の基礎的概念、各疾患に対する治療の有意性、治療方法及び治療に伴う障害について見識を与える。

- ・ 頭頸部腫瘍（口腔癌、上顎洞癌、咽頭癌、喉頭癌など）の根治治療
- ・ 悪性リンパ腫など放射線にも抗癌剤にも感受性の高い腫瘍
- ・ 乳癌、前立腺癌などの小線源治療を含む根治治療
- ・ 放射線と化学療法の併用
- ・ 子宮・食道・胆道の高線量腔内照射治療

なお、臨床実習日程については臨床実習手帳を参照すること。修得目標は以下のごとくである。

- 1) 診断学：専門化された特殊撮影手技を短期間で修得することは卒前教育のレベルでは不可能と思われる。したがって画像診断の基礎的知識、各画像診断における正常像への理解を深めることを目標とする。また RI 取り扱い上の注意、防護、管理及び測定法などについての理解を深める。
- 2) 治療学：学生に放射線治療機器を操作させたり、小線源を取り扱わせることは出来ない。このため根治疾患や姑息治療、癌放射線治療などについての広い知識の取得に努めることで十分と思われる。

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		放射線医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/18	月	12:50～14:10	放射線医学 総論	渋谷 均	講義室 3号館3階
6/18	月	14:20～15:40	画像診断 総論	大橋 勇	〃
6/28	木	9:00～10:20	核医学 総論	鳥井原 彰	〃
6/28	木	10:30～11:50	治療 総論	林 敬二	〃
7/5	木	12:50～14:10	放射線生物学	(坂本 澄彦)	〃
7/5	木	14:20～15:40	画像診断	大橋 勇	〃
7/6	金	9:00～10:20	PET	牧野 朋子	〃
7/6	金	10:30～11:50	胸部画像診断	(齋田 幸久)	〃
7/12	木	10:30～11:50	神経放射線	(徳丸 阿耶)	〃
7/13	金	9:00～10:20	IVR	岸野 充浩	〃
7/19	木	10:30～11:50	治療 各論Ⅰ	中川 恵子	〃
7/20	金	9:00～10:20	治療 各論Ⅱ	吉村 亮一	〃
9/3	月	9:00～10:20	放射線医学試験		

(英訳) Obstetrics and Gynecology

○教育目標

産科学と婦人科学の医学・医療における有機的な関連性に基づき、思春期より更年期・老年期までの一連の流れの中での女性の生理的・病的現象の系統的な理解を目標とする。思春期の発来から女性特有の月経周期が確立し性機能が成熟するまでの生殖内分泌、生殖年齢に達した後の受胎・妊娠・分娩・産褥を取り囲む生殖生理・周産期に関連した諸問題、成熟期より中高年にかけて発生する腫瘍学・感染症を中心とした婦人科疾患、そして更年期より老年期に移り特に近年注目される生殖臓器の aging などについて、これらの病態、診療の実際と治療を主眼とする。そして今日広く受け入れられている基本的な病態・検査・診断・治療に加え、最近進歩の著しい情報やテクノロジー・新しい診断基準・最新の治療法などについても積極的に授業に導入する。

○授業の概要

授業は、系統講義、臨床講義と実習、クリニカルクラークシップⅠ、Ⅱ、Ⅲよりなる。系統講義は生殖機能総論から始まり、月経周期とその障害・リプロダクションに関連した内容、とくに不妊症には重点を置き、体外受精・胚移植など新しいテクノロジー、子宮内膜症や多嚢胞性卵巣の病態・診断・治療も含まれる。次に、妊娠の成立から妊娠・分娩・産褥・新生児における周産期を、最近の母子管理法の進歩をトピックスに交えて学習する。次いで女性の臨床的な解剖・生理の特異性を理解するとともに婦人科腫瘍学を学び、近年長足の進歩を遂げている画像診断・生化学的診断そして化学療法の実際について、臨床の現場で生じる問題を反映した学習を目指す。これと同時に、婦人科感染症についても学習する。また加齢に伴う女性に特有の身体的・精神的な変化と症状障害についての理解を通じて、今後問題になる高齢化社会における医学への取組みを考える。授業内容を実際の症例を通じて体験的に理解する目的で、系統講義に加えて臨床講義や実習の時間をなるべく多く組み込み、またクリニカルクラークシップでは学生が自ら積極的に参加する自主性を重んじ、産婦人科臨床の理解を深める。クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲでは、系統講義・臨床講義で得られた知識を基礎として、産婦人科外来患者および入院患者を対象に、問診、診断、治療の原則を習得する。分娩に立ち合って周産期医学を見学し、また手術の見学のみならず実際に手術に参加して、術前・術後の一連の流れを十分に学習する。クリニカルクラークシップⅠにおいては腹部のセッションの中で、婦人科診療と腹部症状からみた婦人科的疾患の診断について小グループを対象としたクルズスと実習を行う。

○授業のキーワード

生殖内分泌、思春期、月経異常、排卵障害、機能性出血、不妊症、体外受精・胚移植、子宮内膜症、多嚢胞性卵巣、妊娠の成立、不育症、妊娠の生理、合併症妊娠、異常妊娠、多胎妊娠、異常分娩、産褥の生理、新生児、周産期医学、胎児・胎盤系、妊娠中毒症、絨毛性

疾患、婦人科腫瘍学、性器の形態、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣嚢腫、卵巣癌、卵管癌、外陰癌、画像診断、婦人科化学療法、婦人科感染症、加齢・更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症

○教科書・参考書

書名	著者名	発行所
名産婦人科学書 1. 生殖医学	森 崇英他	金原出版
総合周産期医学	武田佳彦他	東京医学社
プリンシプル産婦人科学 産科編	坂元正一他	メディカルビュー社
標準産科婦人科	望月真人	医学書院
性腺疾患	井村裕夫他	中山書店
Human Biology(Third Edition)	Sylvia S.Mader	Wm.C.Brown Publishers
Comprehensive Endocrinology	Luciano Martini	Raven Press
Clinical Gynecologic Endocrinology and Infertility	E.L.Potter	Year Book Medical Publishers
Obstetrics Illustrated	Garrey	Churchill Livingstone
Operative Obstetrics	Leslie Iffy	McGray-Hill

○他科目との関連

周産期や思春期は新生児、NICU、小児科と、合併症を有する妊婦や手術症例の診断・治療については内科・外科、ER と関連が深い。画像診断では放射線科と、更年期障害では精神神経科や整形外科と密接な関係がある。

○成績評価の方法

講義に関しては講義への出席（各授業後の小テスト）と筆答試験で、クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲの評価は実習中の態度、技能、知識を中心に口答試験とレポートの内容によって行う。クリニカルクラークシップⅠでは、カンファレンスでのプレゼンテーションを評価対象としている。

○受講上の注意

産婦人科の全体像を把握するように一連の講義・実習が組み立てられているので欠席をしないこと。学生が自主的に学習する態度を尊重するので、特にクリニカルクラークシップⅡ、ⅢとクリニカルクラークシップⅠには積極的に参加すること。医学教育の必須条件として分娩に立ち合う機会をもつこと（学生のための夜間待機室が設けられている）。

○担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

久保田 俊郎 (t.kubota.gyne@tmd.ac.jp)

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学年 前 期		産科・婦人科学			
年月 日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/23	月	12:50～14:10	月経異常	久保田俊郎	講義室 3号館3階
4/24	火	9:00～10:20	不妊の診断と治療（1）	原田竜也	〃
4/26	木	9:00～10:20	不妊の診断と治療（2）	〃	〃
5/1	火	9:00～10:20	臨床講義①〔不妊症例〕	岩原由樹	〃
5/8	火	14:20～15:40	妊娠初期の異常（1）	寺内公一	〃
5/10	木	9:00～10:20	妊娠中～後期の異常（1）	大井理恵	〃
5/11	金	12:50～14:10	妊娠中～後期の異常（2）	高嶺智子	〃
5/15	火	9:00～10:20	分娩の機序・生理	宮坂尚幸	〃
5/17	木	9:00～10:20	分娩・産毎期の異常（1）	〃	〃
5/22	火	9:00～10:20	分娩・産褥期の異常（2）	〃	〃
5/24	木	9:00～10:20	臨床講義②〔妊娠症例〕	鳥羽三佳代	〃
5/29	火	9:00～10:20	婦人科腫瘍の診断と治療（1）	若林晶	〃
5/31	木	9:00～10:20	婦人科腫瘍の診断と治療（2）	尾林聡	〃
6/12	火	9:00～10:20	婦人科腫瘍の診断と治療（3）	（大塚伊佐夫） 亀田メディカル センター	〃
6/14	木	9:00～10:20	臨床講義③〔婦人科腫瘍症例〕	若林晶	〃
6/19	火	9:00～10:20	婦人科良性腫瘍と腹腔鏡下手術	吉木尚之	〃
7/9	月	9:00～10:20	産科・婦人科学試験		

(英訳) Anesthesiology

○教育目標

従来、麻酔といえば、単に手術にともなう痛みをとり除くだけであると考えられていた。しかし、今日の麻酔学は患者を痛みから解放するにとどまらない。麻酔学は病態生理や薬理学などの広範な知識に裏づけされた全身管理学であり、さらに重篤な患者の全身管理や救急蘇生にも関与する分野である。

学生は、(1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬の薬物動態学と薬力学を理解する。(2) 麻酔に必要な解剖学、生理学とくに呼吸生理、循環生理、疼痛生理を理解する。(3) 内科疾患や外科疾患と麻酔の関連について理解する。

臨床実習については、指導教官と一緒に実際の麻酔に従事し、麻酔全般への理解を深める。術前の患者評価および評価によって得た重要事項に対する麻酔管理を実習することによって、いかにして安全な麻酔管理が行われるかを学習する。さらにペインクリニックでは、慢性疼痛を訴える患者の疼痛管理の実習を行う。

○授業の概要

講義による。

○教科書・参考書

指定無し。

標準麻酔科学 第6版 医学書院

○成績の評価の評価法

定期試験および出席

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

槇田浩史 makita.mane@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		麻酔・蘇生学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/2	月	12:50～14:10	麻酔科学概論	槇田浩史	講義室 3号館3階
7/18	水	9:00～10:20	静脈麻酔薬	内田篤治郎	〃
7/23	月	12:50～14:10	吸入麻酔薬(薬理、吸収と排泄)	中澤弘一	〃
7/24	火	10:30～11:50	筋弛緩薬と拮抗薬	倉田二郎	〃
7/27	金	9:00～10:20	麻酔回路・気道確保法	中澤弘一	〃
9/3	月	14:20～15:40	呼吸器外科の麻酔・脳外科の麻酔	石川晴士	〃
9/4	火	12:50～14:10	疼痛生理とペインクリニック	舩田昭夫	〃
9/7	金	10:30～11:50	脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔	(大島勉)(癌研究会 有明病院)	〃
9/10	月	10:30～11:50	小児麻酔・産科麻酔	石川晴士	〃
9/11	火	10:30～11:50	局所麻酔薬と局所麻酔法(神経ブロックなど)	舩田昭夫	〃
9/18	火	9:00～10:20	麻酔・蘇生学試験		

(英訳) Oral and Maxillofacial Surgery

○教育目標

口腔は消化管ならびに気道の入口で、咀嚼、嚥下、味覚等の機能や構音、発語機能などを司っており、社会生活においても欠くことのできない重要な器官である。口腔諸組織の疾患は快適な生活を送るためにも他の疾患同様早期に発見し治療されなければならないことは云うまでもない。齲蝕と歯周疾患は罹患率が高く、わが国では歯を喪失する原因の二大疾患であり、約90%がこれらの疾患によって歯が失われている。また歯に直接関連する疾患以外にも、炎症、腫瘍、外傷、先天性疾患など、口腔には多種多様の疾患が発生する。ことに現在のような高齢化社会にあつては健康を維持するうえでその予防と機能回復のための治療はきわめて重要である。そこで口腔外科学の講義では歯科学を含む口腔科学について診断と治療の基本的な知識を習得し、また口腔領域で必要とされる診察手技および診断法、さらに口腔疾患と全身との関係、あるいは全身的疾患の発症の場としての口腔所見の見方などの点について学習する。

口腔疾患の特徴は比較的視診の行いやすい部位であり、齲蝕や歯周疾患をはじめ歯肉癌、舌癌などの口腔癌にいたるまでその診察法と治療の知識は医師にとって健康管理の第一歩と云っても過言ではない。

○授業の概要

4年次には、講義により口腔外科における診断、病因、治療、予後、予防等の基本的事項を学習する。

5年次には、臨床実習により口腔外科診療で必要とされる診察手技、検査法、診断法とともに、口腔疾患と全身の関係、口腔に出現する全身疾患等について学習する。

○教科書・参考書

口腔外科学 第3版 医歯薬出版 2010年

標準口腔外科学 第3版 医学書院 2004年

口腔外科専門医マニュアル 日本口腔外科学会編 2011年

○成績評価の方法

講義に関しては講義への出席と筆答試験で総合的に評価する。臨床実習では出席状況を評価対象とする。

○担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

小村 健 omura.osur@tmd.ac.jp、山城正司 m-yamashiro.mfs@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期	口 腔 外 科 学				
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
9/5	水	10:30～11:50	口腔顎顔面の腫瘍	山城 正司	講義室 3号館3階
9/6	木	9:00～10:20	口腔顎顔面の外傷	鶴澤 成一	〃
9/7	金	9:00～10:20	口腔顎顔面の先天性疾患と顎顔面変形症	吉増 秀實	〃
9/12	水	9:00～10:20	歯・歯周疾患と炎症性疾患	森田 圭一	〃
9/13	木	9:00～10:20	歯源性腫瘍、口腔顎顔面の嚢胞	中島 雄介	〃
9/14	金	10:30～11:50	口腔粘膜の疾患	櫻井 仁亨	〃
9/19	水	12:50～14:10	顎関節疾患	木野 孔司	〃
9/26	水	9:00～10:20	口腔外科学試験		

(英訳) Emergency and Critical Care Medicine

○教育目標

すべての臨床分野は、救急疾患を含んでおり、救急医療はすべての臨床分野の集合体である。原因疾患の如何を問わず、緊急の生命維持、重篤な病態への対応は共通であり、この分野を救急医学は担当する。生命の危機に瀕した重症病態の解明、その治療手技に関して、発想の原点はどこにあるか、豊かな発想を絶やさないようにするにはどうすべきか、臨床医として患者にどのように接すべきか、それはどのような病態生理学的背景に基づいているか、これらの考え方の筋道を討論し、学生諸君の積極的意欲を刺激することを目的とする。

○授業の概要

- (1) 講義緊急の生命維持療法の基礎知識の習得と、その理論的背景を討論する。講義内容の細目は別に示す。
- (2) クリニカルクラークシップⅠ
救急蘇生法の診断と実習
- (3) クリニカルクラークシップⅢ
ER 実習、ER-ICU/HCU 実習

○授業のキーワード

救急蘇生法、救急診断、外傷初療、心肺停止、モニタリング、呼吸管理、人工呼吸法、循環管理、体液・電解質・酸塩基平衡、栄養管理、血液浄化療法、脳低温療法、高気圧酸素療法、侵襲と生体反応、敗血症、DIC、災害医学、トリアージ、臓器不全、ショック、多発外傷、熱傷、体温異常、急性中毒

○教科書・参考書

標準救急医学第四版 日本救急医学会監修 2008 年、医学書院
 医学書院救急集中治療部ケースファイルズ 今井孝祐編集 2006 年 克誠堂出版
 改訂第 3 版外傷初期診療ガイドライン JATEC 日本外傷学会・日本救急医学会監修 2008 年、へるす出版
 救急診療指針 日本救急医学会監修 2003 年、へるす出版
 集中治療医学 日本集中治療医学会編集 2001 年 秀潤社
 Emergency medicine 6th ed. American college of Emergency Physicians, 2004, McGraw-Hill
 Irwin and Rappe's Intensive Care Medicine, Fifth Edition Lippincott Williams & Wilkins, 2003
 Trauma 6th ed. EE. Moore, al. 2008, McGraw-Hill

○他科目との関連

呼吸、循環をはじめとして生命に必須の機能障害は、単一臓器障害ではとらえることができず、臨床全科と関連する病態生理であり、救急医学はその総論部分を扱う。

○成績評価の方法

系統講義に関しては、筆記試験でその理解度、修得度を問い、講義毎に小試験を行うこともある。実習に際しては、受け持ち患者に関するレポートの提出を求める。

クリニカルクラークシップⅢの評価点（30 点満点）と卒業試験（70 点満点）を合わせて成績評価を行う。

○受講上の注意

学生諸君に対して、手取り足取りの教育はありえない。学生諸君の意欲を刺激するので、積極的に掘みとっていく姿勢を期待したい。

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		救 急 医 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
7/11	水	12:50～14:10	心肺蘇生法	大友康裕	講義室 3号館3階
7/17	火	14:20～15:40	ショック	相星淳一	〃
7/23	月	14:20～15:40	外傷初療	大友康裕	〃
7/27	金	10:30～11:50	外傷各論	加地正人	〃
9/4	火	9:00～10:20	救急領域における輸液	磯谷栄二	〃
9/4	火	10:30～11:50	急性中毒、血液浄化法	白石淳	〃
9/7	金	12:50～14:10	急性呼吸不全／人工呼吸法	三高千恵子	〃
9/10	月	12:50～14:10	敗血症／多臓器不全	三高千恵子	〃
9/19	水	9:00～10:20	災害医学概論	大友康裕	〃
9/19	水	10:30～11:50	災害医療机上シミュレーション	大友康裕	〃
9/20	木	10:30～11:50	救急領域における感染症、体温異常他	登坂直規	〃
9/28	金	8:50～10:10	救急医学試験		

(英訳) Plastic and Reconstructive Surgery

○教育目標

形成外科学とは、主として体表の、先天的または後天的機能障害・形成異常に対して、機能回復をはかるとともに、より形態を重視して修復する外科学の一分野である。また、体表外傷や熱傷に対するプライマリーケアを担当する、外科系診療科の基本となる診療科である。

形成外科は、対象とする臓器が特定されておらず、学生にとっては勉強し難いのが問題点であるが、授業では形成外科の定義にはじまり、形成外科の対象となる疾患や病態、及び形成外科の基本手技（切縫、植皮、皮弁、その他の組織移植）を述べ、他の外科系各科と相違点や必要性、他科との連携を含めた病院内での位置づけを理解してもらう。さらに、現在の形成外科での未解決点、研究課題をトピック的に挙げ、形成外科に対する興味を深めてもらう。

学習目標として次下の項目があげられる。

- 1：形成外科の意味あい・歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
- 2：形成外科の対象となる疾患や病態を認識し、他科とのチーム医療、病院内での位置づけを理解する。
- 3：形成外科の基本手技（皮膚切開・縫合、組織の愛護的取扱い、植皮、皮弁、その他の組織移植）における手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
- 4：形成外科における現時点での未解決点、研究課題を知る。
- 5：生体組織に代用できる人工物質について認識し、将来における代用組織開発への洞察力を養う。

修得すべき知識・技術に関する目標として次下の項目があげられる。

- 1：形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
- 2：形成外科の対象となる疾患や病態を理解し、他科の医師と連携して適切な対応がとれる。
- 3：診療に対する基本姿勢、心理的側面（醜形恐怖症、先天性異常）、インフォームド・コンセントの必要性を理解して行動できる。
- 4：形成外科の基本手技による組織の愛護的な取扱い、縫合糸や器具の選択・使用法、どのような手技が適切かを論理的に述べることができる。
- 5：創傷治癒について、その機序と、治療の原則について述べることができる。

○授業の概要

1. 総論

- ・定義・歴史：形成外科の定義とその歴史背景について
- ・創傷治癒
- ・基本手技：皮膚切開、縫合、植皮、皮弁、その他の組織移植
- ・応用手技：骨切り術、マイクロサージェリー、ティッシュエキスパンダー、レーザー、内視鏡

2. 顔面領域の構造と外傷

- ・顔面軟部組織の損傷、顔面骨骨折、顔面神経麻痺

3. 腫瘍切除後の再建

- ・頭頸部癌切除後再建、乳癌術後乳房再建、その他整形外科・産婦人科領域の主要切除後の再建など

4. 顔面・頭部領域の先天性異常、美容外科

- ・先天性頭蓋・顔面異常、口唇・口蓋裂、外鼻異常、耳介異常など 美容的形成術

5. 手足・体幹の先天性異常と外傷

- ・臍ヘルニア、漏斗胸、多指（趾）、合指（趾）、腱切断、手指などの切断

6. 形成外科におけるリサーチ

- ・基礎研究、臨床研究

7. 熱傷の治療と瘢痕・ケロイド

- ・新鮮熱傷、熱傷瘢痕、ケロイド、肥厚性瘢痕

8. 褥瘡と難治性潰瘍

- ・褥瘡、末梢動脈疾患、糖尿病性足病変、放射線皮膚障害

○授業のキーワード

授業の概要の項目参照

○教科書・参考書

- ・標準形成外科学第6版 平林慎一／鈴木茂彦編 医学書院 2011
- ・Grabb and Smith's Plastic Surgery 6th ed Charles H. M Little Brown 2007

○他科目との関連

形成外科では、対象とする臓器が特定されておらず、疾患・病態は多岐にわたり、患者もすべての年代に及ぶ。また、形成外科単科によって成り立つものではなく、関連各科との密接な連携によるチーム医療が必要となることが少なくない。具体的には小児先天異常は小児科と、また腫瘍切除後の再建では、耳鼻科・頭頸科、口腔外科、婦人科、整形外科、一般外科などと関連が深い。

○成績評価の方法

筆記試験または口頭試験及び授業態度、臨床実習での評価から総合的に判定する。

○受講上の注意

形成外科は、「付加価値の科」、「プラスαの科」であるという間違った認識を改める必要がある。それは、形成外科の一面でしかない。創傷治癒、組織の修復、切開・縫合法、組織の愛護的扱い方、外傷や熱傷に対するプライマリケアなど、将来どの科に進むにしても医者としての必須事項を扱う、外科系診療の最も基本となる診療科であることを再認識しながら受講してほしい。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

岡崎 睦 okazaki.plas@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		形成外科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/10	火	9:00～10:20	形成外科総論	森 弘樹	講義室 3号館3階
7/11	水	9:00～10:20	顔面・頭部領域の先天性異常・美容外科	森 弘樹	〃
7/13	金	10:30～11:50	顔面領域の構造と外傷	岡崎 睦	〃
7/17	火	12:50～14:10	腫瘍切除後の再建	岡崎 睦	〃
7/24	火	14:20～15:40	皮膚・軟部の腫瘍(悪性・良性)に対する治療	田中 顕太郎	〃
7/26	木	9:00～10:20	手足・体幹の先天性異常と外傷	宇佐美 聡	〃
9/6	木	10:30～11:50	褥瘡・難治性潰瘍	田中 顕太郎	〃
9/10	月	14:20～15:40	熱傷の治療と瘢痕・ケロイド	植村法子	〃
9/21	金	9:00～10:20	形成外科学試験		

(英訳) Head and Neck Surgery

○教育目標

頭頸部外科学は頭蓋顔面および頸部を取り扱う。ただし、通常は頭蓋内は脳外科、眼窩内は眼科の範疇となる。従来この領域は、主として耳鼻咽喉科医、一部を一般外科医が担当していた。本講座は大学の講座としては本邦で初めて本学において誕生したものである。

頭頸部領域の外科全般が担当となるが、中でも悪性腫瘍が主となる。頭頸部がんは、UICC分類(2002)によれば対象となる原発部位は、1)口唇、口腔、2)咽頭(上咽頭、中咽頭、下咽頭)、3)喉頭、4)鼻副鼻腔、5)唾液腺、6)甲状腺となっている。

しかしこれ以外にも、中耳、外耳の悪性腫瘍、悪性リンパ腫、軟部組織の肉腫、頸部への転移がんなども対象となる。それぞれに臨床像は異なり、治療法も各部位ごとに異なっている。

頭頸部領域は、音声言語、呼吸、咀嚼、嚥下、気道の空調、嗅覚、味覚、聴覚など、種々の機能を受け持つ器官を有する。これらの機能は、人が生きていくために最低限必要な機能、あるいは社会生活上重要な機能である。また、顔面は審美上重要である。頭頸部がんの治療に際しては、これらの機能および形態を考慮し、頭頸部外科医を中心とし、放射線治療医、形成外科医、脳神経外科医、化学療法内科医、臨床病理医、歯科医など多くの専門医の参加による集学的治療が行われる。

卒前教育においては以上のような頭頸部の特徴を理解し、各部位、種々の組織型、さらには個々の症例の病態に応じた治療法の選択と、そこに至る診断手順などにつき学ぶ。

○授業の概要

1. 系統講義、クリニカルクラークシップよりなる。
2. 系統講義は第4学年に計8回行われる。

頭頸部外科学各論

- 1) 総論、聴器・上咽頭・鼻副鼻腔・頭蓋底の腫瘍
- 2) 中咽頭、口腔、唾液腺の腫瘍
- 3) 咽頭、下咽頭の腫瘍
- 4) 頭頸部癌の放射線治療
- 5) 頭蓋底、頭頸部再建術の現状と問題点
- 6) 甲状腺、気管食道、頸部の疾患
- 7) 頭頸部領域の臨床解剖
- 8) 癌専門病院における頭頸部がん治療の現況

○成績評価の評価法

筆記試験(60点以上を合格とする)

- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）
杉本 太郎 （sugimoto.oto@tmd.ac.jp）

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		頭頸部外科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/3	月	10:30～11:50	総論・聴器・鼻副鼻腔・上咽頭・頭蓋底の腫瘍	岸本誠司	講義室 3号館3階
9/5	水	12:50～14:10	中咽頭・口腔・唾液腺の腫瘍	杉本太郎	〃
9/6	木	12:50～14:10	喉頭・下咽頭の腫瘍	杉本太郎	〃
9/12	水	12:50～14:10	頭頸部癌の放射線治療	澁谷 均	〃
9/13	木	12:50～14:10	頭蓋底・頭頸部再建術の現状と問題点	矢野智之	〃
9/14	金	12:50～14:10	甲状腺・気管食道・頸部の疾患	角 卓郎	〃
9/14	金	14:20～15:40	頭頸部領域の臨床解剖	秋田恵一	〃
9/20	木	9:00～10:20	がん専門病院における頭頸部癌治療の現状	(川端一嘉・癌研 有明病院頭頸科)	〃
9/24	月	9:00～10:20	耳鼻・頭頸部外科試験		

(英訳) Liaison Psychiatry and Palliative Medicine

○教育目標

現代の高度化、専門化された医療においては、とかく患者の身体的側面に治療の重点が置かれる傾向にある。しかし、そもそも患者は心身両面を兼ね備えた個体であり、たとえ身体疾患患者であっても、何らかの精神的あるいは心理的問題を抱えていることが多い。したがって、臨床現場においては、どんな患者に対しても全人的、総合的医療が求められており、今後ますますこうした考え方に基づいた治療が必要になってくる。本科では、こうした全人的医療の意義を学ぶことと同時に、実践での対応能力を習得できるよう指導することを目標とする。

○授業の概要

全人的医療という立場から、身体疾患であっても患者の心理的、社会的側面を理解し、診療にあたることを教授する。心身医療においては、各種身体疾患にみられる精神症状への対応を中心に、コンサルテーション・リエゾン精神医学の意義を指導し、身体各科においてみられる様々な精神的問題について包括的に診断・治療できるように教育する。また、とくに終末期患者の身体的および精神的な苦痛を緩和し、患者の QOL を向上させるための実践的な知識を習得できるよう教育する。

○授業のキーワード

コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和医療、サイコオンコロジー

○教科書・参考書

コンサルテーション・リエゾン精神医学 メディカルサイエンス・インターナショナル (2002)

精神科 MOOK27 コンサルテーション・リエゾン精神医学 金原出版 (1991)

臨床精神医学講座 17 リエゾン精神医学・精神科救急医療 中山書店 (1999)

Oxford Textbook of Palliative Medicine Oxford University Press (1998)

Cancer Pain Management Newton (1997)

Topics in Palliative Care vol.1 Oxford University Press (1997)

Palliative medicine: A case-based manual Oxford University Press (1998)

緩和ケアマニュアル 最新医学社 (2001)

末期癌患者の診療マニュアル (第2版) 医学書院 (1991)

Psycho-oncology Oxford University Press (1998)

真実を伝える 診断と治療社 (2000)

WM 臨床研修サバイバルガイド 精神科 メディカル・サイエンス・インターナショナル (2005)

○他科目との関連

本科の性格上、臨床他科との関連なくしては成り立たず、各科目についての幅広い知識と理解が必要である。

○成績評価の方法

定期試験による。授業後に随時、小試験を実施する。

○受講上の注意

本講義の授業は、卒後研修ひいては各科臨床の場で必要不可欠な内容になっており、積極的に聴講する姿勢をもってほしい。

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		心療・ターミナル医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/19	火	10:30～11:50	緩和医療 1：緩和医療における精神面のケア	松島英介	講義室 3号館3階
6/21	木	12:50～14:10	リエゾン精神医学 1	宮島美穂	〃
7/2	月	10:30～11:50	緩和医療 2：緩和医療における身体症状 コントロール	松島英介	〃
7/9	月	10:30～11:50	緩和医療 3：緩和医療における社会的苦痛と スピリチュアルな痛み	(永井英明)	〃
7/18	水	12:50～14:10	リエゾン精神医学 2	(太田克也)	〃
7/23	月	9:00～10:20	精神・心療試験		

(英訳) Laboratory Medicine

○教育目標

1. 臨床検査の意義、内容、原理、応用を説明できる。
2. 検査計画を立案できる。
3. 臨床検査結果を解釈できる。
4. 臨床検査結果値から病態生理を考察できる。
5. 臨床検査結果を応用して臨床推論ができる。
6. 基本的な検査を実施できる。

○授業の概要

1. 臨床検査の意義、目的、内容、応用を講義で解説し、理解する。
2. 各検査の原理、内容を講義で解説し、理解する。
3. 症例における検査結果の解釈を演習で学習する。

○授業のキーワード

臨床検査、尿検査、便検査、血液学的検査、血液生化学検査、免疫血清検査、病原微生物検査、染色体検査、遺伝子検査

○教科書・参考書

＜教科書＞

1. 奈良信雄著：臨床検査値ポケットガイドブッカー検査値のうしろに何がみえるか、中山書店、2011 年

＜参考書＞

1. 奈良信雄編：臨床研修イラストレイテッド第3巻基本手技「診察と検査」、羊土社、2011 年
2. 後藤英司、奈良信雄、藤代健太郎編：鑑別診断ロジカルシンキング、Medical View 社、2011 年
3. 奈良信雄、三宅一徳、山田俊幸、矢内充編：Reversed CPC による臨床検査データ読み方トレーニング vol 3、日本医事新報社、2008 年
4. 福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、医学書院、2008 年
5. 奈良信雄監訳：ウィントロブ臨床血液学アトラス、メディカル・サイエンス・インターナショナル社、2008 年
6. 奈良信雄編：疾患からまとめた病態生理 FIRST AID、メディカル・サイエンス・インターナショナル社、2007 年
7. 奈良信雄編：ベストアプローチ臨床検査ガイド、中外医学社、2006 年

8. 熊坂一成、猪狩淳、伊藤紘一、奈良信雄編：Reversed CPC による臨床検査データ読み方トレーニング vol 2、日本医事新報社、2005 年
9. 奈良信雄著：臨床検査小事典、中外医学社、2002 年
10. 熊坂一成、猪狩淳、伊藤紘一、奈良信雄編：Reversed CPC による臨床検査データ読み方トレーニング vol 1、日本医事新報社、2001 年

○他科目との関連

臨床全科、基礎医学（とくに生理学、生化学、微生物学、病理学）

○成績評価の方法

授業終了後に筆記試験（論述形式、多選択肢形式）で評価する。

○受講上の注意

臨床検査の意義、検査値の解釈などは学生自身で考察することが望ましい。このためにも教科書、参考書をよく読んで理解を深めておくこと。また、基礎医学、臨床医学のすべてと関連するので、他科目の知識を応用すること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

奈良信雄 nara.mlab@tmd.ac.jp

平成24年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		臨床検査医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/25	水	10:30～11:50	臨床検査医学総論、尿・便・髄液検査	奈良信雄	講義室 3号館3階
4/26	木	10:30～11:50	生化学検査、内分泌検査	奈良信雄	〃
5/2	水	10:30～11:50	血液検査、遺伝子検査	東田修二	講堂 5号館4階
5/8	火	10:30～11:50	免疫血清検査	(佐藤和人、日本 女子大教授)	講義室 3号館3階
5/9	水	10:30～11:50	感染症検査	(松本哲哉、東京 医大教授)	〃
5/21	月	9:00～10:20	臨床検査医学試験		

自由選択学習

授業科目

授業責任者 中田 隆夫

(プロジェクトセメスター)

(英訳) Project Semester

○ 科目を履修して得られる能力

主な講義・試験及び基礎実習を終えた4年生後期に設定されている約5ヶ月の研究コース。興味を持った分野で指導教員とともに研究テーマを定め、自ら研究を行う。それを通じて、医学の理解に必要な科学的視点、問題点の抽出・解決能力、各種研究技術、研究チームの一員としての協調性、プレゼンテーション・レポート作成技法などを習得する。受け入れ教室は医学科に限らず、本学の諸講座（附属研究所を含む）の他、学外研究機関（要了承）、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ（ロンドン・英国）、クリニカ・ラスコンデス（チリ）、ガーナ大学野口記念医学研究所（ガーナ）、チュラロンコン大学（タイ）などがある。

○ 学習方法

受け入れ分野・施設での基礎研究。但し、患者と接する研究・研修は含まない。

○ 教科書

受け入れ分野に相談のこと。

○ 参考書

受け入れ分野に相談のこと。

○ 参照 URL

特になし。

○ 成績評価の評価法

実験への取り組み、ポスター発表会への取り組み、レポートを総合的に評価する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

中田 隆夫（細胞性物学）

Mail : nakata.cbio@tmd.ac.jp

平成24年度自由選択学習（プロジェクトセメスター）実施日程

平成24年

2月29日(水) 2限：10時20分～（A棟地下一階 臨床講堂）
プロジェクトセメスター説明会 学内・学外コースの内容

13時00分～ 医学科第4学年自由選択学習（プロジェクトセメスター）成果
発表会見学 & 海外派遣学生による体験談および質疑応答

学内コースの各分野担当教員との面接等解禁

3月12日(月) インペリアルカレッジ基礎医学実習 志願者募集開始

4月9日(月) インペリアルカレッジ基礎医学実習 志願者応募締切

4月17日(火) 5時間目終了後（17時30分～）
インペリアルカレッジ基礎医学実習志願者選考会（面接）

4月27日(金) プロジェクトセメスター希望分野アンケート 希望書提出

5月初旬 頃 チリ大学/クリニカ・ラス・コンデス(チリ)、チュラロンコン大学(タイ)、
ガーナ大学野口記念医学研究所(ガーナ)での基礎医学実習 志願者選考会

5月18日(金) 学内・学外コース（第一次） 分野等決定

6月1日(金) 学外コース履修計画案の提出締切
(インペリアルカレッジ・チリ・タイ・ガーナ応募者を除く)

6月7日(木) 大学院説明会（AM 全体説明，PM パネル展示説明）

6月15日(金) 学内コース 最終分野決定

7月13日(金) 学内コース履修計画案の提出締切

9月28日(金) 10時20分～11時40分（A棟地下一階 臨床講堂）
「プロジェクトセメスターにおける研究の手法・進め方」に関する講義
(水島教授予定)

10月9日(火) プロジェクトセメスター コース開始

10月11日(木)頃 動物実験施設講習会

10月15日(月)頃 アイソトープ講習会

10月22日(月)・10月23日(火)頃 アイソトープ使用者特別健康診断

平成25年

1月8日(火) 10時20分～11時40分（A棟地下一階 臨床講堂）
「プロジェクトセメスターにおける研究成果の発表・論文作成の方法」に関する講義（田邊教
授予定）

3月1日(金) コース終了

3月4日(月) 平成24年度自由選択科目（プロジェクトセメスター）成果発表会
(ポスタープレゼンテーション)

3月9日(土)～10日(日) 合宿研修

授 業 概 要

(第 5 学年)

平成24年度医学科第5学年「東洋医学」，「先端医学」，「基礎臨床総合講義」授業内容

5 学 年 後 期	東 洋 医 学	(臨床関連講義) 授業責任者：下門顕太郎			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
24/11/22	木	18:00～19:00	病態観（病因病機），治療概念（予防と治療の原則）	別府正志	症例検討室 病院5階
11/30	金	18:00～19:00	治療手段（生薬の炮製と製剤及び薬性理論、方剤と治法、方剤の分類、方剤の組成）	別府正志	〃
12/7	金	18:00～19:00	東洋医学的治療の実際1（臨床例①メタボリック症候群 ②がん ③慢性疼痛）	（西元慶治）	〃
12/14	金	18:00～19:00	東洋医学的治療の実際2 女性更年期障害の漢方治療	（頼 建守）	〃

5 学 年 後 期	先 端 医 学	科目責任者：教育委員会			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
25/1/11	金	18:00～19:00	内分泌代謝疾患の先端医学と先進医療	小川佳宏	症例検討室 病院5階
1/18	金	18:00～19:00	医学研究における新世界を探そう。 ー遺伝子発現の分子メカニズムの新たな局面ー	浅原弘嗣	〃
1/25	金	18:00～19:00	メラトニン研究の基礎と最前線	服部淳彦	〃
2/1	金	18:00～19:00		脳神経外科学	〃
2/8	金	18:00～19:00		肝胆膵外科学	〃

5 学 年 後 期	基 礎 臨 床 講 義	科目責任者：田中雄二郎			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
25/2/15	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方1（総論・初期研修）	田中雄二郎	症例検討室 病院5階
2/22	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方2（大学研修）	田中雄二郎 角 勇樹	〃
3/1	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方3（一般病院研修）	田中雄二郎	〃
3/8	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方4（後期研修）	田中雄二郎 高橋 誠	〃
3/15	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方5（女性医師）	田中雄二郎	〃
3/22	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方6（大学院・海外留学）	田中雄二郎 杉山 徹	〃

※ 講義はイブニング・セミナーの枠を使用して実施する。

授 業 概 要

(選択科目)

(英訳) Research Training Program

○ 科目を履修して得られる能力

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会が多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味ある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

○ 学習方法

第2学年開始時に、講義形式の教室（研究室）紹介を行い、その後配属先を登録する。配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

○ 教科書

受け入れ分野に相談のこと。

○ 参考書

受け入れ分野に相談のこと。

○ 参照 URL

特になし

○ 成績評価の評価法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は、5月上旬（5日間程度）に設定された履修登録期間内に、教務課にて履修登録を行ってください。

「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが、履修登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ辞退したものとみなします。

「研究実践プログラム」は毎年履修しても、一旦中断し、翌年度以降再度履修しても構いません。但し、最終的な単位認定は第6学年終了後、履修した期間・これまでの評価を基に「秀・優・良・可（・不可）」の評価および単位数を認定します。よって指導要録に最終的に認定されるのは卒業時になります。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

水島 昇（細胞生理学分野 教授）

Mail : nmizu.phy2@tmd.ac.jp

研究実践プログラムの教室説明会

	15:50-16:10	16:15-16:35	16:40-17:00
4月10日(火)	細胞生物学	神経機能形態学	システム神経生理学
4月11日(水)	細胞生理学	システム発生・再生医学	病態代謝解析学
4月12日(木)	法医学	ウイルス制御学	包括病理学
4月13日(金)	細胞薬理学	国際環境寄生虫病学	分子腫瘍医学
4月16日(月)	免疫アレルギー学	人体病理学	免疫治療学
4月17日(火)	臨床解剖学	健康推進医学	国際保健医療協力学
4月20日(金)	履修申請の説明		
4月27日(金)	予備		

場所：3号館2階講義室

学生の参加形態：自由（出席はとりません）

(英訳) Leaning program of community medicine

○ 教育目標

患者中心医療のための患者側ニーズの把握

○ 学習方法

地域特別枠にて入学した学生は、年数回（自治体により異なる）実施される研修に参加することを義務づける他、各県を担当する教員（長野県：太田伸生教授，茨城県：宮坂尚幸寄附講座教授）と密に連絡をとり、各県の地域医療に関する現状を常に把握すること。

○ 教科書

特になし

○ 参考書

特になし

○ 参照 URL

特になし

○ 成績評価の評価法

地域特別枠学生：各自治体が主催する研修への参加（レポートを課す場合もある。）

上記以外：レポートなど。

単位認定は最終学年終了時に行い、それまでの実績を踏まえ総合的に判断する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

長野県：太田伸生（国際環境寄生虫病学 教授）matata.vip@tmd.ac.jp

茨城県：宮坂尚幸（小児・周産期地域医療学講座 教授）n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp

医学科コンピテンシー 【別表】

(第 1 学年～第 2 学年)

【別表】医学科第2学年 科目を履修して得られる能力

大領域	小領域	細 目	レベル	学習方法
国際人としての 基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	B	講義
	国際言語(英語)の運用力	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	B	講義
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A	講義・実習
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	B	実習
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	B	講義・実習
		実習実験を実施して結果を得ることができる	B	実習
		実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	B	実習
プロフェッショナル リズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	講義・実習
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる	C	実習
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	講義・実習
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A	実習
	自己管理	医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる	B	講義
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	講義・実習
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	講義・実習
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	講義・実習
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A	講義・実習
		他者への良識を逸する振舞い(無礼、短期など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	講義・実習
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	B	講義・実習
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	講義・実習
	振り返りを通じた自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善のための学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	講義・実習
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	講義・実習
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	講義・実習
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A	講義・実習
知識とその応用	医学知識(基礎)	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる	B	講義・実習
診療の実践	医療安全	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	B	講義
		針刺し事故、針刺し創等による感染症感染につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	C	講義

【別表】医学科第2学年 科目を履修して得られる能力

人体構造総論	細胞生物学	神経生理導入	生理学	組織学	人体解剖学	薬理学	生化学	分子遺伝学	神経解剖学	免疫学	神経科学・基礎	感染・基礎	東洋医学	病理学	医動物学
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B			B	B	B	B		B	
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
					C										
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		A	A
										B		B			
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
			B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
												B			
												C			

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルA=卒業時レベル)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)
国際人としての基盤	一般教養		健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ			
	国際感覚/国際的視点	国際的視野を持った上で、実際に海外での活動(留学を含む)に参加する	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、議論できる	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、説明できる。	
	国際言語(英語)の運用力	海外での研究・臨床実習に参加することができる英語力を有する	医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する	科学/医学/歯学専門用語・表現の理解/表記/発音ができる	非専門的(一般的)英語表現・英単語の表記・発音等ができる	
			医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる	
医学・科学の発展への貢献	科学的探求		未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる	臨床的あるいは科学的問題提起ができる		
			臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる	実習実験を実施して結果を得ることができる		
			自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる		
	品位、礼儀		他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる 専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる 専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる	専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる 専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる	専門職にある者としての立場を理解している	
プロフェッションナリズム	専門職としての対人関係		患者側要素に配慮した最適なアプローチにて、常に良好な医師・患者関係を築くことができる	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる 文化的信念や慣習が専門職としての対人関係に与える影響を説明できる	
			患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる			
			医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる			
			診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動を説明でき、同僚らに提示できる	ラポールについて説明できる	
患者との関係、職務上の優先性			患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)における適切な距離を維持すること が困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる	患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持することができる	患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる	
			個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる			
			自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる			
			臨床実習において、技能・知識・患者情報 の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる			

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルレ)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)
プロフェッショナル ナリズム	自己管理		メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	メンタルストレスやその対処法を説明できる		
			医療従事者の健康管理(予防接種を含む)を実践できる	医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる		
		勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる			
			文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる			
	倫理	法規、機関内規、専門職社内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職協会内規範を遵守できる			
			常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している		
			他者への良識を逸する振舞い(無礼、短期など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる			
			医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導・監督者に報告できる	情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる		
			他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる			
			患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる		
			臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる	模擬患者から、インフォームドコンセントを取得することができる	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる	
			記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	著作権侵害にあたる行動を列挙できる		
			利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	利益相反および回避するための行動を説明できる		
			企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる		
			自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為に学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる			
	振り返りを通じた自己研鑽/生涯学習		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	フィードバックの意義を説明でき、受容できる		
			他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる			
			ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる			
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション		口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる		
			様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント・プランを考察し提示できる	様々な状況(回診か、症例検討会か)(網羅的なプレゼンテーションが求められているのか、的を絞ったプレゼンテーションか)に即した形式で、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)
コミュニケーション	医療チーム内/間 コミュニケーション	診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる	診療録、指示書、処方箋の意義、記載内容、記載方法を説明できる		
		多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	多職種チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	
		診療の引き継ぎ(ローテーション終了時、転科、転院等)に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる	外来/病棟勤務終了時に、完了したもの、中途のものを含めたすべての臨床情報と業務について、診療チームに効果的に報告することができる		
		患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	患者の様々な背景や文化がどれだけ医師-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる		
		重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する	重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)について患者や患者家族との議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる		
知識とその応用	患者および家族との コミュニケーション	監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる			
		患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる	患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を、患者から会話において聞き出すために効果的な技能を提示できる	患者中心の医療について説明できる	
		基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる		
		頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に活用できる	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる		
		様々な症候/問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる	頻度の高い症候/問題の原因評価において、評価法についての知識(適応/合併症/限界)を応用できる	症候/問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応/合併症/限界)を提示できる	
	医療と社会	様々な疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を診療に応用できる	頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる		
		社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる	社会医学の知識を提示できる		
		世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる		
		頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に活用できる	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる		
		地域および行政機関等において、人々の健康の向上および増進のための活動に参加する	様々な集団や場々に特有の健康問題を説明できる		
診療の実践	歯科医学関連知識	歯科医学的側面を考慮した診療ができる	診療に必要な歯科医学の知識を提示できる	顎・口腔領域の構造と機能を説明できる	
		全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる		
	EBM/臨床推論	臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	E-learning, blackboard, 文献検索エンジンなどを活用できる	

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)
診療の実践	EBM/臨床推論	臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	臨床上の問題を明確化できる		
		臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる		
		適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	医学的介入(予防/治療)に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる		
		監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる	情報の信頼性および有用性について、批判的視点を持つ
		診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる		
		適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる		
		実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	臨床推論にもとづく診断過程を説明できる
		臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況(例、急性疼痛、高齢、小児、術前など)に応じた病歴を聴取できる	病歴聴取において、必要に応じて、患者/家族以外の情報源(プライマリケア提供医や、患者の診療に携わる他の医師・ケア提供者)も利用できる	病歴を網羅的に、系統立てて聴取し、標準書式にまとめることができる	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる
		救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる			
		身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える	身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で行える	成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	
	身体診察	高齢者の機能的評価を行える			
		小児の成長/発達の評価を行える	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を選定し、行える		
		状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える			
		診察において異常所見を認識・説明・記録でき、必要な病歴・診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見を認識し、口頭で説明し、記録できる	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	正常所見を説明できる
	臨床手技	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる(シミュレーション/模擬患者などで)	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/合併症を説明できる	
		初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で、記載できる		
	診療録記載	日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	日々の診療録を、SOAP形式で記載できる		

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)
診療の実践	診療記録記載		再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロフィールリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる	再来受診の際の診療録を、SOAP形式で記載できる	
			監督・指導のもとで、急性・慢性疾患を患う患者の、外来・病棟診療での管理ができる		
			安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督・指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる		
		患者管理	監督・指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる		
	診療安全		診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	様々なセッティングにおける診療の引き継ぎに際して、伝えるべき情報とその形を説明できる	
			感染に対する標準予防策(Standard precaution)にしたがい、清潔操作を行うことができる	感染に対する標準予防策(Standard precaution)を説明できる	
			感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予防、治療を説明できる	感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる
			針刺し事故、針刺し創傷等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	針刺し事故、針刺し創傷等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	針刺し事故、針刺し創傷等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予防、治療を説明できる
			医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる	
		医療機関内の制度・資源の理解と活用	医療機関内インフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる	医療機関内インフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を説明できる	
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用		多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる	多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。	急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる
			臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる
			様々な情報源(かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など)から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる		
			医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる	
			医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる	
		費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	医療政策の有効性が吟味ができ、診療への影響を説明できる	医療制度や医療提供体制が、医療の質と重へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、例:地域、年齢、医師の配置)を、説明できる	医療政策形成過程を説明できる

學生周知事項

学 生 周 知 事 項

1. 連絡・通知

すべての告示、通知、連絡（試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等）は、Blackboard（電子掲示板）により行います。

新たに掲示があった場合はメーリングリストで周知するので、1日に1回はメールを確認するよう心がけ、見落として不利益を被らないよう十分注意してください。

2. 電話等による学生の呼び出し

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合以外には行わないので、各関係者に説明しておいてください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。

入学時に交付したものを6年間使用しますので、紛失や破損等しないよう大切に扱ってください。

なお、学生証は、定期試験受験時や通学定期券の購入時に提示を求められたら速やかに提示できるよう、常に携帯してください。

（1）再交付手続

学生証を紛失または破損した場合は、学務企画課（1号館西1階）に申し出て、再交付の手続きをとってください。また、再交付の申請を行う場合は、再交付にかかる実費を徴収しますので注意してください。

（2）返却

卒業、退学または除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課へ返却してください。なお、返却できない場合は、再交付時と同様に実費を徴収しますので注意してください。

4. 証明書等

証明書等は、教務課にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

（1）教務課（受付時間 8：30～17：15）

次に掲げるものは、教務課で発行しますので証明書交付願を提出してください。

（交付は④を除き原則として交付願を受理した日の明後日となります。）

①成績証明書

②卒業見込証明書（第6学年在籍者のみ。）

③調査書

④英文の在学証明書（交付に1週間程度要します。）

⑤通学証明書（交通機関から請求された場合に限る。）

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

(2) 自動発行機（利用時間 8:30～18:00）

在学証明書は、学生談話室（5号館3階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（問い合わせ先）学務企画課（03-5803-5074）

5. 学生旅客運賃割引証（学割証）

(1) 学生が課外活動や帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道100kmを超えるときに旅客運賃の割引（2割）受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用すること。（年間使用限度は1人10枚、1回につき2枚までです。）

(2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を徴収されるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用または不正使用のないよう注意してください。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき。

②名義人が乗車券を購入し、それを他人に使用させたとき。

③使用有効期間を経過したものを使用したとき。

(3) 学割証は、学生談話室（5号館3階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（利用時間 8:30～21:00）

（問い合わせ先）学生支援課（03-5803-5077）

6. 氏名・住所等の変更

本人または正副保証人の氏名または住所等（電話番号を含む。）に変更が生じた場合は、速やかに教務課へ申し出て所定の手続きをとってください。

この手続きを怠った場合、大学から本人または保証人へ緊急に連絡する必要がある生じて、連絡が取れなくなる恐れがあるので注意してください。

7. 欠席、休学、復学、退学

(1) 授業の欠席

病気または家庭の事情等で授業を欠席する（した）場合は、欠席届を教務課へ提出してください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

なお、休学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、休学事由および休学によって生じる修学上の諸問題について十分相談してください。

また、休学を許可される期間は、通算して2年以内です。

（特別の事情があるときは、更に1年以内の休学が許可されることがあります。）

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付してください。）

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談してください。

8. ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与します。（1年生は湯島キャンパスでの貸与はありません）

ロッカーでの盗難が多発していますので、貴重品等の管理は厳重にしてください。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状に復してください。

9. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

なお、針刺し事故（B型・C型肝炎）が起こった場合は、教務課医学教務掛（03-5803-5120）へ連絡のうえ指示を受けた後、事故報告書を提出してください。

他人に対する針刺し事故については、上記の「医学賠」保険の対象となります。

10. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

（1）講義室、実習室、ロッカー室・・・・学務部教務課

（03-5803-5120）

(2) 上記(1)以外・・・・・・・・・・医学部総務課

(03-5803-5096)

11. その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。

(2) 事務の窓口

教務事務・・・・・・・・学務部教務課医学教務掛

(1号館西1階・03-5803-5120)

授業料の納入・・・・・・・・財務部資金課収入管理掛

(1号館西3階・03-5803-5048)

奨学金・授業料免除・・学務部学生支援課学生支援総括掛

(1号館西1階・03-5803-5077)

東京医科歯科大学学則

平成 16 年 4 月 1 日
規 程 第 4 号

第 1 章 総則

第 1 条 本学は、医学及び歯学の理論並びに応用を教授研究し、併せて人格の陶冶をなすものである。

2 各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該学科において別に定める。

第 2 条 本学に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成 16 年規程第 1 号。以下「組織運営規程」という。）の定めるところにより、次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科
保健衛生学科

歯 学 部 歯学科
口腔保健学科

2 医学部保健衛生学科に、看護学専攻及び検査技術学専攻を置く。

3 歯学部口腔保健学科に、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻を置く。

4 本学に、組織運営規程の定めるところにより、教養部を置く。

第 3 条 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は 6 年、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の修業年限は 4 年とする。

第 4 条 学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
医 学 部		人	人	人
	医 学 科	100	5（2 年次編入）	625
	保健衛生学科			
	看護学専攻	55		220
歯 学 部	検査技術学専攻	35		140
	歯 学 科	53		318
	口腔保健学科			
	口腔保健衛生学専攻	22	6（3 年次編入）	100
	口腔保健工学専攻	10	5（2 年次編入）	55

第 2 章 授業科目

第 5 条 削除

第 6 条 本学の授業科目は、全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

- 2 全学共通科目は教養部において、専門科目は各学部において行う。
- 3 全学共通科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。
- 4 専門科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第8条 学年を分けて、次の学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第9条 授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 本学創立記念日 10月12日
 - (4) 春季休業 4月1日から4月7日まで
 - (5) 夏季休業 7月11日から9月10日まで
 - (6) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで
- 2 前項の規定にかかわらず学長が必要と認めたときは、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第4章 入学、休学、転学及び退学

第10条 入学は、学年の始めにおいてする。

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると、本学で認めた者

第12条 大学医学部医学科の卒業者で歯学部歯学科に、大学歯学部歯学科の卒業者で医学部医学科に編入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学の許可をすることがある。

第13条 大学医学部医学科の学生で医学部医学科に、大学歯学部歯学科の学生で歯学部歯学科に、大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）の学生で医学部保健衛生学科又は歯学部口腔保健学科に転入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学を許可することがある。

第14条 医学部医学科の2年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者（医学を履修する課程を卒業した者を除く。）
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと大学において認めた者を含む。）

第15条 削除

第16条 医学部保健衛生学科の2年次に編入学することができる者は、四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修しており、かつ、協定大学の学部で2年次以上在学した者で、選考の上、入学を許可する。

第17条 削除

第18条 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の3年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 歯科衛生士を養成する短期大学を卒業した者
- (2) 歯科衛生士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第18条の2 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の2年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
- (2) 大学を卒業した者
- (3) 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第19条 本学学生で退学した者が再び入学を請うときは、欠員がある場合に限り、選考の上、原学年以下に入学を許可することができる。

2 前項に規定するもののほか、第25条の規定による休学者が退学（休学期間満了のため学部を退学した者をいう。）し、本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、原学科の原学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

3 前2項に規定するもののほか、第31条の2の規定による退学者が本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、退学時の在籍学科の在籍学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

第20条 編入学、転入学及び再入学により入学し、その後所定の年限在学した者は、第3条に規定する年限を在学したものとみなす。

第21条 本学に入学を志願する者は、所定の手続により、願い出なければならない。

第22条 入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

第23条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに宣誓簿に署名し、誓約書その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第45条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあつては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

2 学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第24条 学生は、病気その他の事由により引き続き3月以上休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第25条 本学医学部医学科又は歯学部歯学科に4年以上在学した者が引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に在学するために休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第26条 前2条の規定による休学者で、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続きにより、復学の許可を学長に願い出ることができる。

第27条 休学期間は、通算して2年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することがある。

2 大学院医歯学総合研究科博士課程に在学する者の第24条の規定による休学期間及び第25条の規定による休学期間は、第1項の規定にかかわらず、通算して3年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することができる。

3 休学した期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第28条 学長は、学生が病気その他の事由により修学が不適當と認められるときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、休学を命ずることがある。

第29条 学生は、学長の許可なくして、他の大学、本学の他の学科又は専攻に入学を志願することはできない。

第30条 学生が転学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けるものとする。

2 前項の許可を与えたときは、退学とする。

第31条 学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出てその許可を受けるものとする。

第31条の2 四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修している者が協定大学に編入学するために退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第32条 医学部医学科及び歯学部歯学科の学生は10年を、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の学生は8年を超えて在学することができない。

2 編入学、転入学及び再入学により入学した者の在学年限は、各学部において定める。

第33条 学長は、学生が次の各号の一に該当するときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を

履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。)を経て、退学を命ずることがある。

- (1) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (2) その他病気等の事由により、成業の見込みがないと認められる者

第5章 履修方法及び単位等

第34条 学生が授業科目を履修し、試験に合格したときは、所定の単位を与える。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して試験によらずに単位を与えることができる。

第35条 前条に定める他、履修及び学習の評価方法については、各学部及び教養部において定める。

第36条 1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、1単位当たりの授業時間を次の基準により、各学部及び教養部において定める。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲

第37条 本学の教育上有益と認めるときは、本学に入学（編入学、転入学等を除く。）する前の大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）において修得した単位を合計30単位を限度として、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、第3条に定める修業年限を短縮することはできない。

- 2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第38条 本学の教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第6章 卒業及び学位

第39条 卒業の認定は、第3条に定める年限を在学し、かつ、第6条第3項に定める授業科目を、医学部医学科においては209単位以上、歯学部歯学科においては220単位以上、医学部保健衛生学科看護学専攻においては124単位以上、医学部保健衛生学科検査技術学専攻においては135単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻においては128単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻においては126単位以上を修得した者に対し、当該学部教授会の議を経て学長が行う。

第40条 前条による卒業者には、次の区分により学士の学位を授与する。

学 部	学科・専攻	学 位
医 学 部	医学科	学士（医 学）
	保健衛生学科	

歯 学 部	看護学専攻	学士（看護学）
	検査技術学専攻	学士（保健学）
	歯学科	学士（歯学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）

第7章 検定料、入学料及び授業料

第41条 授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第42条 入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第43条 授業料は、次の2期に分けて納付しなければならない。

前期 4月中
後期 10月中

- 2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。
- 3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。
- 4 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・教養部掲示板）に掲示するものとする。

第44条 既納料金は、如何なる理由があっても返還しない。

- 2 第42条の規定に基づき徴収した検定料について、第1段階目の選抜で不合格となった者から返還の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、第2段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。
- 3 前条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、第1項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。
- 4 前条第2項及び第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第45条 本学に入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

- 2 本学に入学する者であって、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により、入学料の徴収猶予をすることがある。
- 3 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のう

ち、前項該当する者は、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

４ 前３項の取扱いについては、別に定める。

第４６条 停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第４７条 行方不明、その他やむを得ない事情がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することがある。

第４８条 死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することがある。

第４９条 毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。ただし、各学期の途中で休学の許可を受けた者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までに相当する額を免除する。

２ 各学期の途中で復学する者のその期の授業料は、復学当月から次の授業料徴収期の前月まで月割計算により復学の際徴収する。

第５０条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することがある。

２ 前項の取扱いについては別に定める。

第５１条 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第４５条第３項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

２ 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかった者が、納付すべき入学料を徴収猶予不許可を告知した日から起算して１４日以内に納付しない場合は、除籍する。

３ 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第５２条 授業料を所定の期間内に納付しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は退学を命ずる。

２ 前項の督促は文書をもってするものとする。

第８章 大学院

第５３条 本学に、組織運営規程の定めるところにより、大学院を置く。

２ 大学院の学則は、別に定める。

第９章 外国人留学生

第５４条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

２ 外国人留学生については、別に定める。

第10章 科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第55条 本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 前項により入学した者には、第34条の規定を準用し、単位を与える。

3 その他科目等履修生については、別に定める。

第56条 特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生については、別に定める。

第57条 他の大学の学部学生で、当該大学との協定に基づき、本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。

2 特別聴講学生については、別に定める。

第11章 懲戒

第58条 学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、これを懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学、訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者

(3) 学内の秩序を著しく乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第12章 専攻生

第59条 本学教員の指導を受け特に専門学科目（附置研究所及び医歯学研究支援センターにおいては、特定の研究題目）につき研究しようとする者は、選考の上、医学部、歯学部、附置研究所又は医歯学研究支援センター専攻生として入学を許可することがある。

第60条 専攻生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

医学部医学科専攻生

(1) 大学医学部において医学を履修し卒業した者

(2) 旧専門学校令による医学専門学校を卒業した者

(3) 大学歯学部において歯学を履修し卒業した者又は旧専門学校令による歯科医学専門学校を卒業した者

(4) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

医学部保健衛生学科専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

歯学部歯学科専攻生

(1) 大学歯学部において歯学を履修し卒業した者

(2) 旧専門学校令による歯科医学専門学校を卒業した者

(3) 大学医学部において医学を履修し卒業した者又は旧専門学校令による医学専門学校を卒業した者

(4) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

歯学部口腔保健学科専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

附置研究所専攻生又は医歯学研究支援センター専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

第61条 専攻生を志願する者は、所定の願書を指導教員を経て学長に願出するものとする。

第62条 専攻生を志願する者は、出願と同時に、別に定める額の検定料を納付しなければならない。

第63条 専攻生の選考に合格した者は、所定の期日までに、別に定める額の入学料を納付しなければならない。

第64条 専攻生の入学許可は各学期の始めとする。

第65条 専攻生は、別に定める額の授業料を次の2期に分けてそれぞれ6月分を納付しなければならない。ただし、特別の事由がある場合には、3月分ごとに分納することができる。

前期 4月中

後期 10月中

2 入学年度の前期に係る授業料については、前項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

3 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・生体材料工学研究所掲示板・難治疾患研究所掲示板・難治疾患研究所湯島地区掲示板・学内共同教育研究施設掲示板）に掲示するものとする。

第66条 専攻生の研究期間は1年とする。

2 専攻生で、前項の在学期間を超えて引続き在学しようとする者は、指導教員を経て学長に願出、その許可を受けなければならない。

第67条 専攻生の研究時数は週30時以上とする。

第68条 専攻生は、研究終了の際その研究成績を指導教員を経て長に報告するものとする。

第69条 専攻生で研究の実が挙げないと認めたときは退学を命ずることがある。

第70条 専攻生には本章のほかすべて学部学生の学則を準用する。

第13章 寄 宿 舎

第71条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関する規定は、別に定める。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 第4条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成16年度から平成18年度までの3年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度 区 分	平 成 16年度	平 成 17年度	平 成 18年度
3年次編入学定員	—	—	10
収容定員	25	50	85

- 3 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 4 この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学則（昭和27年学規第1号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則（平成17年3月23日規程第2号）

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 平成17年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月28日規程第1号）

- この学則は平成18年4月1日から施行する。
- 平成18年3月31日において現に本学に在学する者（以下在学者という。）及び平成18年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の第39条、別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による

附 則（平成19年3月29日規程第3号）

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 平成19年3月31日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年1月16日規程第1号）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の平成20年度から平成22年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科・専攻	収 容 定 員		
	平成20年度	平成21年度	平成22年度
医学部保健衛生学科			
看護学専攻	215	210	215
検査技術学専攻	135	130	135
歯学部口腔保健学科	118	116	118

附 則（平成20年3月26日規程第5号）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成20年4月1日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年1月8日規程第1号）

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。

- 2 この学則改正前に、本学に4年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、平成21年4月1日より休学を願っている者については、改正後の東京医科歯科大学学則第25条の2の規程を適用する
- 3 この学則の施行の際に本学に4年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、退学した者が再び入学を志願する場合の取扱いは、なお従前の例による。
- 4 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規程第3号）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成21年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収 容 定 員				
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医学部医学科	480	490	500	510	520

- 3 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、平成21年4月1日以降に歯学部口腔保健学科に3年次編入学する者については、改正後の別表（2）の規定を適用する。

附 則（平成21年12月18日規程第9号）

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則（平成22年3月30日規程第3号）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成22年度から平成26年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収 容 定 員				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学部医学科	500	520	540	560	580

- 3 平成22年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成23年3月4日規程第1号）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成23年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度 区分	収 容 定 員				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収容定員	525	550	575	600	615

- 3 改正後の第4条の規定にかかわらず、歯学部歯学科の平成23年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度 区分	収 容 定 員				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収容定員	358	346	334	322	320

4 改正後の第4条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成23年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

	年度 区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
口腔保健衛生学専攻	収容定員	115	110	105
口腔保健工学専攻	2年次編入定員		5	5
	収容定員	10	25	40

附 則（平成23年6月30日規程第6号）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月31日規程第3号）

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成24年度から平成27年度までの編入学定員等は、次のとおりとする。

年度 区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
編入学定員	5（2年次編入） 5（3年次編入）	5（2年次編入）	5（2年次編入）	5（2年次編入）
収容定員	555	580	605	620

3 平成24年度においては、改正後の第14条の「2年次」は「3年次及び2年次」と読み替えるものとする。

東京医科歯科大学医学部履修規則

（平成16年 4月 1日）
規則第201号

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学医学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。

（授業科目）

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

（全学共通科目の履修）

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年規則第217号）の定めるところによるものとする。

（専門科目の履修）

第4条 専門科目の履修については、別表1に定める教育課程によるものとする。

（専門科目の履修要件）

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。ただし、医学科を除く。

（授業の方法）

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

（1単位当たりの授業時間）

第7条 学則第34条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

（1）医学科

ア 講義及び演習 22時間
イ 実習 45時間

（2）保健衛生学科

ア 講義 15時間
イ 演習 30時間
ウ 実習 45時間

エ 臨地実習

看護学専攻 45時間

検査技術学専攻 30時間

(編入学者、転入学者の単位認定)

第8条 学則第12条から第16条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学)

第9条 学則第19条第1項に規定する再入学は、本学部を退学した者が再度、原学科の原学年以下に入学することとする。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第16条まで及び第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、実験・実習を伴う授業科目及び試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 試験方法及び学習の評価等については、教授会の議を経て別に定める。

(進級等要件)

第12条 学生は、別表2に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学科にあつては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずることがある。

(卒業単位認定)

第13条 卒業に要する単位の認定については、教授会の議を経て、医学部長がこれを行う。

(補則)

第14条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月31日規則第9号）

この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成19年3月31日規則第16号）

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1（2）及び（3）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年3月31日規則第7号）

- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1・別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1

(1)医学科教育課程

授 業 科 目	単位数	履 修 学 年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
多様な医師像	1.0	○	○				
医学の展望		○	○				
国際医療	1.0	○					
医の原則	2.0	○					
腫瘍学（基礎）	1.0			○			
神経科学	7.5			○	○		
神経科学実習	0.5			○			
免疫Ⅰ	1.0		○				
免疫Ⅱ	1.0		○				
感染症	3.0			○			
感染系実習	1.0			○			
循環器学	2.5			○			
消化器	2.5				○		
呼吸器	1.5			○			
腎・体液制御	1.5			○			
生殖・発達・加齢	1.5			○			
代謝内分泌	1.0			○			
血液	1.0				○		
社会医学	1.5			○			
人体構造総論	1.0	○					
細胞の構造Ⅰ	1.0	○					
細胞の構造Ⅱ	1.0		○				
細胞の機能	1.0		○				
人体発生学	0.5		○				
人体解剖学	1.5			○			
人体解剖学実習	3.0			○			
臨床解剖学	1.0					○	
組織学	1.0			○			
組織学実習	1.0			○			
生理学	1.5			○			
生理学実習	1.0			○			

生 化 学	1.0			○			
生 化 学 実 習	1.0			○			
薬 理 学	1.0			○			
薬 理 学 実 習	1.0			○			
病 理 学 総 論	1.0			○			
病 理 学 実 習	2.0				○		
C P E	1.0					○	
衛 生 学	1.0			○			
衛 生 学 実 習	0.5			○			
公 衆 衛 生 学	0.5				○		
公 衆 衛 生 学 実 習	1.0				○		
医 動 物 学	1.0			○			
医 動 物 学 実 習	0.5			○			
法 医 学	1.0			○			
法 医 学 実 習	0.5			○			
医 事 法 学	0.5			○			
老 年 病 学	0.5				○		
膠 原 病 ・ リ ウ マ チ 学	0.5			○			
小 児 科 学	1.0			○			
神 經 精 神 医 学	1.0				○		
外 科 学	1.0				○		
整 形 外 科 学	1.5				○		
皮 膚 科 学	1.5				○		
泌 尿 器 科 学	1.0				○		
眼 科 学	1.0				○		
耳 鼻 咽 喉 科 学	1.0				○		
放 射 線 医 学	1.0				○		
産 科 ・ 婦 人 科 学	1.0				○		
麻 酔 ・ 蘇 生 学	1.0				○		
臨 床 実 習 I	13.0					○	
臨 床 実 習 II	16.0					○	
臨 床 実 習 III	15.5					○	○
口 腔 外 科 学	0.5				○		
先 端 医 学	1.0					○	
遺 伝 子 と 生 命	1.0	○					
メディカルインフォマティクス(MI)	2.0		○				

統 計		○					
医 学 英 語 I	1.0	○	○				
医 学 英 語 II	2.0			○	○		
救 命 救 急 医 学	1.0				○		
形 成 外 科 学	0.5				○		
頭 頸 部 外 科 学	0.5				○		
心 療・ターミナル 医 学	0.5				○		
基 礎 臨 床 総 合 講 義	0.5					○	
臨 床 関 連 講 義	1.0			○	○	○	
臨 床 検 査 医 学	0.5				○		
自 由 選 択 学 習	8.5				○		
計	139.0						

注)すべて必修科目とする。

別表2 医学部進級等要件

1 医学科

(1) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。

多様な医師像、医学の展望、国際医療、医の原則、腫瘍学(基礎)、神経科学実習、免疫Ⅰ、免疫Ⅱ、感染、感染系実習、循環器学、呼吸器、腎・体液制御、生殖・発達・加齢、代謝内分泌、社会医学、人体構造総論、細胞の構造Ⅰ、細胞の構造Ⅱ、細胞の機能、人体発生学、人体解剖学、人体解剖学実習、組織学、組織学実習、生理学、生理学実習、生化学、生化学実習、薬理学、薬理学実習、病理学総論、衛生学、衛生学実習、医動物学、医動物学実習、法医学、法医学実習、医事法学、膠原病・リウマチ学、小児科学、遺伝子と生命、メディカルインフォマティクス(MI)、統計、医学英語Ⅰ

(2) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第5学年に進級することができない。

神経科学、消化器、血液、病理学実習、公衆衛生学、公衆衛生学実習、老年病学、神経精神医学、外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科・婦人科学、麻酔・蘇生学、口腔外科学、医学英語Ⅱ、救命救急医学、形成外科学、頭頸部外科学、心療・ターミナル医学、臨床検査医学、自由選択学習

(3) 共用試験(コンピュータ活用試験(CBT)、客観的臨床能力試験(OSCE))に合格しなければ、臨床実習Ⅲを履修することができない。

2 保健衛生学科(看護学専攻及び検査技術学専攻)

(1) 第2学年の必修科目(実習科目を除く。)のうち、単位未修得の科目が4科目以上ある又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。

(2) 第2学年及び第3学年の必修科目の単位を全て修得しなければ、第4学年に進級することはできない

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則

平成22年3月30日
規則第41号

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(専門科目の履修)

第2条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

(授業)

第3条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|--------|------|
| (1) 講義 | 15時間 |
| (2) 演習 | 30時間 |
| (3) 実習 | 45時間 |

2 前項第3号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|-------------|------|
| (1) 看護学専攻 | 45時間 |
| (2) 検査技術学専攻 | 30時間 |

(編入学者、転入学者の単位認定)

第5条 学則第12条から第18条の2までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

（再入学の単位認定）

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

（編入学者、転入学者、再入学者の在学年限）

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

（試験及び単位）

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。

5 学習の評価は、別表2のとおりとする。

6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。

7 試験の方法に関しては別に定める。

（進級要件）

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

（卒業認定）

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第 11 条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成 16 年規則第 201 号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成 16 年規則第 213 号）は、廃止する。
- 4 平成 22 年 3 月 31 日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 22 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成 22 年 3 月 31 日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 22 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附 則（平成 23 年 3 月 4 日規則第 15 号）

- 1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 23 年 3 月 31 日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 23 年 4 月 1 日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 24 年 2 月 3 日規則第 19 号）

- 1 この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 24 年 3 月 31 日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 24 年 4 月 1 日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1

(1)医学科教育課程

授 業 科 目	単 位 数	履 修 学 年					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
多 様 な 医 師 像	1.0	○	○				
医 学 の 展 望		○	○				
国 際 医 療	1.0	○					
医 の 原 則	2.0	○					
腫 瘍 学 (基 礎)	1.0			○			
神 経 科 学	7.5			○	○		
神 経 科 学 実 習	0.5			○			
免 疫 I	1.0		○				
免 疫 II	1.0		○				
感 染	3.0			○			
感 染 系 実 習	1.0			○			
循 環 器 学	2.5			○			
消 化 器	2.5				○		
呼 吸 器	1.5			○			
腎 ・ 体 液 制 御	1.5			○			
生 殖 ・ 発 達 ・ 加 齢	1.5			○			
代 謝 内 分 泌	1.0			○			
血 液	1.0				○		
社 会 医 学	1.5			○			
人 体 構 造 総 論	1.0	○					
細 胞 の 構 造 I	1.0	○					
細 胞 の 構 造 II	1.0		○				
細 胞 の 機 能	1.0		○				
人 体 発 生 学	0.5		○				
人 体 解 剖 学	1.5			○			
人 体 解 剖 学 実 習	3.0			○			
臨 床 解 剖 学	1.0					○	
組 織 学	1.0			○			
組 織 学 実 習	1.0			○			
生 理 学	1.5			○			
生 理 学 実 習	1.0			○			

生 化 学	1.0			○			
生 化 学 実 習	1.0			○			
薬 理 学	1.0			○			
薬 理 学 実 習	1.0			○			
病 理 学 総 論	1.0			○			
病 理 学 実 習	2.0				○		
C P E	1.0					○	
衛 生 学	1.0			○			
衛 生 学 実 習	0.5			○			
公 衆 衛 生 学	0.5				○		
公 衆 衛 生 学 実 習	1.0				○		
医 動 物 学	1.0			○			
医 動 物 学 実 習	0.5			○			
法 医 学	1.0			○			
法 医 学 実 習	0.5			○			
医 事 法 学	0.5			○			
老 年 病 学	0.5				○		
膠 原 病 ・ リ ウ マ チ 学	0.5			○			
小 児 科 学	1.0			○			
神 経 精 神 医 学	1.0				○		
外 科 学	1.0				○		
整 形 外 科 学	1.5				○		
皮 膚 科 学	1.5				○		
泌 尿 器 科 学	1.0				○		
眼 科 学	1.0				○		
耳 鼻 咽 喉 科 学	1.0				○		
放 射 線 医 学	1.0				○		
産 科 ・ 婦 人 科 学	1.0				○		
麻 酔 ・ 蘇 生 学	1.0				○		
臨 床 実 習 I	13.0					○	
臨 床 実 習 II	16.0					○	
臨 床 実 習 III	15.5					○	○
口 腔 外 科 学	0.5				○		
先 端 医 学	1.0					○	
遺 伝 子 と 生 命	1.0	○					
メディカルインフォマティクス(MI)	2.0		○				

統 計		○					
医 学 英 語 I	1.0	○	○				
医 学 英 語 II	2.0			○	○		
救 命 救 急 医 学	1.0				○		
形 成 外 科 学	0.5				○		
頭 頸 部 外 科 学	0.5				○		
心 療・ターミナル医学	0.5				○		
基 礎 臨 床 総 合 講 義	0.5					○	
臨 床 関 連 講 義	1.0			○	○	○	
臨 床 検 査 医 学	0.5				○		
自 由 選 択 学 習	8.5				○		
計	139.0						

注)すべて必修科目とする。

別表2 医学部進級等要件

1 医学科

(1) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。

多様な医師像、医学の展望、国際医療、医の原則、腫瘍学(基礎)、神経科学実習、免疫Ⅰ、免疫Ⅱ、感染、感染系実習、循環器学、呼吸器、腎・体液制御、生殖・発達・加齢、代謝内分泌、社会医学、人体構造総論、細胞の構造Ⅰ、細胞の構造Ⅱ、細胞の機能、人体発生学、人体解剖学、人体解剖学実習、組織学、組織学実習、生理学、生理学実習、生化学、生化学実習、薬理学、薬理学実習、病理学総論、衛生学、衛生学実習、医動物学、医動物学実習、法医学、法医学実習、医事法学、膠原病・リウマチ学、小児科学、遺伝子と生命、メディカルインフォマティクス(MI)、統計、医学英語Ⅰ

(2) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第5学年に進級することができない。

神経科学、消化器、血液、病理学実習、公衆衛生学、公衆衛生学実習、老年病学、神経精神医学、外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科・婦人科学、麻酔・蘇生学、口腔外科学、医学英語Ⅱ、救命救急医学、形成外科学、頭頸部外科学、心療・ターミナル医学、臨床検査医学、自由選択学習

(3) 共用試験(コンピュータ活用試験(CBT)、客観的臨床能力試験(OSCE))に合格しなければ、臨床実習Ⅲを履修することができない。

2 保健衛生学科(看護学専攻及び検査技術学専攻)

(1) 第2学年の必修科目(実習科目を除く。)のうち、単位未修得の科目が4科目以上ある又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。

(2) 第2学年及び第3学年の必修科目の単位を全て修得しなければ、第4学年に進級することはできない

別表 1

(1) 医学科教育課程

授業科目	単位数		履修学年					
	必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
医学導入	6.5		○					
人体構造総論	1.5			○				
細胞生物学	1.0			○				
神経生理導入	1.0			○				
生理学	3.0			○				
医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）	7.0			○	○			
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）				○				
医歯学基盤教育（医学英語Ⅰ）				○				
医歯学基盤教育（生命倫理Ⅱ）						○		
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）					○			
医歯学基盤教育（医学英語Ⅱ）					○			
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅲ）						○		
医歯学基盤教育（医学英語Ⅲ）						○		
組織学	2.5			○				
人体解剖学	4.5			○				
頭頸部・基礎	4.0			○				
薬理学	2.5			○				
生化学	2.5			○				
分子遺伝学	1.0			○				
神経解剖学	3.0			○				
免疫学	2.0			○				
神経科学・基礎	3.5			○				
感染・基礎	2.5			○				
東洋医学	1.0			○	○			
病理学	1.0			○				
医動物学	2.0			○				
腫瘍学	1.0				○			
法医学	1.5				○			
社会医学	1.5				○			
衛生学	1.5				○			
公衆衛生学	2.0				○	○		
臨床医学導入	1.0				○			
循環器	3.0				○			
呼吸器	2.0				○			
消化器	3.0				○			
体液制御・泌尿器	3.0				○			
内分泌・代謝	2.0				○			
血液・腫瘍	2.0				○			
一般外科	1.0				○			
神経科学・臨床	4.0				○			
骨・関節・脊椎	2.0				○			
皮膚・アレルギー・膠原病	2.0				○			
感染・臨床	1.0				○			
頭頸部・臨床	4.0				○			

老年医学	2.0				○			
生殖・発達	4.0					○		
救急・麻酔	2.0					○		
自由選択学習	12.0					○		
臨床導入実習	8.0					○		
臨床実習	49.5						○	○
包括医療統合教育	2.0							○
研究実践プログラム		10.0		○	○	○	○	○
地域医療学習プログラム		1.0	○	○	○	○	○	○
計	169	11						

別表 2

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合 格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

別表 3

(1) 医学科

(1) 第1学年の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、第2学年に進級することができない。 医学導入
(2) 第2学年の末までに次の授業科目に合格しなければ、第3学年に進級することができない。 医歯学基盤教育（医学英語Ⅰ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）
(3) 第2学年の末までに次の授業科目の単位を全て修得しなければ、第3学年に進級することができない。 腫瘍学、神経科学・基礎、神経解剖学、免疫学、感染・基礎、細胞生物学、人体構造総論、人体解剖学、組織学、頭頸部・基礎、神経生理導入、生理学、生化学、薬理学、病理学、医動物学、分子遺伝学
(4) 第3学年の末までに次の授業科目に合格しなければ、第4学年に進級することができない。 医歯学基盤教育（医学英語Ⅱ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）、医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）、公衆衛生学（講義）
(5) 第3学年の末までに次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。 神経科学・臨床、感染・臨床、循環器、消化器、呼吸器、体液制御・泌尿器、内分泌・代謝、血液・腫瘍、社会医学、頭頸部・臨床、衛生学、法医学、老年医学、皮膚・アレルギー・膠原病、一般外科、骨・関節・脊椎、東洋医学、臨床医学導入
(6) 第4学年の末までに次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第5学年に進級することができない。 医歯学基盤教育、生殖・発達、公衆衛生学、救急・麻酔、臨床導入実習、自由選択学習

（７）共用試験〔コンピュータ活用試験（ＣＢＴ）、客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）〕に合格しなければ、臨床実習を履修することができない。

注１：医歯学基盤教育は医学英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、臨床統計Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、生命倫理Ⅰ、Ⅱから成り立っており、全ての授業科目に合格しなければ、単位を修得することができない。

注２：公衆衛生学は講義（第３学年）と実習（第４学年）に合格しなければ、単位を修得することができない。

東京医科歯科大学医学部試験規則 平成21年度以前入学者用

平成16年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年制定。以下「履修規則」という。）第11条第3項に基づき、医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

(試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口頭試験、実地試験のいずれかによって行う。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

2 定期試験は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 定期試験を受験することのできる者は、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実 習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

(3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者

臨床解剖学、臨床実習関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義

5 試験の結果は、可否をもって公示する。

(科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号、第2号及び第5項のとおりとする。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいい、当分の間医学科において行う。

2 CBTは第4学年の前期末、OSCEは第5学年の臨床実習Ⅰ終了後に行う。

3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 共用試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

(1) CBT 第4学年に在学する者

(2) OSCE 臨床実習Ⅰを終了した者

5 試験の結果は、可否をもって公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。

3 医学部長は、前項の申請について担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。

4 試験の結果は、可否をもって公示する。

(再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

2 再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医 学 科 定期試験 第6学年の学年末

科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月

共用試験 CBTは第4学年の12月、OSCEは第5学年の夏季休業中

(2) 保健衛生学科 原則として、次の定期試験期間及び第4学年の学年末

3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願い出なければならない。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書きによる成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、次のとおり学習の評価を行う。

成績区分	評価区分	単位認定
100～80点	優	合格
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし、成績は、60点を上限とする。

3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。

4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

(成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらずなお従前の例による。

平成16年4月1日
規則第202号

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則(平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。)第11条第8項の規定に基づき、医学部における専門に関する教育科目(以下「専門科目」という。)の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験、実地試験のいずれかによって行う。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

2 定期試験は当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 定期試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

(3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者

臨床解剖学、臨床関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号及び第2号並びに第5項のとおりとする。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験(以下「CBT」という。)及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験(以下「OSCE」という。)をいい、当分の間、医学科において行う。

2 共用試験は第5学年の臨床実習Ⅰ終了後に行う。

3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 共用試験を受験することのできる者は臨床実習Ⅰを終了した者とする。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。

3 医学部長は前項の申請について、担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。

4 試験の結果は、合否をもって公示する。

(再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

2 再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医学科 定期試験 第6学年の学年末

科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月

共用試験 第5学年の9月末日まで

(2) 保健衛生学科 原則として次回の定期試験期間及び第4学年の年度末

3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願い出なければならない。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書の規定による成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、履修規則第11条第6項別表2により学習の評価を行う。

2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。

4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

(成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成 16 年 3 月 31 日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成 16 年 4 月 1 日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 18 年 3 月 31 日規則第 9 号）

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 22 年 8 月 25 日規則第 61 号）

- 1 この規則は、平成 22 年 8 月 25 日から施行し、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 22 年 3 月 31 日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 22 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学試験規則

平成23年度以降入学者用

平成 23 年 4 月 1 日
規 則 第 1 号

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

(試験の種類)

第2条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

(本試験)

第4条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

(定期試験)

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第3項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（C B T）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（O S C E）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

4 共用試験の結果は、公示する。

（追試験）

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

2 追試験を受験しようとする者（以下「追試験申請者」という。）は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長（以下「学部長等」という。）に願い出て、許可を受けなければならない。

3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。

4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（再試験）

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。

3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。

4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（試験の成績）

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

（成績の報告）

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第 1 1 条 試験において不正行為があったときは、学則第 5 8 条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第 1 2 条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 2 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成 1 6 年規則 2 0 2 号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成 1 6 年規則 2 1 4 号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成 2 3 年 3 月 3 1 日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 2 3 年 4 月 1 日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

湯島キャンパス・駿河台キャンパス



- | | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 1 1号館西
【1号館・管理棟】 | 8 旧3号館 | 15 8号館南
【共同研究棟】 |
| 2 2号館
【2号館・附属教育施設等】 | 9 医科A棟
【医科新棟】 | 16 8号館北
【RI実験施設棟】 |
| 3 1号館東
【歯科研究棟】 | 10 医科B棟
【医科新棟】 | 17 生体材料工学研究所 |
| 4 7号館
【歯学部校舎棟】 | 11 3号館
【医歯学総合研究棟(I期棟)】 | 18 難治疾患研究所駿河台棟 |
| 5 歯科棟北
【歯科棟】 | 12 M&Dタワー
【医歯学総合研究棟(II期棟)】 | 19 12号館
【駿河台臨床研究棟】 |
| 6 歯科棟南
【歯科外来事務棟】 | 13 5号館 | 20 看護師宿舎
(レジデンス茗芳) |
| 7 10号館
【総合教育研究棟】 | 14 6号館 | |